

大阪府子ども計画策定のための 実態調査結果（概要）

—府ニーズ調査—

令和 6 年 7 月
大阪府福祉部子ども家庭局

調査概要

I 調査内容

- 1 乳幼児期を中心とした家庭の養育力・教育力についての実態調査
子どもへのしつけや生活習慣などについて一般的な保護者の意識を調査
- 2 大阪府内の保育所等における保育士等確保のための実態調査
待機児童解消に向けて保育所等整備が進む中、保育所・幼稚園・認定こども園の保育士等確保の状況を調査

II 調査対象・回収状況

種類	対象	地域	手法	発送数	回収数	回収率
1 乳幼児期を中心とした家庭の養育力・教育力についての実態調査	(1) 就学前乳幼児（未就学児）を持つ家庭	府内全域 東京都 神奈川県 京都府 兵庫県	インターネット	3,000	3,000	100.0%
	(1) 就学後小1～18歳未満の子ども（就学後児童）を持つ家庭	府内全域		1,200	1,200	100.0%
	(2) 地域子育て支援拠点	府内全域	郵送	484	272	56.2%
	(3) 公立保育所・幼稚園・認定こども園			441	169	38.3%
	(4) 私立保育所・幼稚園・認定こども園			1,731	516	29.8%
2 大阪府内の保育所等における保育士等確保のための実態調査	(1) 私立保育所・幼稚園・認定こども園	府内全域	郵送	1,731	516	29.8%
	(2) 指定保育士養成施設			51	33	64.7%
	(3) 保育士等資格取得見込者		発送：郵送 回収：インターネット	1,000	347	34.7%
	(4) 保育士登録者			2,500	626	25.0%

III 調査期間

令和6年3月8日から令和6年3月14日まで

1 乳幼児期を中心とした家庭の養育力・ 教育力についての実態調査

※当該調査における用語の定義は下記のとおり

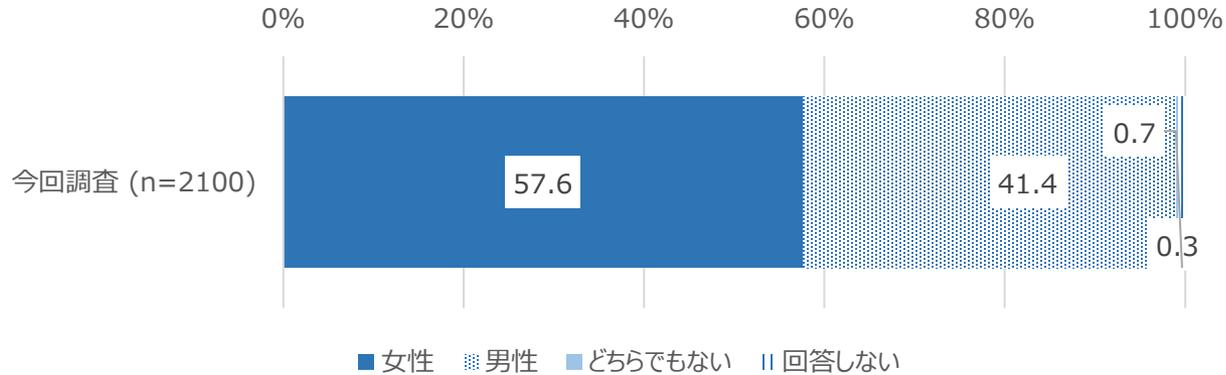
- 前回調査：令和元年3月に実施した大阪府子ども総合計画策定のための実態調査
- 調査対象地域
首都圏域：東京都・神奈川県(300)

子育て家庭における保護者の意識の現状①

◆大阪府域—未就学児・就学後児童の回答者の性別

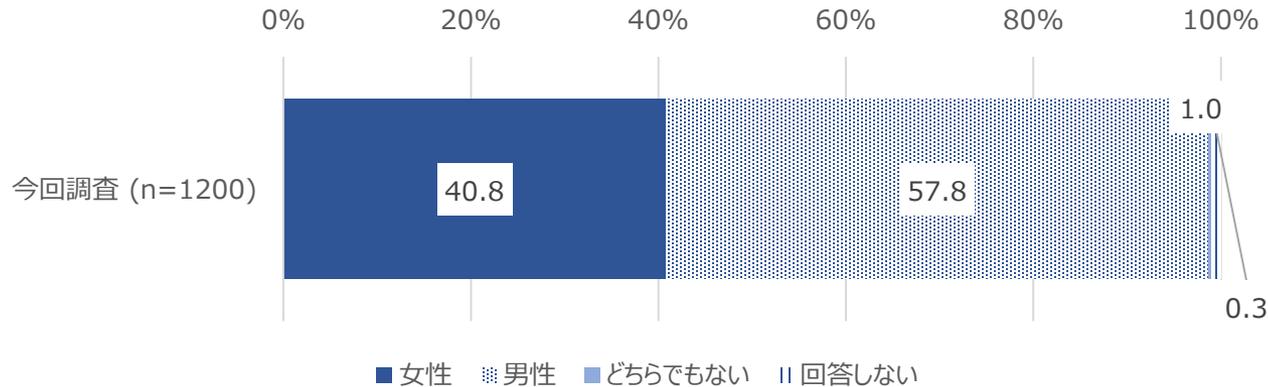
未就学児については女性が58.8%と多く、就学時児童については男性が57.8%と多くなっています。

[未就学児 回答者の性別]



[1 - (1) 就学前 問3]

[就学後児童 回答者の性別]



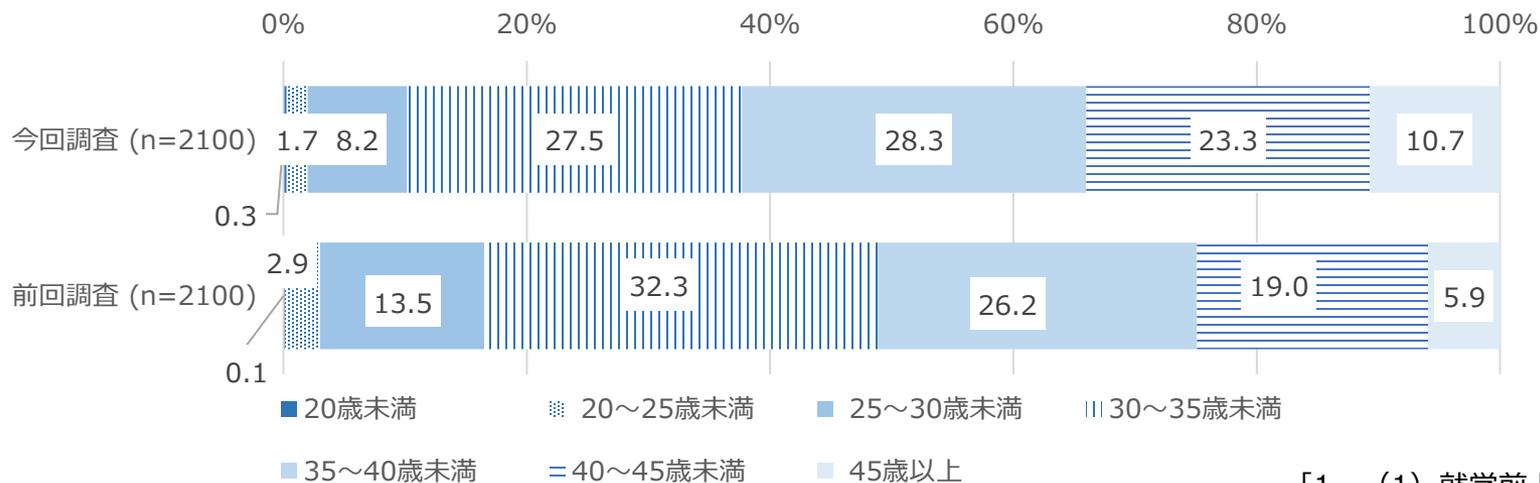
[1 - (1) 就学後 問3]

子育て家庭における保護者の意識の現状②

◆大阪府域—未就学児・就学後児童の回答者の年齢（前回調査との比較）

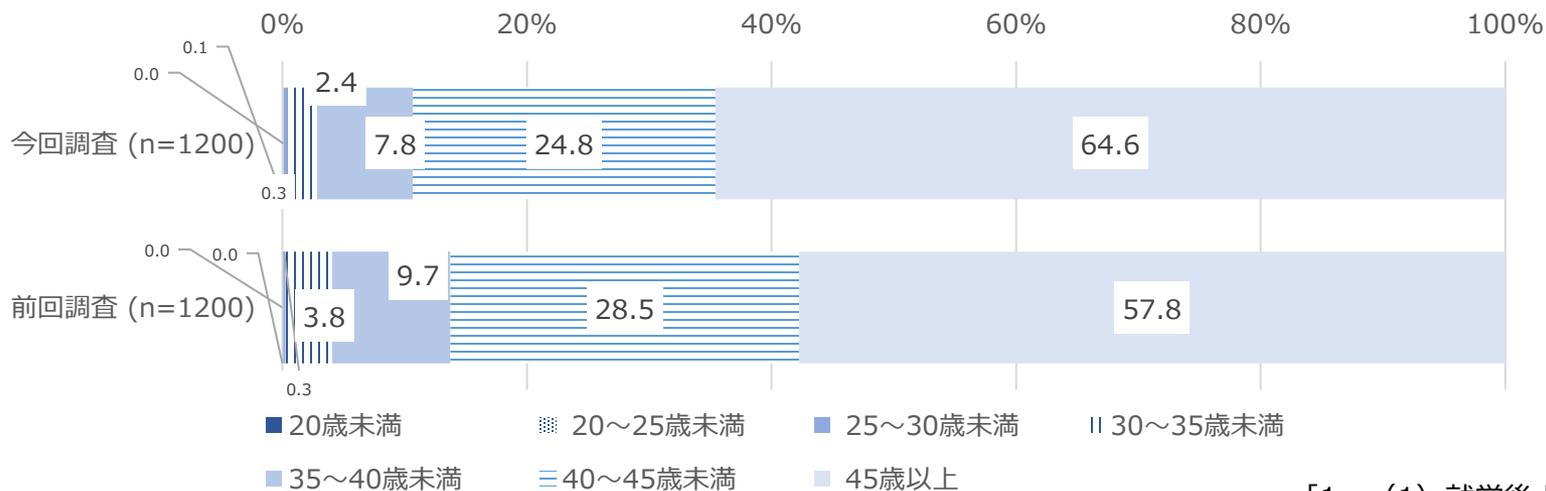
前回調査と比較すると、未就学児・就学後児童ともに回答者の年齢が高くなっています。

[未就学児 回答者の年齢]



[1- (1) 就学前 問4]

[就学後児童 回答者の年齢]

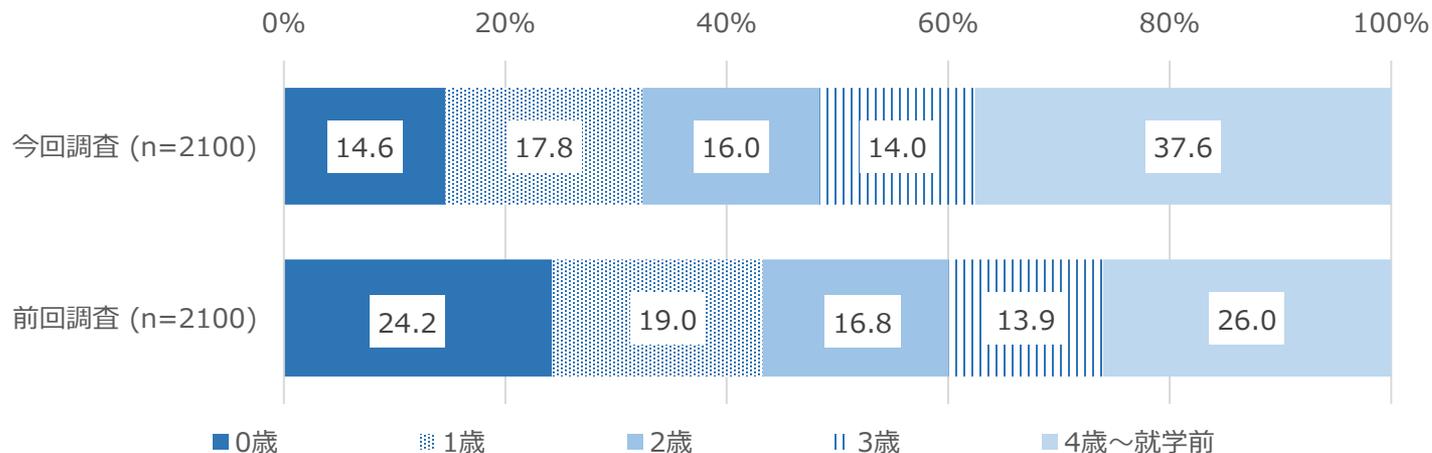


[1- (1) 就学後 問4]

子育て家庭における保護者の意識の現状③

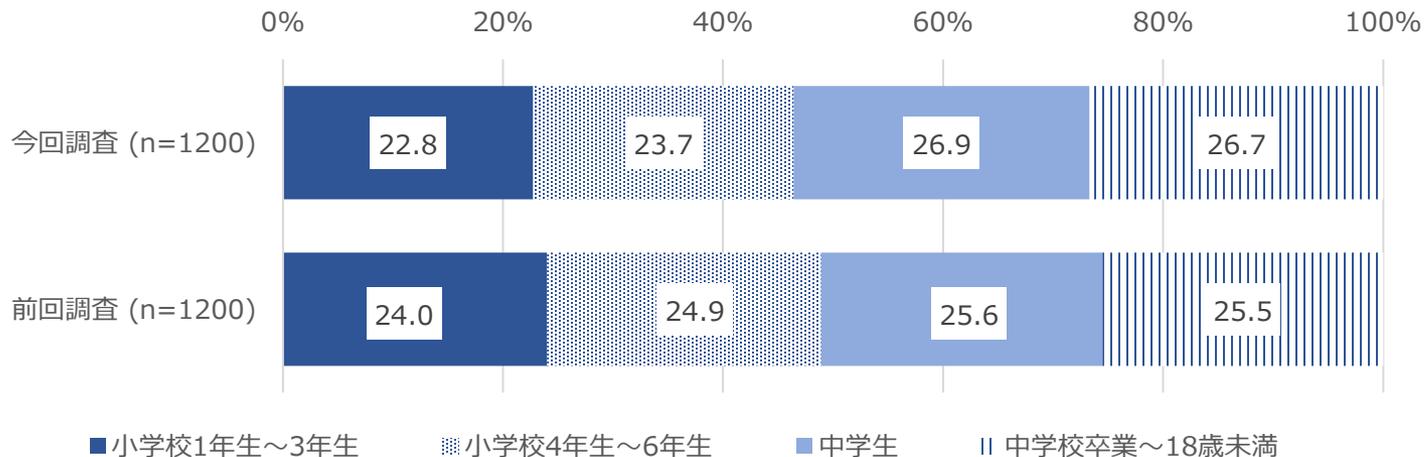
◆大阪府域—未就学児・就学後児童のいる家庭における同居している子どもの末子の年齢（前回調査との比較）
 前回調査と比較すると、未就学児では同居している子どもの末子の年齢が高くなっており、就学後児童は前回調査時と変わっていません。

[未就学児 同居している子どもの末子の年齢]



[1- (1) 就学前 問5]

[就学後児童 同居している子どもの末子の年齢]

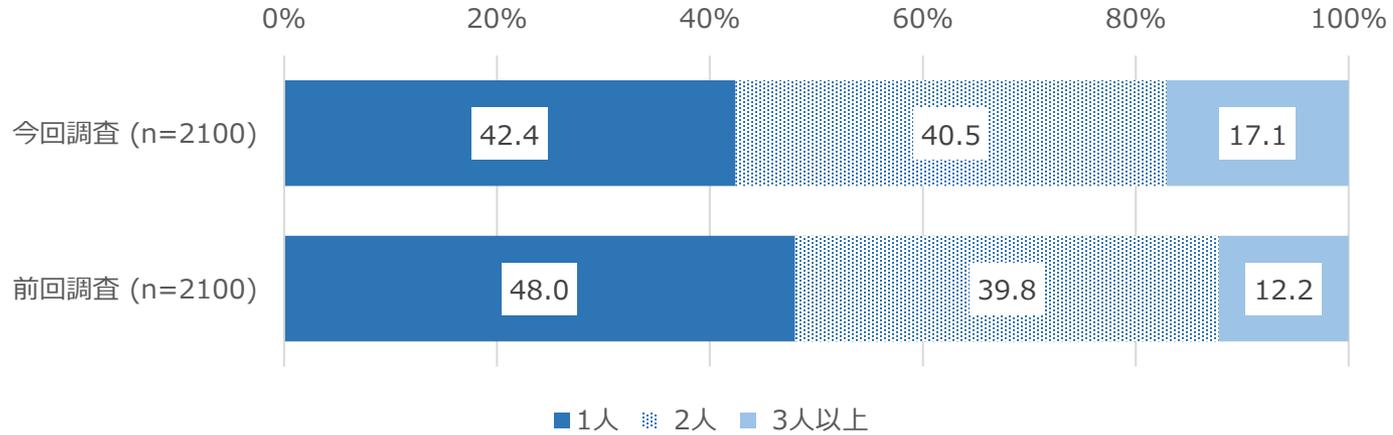


[1- (1) 就学後 問5]

子育て家庭における保護者の意識の現状④

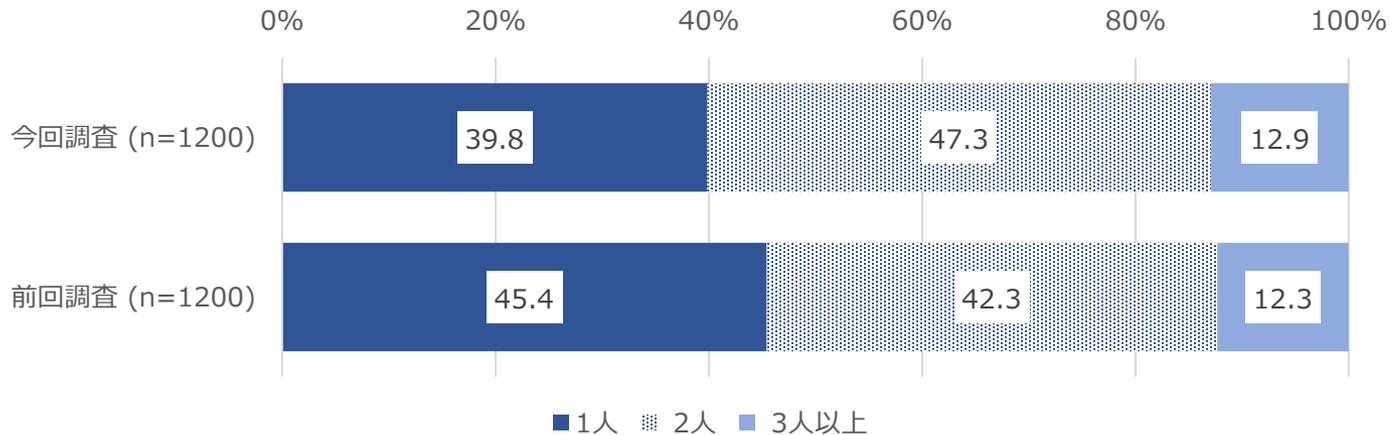
◆大阪府域—未就学児・就学後児童のいる家庭における同居している子どもの人数（前回調査との比較）
前回調査と比較すると、未就学児・就学後児童ともに同居している子どもの人数が増加しています。

[未就学児 同居している子どもの人数]



[1- (1) 就学前 問6]

[就学後児童 同居している子どもの人数]



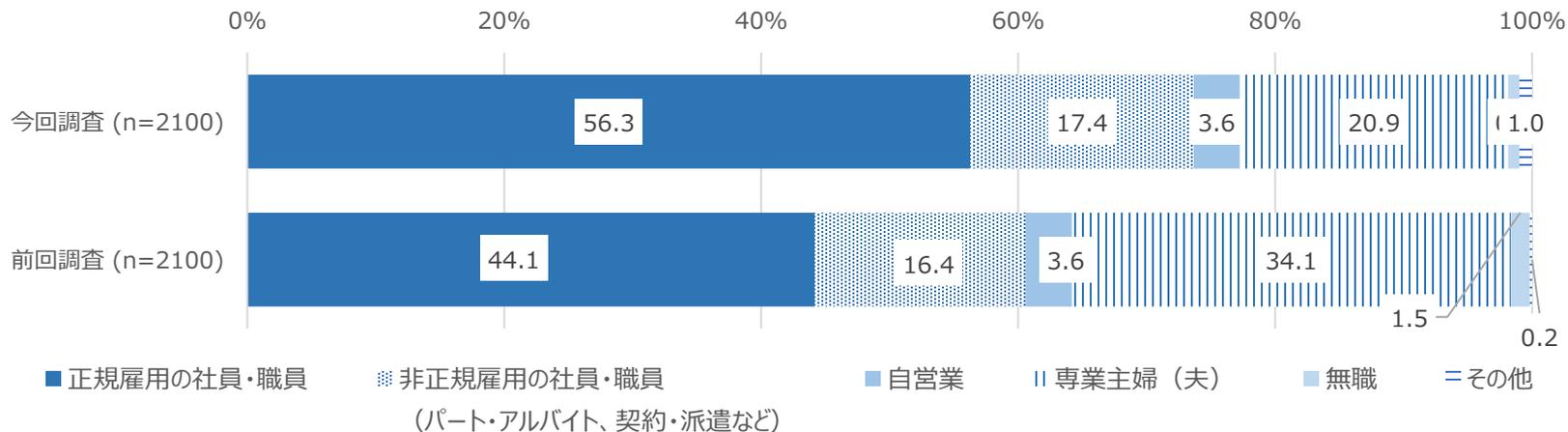
[1- (1) 就学後 問6]

子育て家庭における保護者の意識の現状⑤

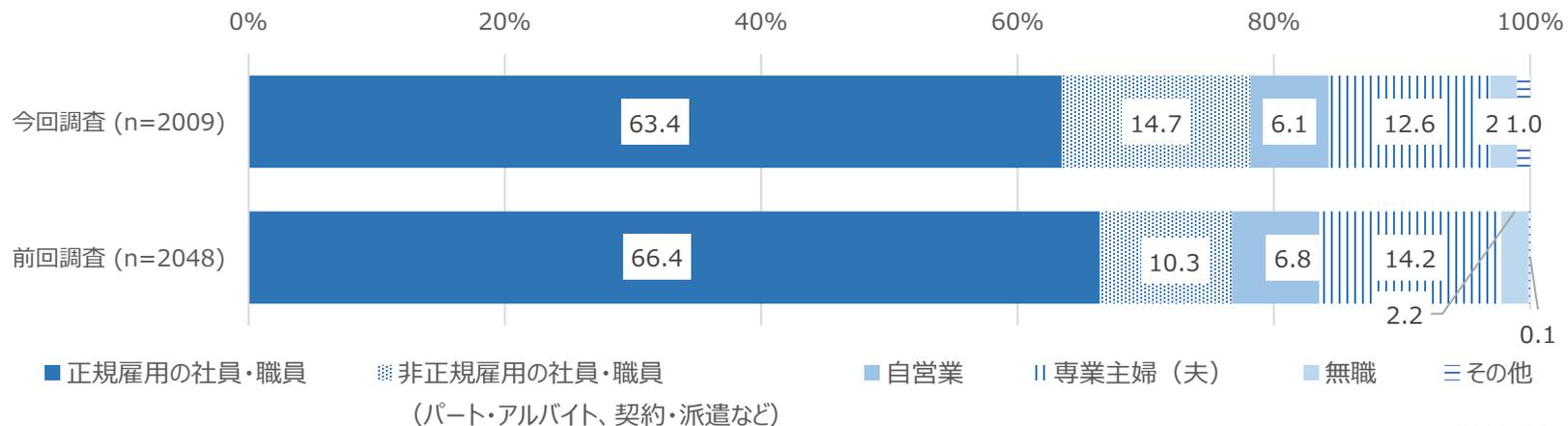
◆大阪府域一回答者・配偶者の就労状況 [未就学児] (前回調査との比較)

前回調査時と比較すると、回答者の就労状況は「正規雇用の社員・職員」の比率が高くなっており、「専業主婦(夫)」の比率が低くなっています。一方、配偶者の就労状況はほぼ前回調査と同様の傾向となっています。

[未就学児 回答者の就労状況]



[未就学児 配偶者の就労状況]

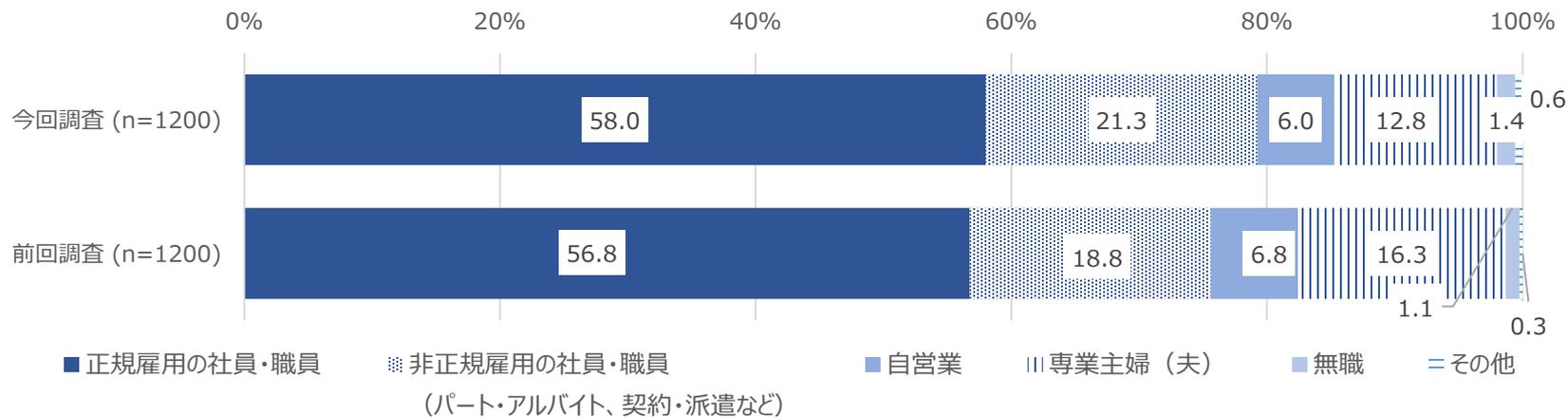


子育て家庭における保護者の意識の現状⑥

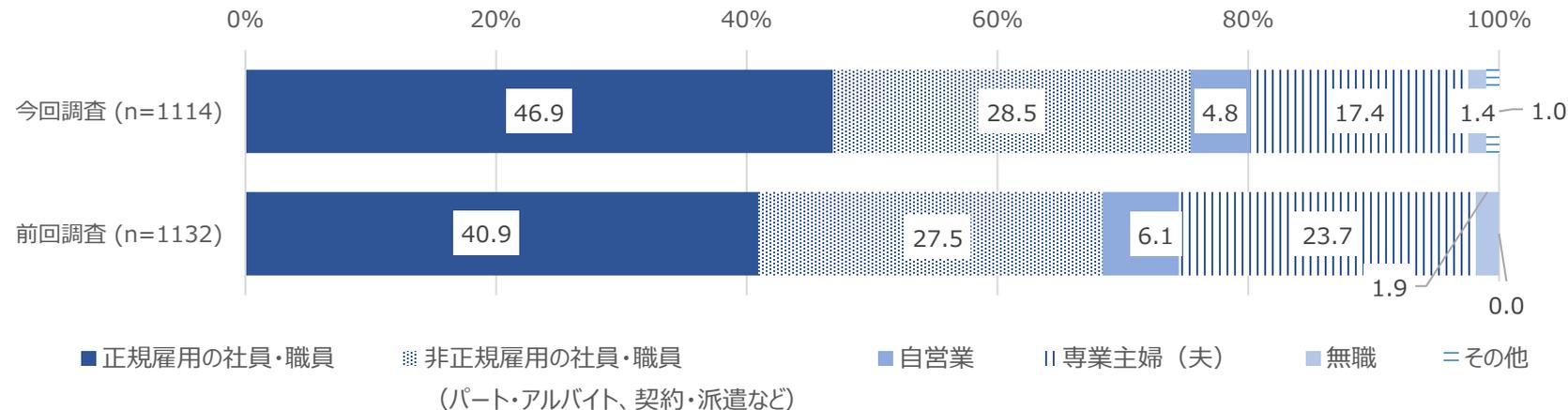
◆大阪府域一回答者・配偶者の就労状況〔就学後児童〕（前回調査との比較）

未就学児とは異なり、「正規雇用の社員・職員」の比率はあまり変わっていません。一方、配偶者の就労状況は「正規雇用の社員・職員」の比率が高くなっています。

〔就学後児童 回答者の就労状況〕



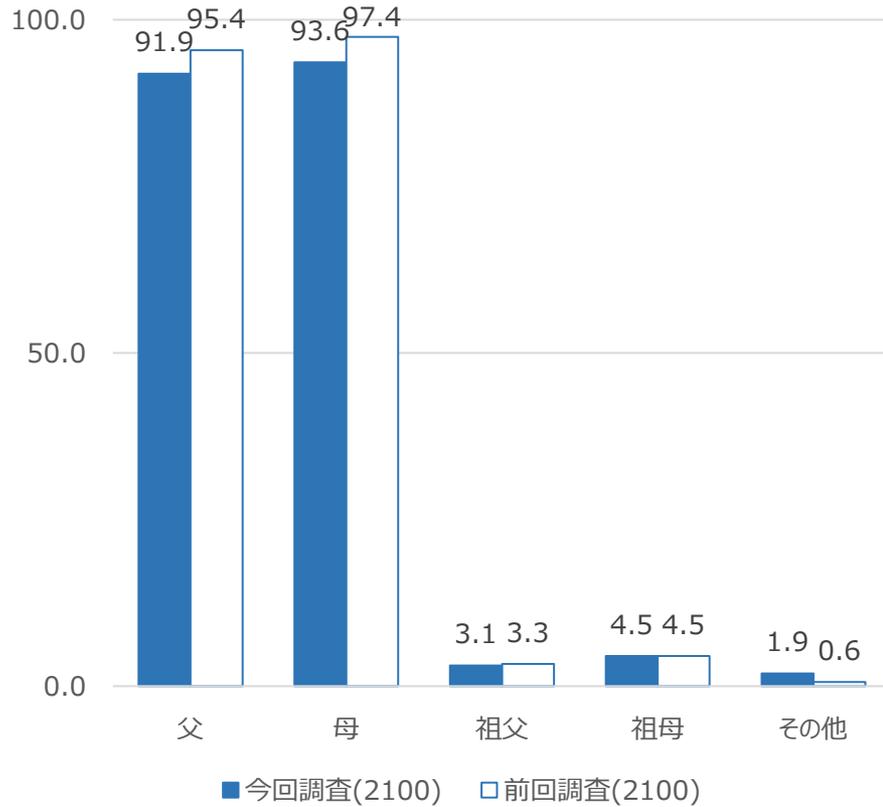
〔就学後児童 配偶者の就労状況〕



子育て家庭における保護者の意識の現状⑦

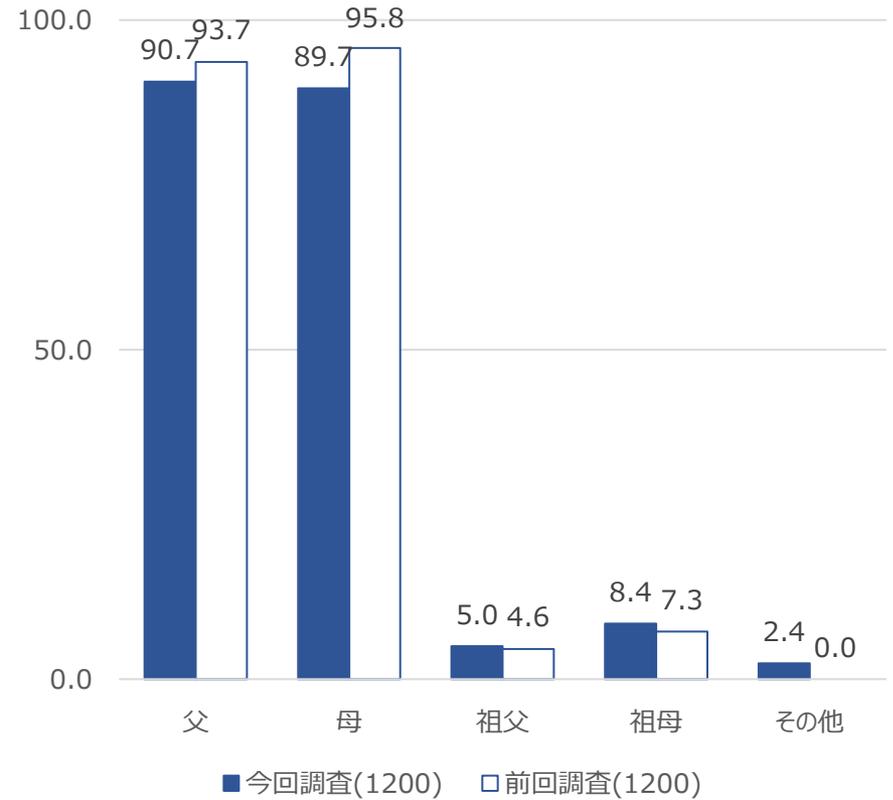
◆大阪府域—未就学児・就学後児童の同居家族（現在）の構成（前回調査との比較）
未就学児・就学後児童ともに前回調査時よりも「父」「母」の比率が微減しています。

[未就学児 同居家族の構成]



[1- (1) 就学前 問13]

[就学後児童 同居家族の構成]



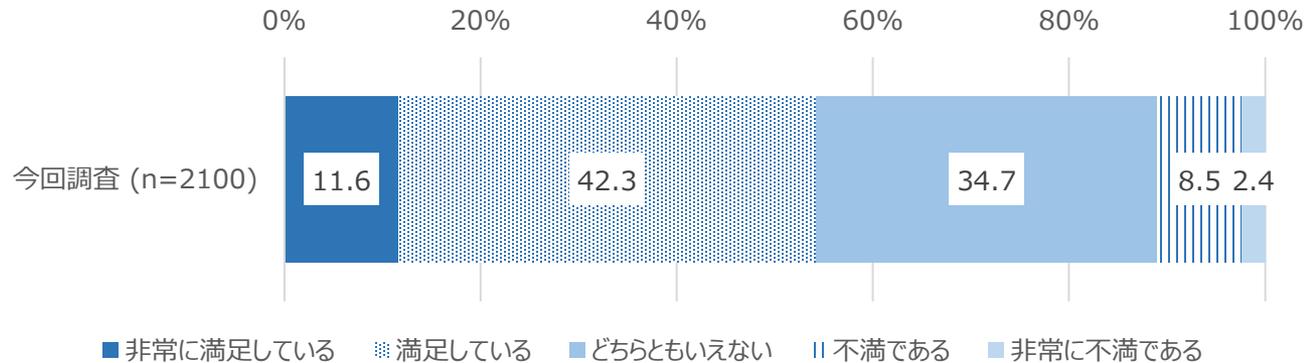
[1- (1) 就学後 問13]

子育て家庭における保護者の意識の現状⑧

◆大阪府域—未就学児・就学後児童のいる家庭における就学前の子育て支援への満足度

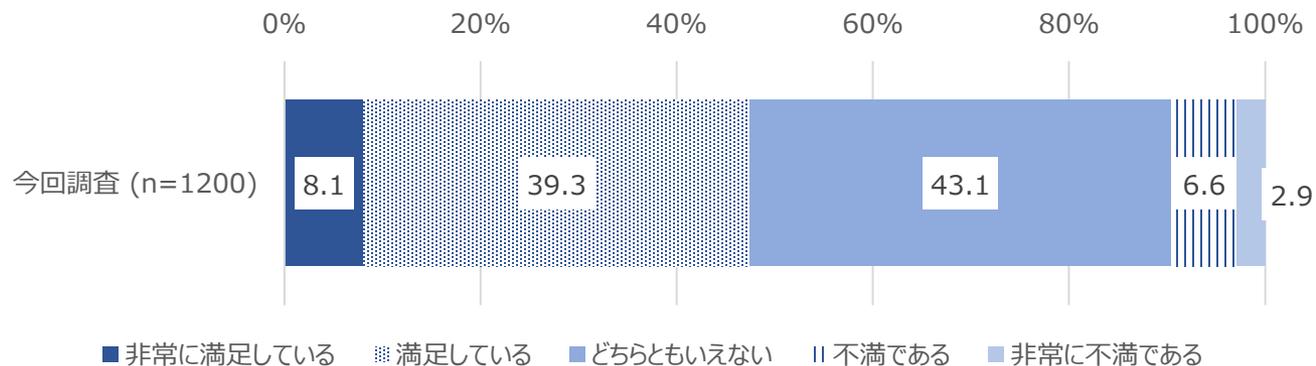
未就学児のいる家庭のうち、53.9%が「非常に満足している」または「満足している」と回答しており、就学後児童のいる家庭の47.4%よりも多くなっています。

[未就学児 子育て支援への満足度]



[1- (1) 就学前 問14]
(前回調査からの追加項目)

[就学後児童 就学前の子育て支援への満足度]

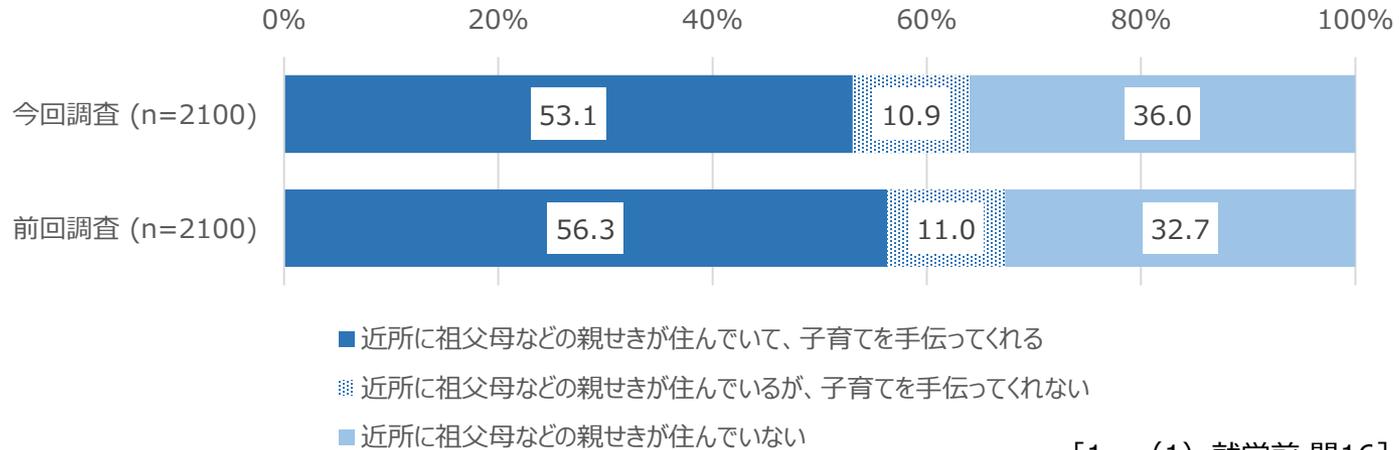


[1- (1) 就学後 問14]
(前回調査からの追加項目)

子育て家庭における保護者の意識の現状⑨

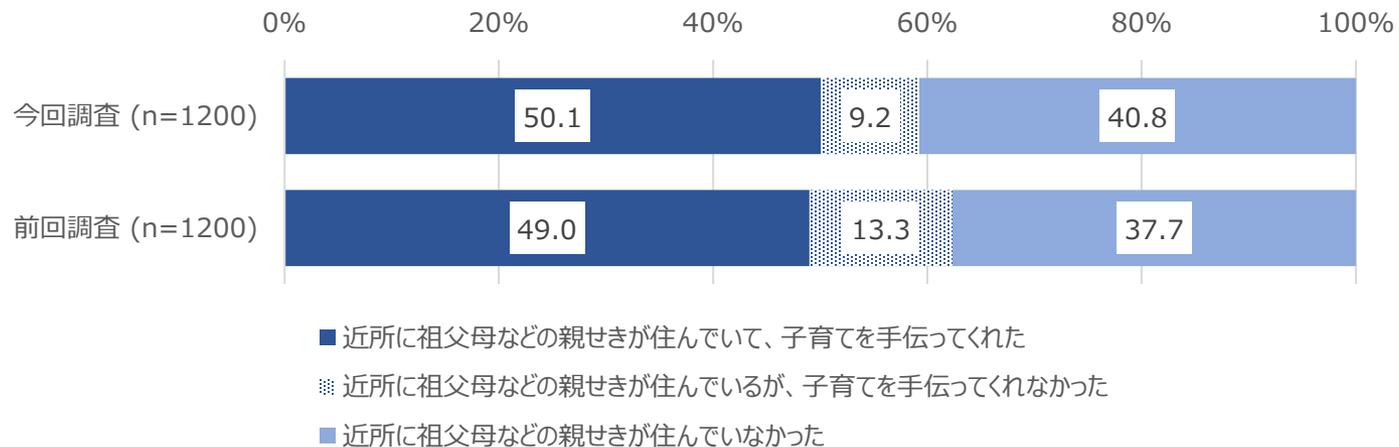
◆大阪府域—未就学児・就学後児童のいる家庭における就学前の子育てへのサポートの有無（前回調査との比較）
 未就学児のいる家庭・就学後児童のいる家庭ともに、前回調査と同様、約半数が近所に住んでいる祖父母などの親せきに子育てを手伝ってもらっています。

[未就学児 子育てへのサポートの有無]



[1- (1) 就学前 問16]

[就学後児童 就学前の子育てへのサポートの有無]



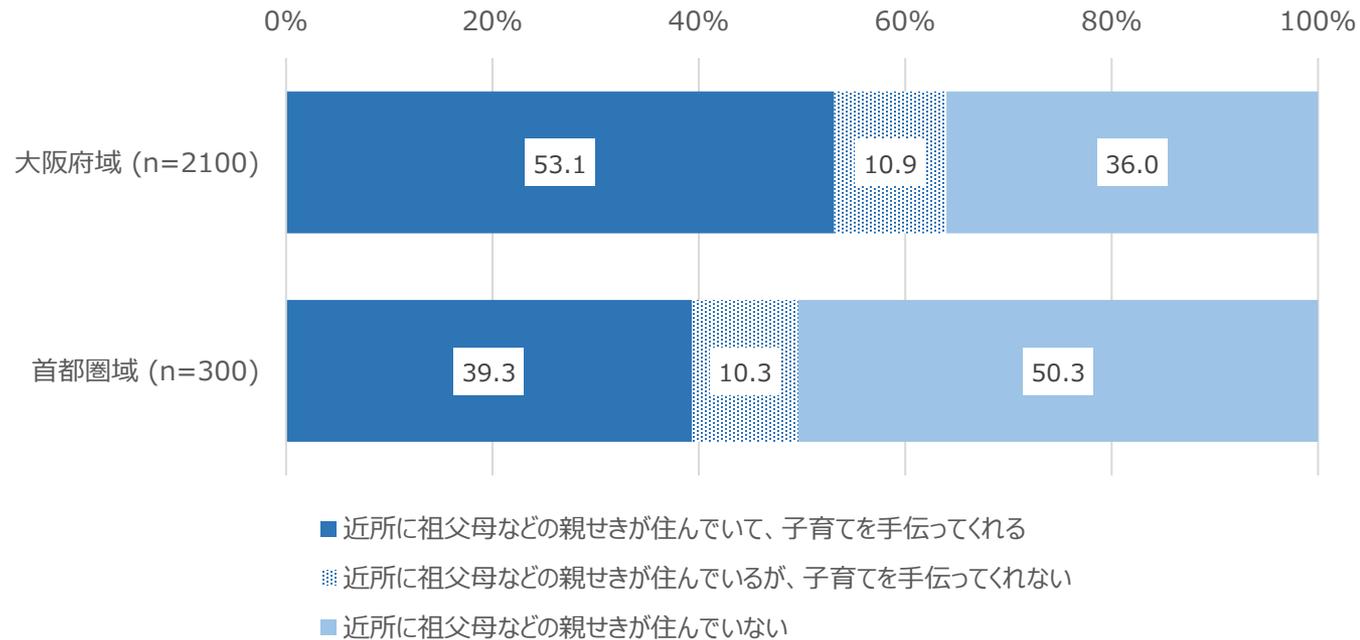
[1- (1) 就学後 問16]

子育て家庭における保護者の意識の現状⑩

◆大阪府域—子育てへのサポートの有無[未就学児]（首都圏域との比較）

首都圏域と比較すると、近所に住んでいる祖父母などの親せきに子育てを手伝ってもらっている比率が高くなっています。

[未就学児 子育てへのサポートの有無]



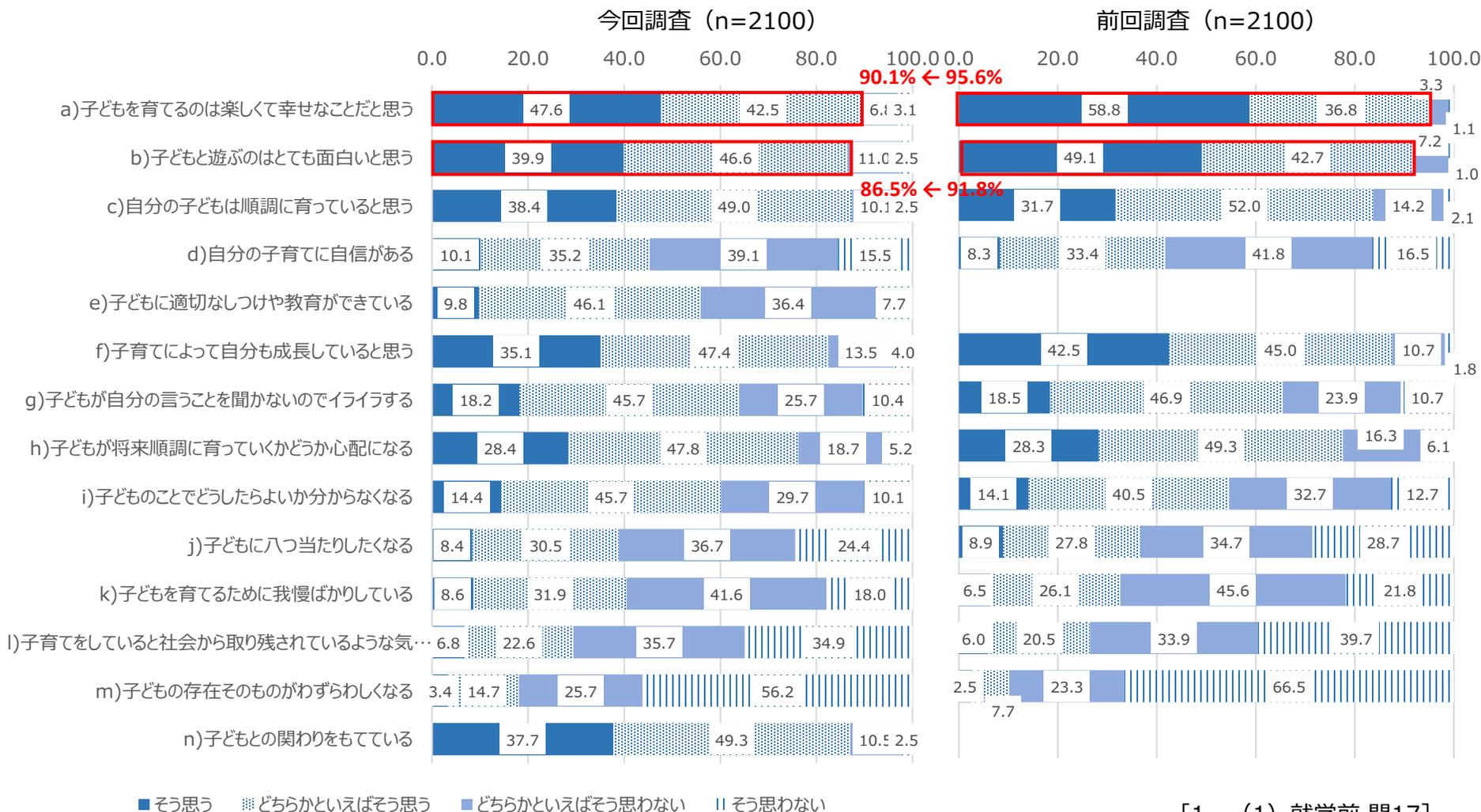
[1 - (1) 就学前 問16]

子育て家庭における保護者の意識の現状⑪

◆大阪府域一子育てで日頃感じること[未就学児]（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと思う」の項目について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者が減少しています（95.6% ⇒90.1%）。「子どもと遊ぶのはとても面白いと思う」の項目についても「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者が減少しています（91.8% ⇒86.5%）。

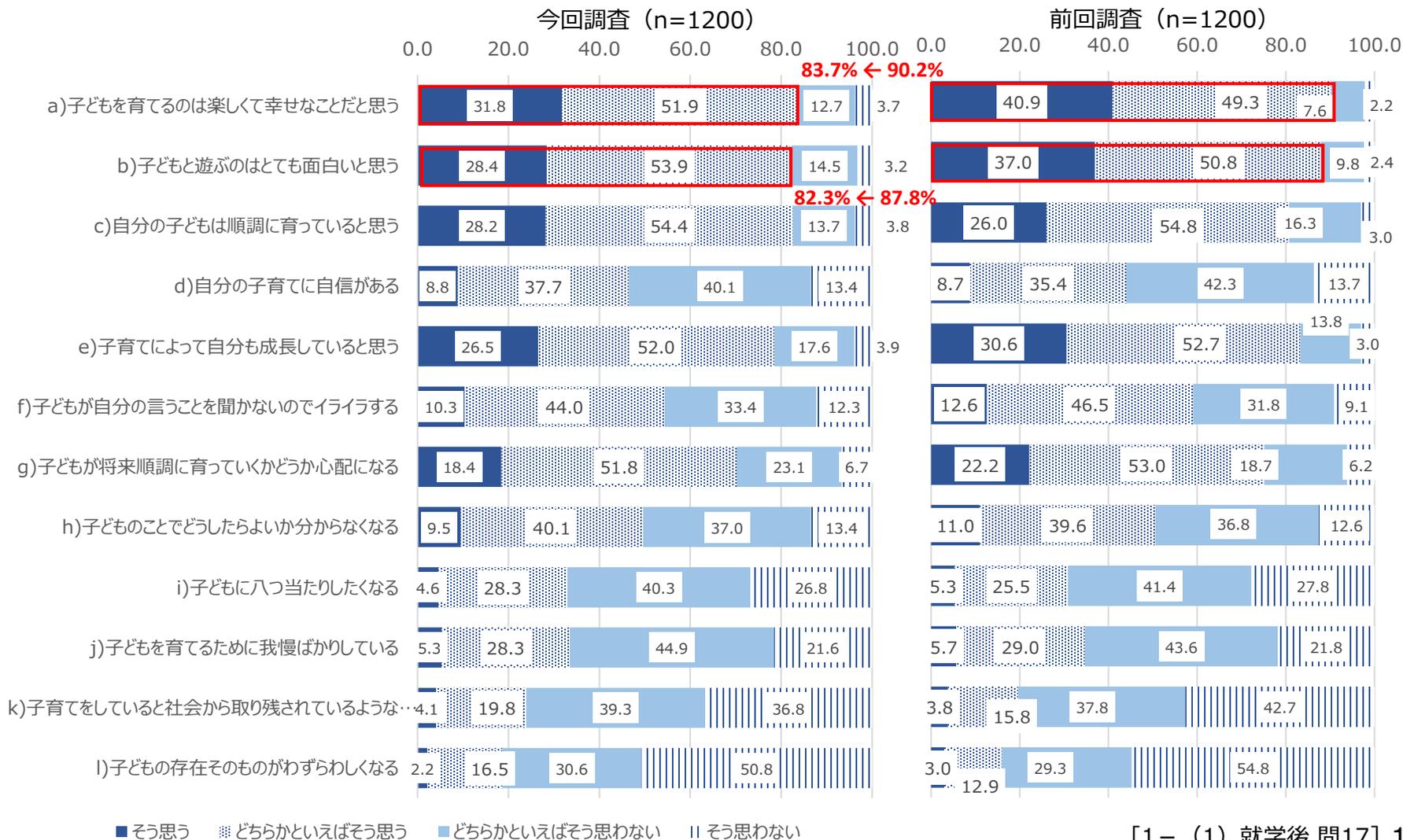
[未就学児 子育てで日頃感じること]



子育て家庭における保護者の意識の現状⑫

◆大阪府域—就学後児童のいる家庭における乳幼児期の子育てで感じていたこと[就学後児童]（前回調査との比較）
 前回調査と比較すると、「子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと思う」の項目について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者が減少しています（90.2% ⇒83.7%）。または「子どもと遊ぶのはとても面白いと思う」の項目について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者が減少しています（87.8% ⇒82.3%）。

[就学後児童 乳幼児期の子育てで感じていたこと]

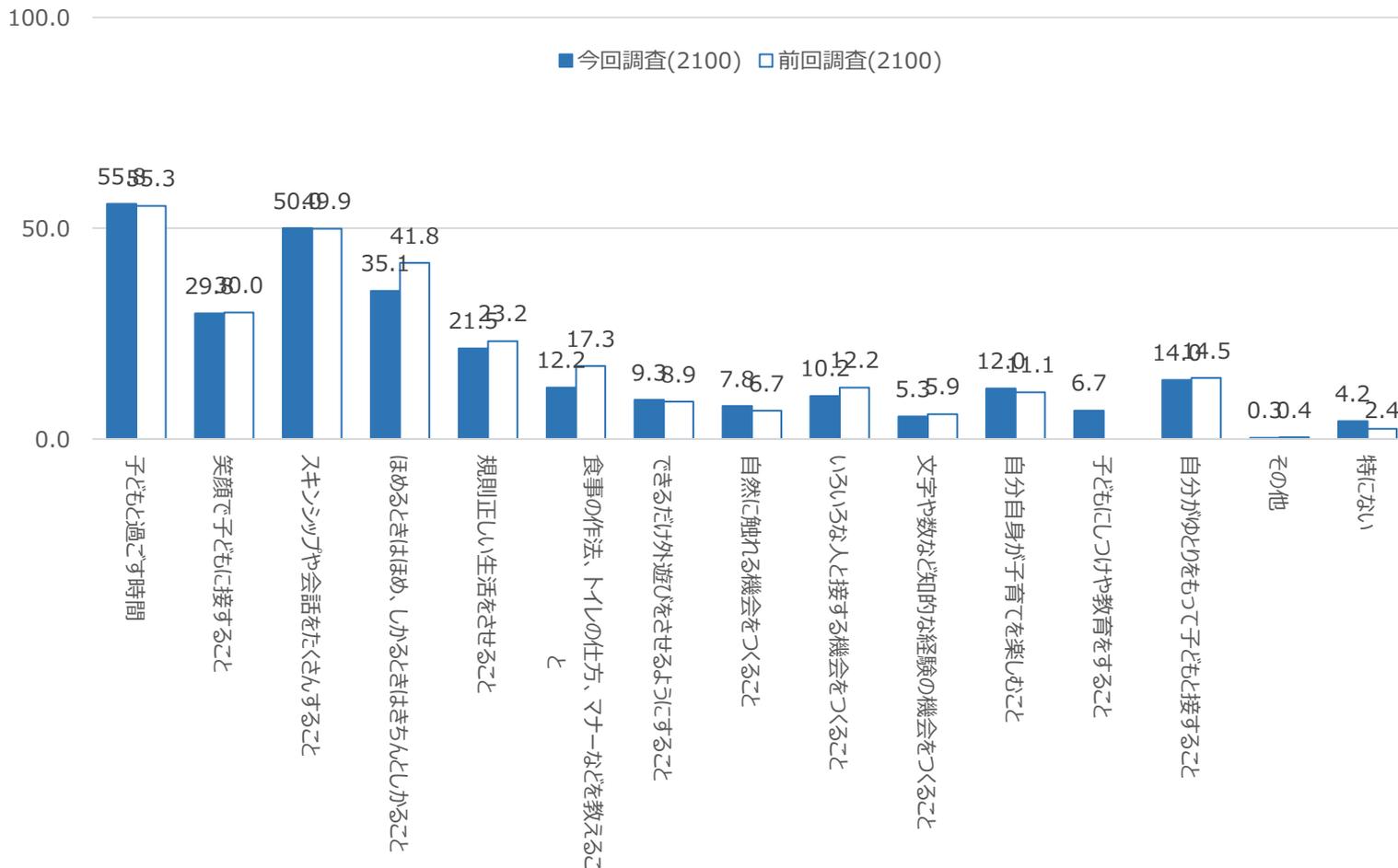


子育て家庭における保護者の意識の現状⑬

◆大阪府域一子育てで大切にしていること[未就学児]（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「子どもに仕上げや教育をすること」の比率が高くなっている一方、「ほめるときはほめ、しかるときはきちんとしかること」「食事の作法、トイレの仕方、マナーなどを教えること」の比率が低くなっています。

[未就学児 子育てで大切にしていること]



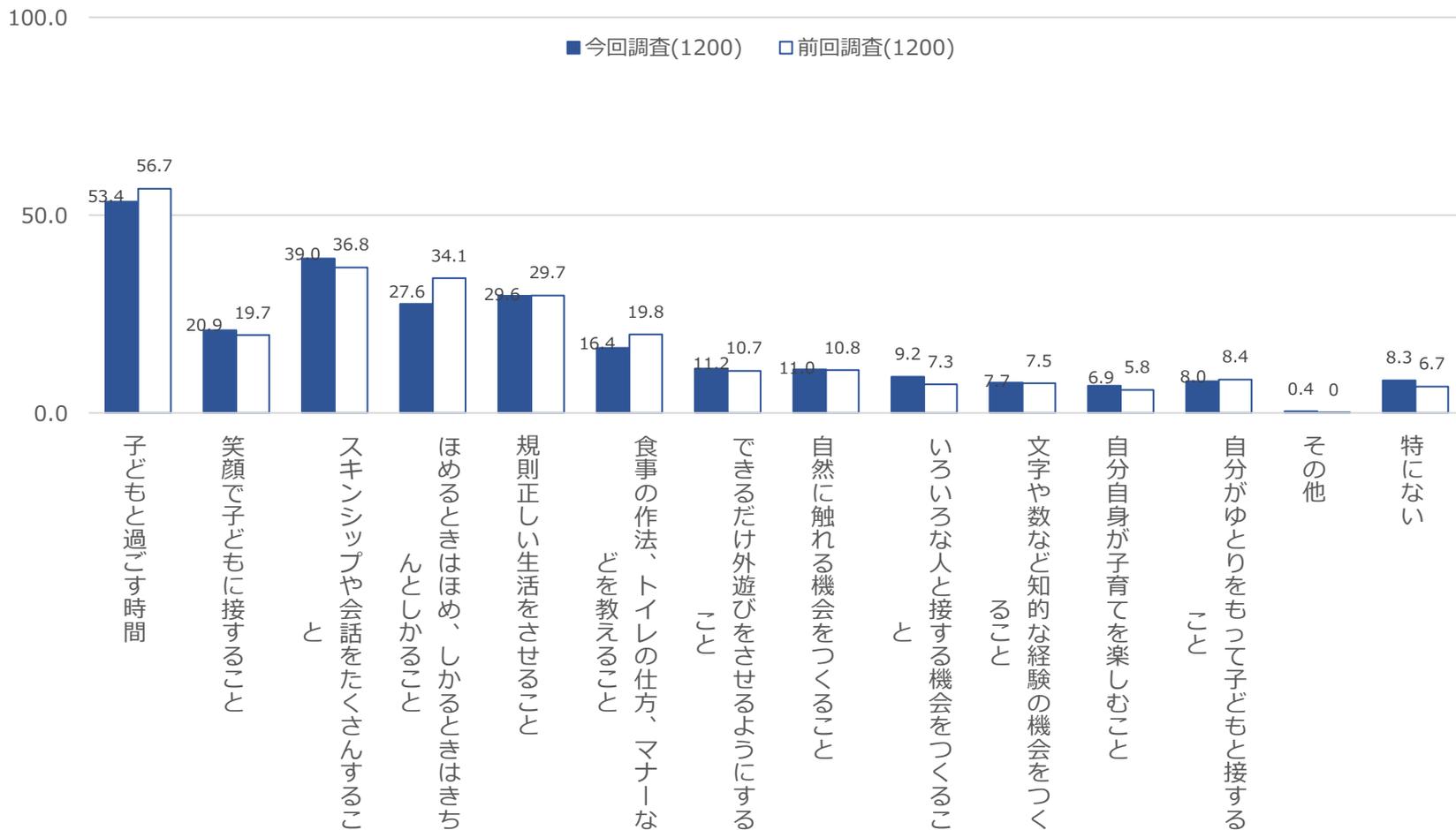
【注】「子どもに仕上げや教育をすること」の項目は今回調査より追加

子育て家庭における保護者の意識の現状⑭

◆大阪府域－就学後児童のいる家庭における乳幼児期に子育てで大切にしていたこと[就学後児童]（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「スキンシップや会話をたくさんすること」「いろいろな人と接する機会をつくること」の比率が高くなっている一方、「ほめるときはほめ、しかるときはきちんとしかること」「食事の作法、トイレの仕方、マナーなどを教えること」「子どもと過ごす時間」の比率が低くなっています。

[就学後児童 乳幼児期に子育てで大切にしていたこと]

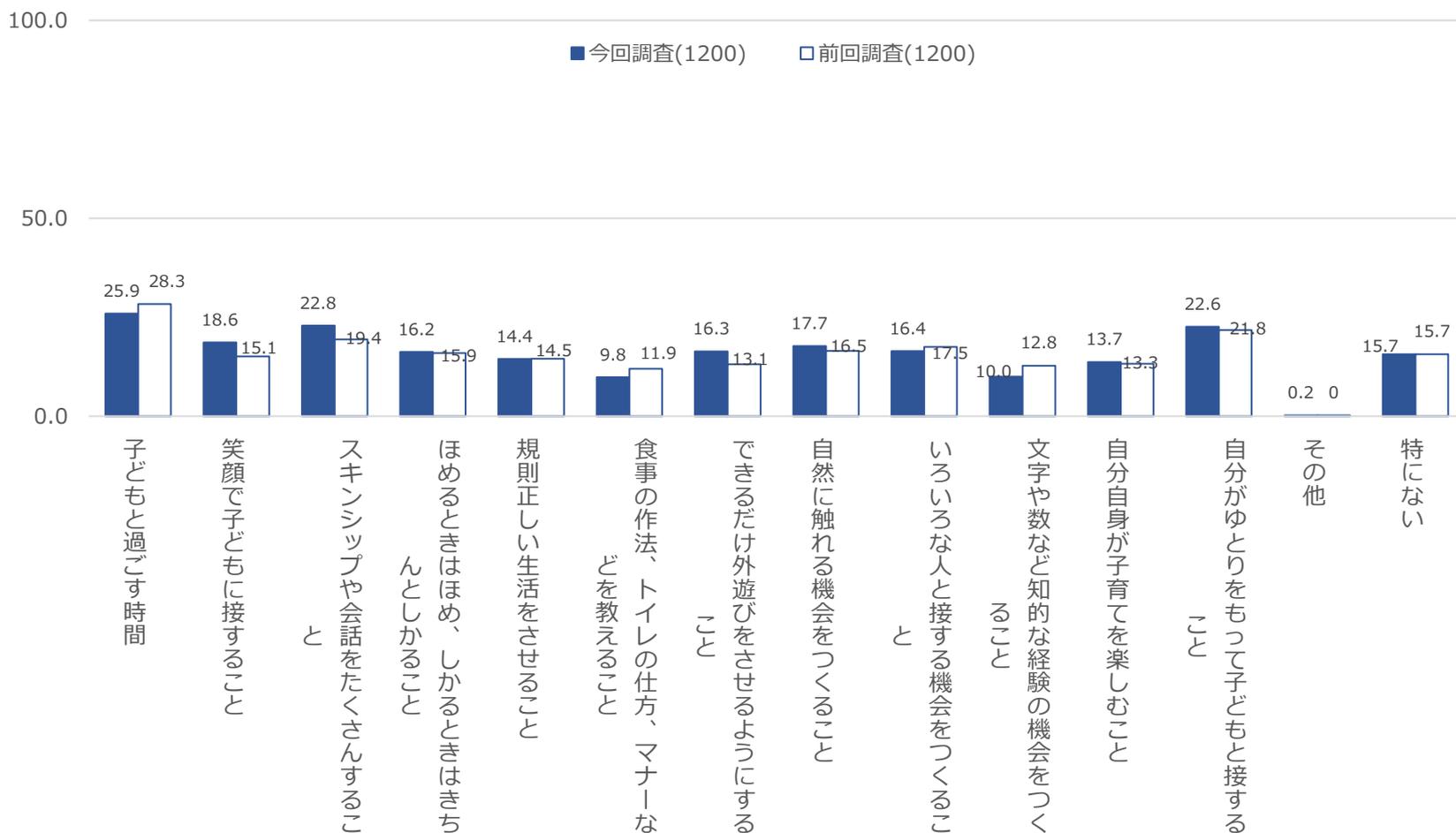


子育て家庭における保護者の意識の現状⑮

◆大阪府域—就学後児童のいる家庭における乳幼児期に子育てで大切にしておけばよかったこと[就学後児童]（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「笑顔で子どもに接すること」「スキンシップや会話をたくさんすること」「できるだけ外遊びをさせるようにすること」の比率が高くなっている一方、「文字や数など知的な経験の機会をつくること」「子どもと過ごす時間」「食事の作法、トイレの仕方、マナーなどを教えること」の比率が低くなっています。

[就学後児童 乳幼児期に子育てで大切にしておけばよかったこと]

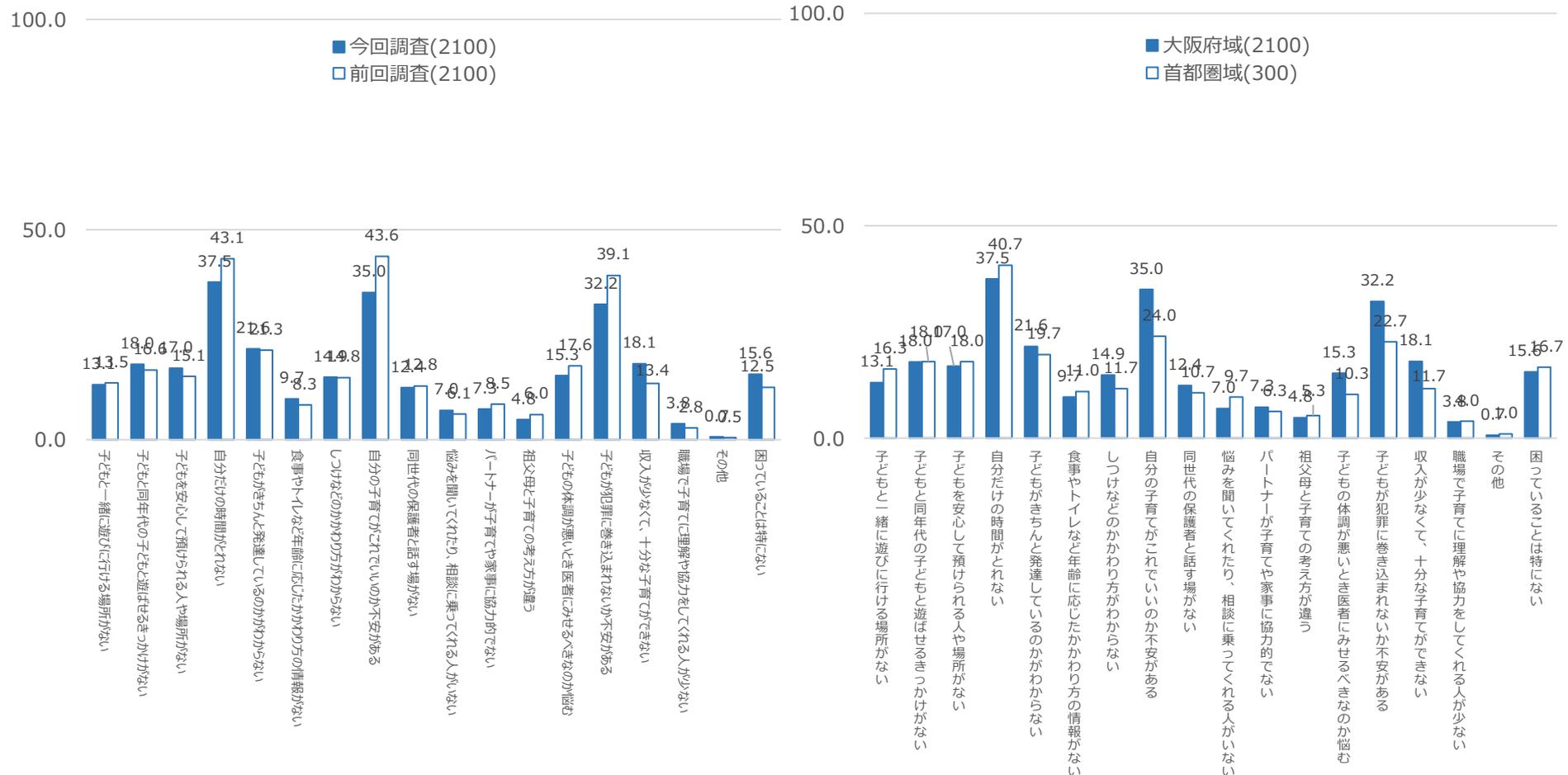


子育て家庭における保護者の意識の現状⑬

◆大阪府域一子育てで困っていること[未就学児]（前回調査・首都圏との比較）

前回調査で突出していた「自分の子育てがこれでいいのか不安がある」「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安がある」「自分だけの時間がとれない」の項目がいずれも減少傾向にあり、それ以外の項目は概ね微増傾向となっています。首都圏域と比較すると、「自分の子育てがこれでいいのか不安がある」「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安がある」「収入が少なくて、十分な子育てができない」の比率が高くなっています。

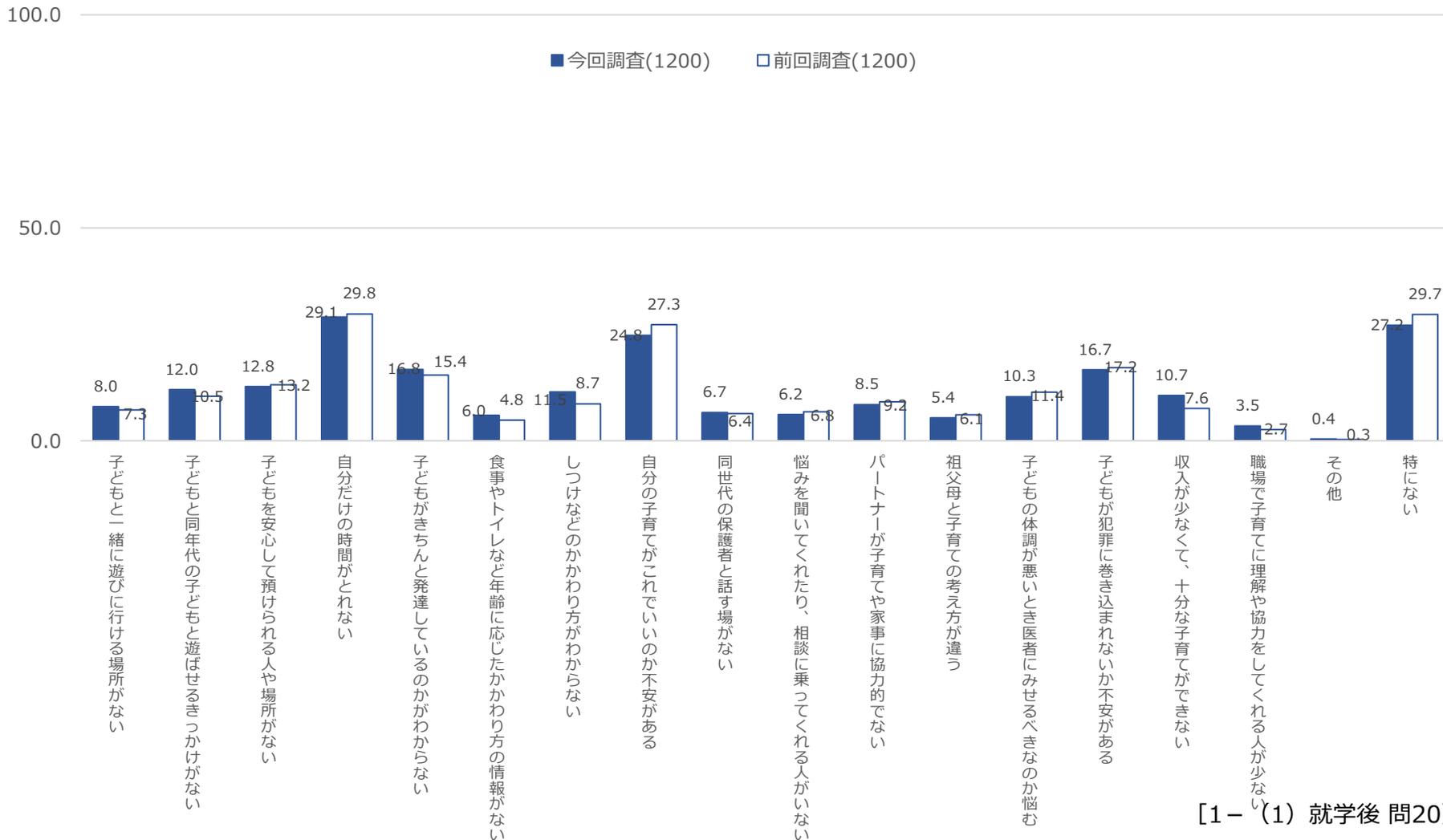
【未就学児 子育てで困っていること】



子育て家庭における保護者の意識の現状⑬

◆大阪府域—就学後児童のいる家庭における乳幼児期に子育てで困ったこと[就学後児童]（前回調査との比較）
 前回調査と同様、「自分だけの時間がとれない」「自分の子育てがこれでいいのか不安がある」「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安がある」の比率が高くなっています。

[就学後児童 乳幼児期に子育てで困ったこと]

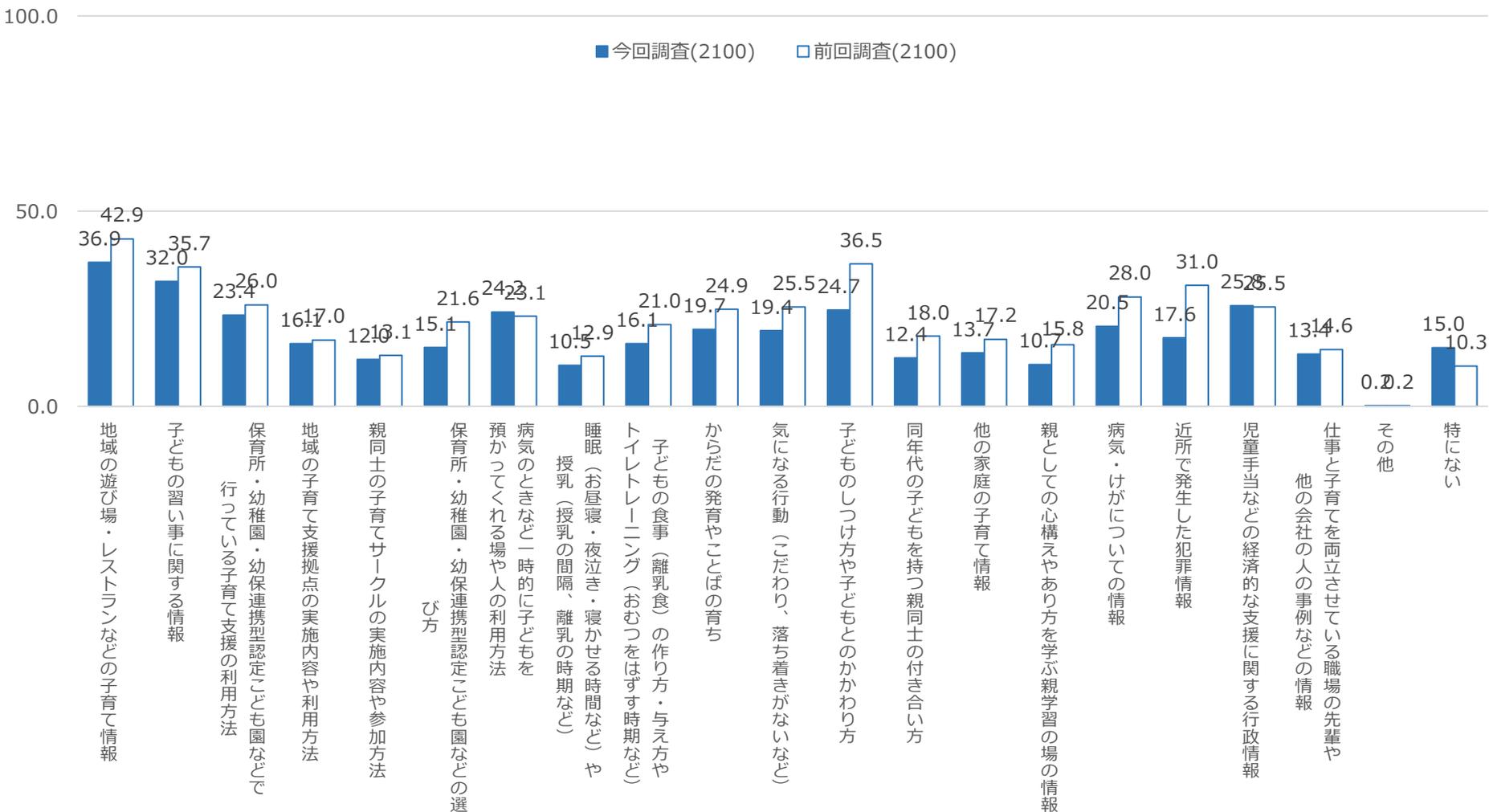


子育て家庭における保護者の意識の現状⑱

◆大阪府域一子育てについて欲しい情報[未就学児]（前回調査との比較）

前回調査と同様、「地域の遊び場・レストランなどの子育て情報」「子どもの習い事に関する情報」の比率が高くなっている一方、前回調査と比べると、「近所で発生した犯罪情報」「子どものしつけや子どもとのかかわり方」の比率が低くなっています。

[未就学児 子育てについて欲しい情報]

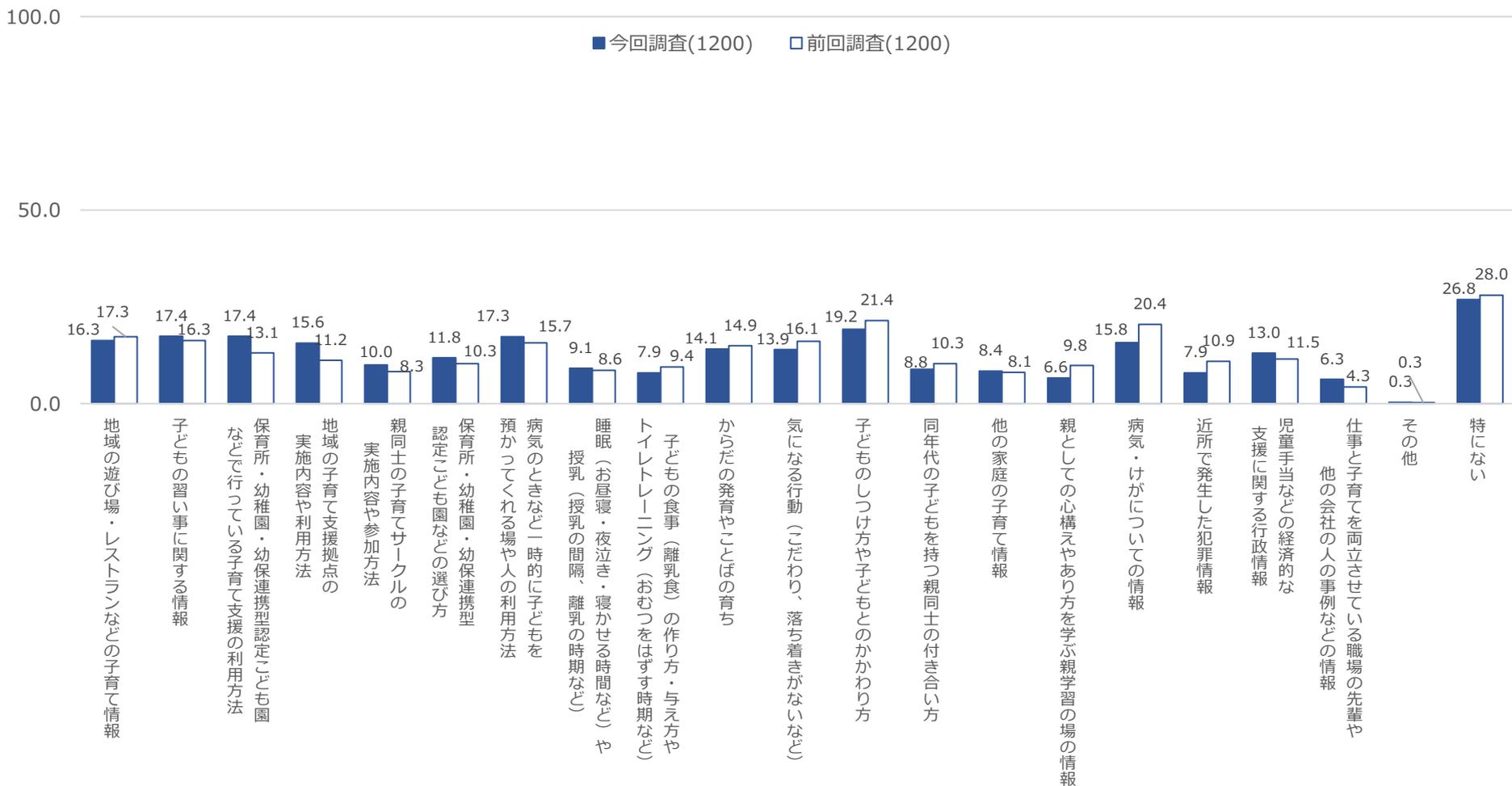


子育て家庭における保護者の意識の現状⑬

◆大阪府域－就学後児童のいる家庭における乳幼児期に子育てについて欲しかった情報[就学後児童]（前回調査との比較）

前回調査と同様、「子どものしつけ方や子どもとのかかわり方」「保育所・幼稚園・認定こども園などで行っている子育て支援の利用方法」「病気のと きなど一時的に子どもを預かってくれる場や人の利用方法」の比率が高くなっています。

[就学後児童 乳幼児期に子育てについて欲しかった情報]

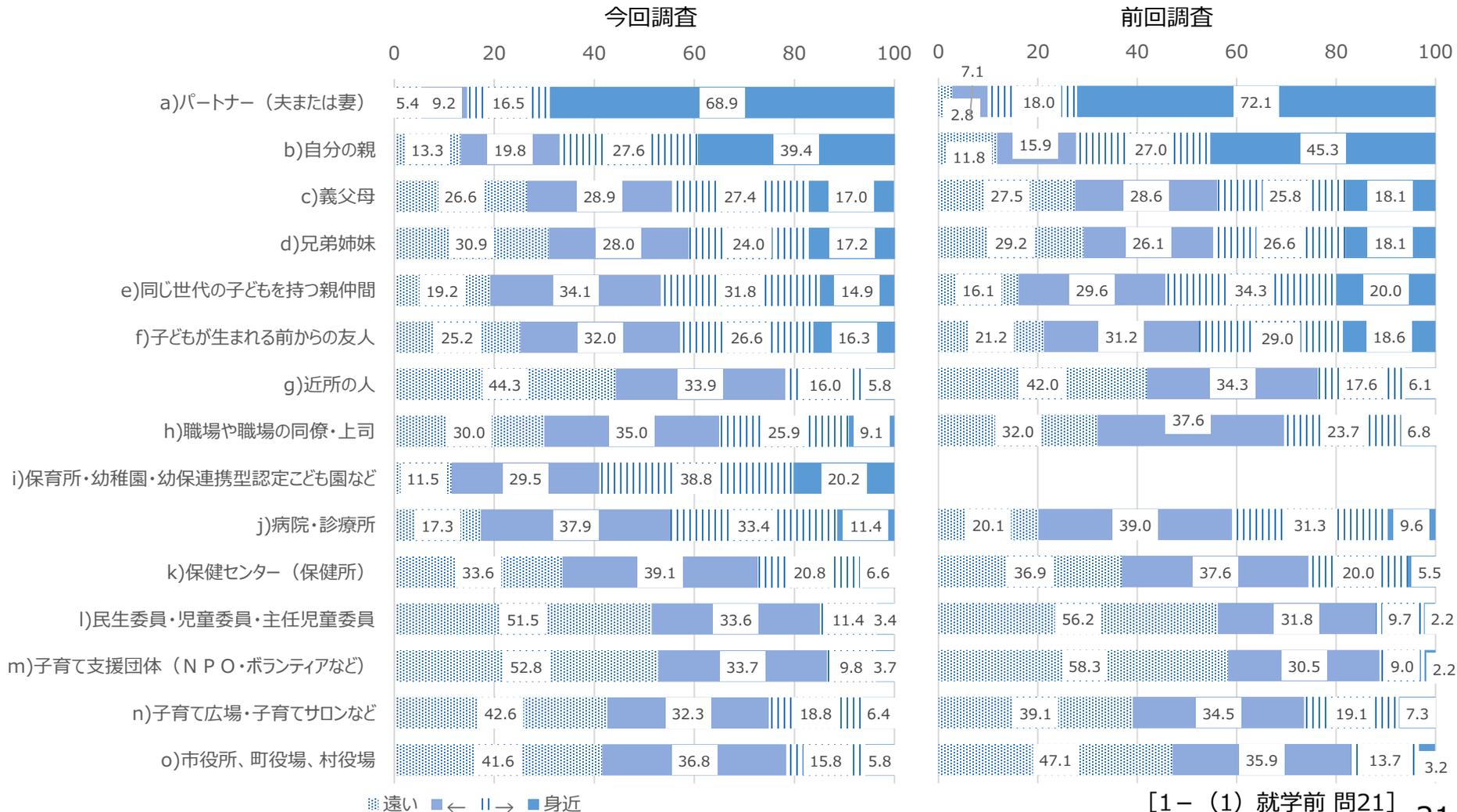


子育て家庭における保護者の意識の現状⑳

◆大阪府域一子育てについて相談する上で、身近に感じられる存在[未就学児]（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「民生委員・児童委員・主任児童委員」「職場や職場の同僚・上司」「子育て支援団体（NPO・ボランティアなど）」「自分の親」「保健センター（保健所）」「市役所、町役場、村役場」の項目の「該当なし」の比率が低くなっている一方、「近所の人」「兄弟姉妹」「パートナー（夫または妻）」の比率が高くなっています。

[未就学児 子育てについて相談する上で身近に感じられる存在]

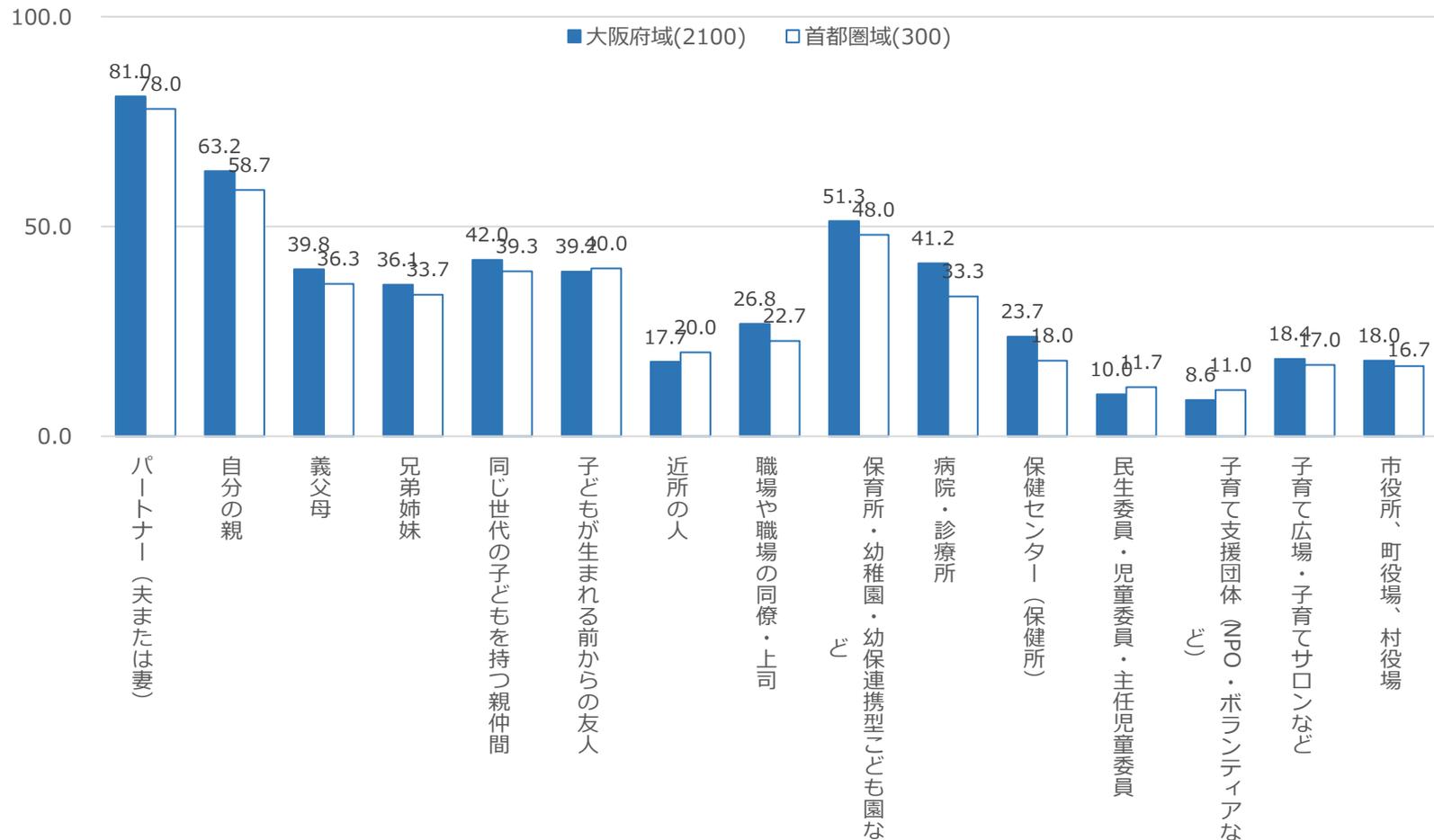


子育て家庭における保護者の意識の現状⑳

◆大阪府域—子育てについて相談する上で、身近に感じられる存在[未就学児]（首都圏域との比較）

首都圏域と比較すると、「病院・診療所」「保健センター（保健所）」「自分の親」の比率が高くなっている一方、「子育て支援団体（NPO・ボランティアなど）」「近所の人」の比率が低くなっています。

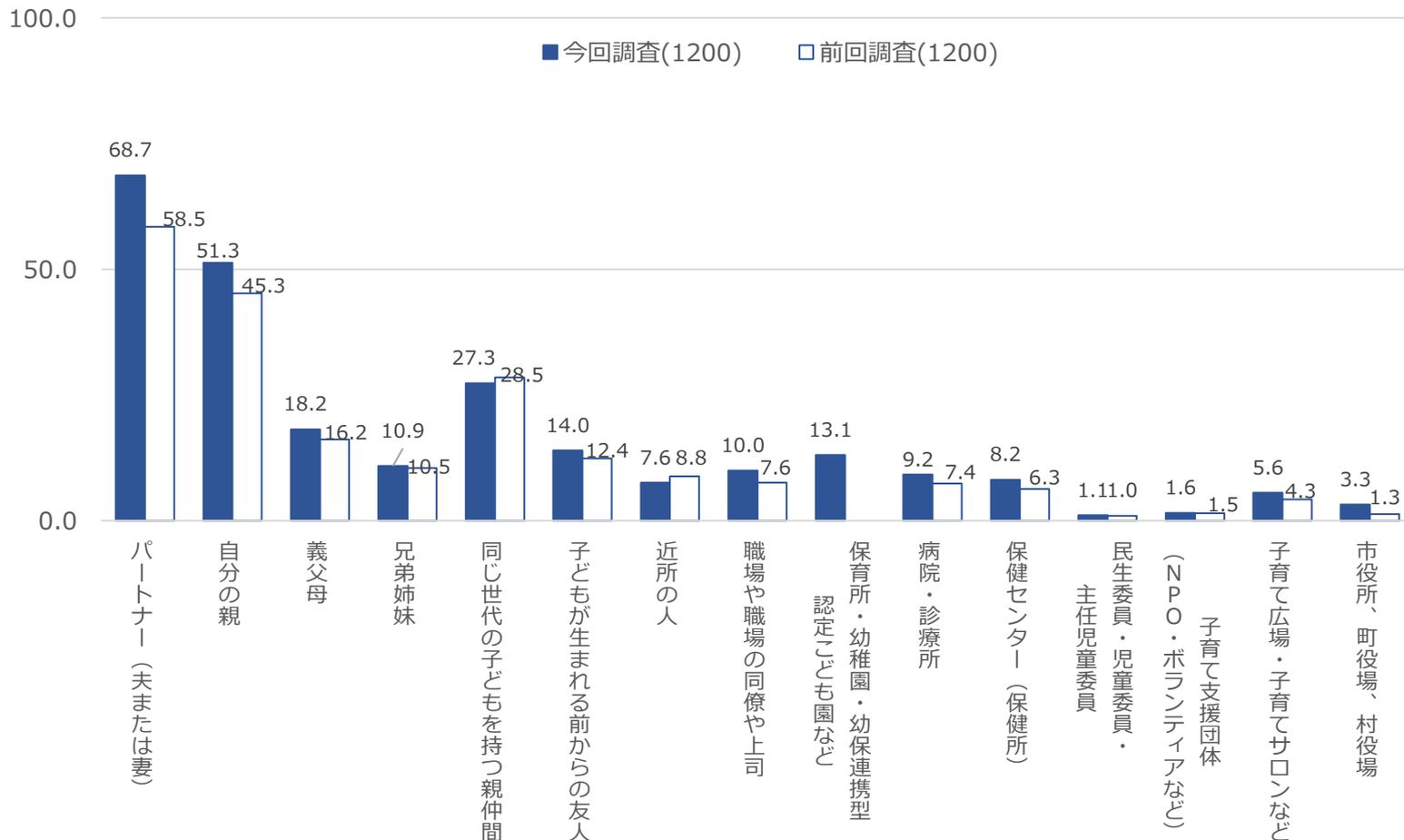
[未就学児 子育てについて相談する上で身近に感じられる存在]



子育て家庭における保護者の意識の現状②

◆大阪府域—就学後児童のいる家庭における乳幼児期の子育てについての相談先[就学後児童]（前回調査との比較）
 前回調査と比較すると、乳幼児期の子育てについての相談先として「パートナー（夫または妻）」「自分の親」の比率が高くなっています。

[就学後児童 乳幼児期の子育てについての相談先]



【注】「保育所・幼稚園・幼保連携型認定子ども園など」の項目は今回調査より追加

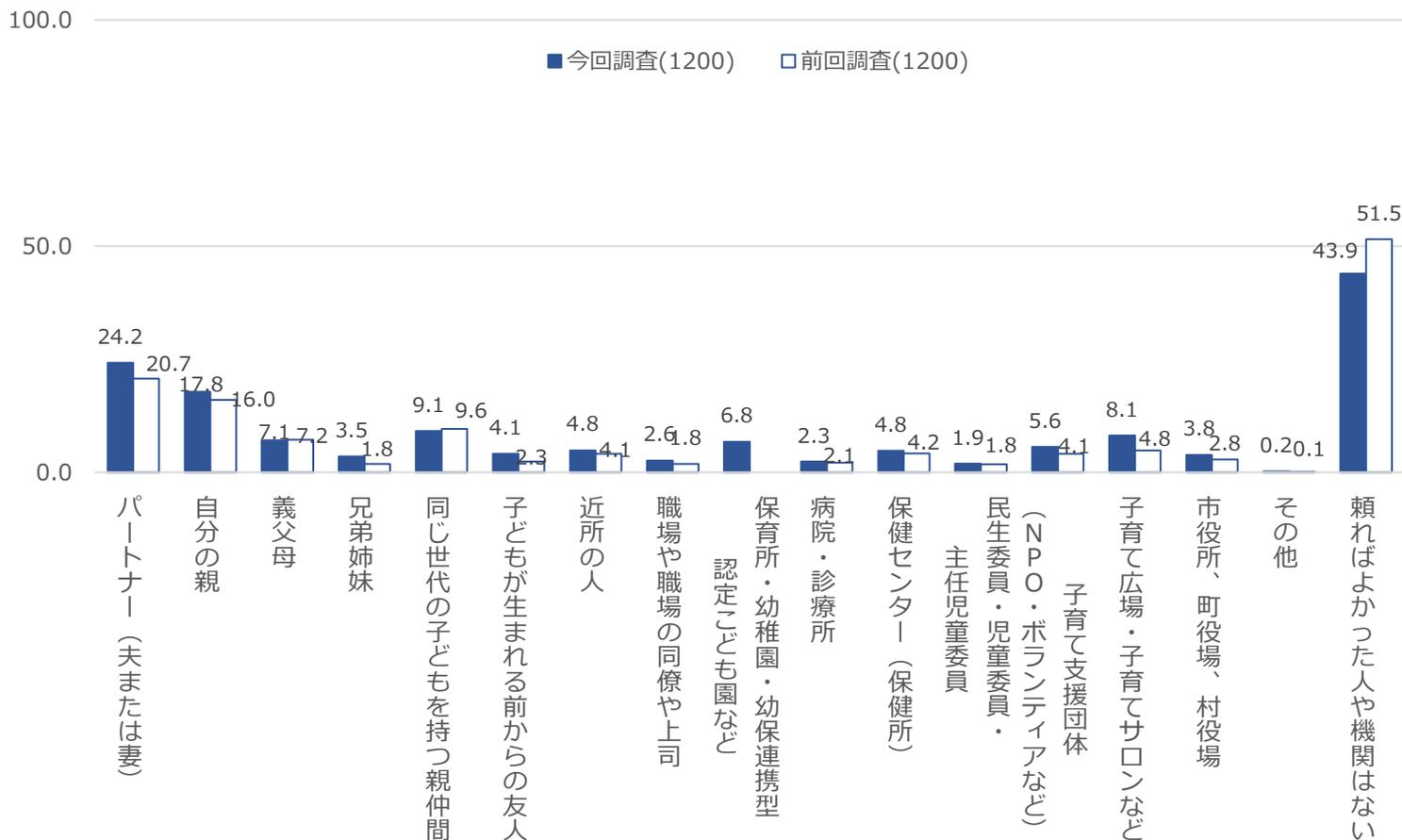
[1- (1) 就学後 問22]

子育て家庭における保護者の意識の現状②

◆大阪府域—就学後児童のいる家庭における乳幼児期に頼っておけばよかった人・機関[就学後児童]（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園など」「パートナー（夫または妻）」「子育て広場・サロンなど」の比率が高くなっています。

[就学後児童 乳幼児期に頼っておけばよかった人・機関]



【注】「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園など」の項目は今回調査より追加

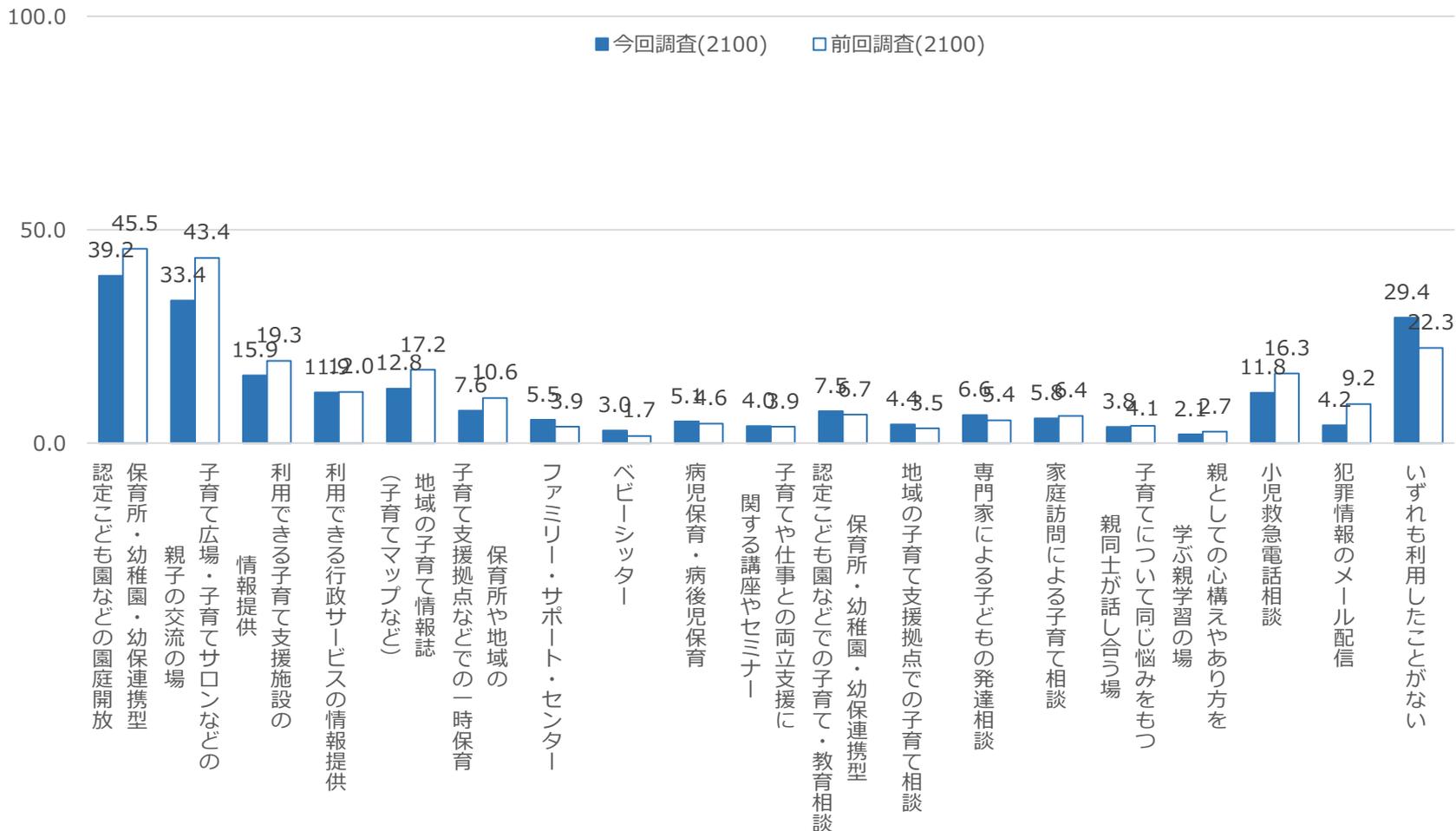
[1- (1) 就学後 問23]

子育て家庭における保護者の意識の現状②

◆大阪府域—利用経験のある子育てサービス[未就学児]（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「子育て広場・子育てサロンなどの親子の交流の場」「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などの園庭開放」「小児救急電話相談」「地域の子育て情報誌（子育てマップなど）」の比率が低くなっている一方、「いずれも利用したことがない」の比率が高くなっています。

[未就学児 利用経験のある子育てサービス]



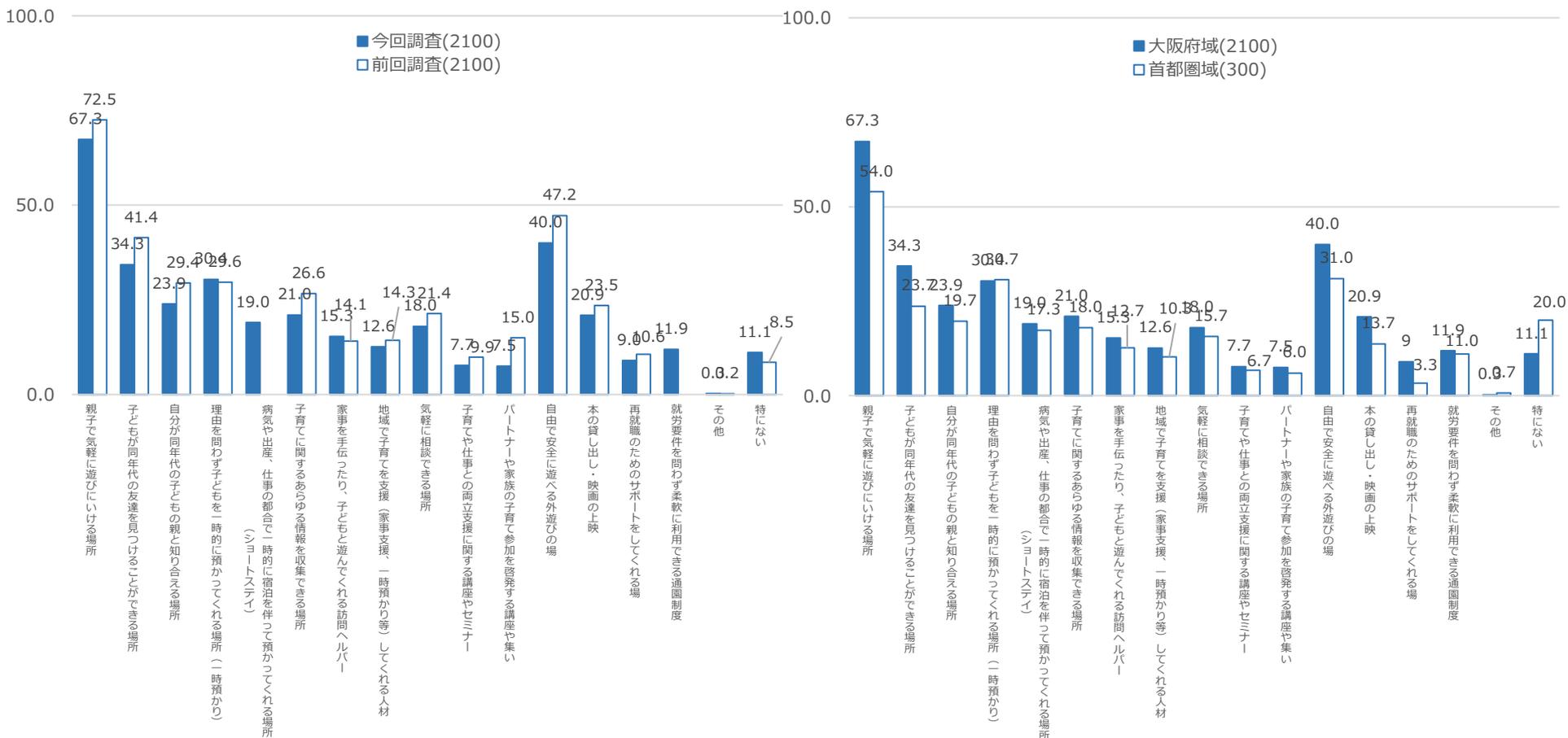
[1- (1) 就学前 問23]

子育て家庭における保護者の意識の現状②

◆大阪府域一子育てであつたらいいなと思うもの[未就学児]（前回調査・首都圏との比較）

前回調査と同様、「親子で気軽に遊びにいける場所」「自由に安全に遊べる外遊びの場」「子どもが同世代の友達を見つけることができる場所」の比率が高くなっています。また、首都圏域と比較すると、「親子で気軽に遊びにいける場所」「子どもが同世代の友達を見つけることができる場所」「自由に安全に遊べる外遊びの場」「本の貸し出し・映画の上映」「再就職のためのサポートをしてくれる場」の比率が首都圏域よりも高くなっています。

[未就学児 あつたらいいなと思うもの]

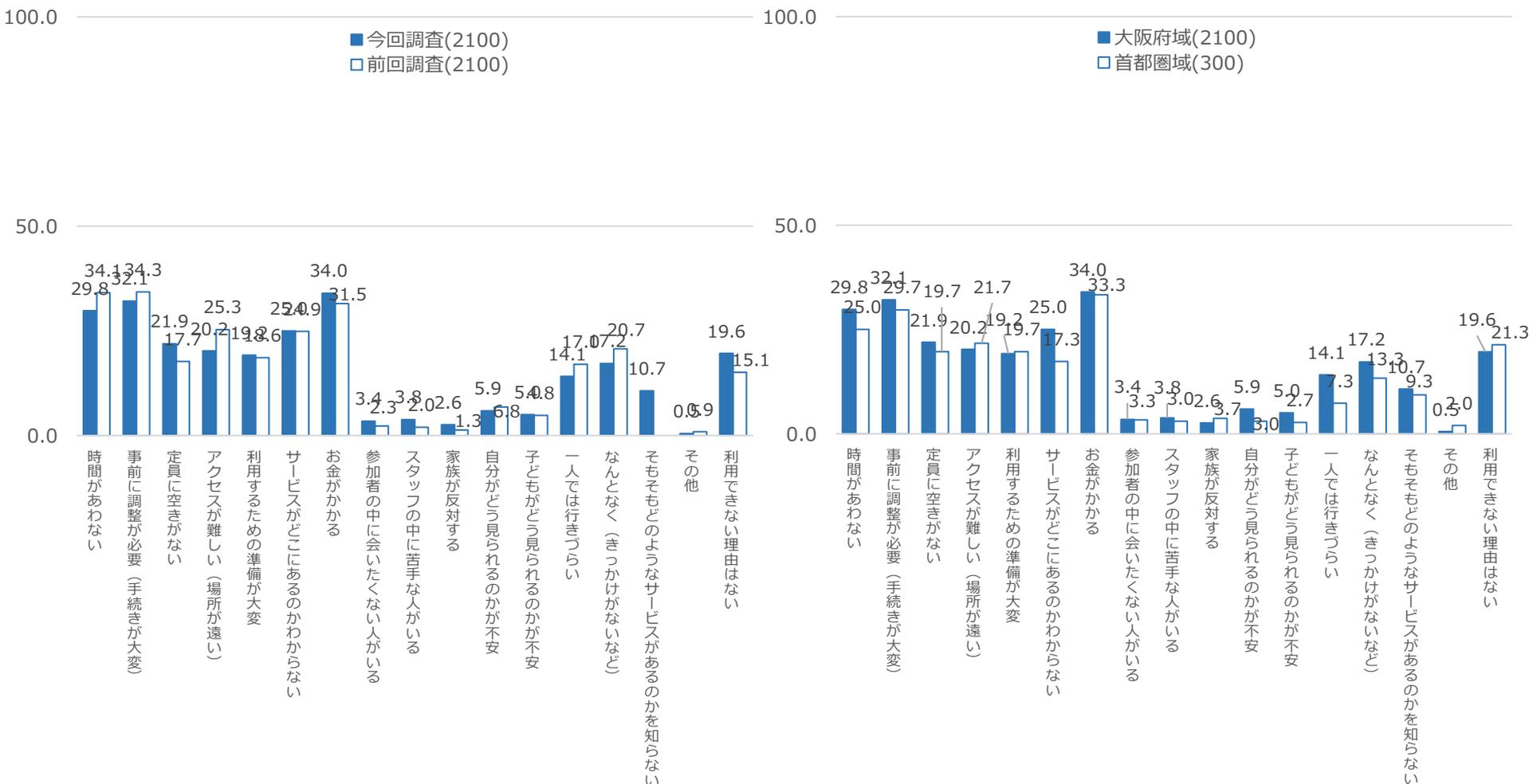


【注】「病気や出産、仕事の都合で一時的に宿泊を伴って預かってくれる場所 (ショートステイ)」「就労要件を問わず柔軟に利用できる通園制度」の項目は今回調査より追加

子育て家庭における保護者の意識の現状②⑥

◆大阪府域一子育てサービスを利用したいと思ったときに利用できない理由[未就学児]（前回調査・首都圏との比較）
 前回調査と同様、「お金がかかる」「事前に調整が必要（手続きが大変）」「時間があわない」の比率が高くなっています。また、首都圏域と比較すると、「サービスがどこにあるのかわからない」「1人では行きづらい」の比率が首都圏域よりも高くなっています。

[未就学児 子育てサービスを利用したいと思ったときに利用できない理由]



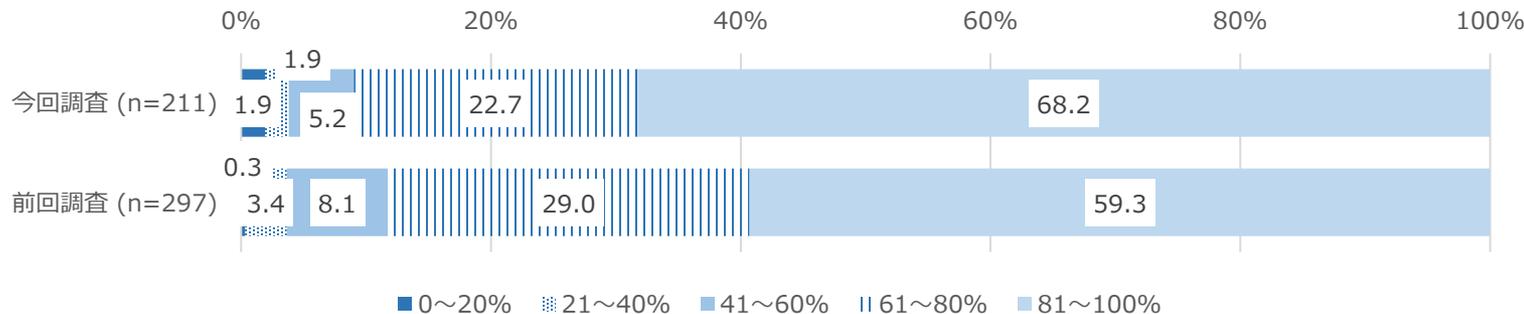
【注】「そもそものようなサービスがあるのかわからない」の項目は今回調査より追加

地域子育て支援拠点における子育て支援活動①

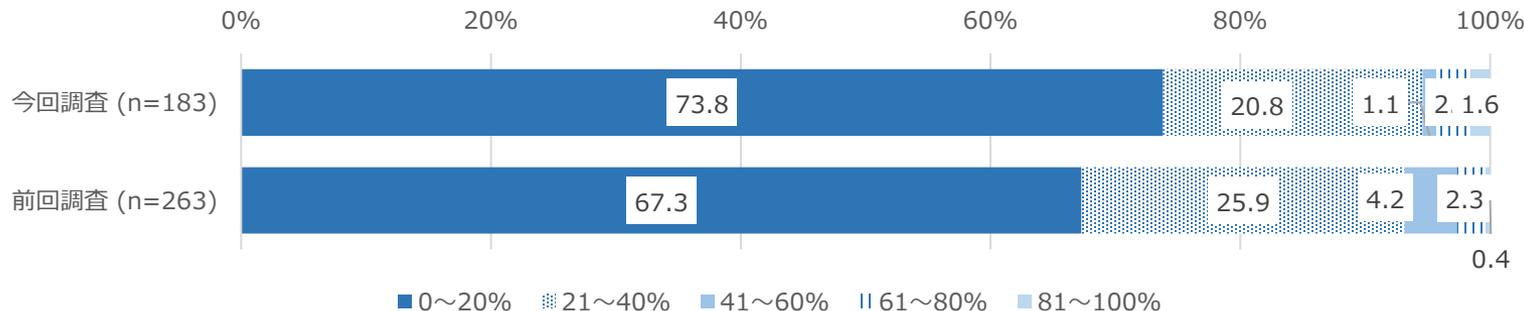
◆大阪府域—地域子育て支援拠点の利用状況[未就学児] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、0～3歳未満の子どもがいる家庭では利用率が高くなっている一方、3歳～小学生の子どもがいる家庭では利用率が低くなっています。

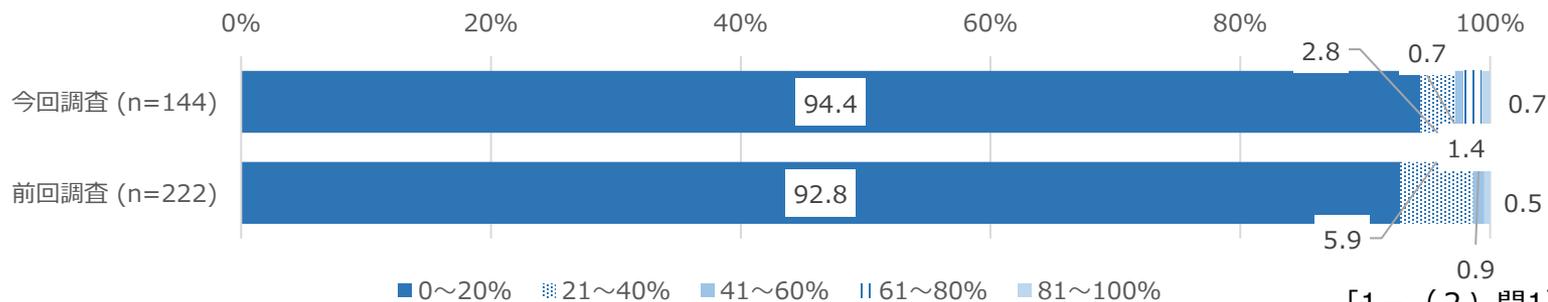
[地域子育て支援拠点 利用状況(0～3歳未満の子どもがいる家庭)]



[地域子育て支援拠点 利用状況(3歳～就学前の子どもがいる家庭)]



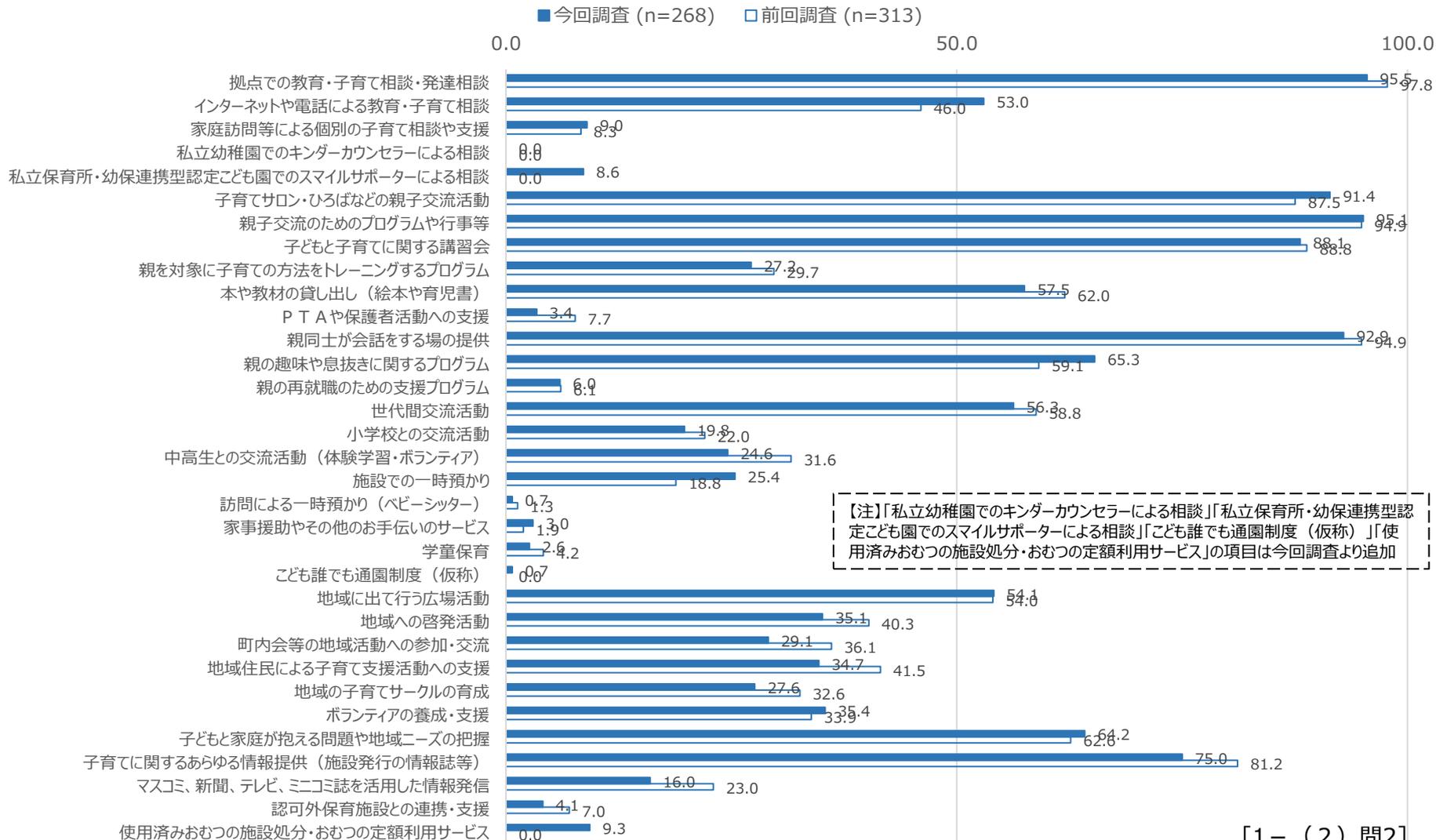
[地域子育て支援拠点 利用状況(小学生の子どもがいる家庭)]



地域子育て支援拠点における子育て支援活動②

◆大阪府域一地域子育て支援拠点における地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）
 前回調査と同様、「拠点での教育・子育て相談・発達相談」「親子交流のためのプログラムや行事等」「親同士が会話する場の提供」「子育てサロン・ひろばなどの親子交流活動」の実施率が高くなっています。

[地域子育て支援拠点 実施している地域の子育て家庭向け子育て支援活動]

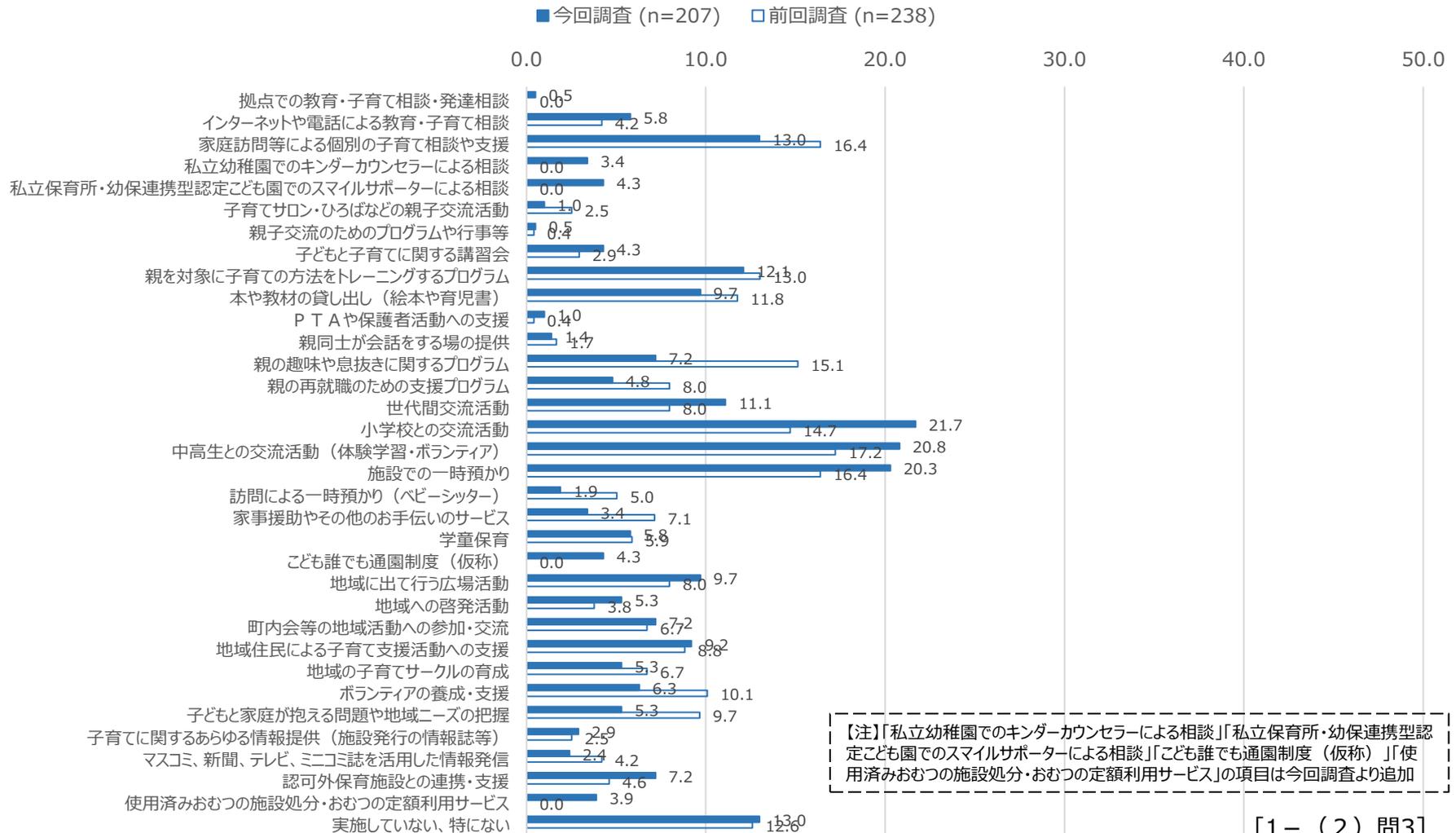


地域子育て支援拠点における子育て支援活動③

◆大阪府域一地域子育て支援拠点における現在実施していないが、支援があれば将来的に実施してみたい地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「小学校との交流活動」「施設での一時預かり」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」「中高生との交流活動（体験学習・ボランティア）」の比率が高くなっています。

[地域子育て支援拠点 実施してみたい地域の子育て家庭向け子育て支援活動]



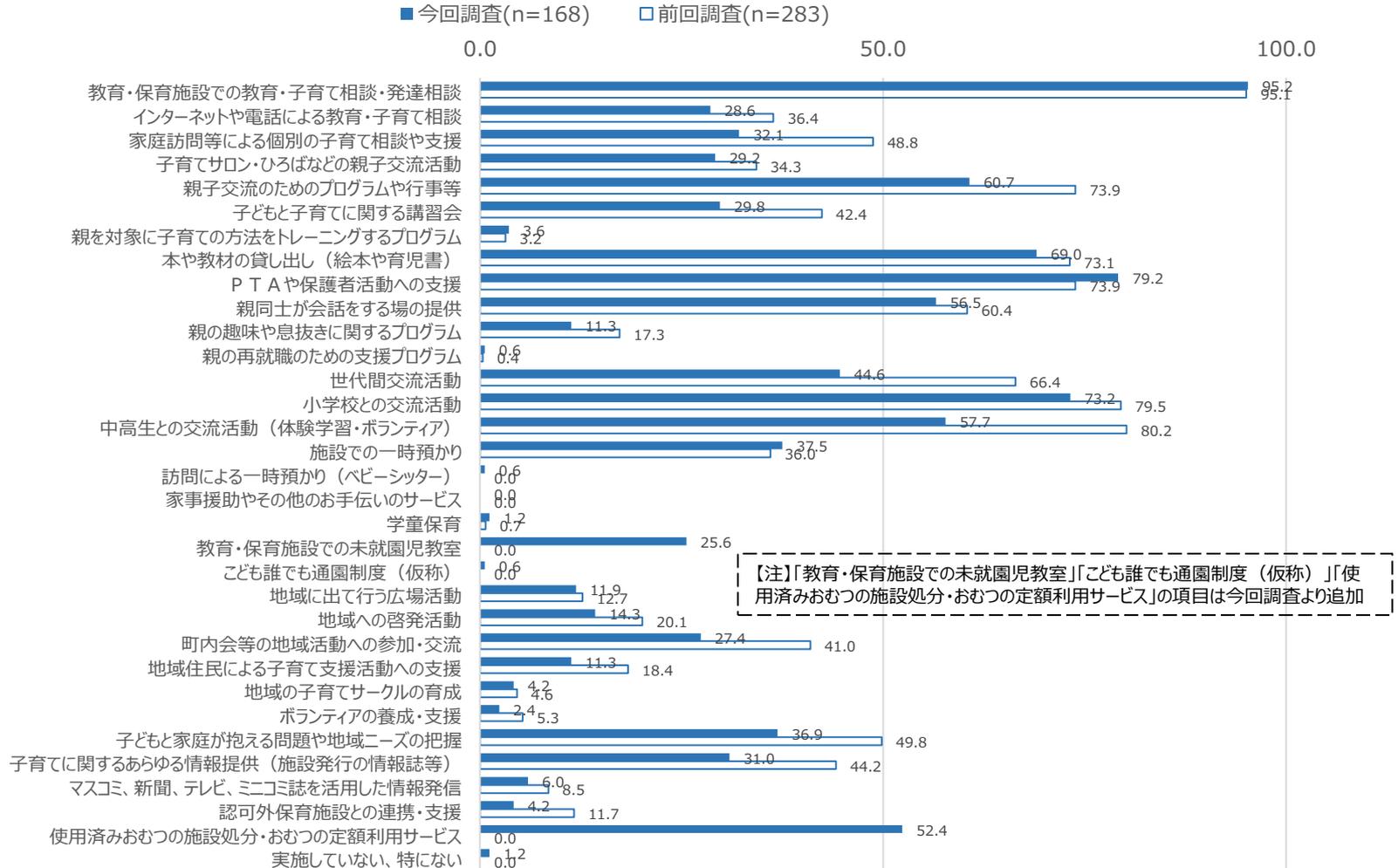
【注】「私立幼稚園でのキンダーカウンセラーによる相談」「私立保育所・幼保連携型認定こども園でのスマイルサポーターによる相談」「こども誰でも通園制度（仮称）」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の項目は今回調査より追加

公立保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援活動①

◆大阪府域ー公立保育所・幼稚園・認定こども園における通園者・保護者を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」「教育・保育施設での未就園児教室」の実施率が高くなっている一方、「中高生との交流活動（体験学習・ボランティア）」「世代間交流活動」の実施率が低くなっています。

[公立保育所・幼稚園・認定こども園 実施している通園者・保護者向け子育て支援活動]

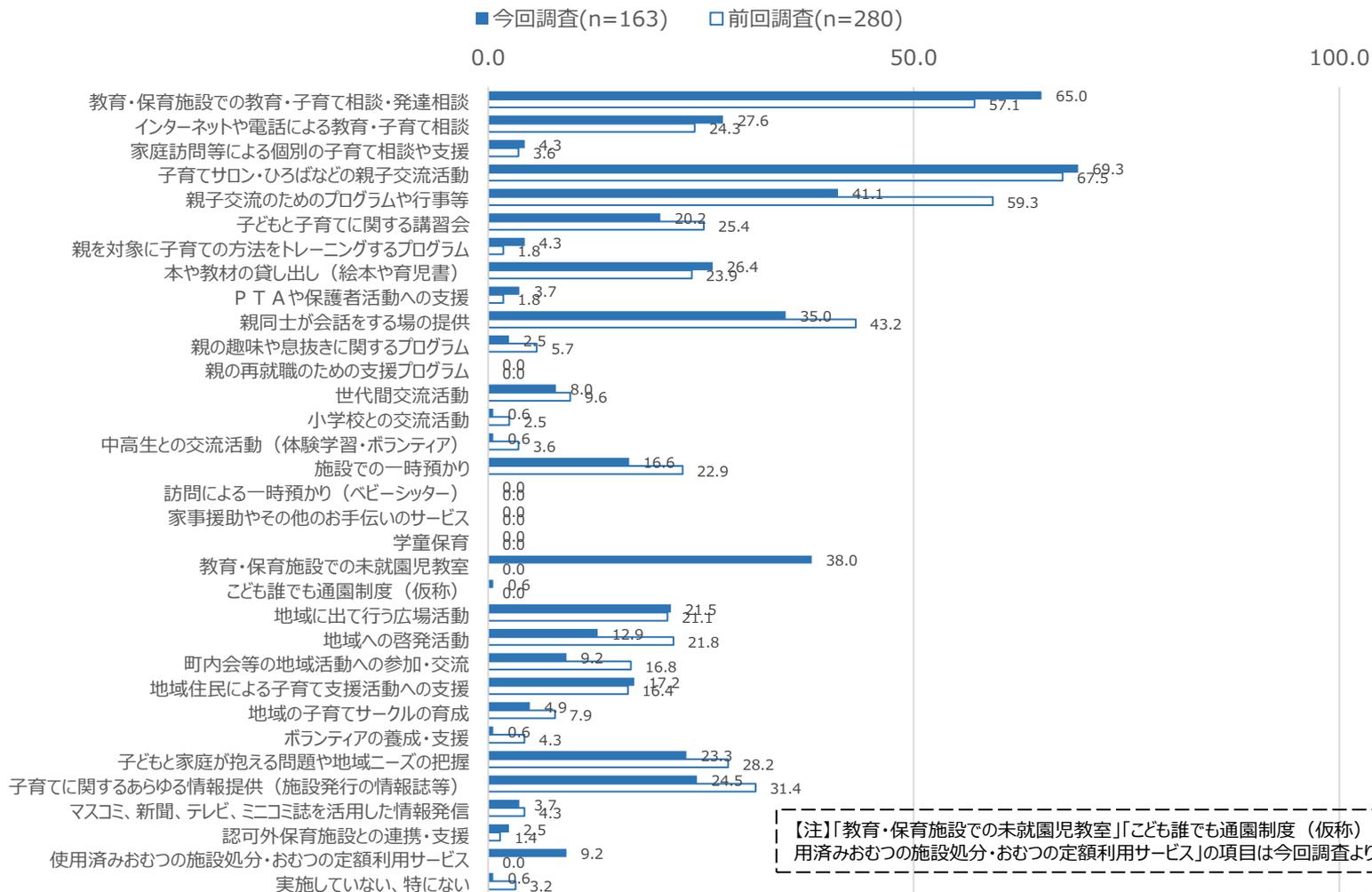


公立保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援活動②

◆大阪府域一公立保育所・幼稚園・認定こども園における地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「教育・保育施設での未就園児教室」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の実施率が高くなっている一方、「親子交流のためのプログラムや行事等」「地域への啓発活動」「親同士が会話をする場の提供」の実施率が低くなっています。

[公立保育所・幼稚園・認定こども園 実施している地域の子育て家庭向け子育て支援活動]



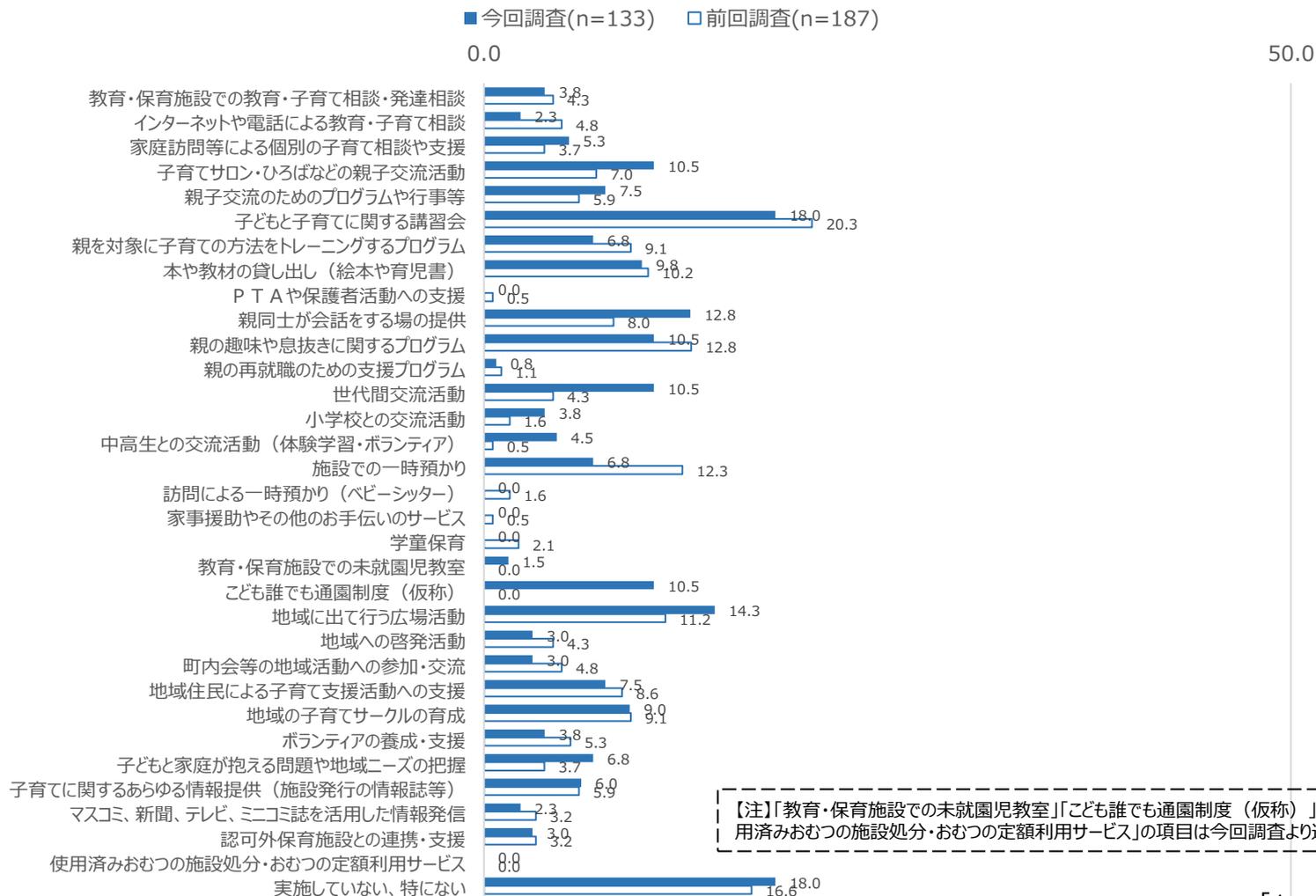
【注】「教育・保育施設での未就園児教室」「こども誰でも通園制度（仮称）」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の項目は今回調査より追加

公立保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援活動③

◆大阪府域ー現在実施していないが、支援があれば将来的に実施してみたい地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「こども誰でも通園制度（仮称）」「世代間交流活動」「親同士が会話をする場の提供」「子育てサロン・ひろばなどの親子交流活動」の比率が高くなっており、「施設での一時預かり」の比率が低くなっています。

[公立保育所・幼稚園・認定こども園 実施してみたい地域の子育て家庭向け子育て支援活動]



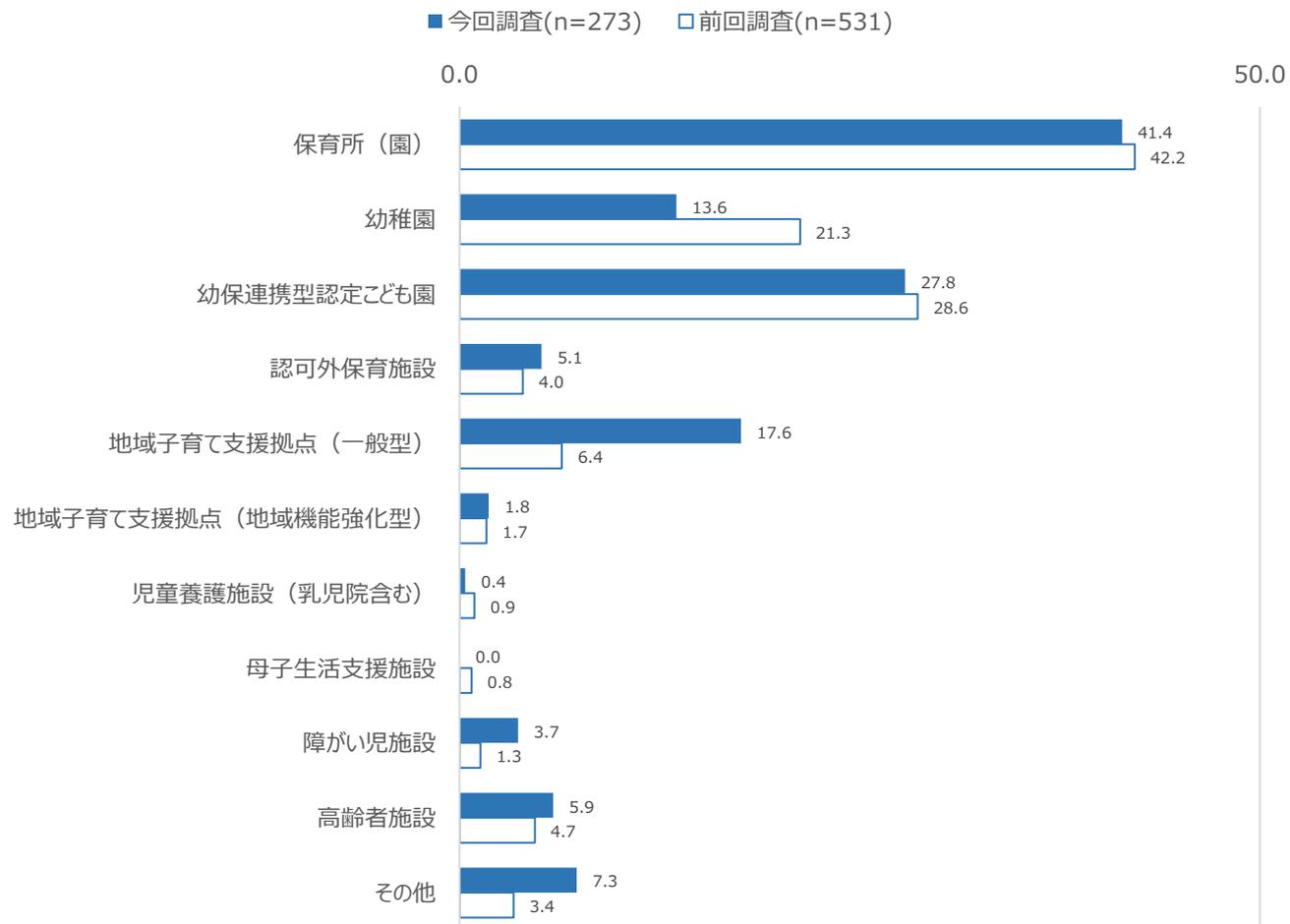
【注】「教育・保育施設での未就園児教室」「こども誰でも通園制度（仮称）」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の項目は今回調査より追加

私立保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援活動①

◆大阪府域—私立保育所・幼稚園・認定こども園における併設施設（前回調査との比較）

前回調査と同様、併設施設は「保育所（園）」が最も多く、次いで「幼保連携型認定こども園」「地域子育て支援拠点（一般型）」となっています。また、前回調査と比較すると、「地域子育て支援拠点（一般型）」の比率が大幅に高くなっています。

[私立保育所・幼稚園・認定こども園 併設施設]

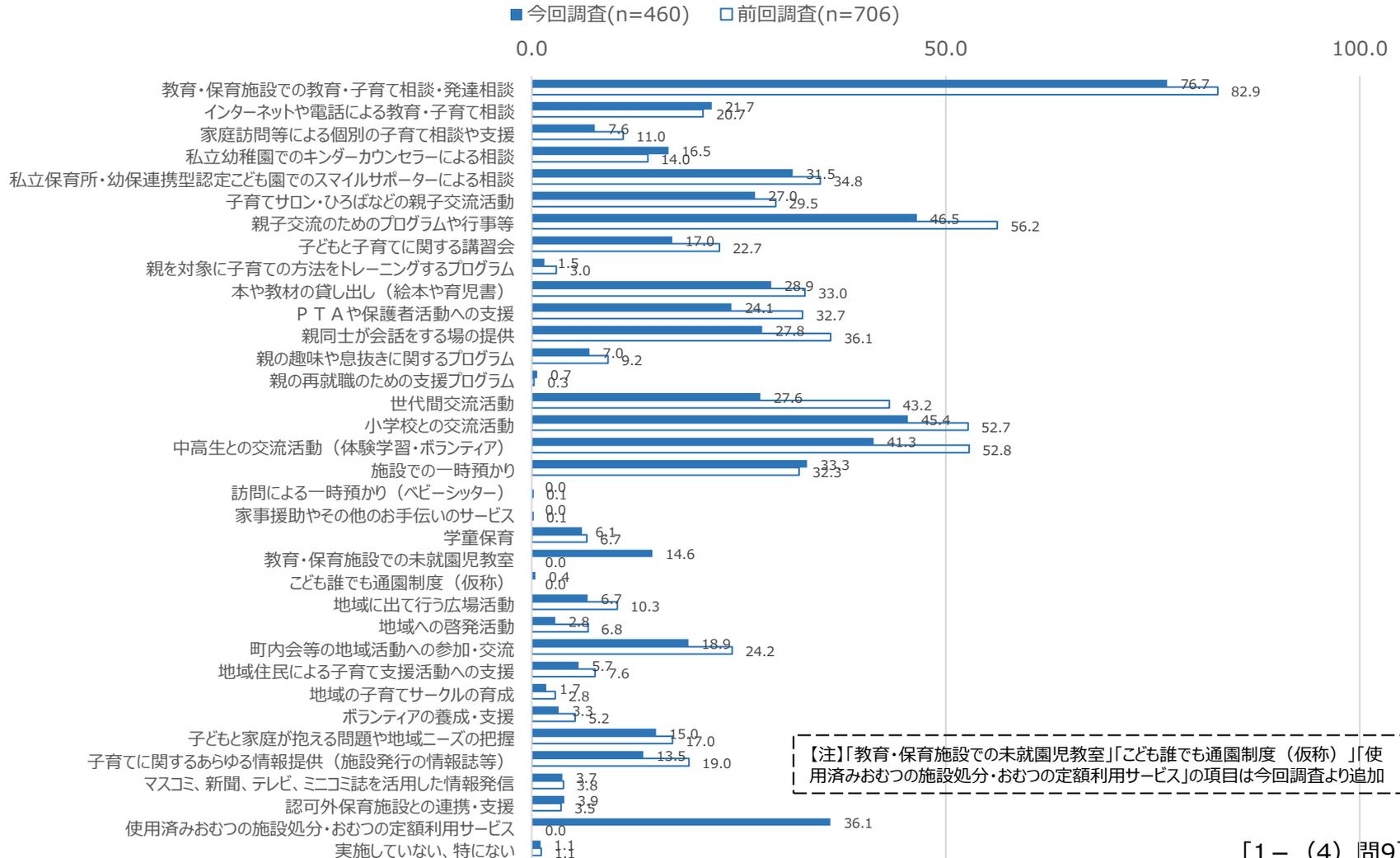


私立保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援活動②

◆大阪府域—私立保育所・幼稚園・認定こども園における通園者・保護者を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の実施率が高くなっている一方、「世代間交流活動」「中高生との交流活動（体験学習・ボランティア）」「親子交流のためのプログラムや行事等」の実施率が低くなっています。

[私立保育所・幼稚園・認定こども園 実施している通園者・保護者向け子育て支援活動]

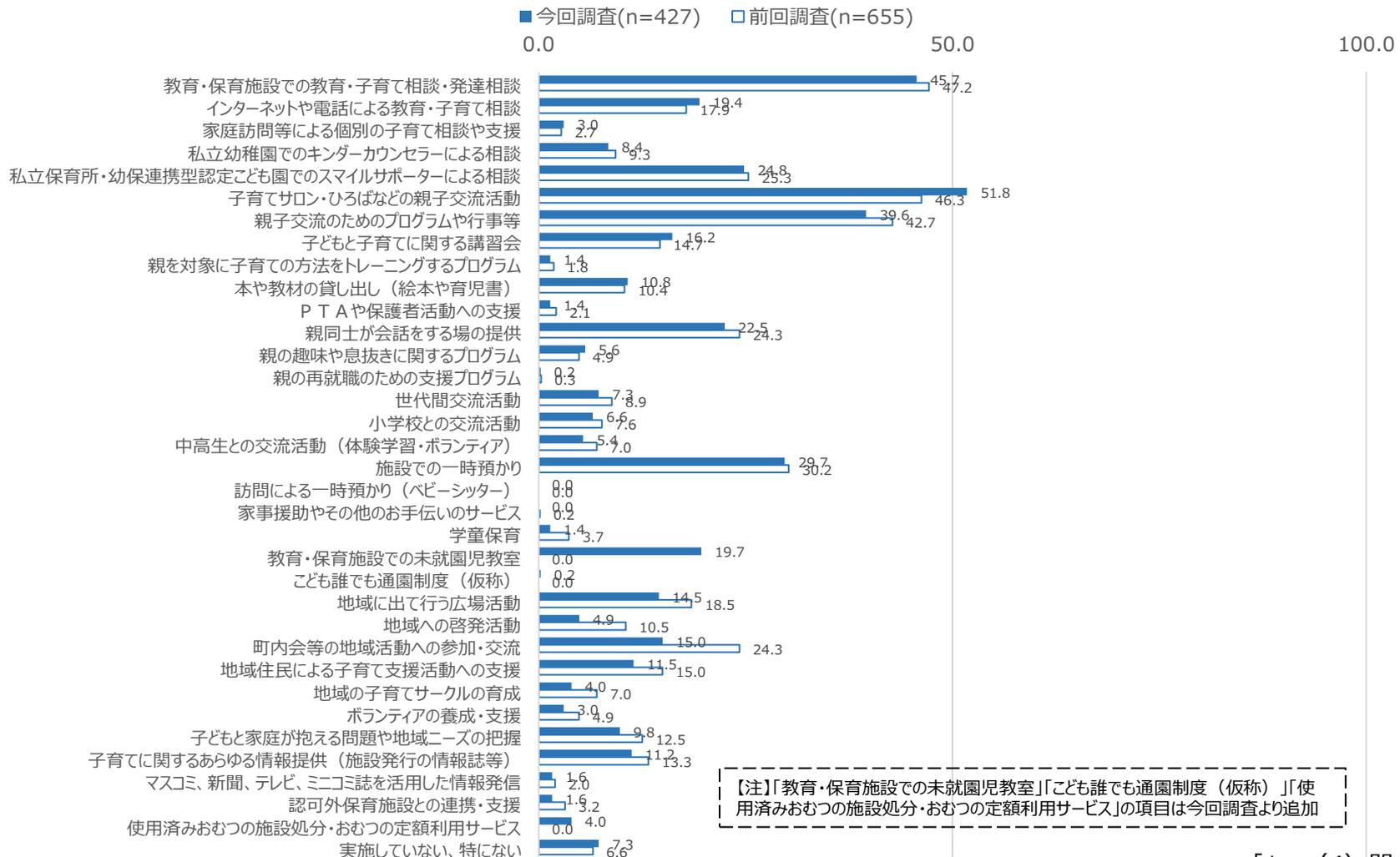


【注】「教育・保育施設での未就園児教室」「こども誰でも通園制度（仮称）」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の項目は今回調査より追加

私立保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援活動③

◆大阪府域—私立保育所・幼稚園・認定こども園における地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）
 前回調査と比較すると、「子育てサロン・ひろばなどの親子交流活動」の実施率が高くなっている一方、「町内会等の地域活動への参加・交流」の実施率が低くなっています。

[私立保育所・幼稚園・認定こども園 実施している地域の子育て家庭向け子育て支援活動]

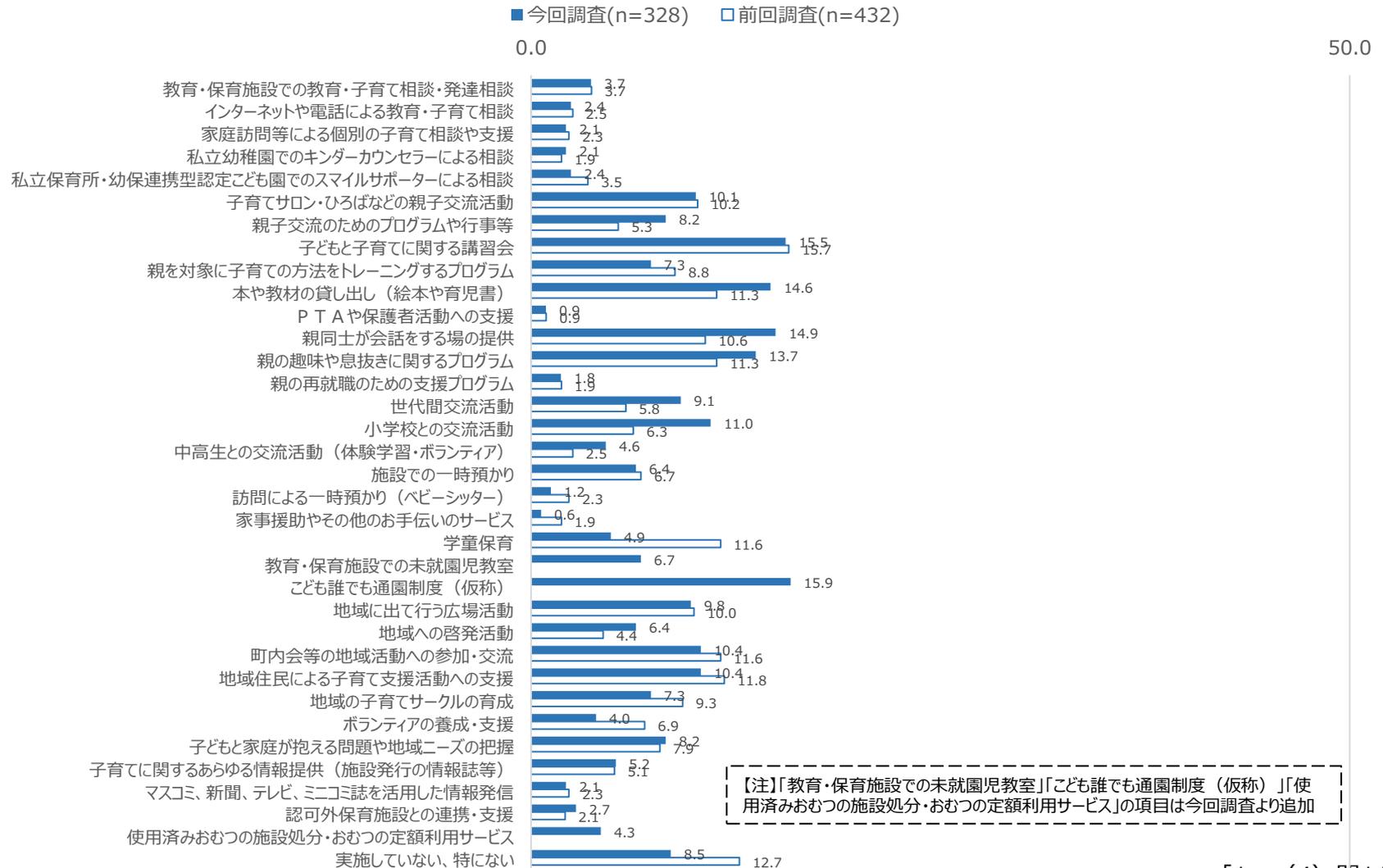


私立保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援活動④

◆大阪府域一私立保育所・幼稚園・認定こども園における現在実施していないが、支援があれば将来的に実施してみたい地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「こども誰でも通園制度（仮称）」の比率が大幅に高くなっている一方、「学童保育」の比率が低くなっています。

【私立保育所・幼稚園・認定こども園 実施してみたい地域の子育て家庭向け子育て支援サービス】



【注】「教育・保育施設での未就園児教室」「こども誰でも通園制度（仮称）」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の項目は今回調査より追加

子育て家庭の支援ニーズの把握状況①

◆大阪府域一地域の子育て家庭の支援ニーズを把握するために実施している取組み（前回調査との比較）

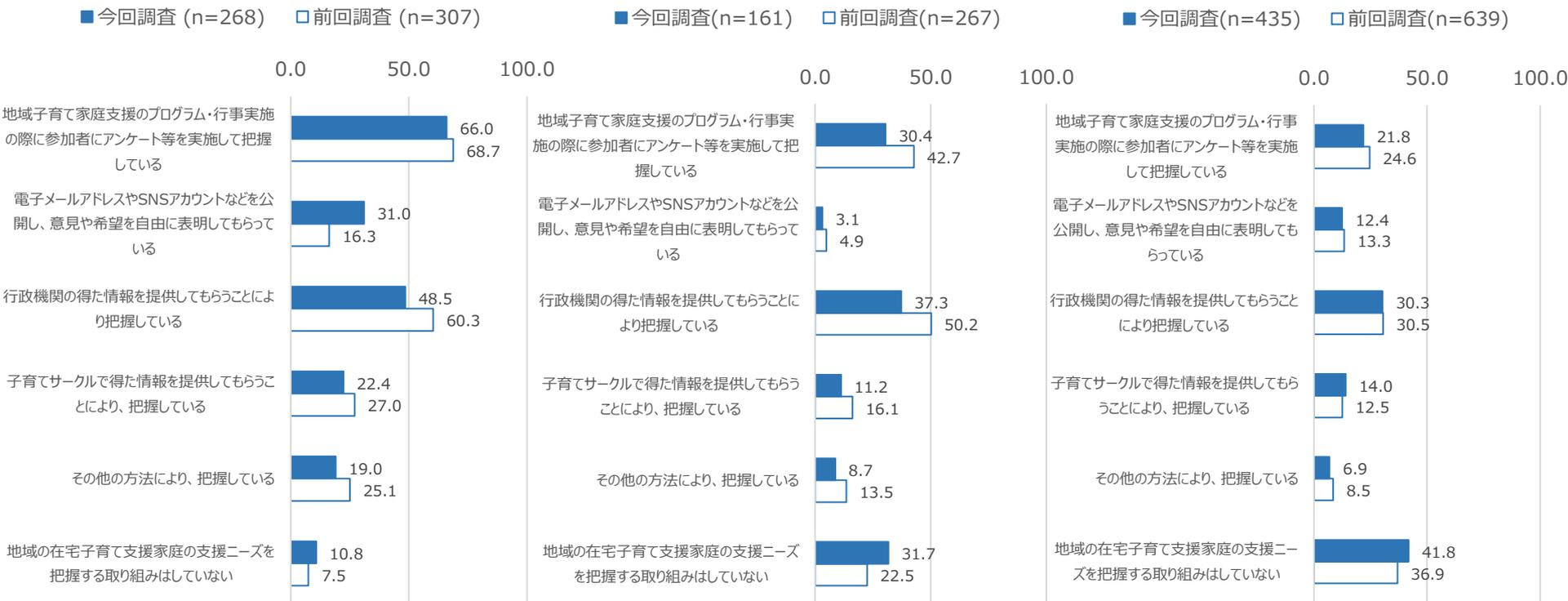
前回調査と比較すると、地域子育て支援拠点では電子メールやSNSを通じて意見等を収集し、支援ニーズを把握することが増えている一方、公立保育所・幼稚園・認定こども園では子育て家庭の支援ニーズを把握するための取組みの比率が低くなっています。また、私立保育所・幼稚園・認定こども園では、前回調査と同様、子育て家庭の支援ニーズを把握していない施設の比率が41.8%と最も高くなっています。

[在宅子育て家庭の支援ニーズを把握するために実施している取組み]

[地域子育て支援拠点]

[公立保育所・幼稚園・認定こども園]

[私立保育所・幼稚園・認定こども園]



[1 - (2) 問7]

[1 - (3) 問7]

[1 - (4) 問15]

子育て家庭の支援ニーズの把握状況②

◆大阪府域一地域の在宅子育て家庭において困っていると思うこと（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、地域子育て支援拠点では「同世代の子どもを持つ保護者と話す場がない」「子どもがきちんと発達しているのかわからない」「子どもを預けられない・自分の時間がほしい」の比率が高くなっています。また、公立保育所・幼稚園・認定こども園では「同世代の子どもを持つ保護者と話す場がない」「子どもがきちんと発達しているのかわからない」の比率が、私立保育所・幼稚園・認定こども園では「同世代の子どもを持つ保護者と話す場がない」「子どもを預けられない・自分の時間がほしい」「子どもがきちんと発達しているのかわからない」の比率が高くなっています。

[在宅子育て家庭において困っていると思うこと]

[地域子育て支援拠点]

[公立保育所・幼稚園・認定こども園]

[私立保育所・幼稚園・認定こども園]

■ 今回調査 (n=270) □ 前回調査 (n=283)

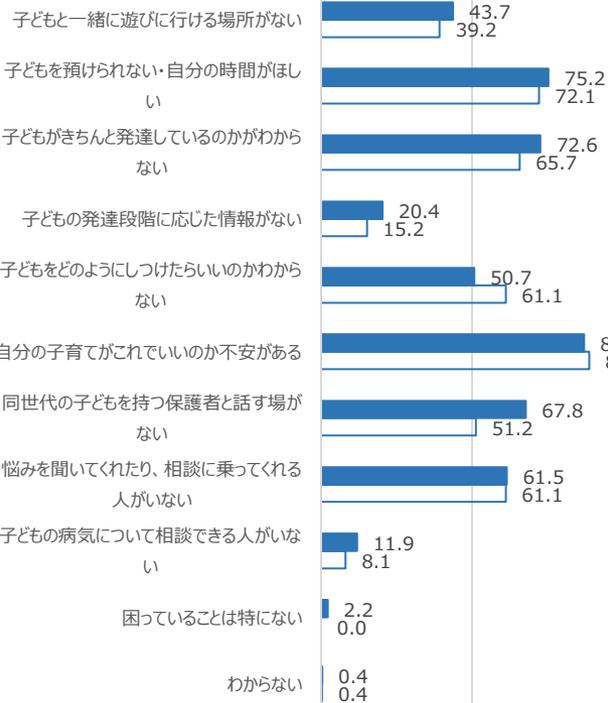
■ 今回調査 (n=169) □ 前回調査 (n=250)

■ 今回調査 (n=469) □ 前回調査 (n=659)

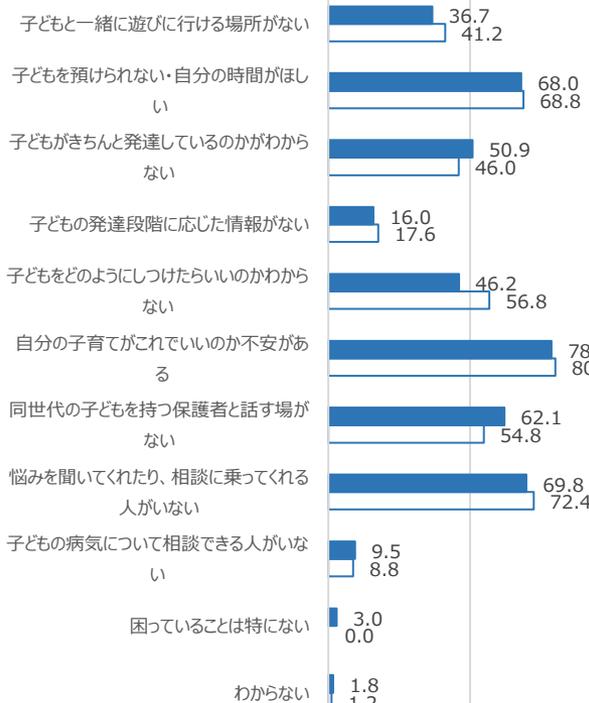
0.0 50.0 100.0

0.0 50.0 100.0

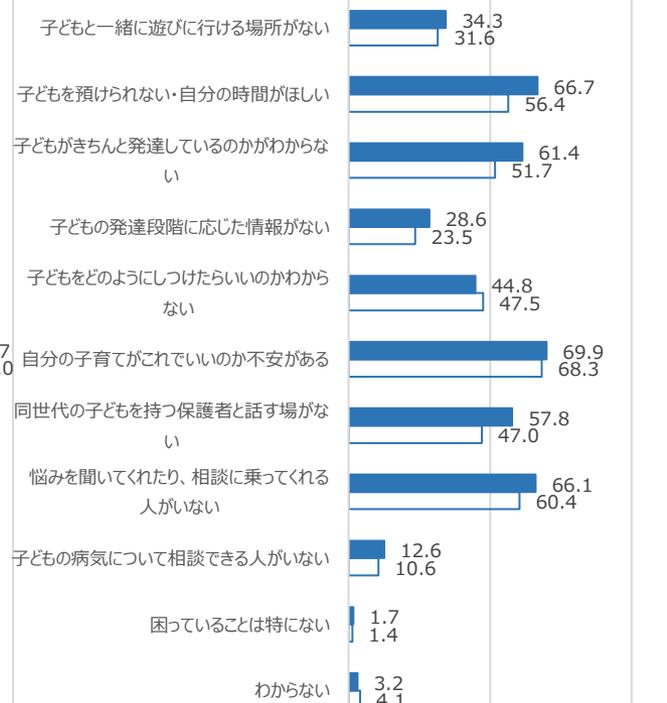
0.0 50.0 100.0



[1 - (2) 問8]



[1 - (3) 問8]



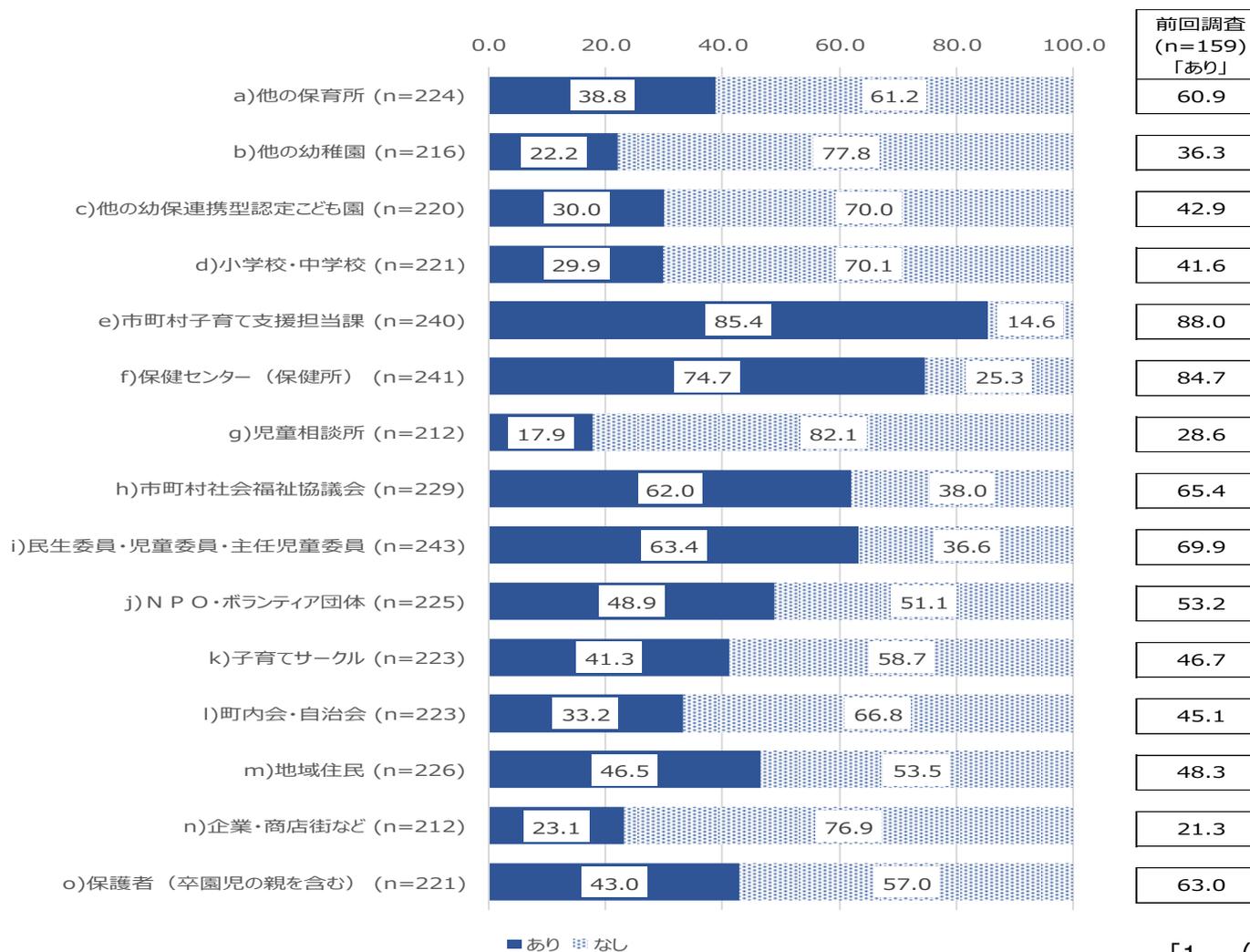
[1 - (4) 問16]

子育て家庭への支援における地域の団体との連携・協働①

◆大阪府域一実施している子育て支援活動のうち、他団体と協力している活動〔地域子育て支援拠点〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、地域子育て支援拠点と保育所・幼稚園をはじめ、他団体との協力の比率が低くなっています。

〔地域子育て支援拠点 他団体と協力している子育て支援活動〕



子育て家庭への支援における地域の団体との連携・協働②

◆大阪府域一子育て支援活動において他団体から提供してほしいもの【地域子育て支援拠点】（前回調査との比較）
 前回調査と同様、全体的に「マンパワー」「専門知識」「活動場所」のニーズが高くなっています。

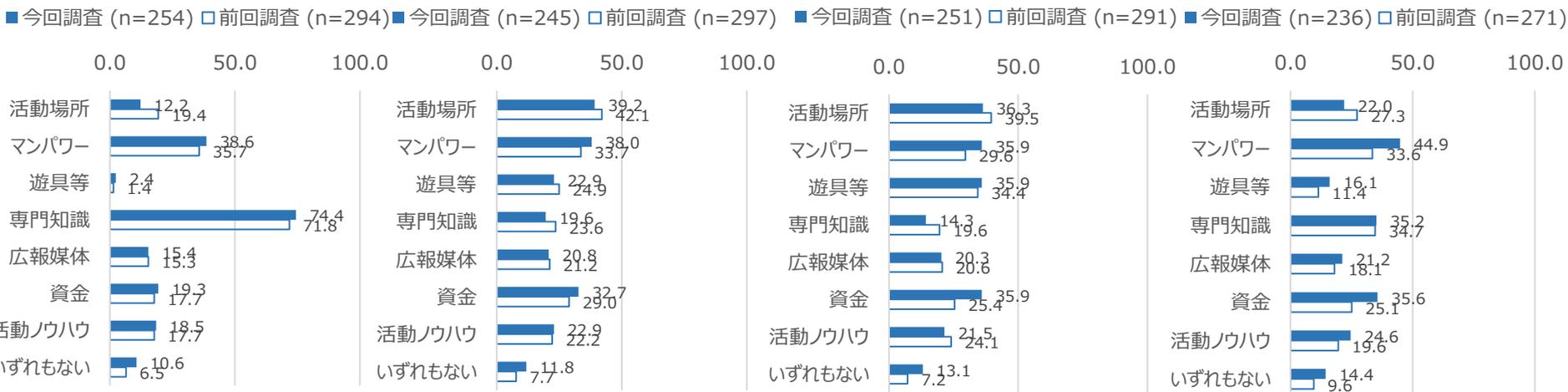
【地域子育て支援拠点 他団体から提供してほしいもの】

【育児不安等への相談指導】

【親子や親のための交流活動】

【子どものための交流活動】

【保育や子育て支援機能の提供】

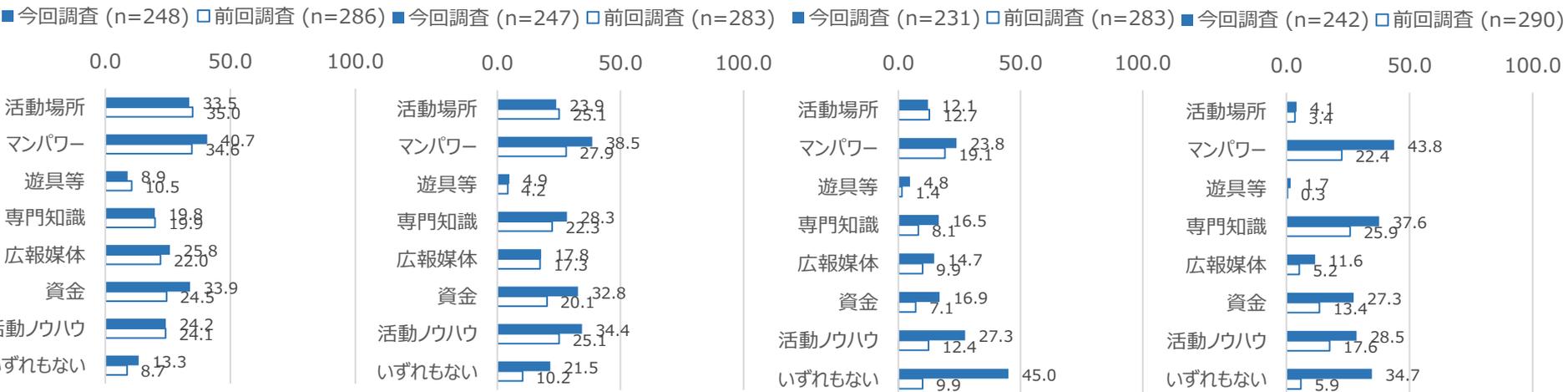


【地域に対する子育て支援活動】

【地域の子育てサークル・子育てボランティアの育成】

【認可外保育施設との連携・支援】

【家庭訪問等による個別の子育て支援】

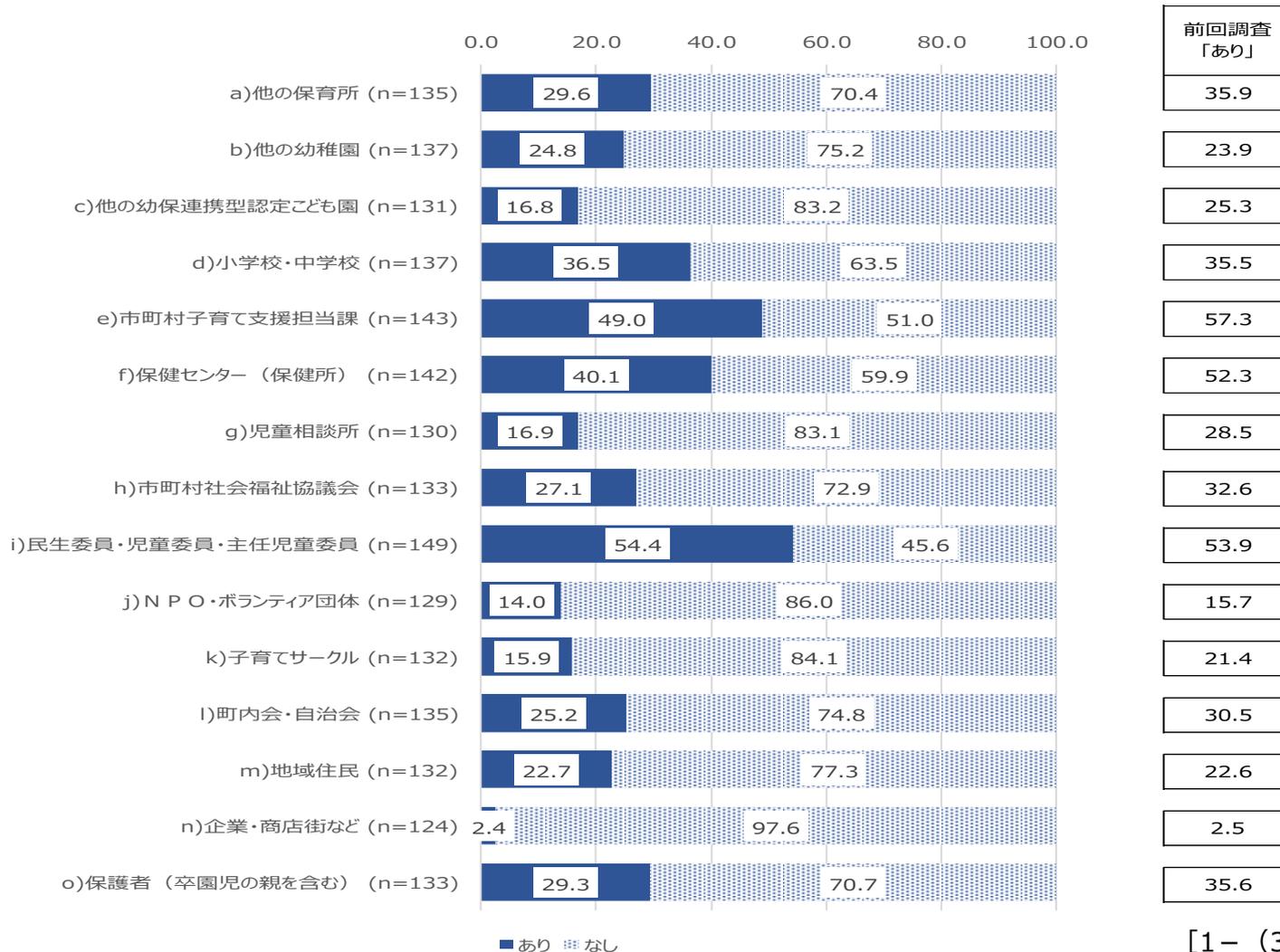


子育て家庭への支援における地域の団体との連携・協働③

◆大阪府域—実施している子育て支援活動のうち、他団体と協力している活動 [公立保育所・幼稚園・認定こども園]
(前回調査との比較)

前回調査と比較すると、公立保育所・幼稚園・認定こども園と他の保育所・幼稚園をはじめ、他団体との協力の比率が低くなっています。

[公立保育所・幼稚園・認定こども園 他団体と協力している子育て支援活動]



[1-(3)問4]

子育て家庭への支援における地域の団体との連携・協働④

◆大阪府域一子育て支援活動において他団体から提供してほしいもの〔公立保育所・幼稚園・認定こども園〕（前回調査との比較）

前回調査と同様、全体的に「活動場所」「専門知識」「遊具等」のニーズが高くなっています。

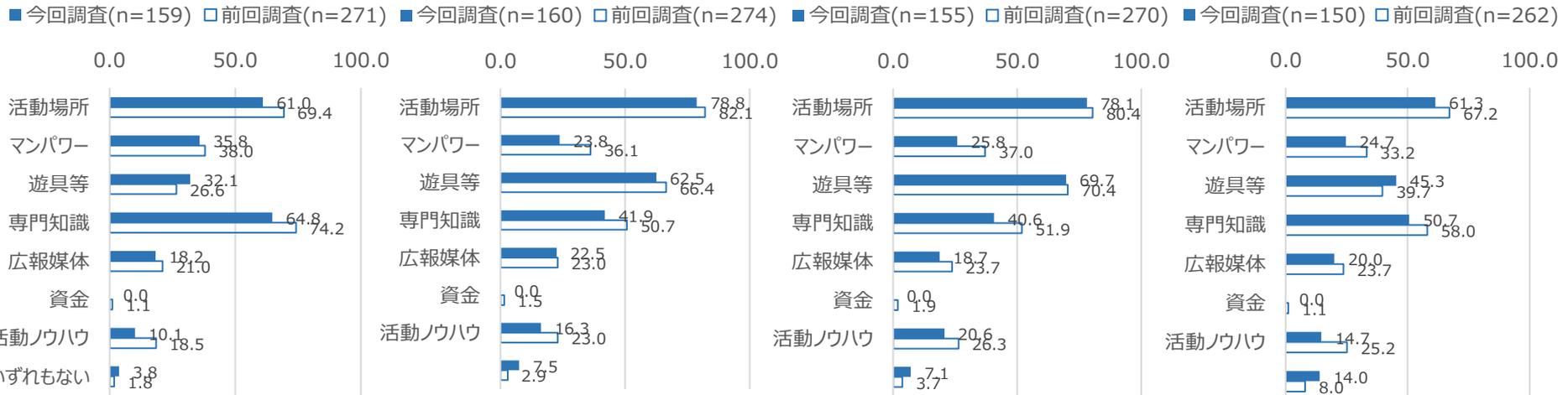
〔公立保育所・幼稚園・認定こども園 他団体から提供してほしいもの〕

〔育児不安等への相談指導〕

〔親子や親のための交流活動〕

〔子どものための交流活動〕

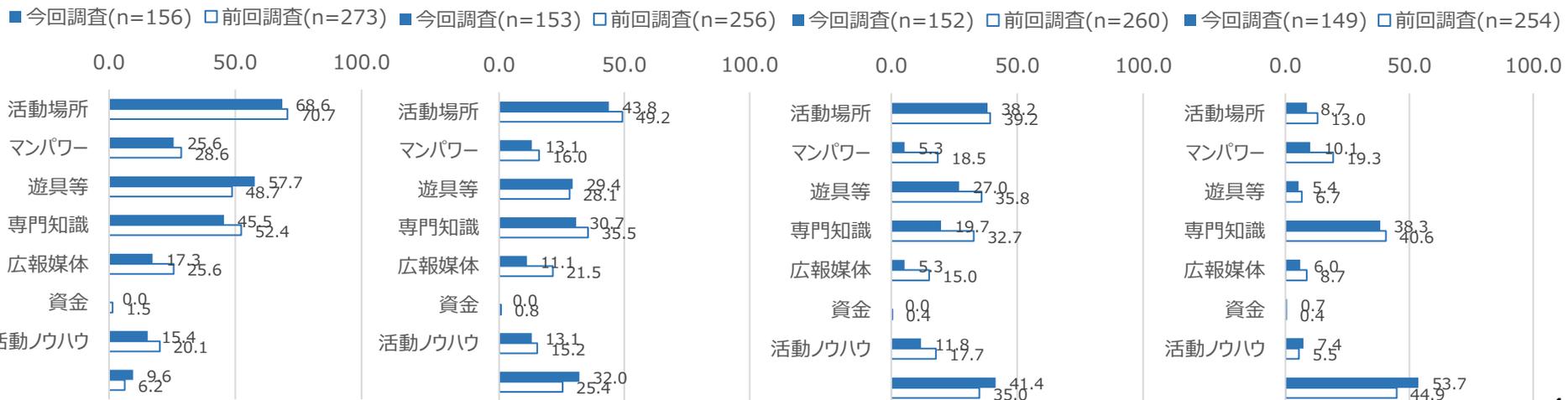
〔保育や子育て支援機能の提供〕



〔地域に対する子育て支援活動〕

〔地域の子育てサークル・子育てボランティアの育成〕

〔認可外保育施設との連携・支援〕〔家庭訪問等による個別の子育て支援〕

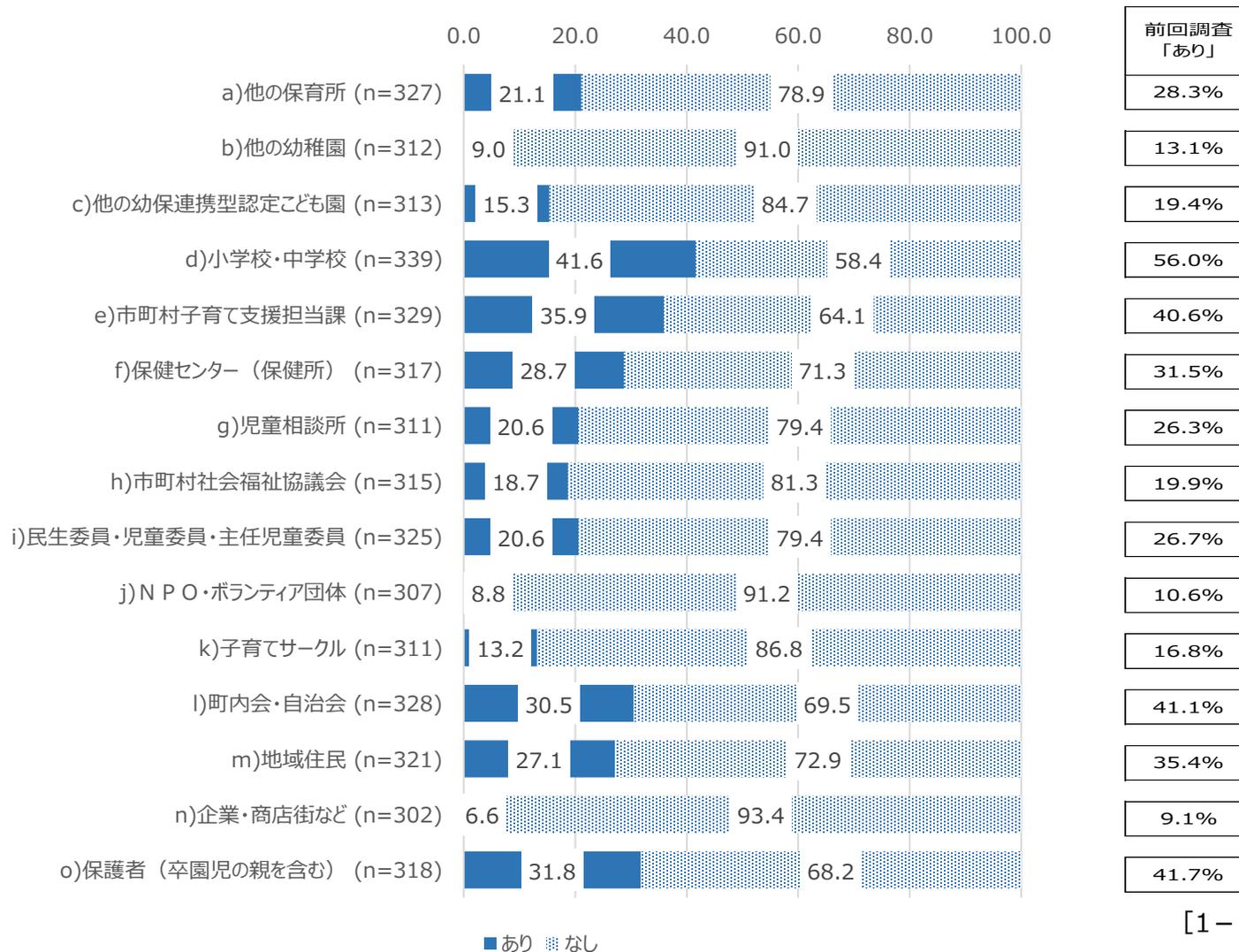


子育て家庭への支援における地域の団体との連携・協働⑤

◆大阪府域—実施している子育て支援活動のうち、他団体と協力している活動 [私立保育所・幼稚園・認定こども園]
(前回調査との比較)

前回調査と比較すると、私立保育所・幼稚園・認定こども園と他団体との協力の比率が低くなっています。

[私立保育所・幼稚園・認定こども園 他団体と協力している子育て支援活動]



[1- (4) 問12]

子育て家庭への支援における地域の団体との連携・協働⑥

◆大阪府域一子育て支援活動において他団体から提供してほしいもの【私立保育所・幼稚園・認定こども園】（前回調査との比較）

前回調査と同様、全体的に「活動場所」「専門知識」「遊具等」のニーズが高くなっています。

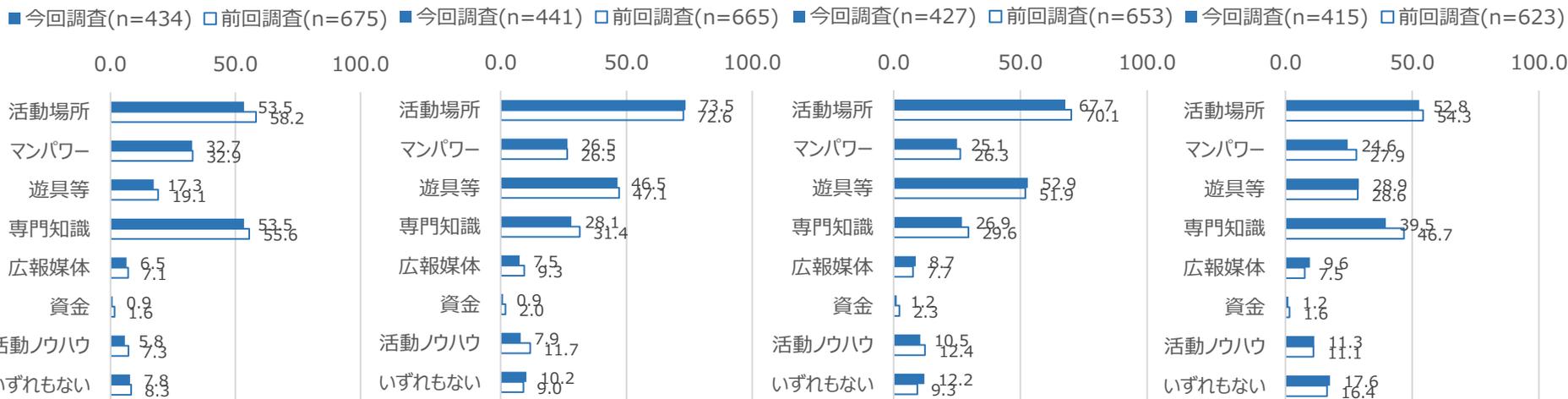
【私立保育所・幼稚園・認定こども園 他団体から提供してほしいもの】

【育児不安等への相談指導】

【親子や親のための交流活動】

【子どものための交流活動】

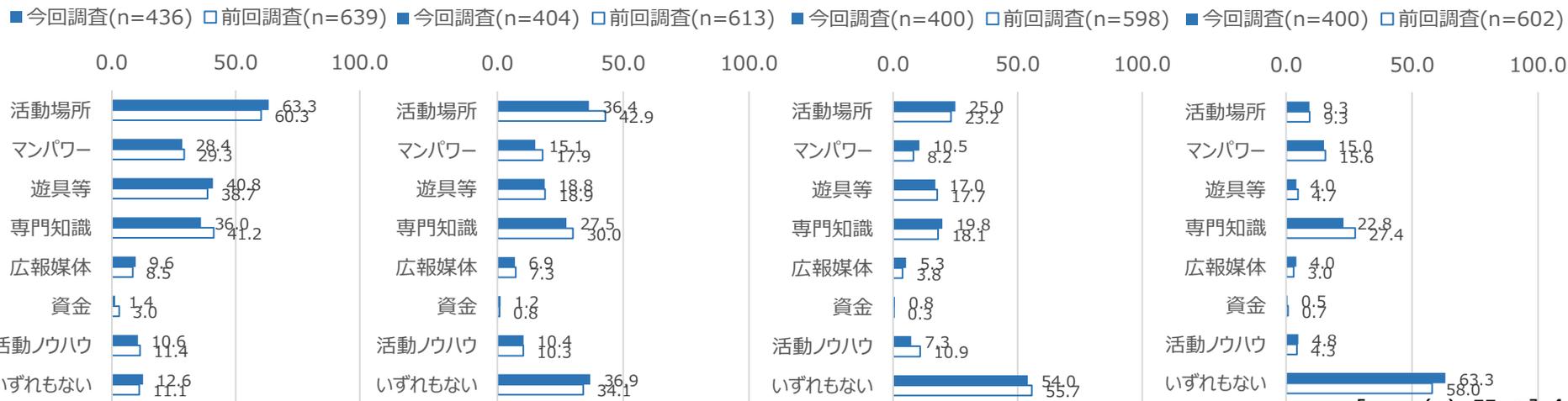
【保育や子育て支援機能の提供】



【地域に対する子育て支援活動】

【地域の子育てサークル・子育てボランティアの育成】

【認可外保育施設との連携・支援】 【家庭訪問等による個別の子育て支援】



1 乳幼児期を中心とした家庭の養育力・教育力についての実態調査結果（概要） <1/3>

- 回答者の性別については、未就学児については女性が58.8%と多く、就学時児童については男性が57.8%と多くなっています。（2頁）
- 未就学児のいる家庭における回答者・配偶者の就労状況は、前回調査時と比べ、回答者・配偶者の就労状況は「正規雇用の社員・職員」の比率が高くなっており、「専業主婦（夫）」の比率が低くなっています。一方、配偶者の就労状況はほぼ前回調査と同様の傾向となっています。（6頁）
- 就学後児童のいる家庭における回答者・配偶者の就労状況は、未就学児とは異なり、「正規雇用の社員・職員」の比率はあまり変わっていません。一方、配偶者の就労状況は「正規雇用の社員・職員」の比率が高くなっています。（7頁）
- 未就学児・就学後児童のいる家庭での就学前の子育て支援への満足度は、未就学児のいる家庭のうち53.9%が「非常に満足している」または「満足している」と回答しており、就学後児童のいる家庭の47.4%よりも多くなっています。（9頁）
- 未就学児・就学後児童のいる家庭における就学前の子育てへのサポートは、未就学児のいる家庭・就学後児童のいる家庭ともに、前回調査と同様、約半数が近所に住んでいる祖父母などの親せきに子育てを手伝ってもらっています。（10頁）
- 未就学児のいる家庭において、首都圏域と比べ、近所に住んでいる祖父母などの親せきに子育てを手伝ってもらっている比率が高くなっており、家族・親族が近くにおり、援助が得られやすい結果となっています。（11頁）
- 未就学児のいる家庭においても、就学後児童のいる家庭において乳幼児期の子育てで感じていたことについても、前回調査と比べ、「子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと思う」または「子どもと遊ぶのはとても面白いと思う」の項目について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者が減少しており、子育てに幸せや楽しみが感じられにくくなっている結果となっています。（12,13頁）
- 未就学児のいる家庭において、子育てで困っていることは、前回調査で突出していた「自分だけの時間がとれない」「自分の子育てがこれでいいのか不安がある」「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安がある」の項目がいずれも減少傾向にあり、それ以外の項目は概ね微増傾向となっており、子育ての困難さが多様化している結果となっています。（17頁）
- 未就学児のいる家庭において、子育てで困っていることは、首都圏域と比べ、「自分の子育てがこれでいいのか不安がある」「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安がある」「収入が少なく、十分な子育てができない」の比率が高くなっており、子育てや安全、収入面において首都圏より不安が高い結果となっています。（17頁）

1 乳幼児期を中心とした家庭の養育力・教育力についての実態調結果（概要） <2/3>

- ▶ 未就学児のいる家庭において、子育てについてほしい情報は、前回調査と同様、「地域の遊び場・レストランなどの子育て情報」「子どもの習い事に関する情報」の比率が高くなっており、引き続き、子育てに関する各種情報が求めている結果となっています。（19頁）
- ▶ 就学後児童のいる家庭において、乳幼児期に子育てについて欲しかった情報は、前回調査と同様、「子どものしつけ方や子どもとのかかわり方」「保育所・幼稚園・認定こども園などで行っている子育て支援の利用方法」「病気のと きなど一時的に子どもを預かってくれる場や人の利用方法」の比率が高くなっており、子育ての方法や各種サービスについての情報を求めている結果となっています。（20頁）
- ▶ 未就学児のいる家庭において、子育てについて相談する上で、身近に感じられる存在は、首都圏域と比べ、「病院・診療所」「保健センター（保健所）」「自分の親」の比率が高くなっている一方、「子育て支援団体（NPO・ボランティアなど）」「近所の人」の比率が低くなっています。（22頁）
- ▶ 就学後児童のいる家庭における乳幼児期の子育てについての相談先は、前回調査と比べ、「パートナー（夫または妻）」「自分の親」の比率が高くなっており、より家族に相談している結果となっています。（23頁）
- ▶ 就学後児童のいる家庭における乳幼児期に頼っておけばよかった人・機関は、前回調査と比べ、「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園など」「パートナー（夫または妻）」「子育て広場・サロンなど」の比率が高くなっており、家族だけではなく、教育保育施設や子育て支援サービスに頼っておけばよかったと考える結果となっています。（24頁）
- ▶ 未就学児のいる家庭における利用経験のある子育てサービスは、前回調査と比べ、「子育て広場・子育てサロンなどの親子の交流の場」「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などの園庭開放」「地域の子育て情報誌（子育てマップなど）」「小児救急電話相談」の比率が低くなっている一方、「いずれも利用したことがない」の比率が高くなっており、子育て支援サービスの利用が低調となっている結果となっています。（25頁）
- ▶ 未就学児のいる家庭における子育てであつたらいいなと思うものは、前回調査と同様、「親子で気軽に遊びにいける場所」「自由に安全に遊べる外遊びの場」「子どもが同世代の友達を見つけることができる場所」の比率が高くなっており、親子または子どもが出かけたり、遊んだり、交流する場所を求めている結果となっています。（26頁）
- ▶ 未就学児のいる家庭における子育てであつたらいいなと思うものは、首都圏域と比較すると、「親子で気軽に遊びにいける場所」「子どもが同世代の友達を見つけることができる場所」「自由に安全に遊べる外遊びの場」「本の貸し出し・映画の上映」「再就職のためのサポートをしてくれる場」の比率が首都圏域よりも高くなっており、親子または子どもが出かけたり、交流する場所や、本・映画等の文化や再就職支援を求めている結果となっています。（26頁）

1 乳幼児期を中心とした家庭の養育力・教育力についての実態調結果（概要） <3/3>

- 未就学児のいる家庭における子育てサービスを利用したいと思ったときに利用できない理由は、前回調査と同様、「お金がかかる」「事前に調整が必要（手続きが大変）」「時間があわない」の比率が高くなっており、子育てサービス利用の際の費用負担軽減、利用のやすさが不足している結果となっています。（27頁）
- 未就学児のいる家庭における子育てサービスを利用したいと思ったときに利用できない理由は、首都圏域と比べ、「サービスがどこにあるのかわからない」「1人では行きづらい」の比率が高くなっており、子育てサービスについての情報発信が不足していたり、1人では利用しづらい結果となっています。（27頁）地域子育て支援拠点における地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動は、前回調査と同様、「拠点での教育・子育て相談・発達相談」「親子交流のためのプログラムや行事等」「親同士が会話する場の提供」「子育てサロン・ひろばなどの親子交流活動」の実施率が高くなっています。（29頁）
- 公立保育所・幼稚園・認定こども園における通園者・保護者を対象にした子育て支援活動は、前回調査と比べ、「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」「教育・保育施設での未就園児教室」の実施率が高くなっている一方、「中高生との交流活動（体験学習・ボランティア）」「世代間交流活動」の実施率が低くなっています。（31頁）
- 公立保育所・幼稚園・認定こども園における地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動は、前回調査と比べ、「教育・保育施設での未就園児教室」「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の実施率が高くなっている一方、「親子交流のためのプログラムや行事等」「地域への啓発活動」「親同士が会話をする場の提供」の実施率が低くなっています。（32頁）
- 私立保育所・幼稚園・認定こども園における通園者・保護者を対象にした子育て支援活動は、前回調査と比べ、「使用済みおむつの施設処分・おむつの定額利用サービス」の実施率が高くなっている一方、「世代間交流活動」「中高生との交流活動（体験学習・ボランティア）」「親子交流のためのプログラムや行事等」の実施率が低くなっています。（35頁）
- 私立保育所・幼稚園・認定こども園における地域の子育て家庭を対象にした子育て支援活動は、前回調査と比べ、「子育てサロン・ひろばなどの親子交流活動」の実施率が高くなっている一方、「町内会等の地域活動への参加・交流」の実施率が低くなっています。（36頁）

2 大阪府内の保育所等における 保育士等確保のための実態調査

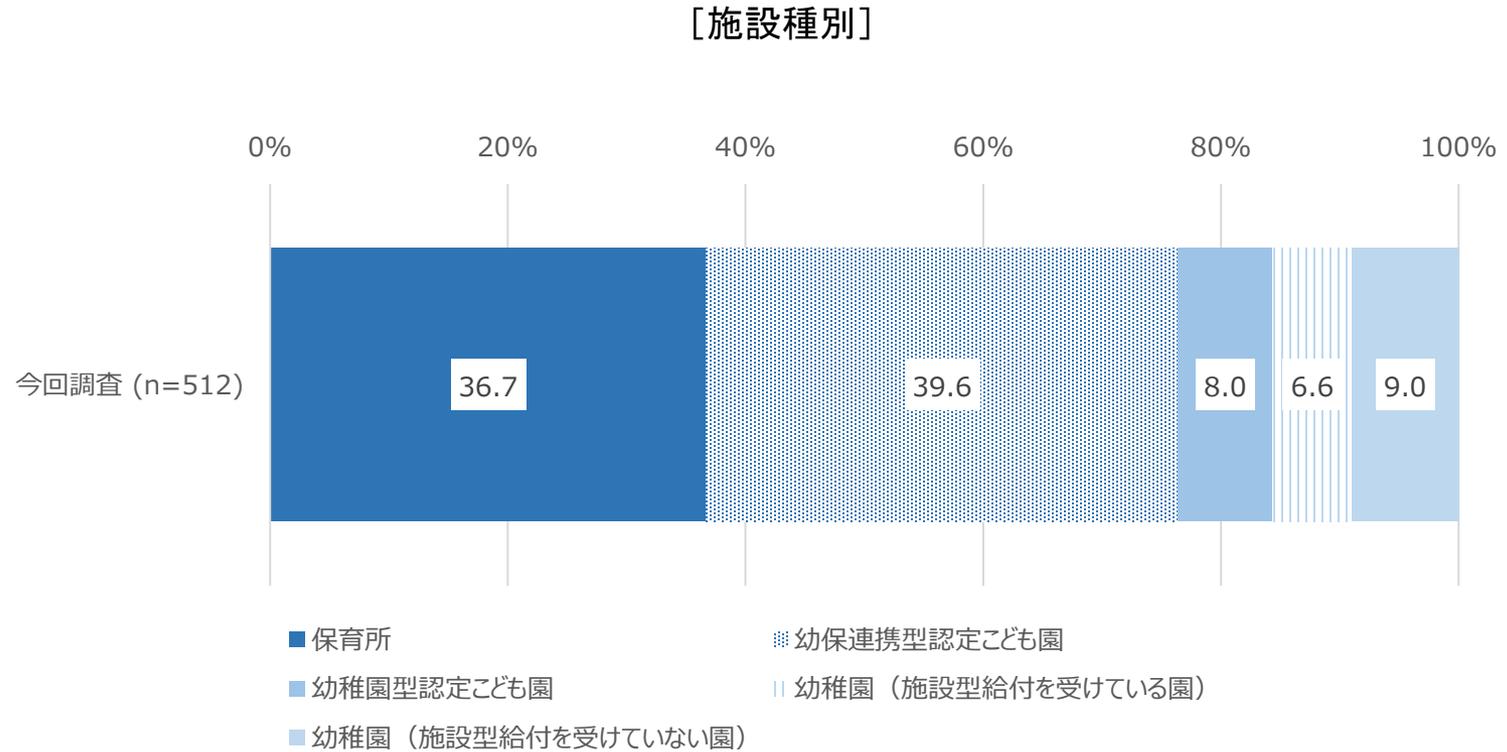
※当該調査における用語の定義は下記のとおり

- 前回調査：令和元年3月に実施した大阪府子ども総合計画策定のための実態調査
- 潜在的な有資格者：結婚や出産を機に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園を離職した人や保育士資格や幼稚園教諭免許を所持しているものの、そうした施設で働いた経験がない方

施設種別

◆大阪府域—施設種別

施設種別は「幼保連携型認定こども園」「保育所」の順に多くなっています。



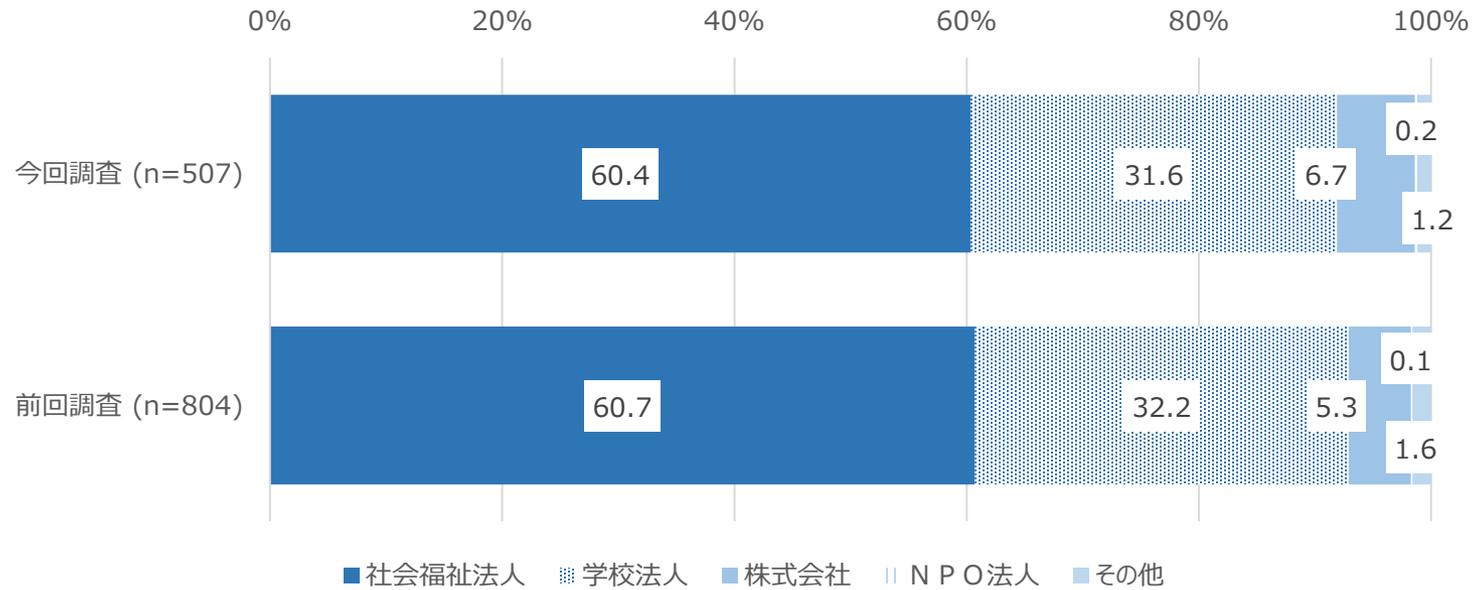
[2- (1) 問1]

運営法人

◆大阪府域一運営法人（前回調査との比較）

前回調査と同様、社会福祉法人が全体の約6割を占めているが、前回調査と比較すると「株式会社」の比率が若干高くなっています。

[運営法人]



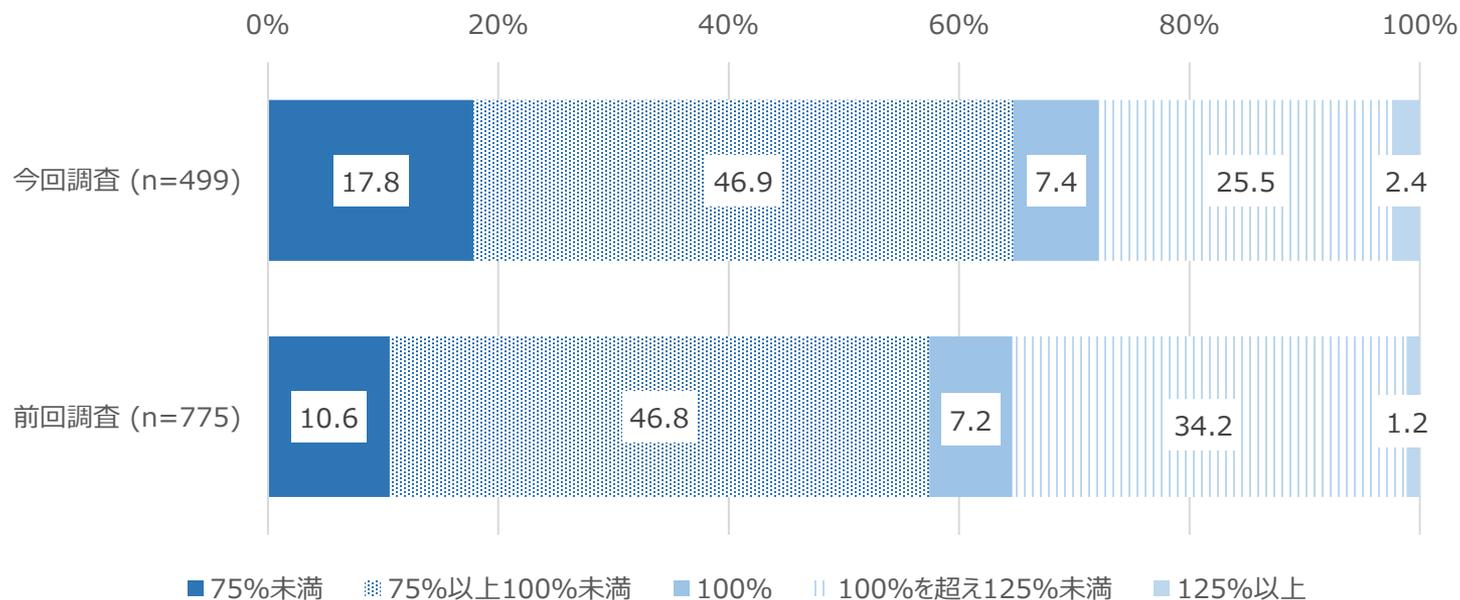
[2- (1) 問1-3]

定員充足率

◆大阪府域一定員充足率（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「75%未満」の比率が高くなるとともに、「100%超え125%未満」の比率が低くなっており、全体的に定員充足率が低下しています。

[定員充足率]

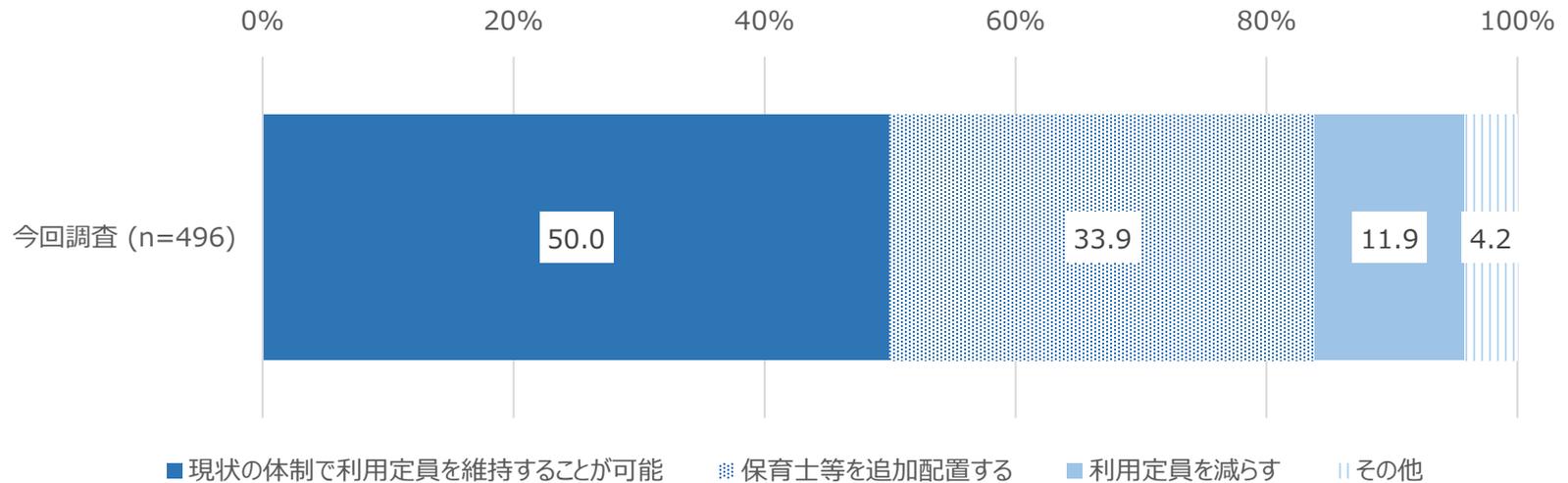


[2- (1) 問1-4]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況①

◆大阪府域一国が検討している保育士等の配置基準の見直しが実施された場合の定員を維持するための対策
半数の施設が「現状の体制で利用定員を維持することが可能」としている一方、「保育士等を追加配置する」と回答した施設が33.9%、「利用定員を減らす」と回答した施設が11.9%となっています。

[配置基準の見直しに向けた対策]

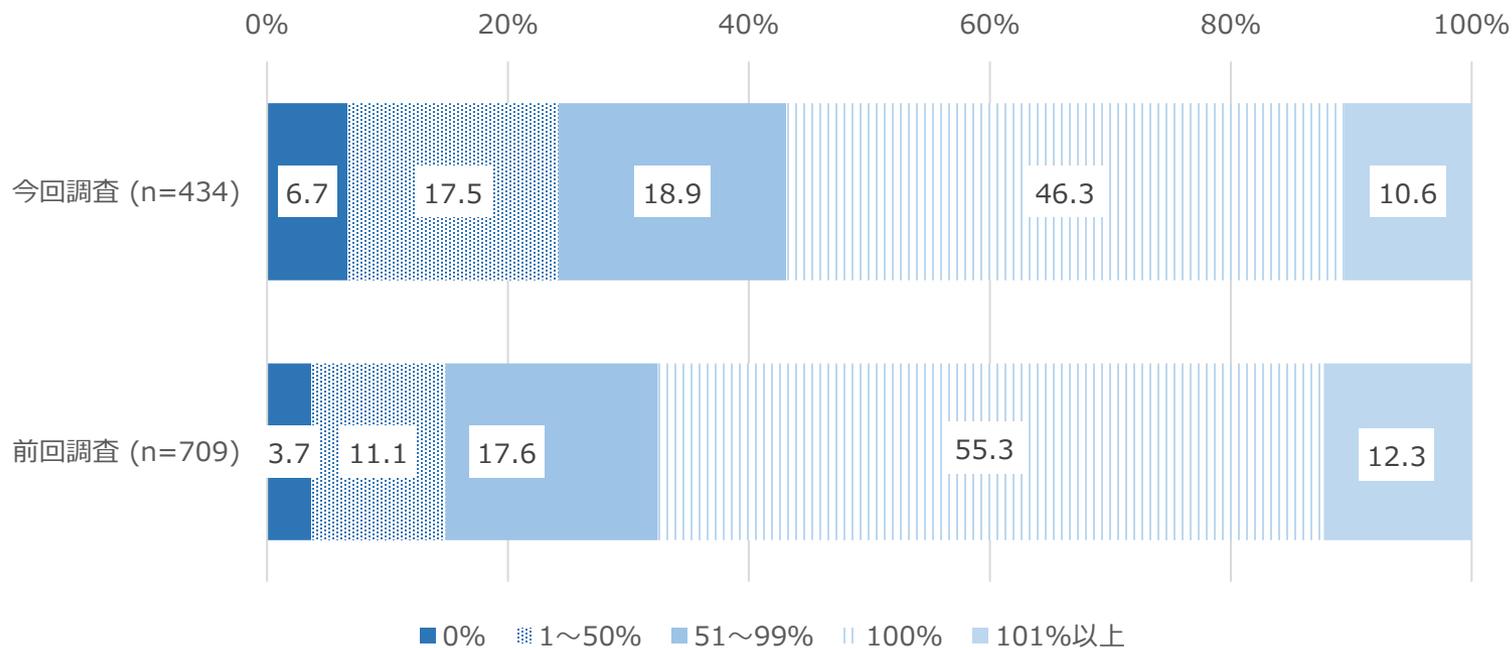


[2-(1) 問1-7]
(前回調査からの追加項目)

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況②

◆大阪府域—直近1年間の採用において、希望していた採用人数のうち、実際に採用した人数の割合（前回調査との比較）
前回調査時と比較すると、求人数に対する充足率の低い施設の割合が高くなっており、保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保は厳しい状況となっています。

[求人数に対する充足率]



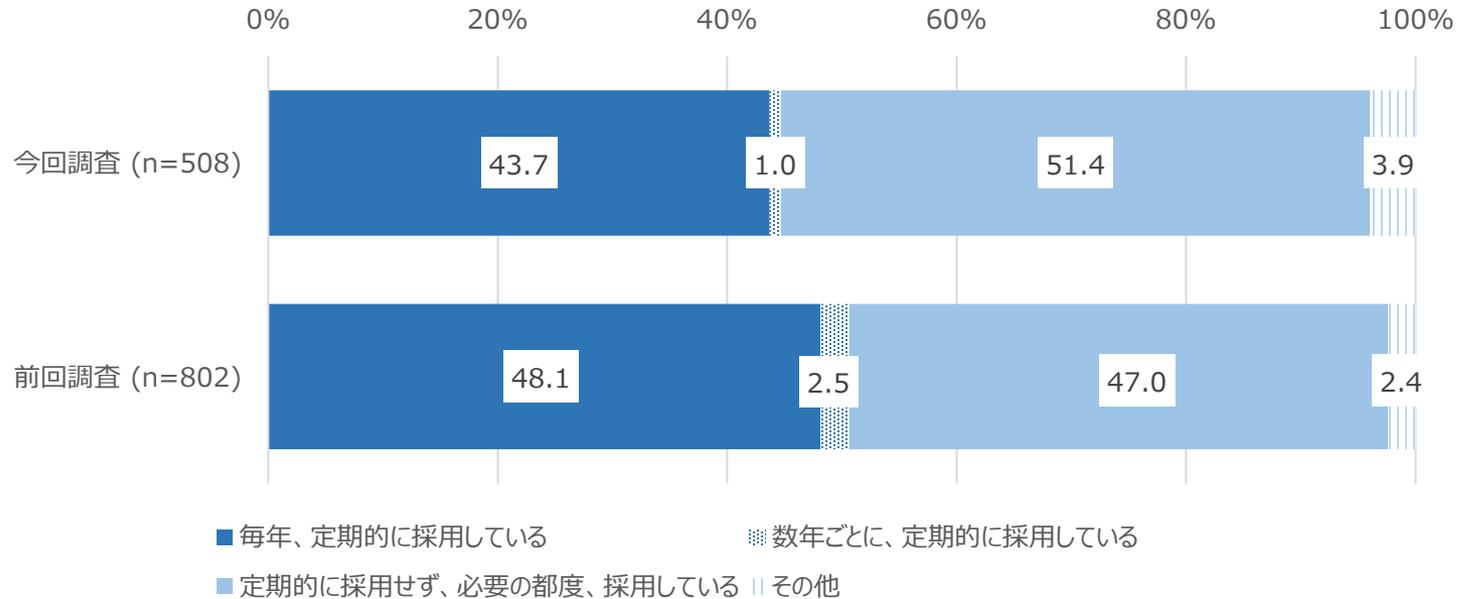
[2- (1) 問2-1]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況③

◆大阪府域—定期的に正規職員を採用しているか（前回調査との比較）

前回調査時と比較すると、「毎年、定期的に採用している」の比率が低くなっており、「定期的に採用せず、必要の都度、採用している」の比率が高くなっています。

[定期的に正規職員を採用しているか]



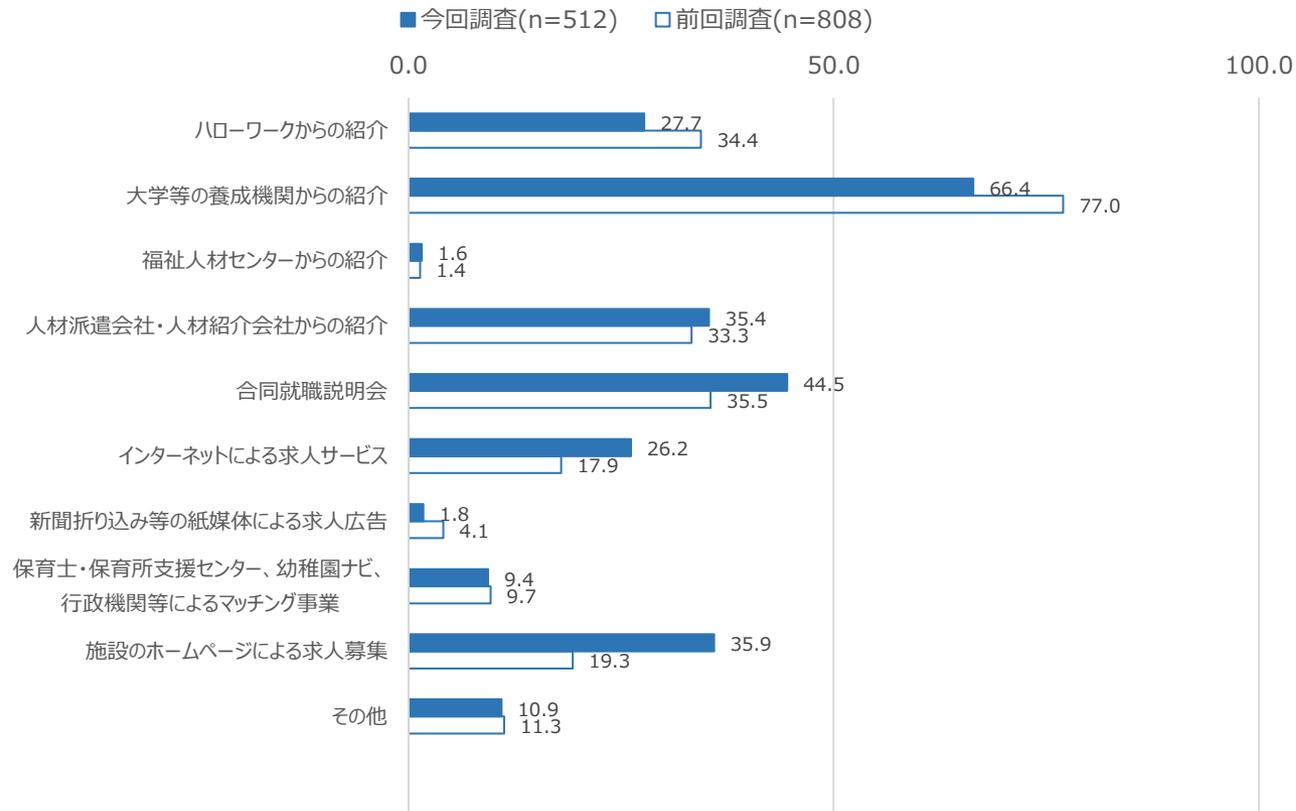
[2 - (1) 問2 - 2]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況④

◆大阪府域一職員（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の採用に有効であるとする募集方法〔正規職員〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「大学等の養成施設からの紹介」「ハローワークからの紹介」の比率が低くなっている一方、「施設のホームページによる求人募集」「合同就職説明会」「インターネットによる求人サービス」の比率が高くなっています。

〔職員採用の有効な募集方法(正規職員)〕



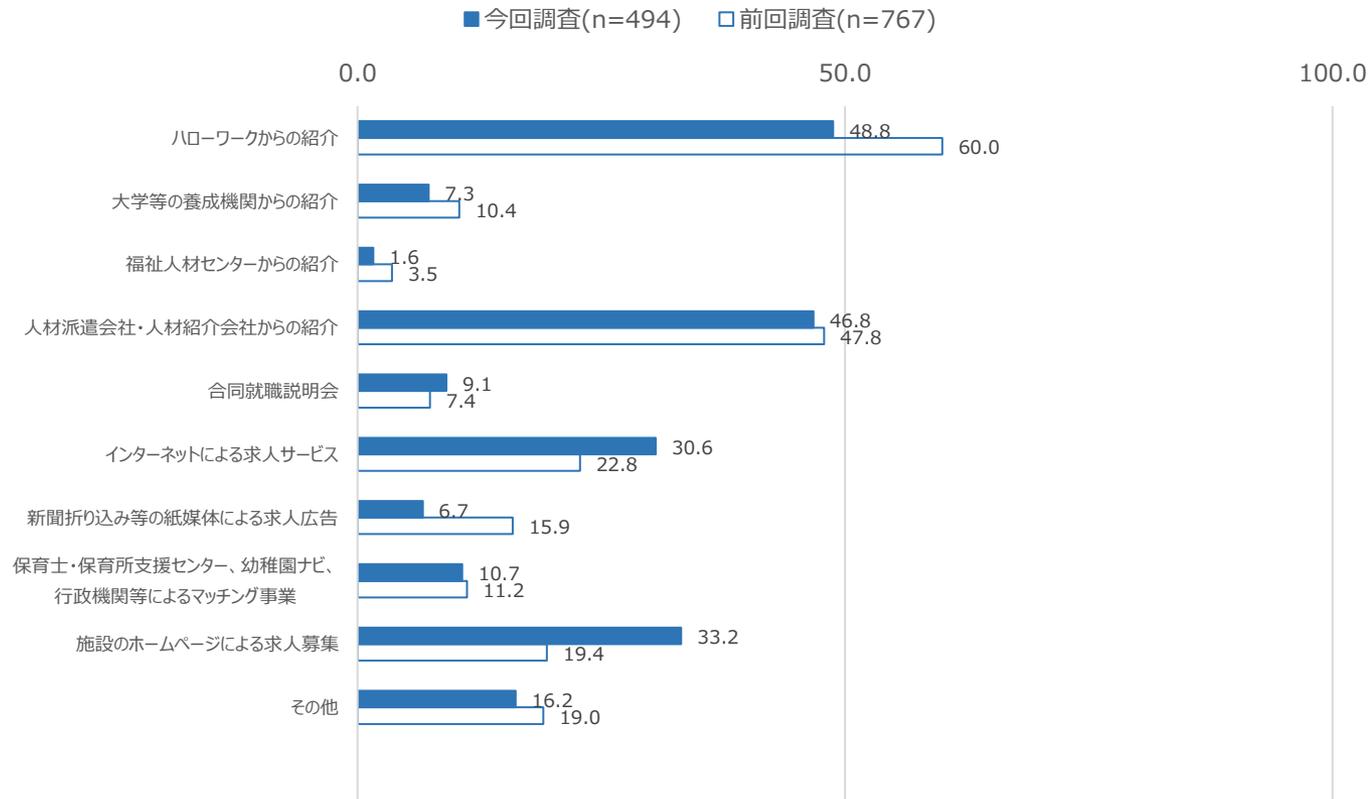
[2- (1) 問2-3]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑤

◆大阪府域一職員（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の採用に有効であるとする募集方法〔非正規職員〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「ハローワークからの紹介」「新聞折り込み等の紙媒体による求人広告」の比率が低くなっている一方、「施設のホームページによる求人募集」「インターネットによる求人サービス」の比率が高くなっています。

〔職員採用の有効な募集方法（非正規職員）〕



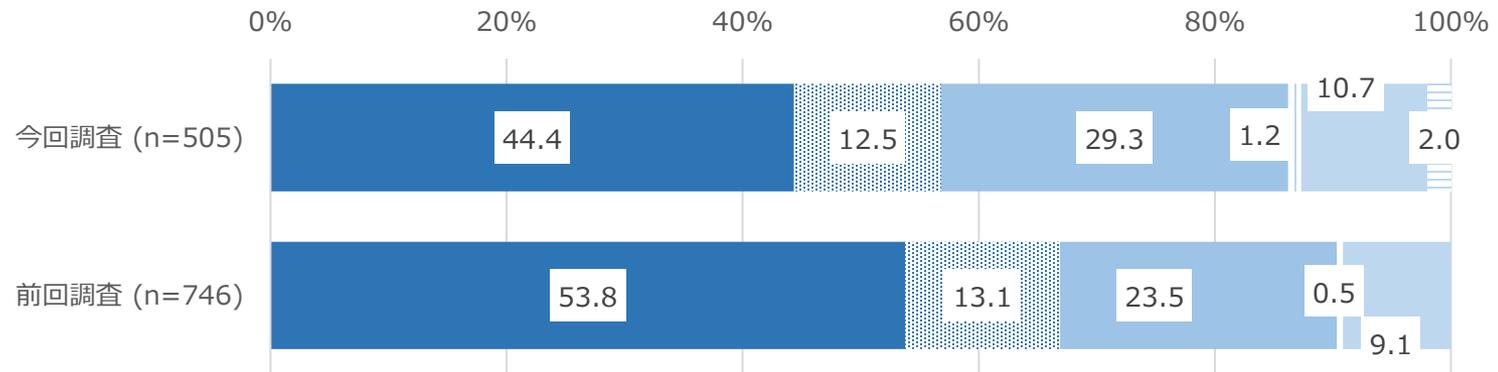
[2- (1) 問2-3]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑥

◆大阪府域—今後の職員の採用に対する考え（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「正規職員の採用を増やしていく」の比率が低くなっている一方、「正規職員は現在の規模を維持し、一時的に職員の増員が必要となったときは非正規職員の採用で対応していく」の比率が高くなっています。

[今後の職員の採用に対する考え]



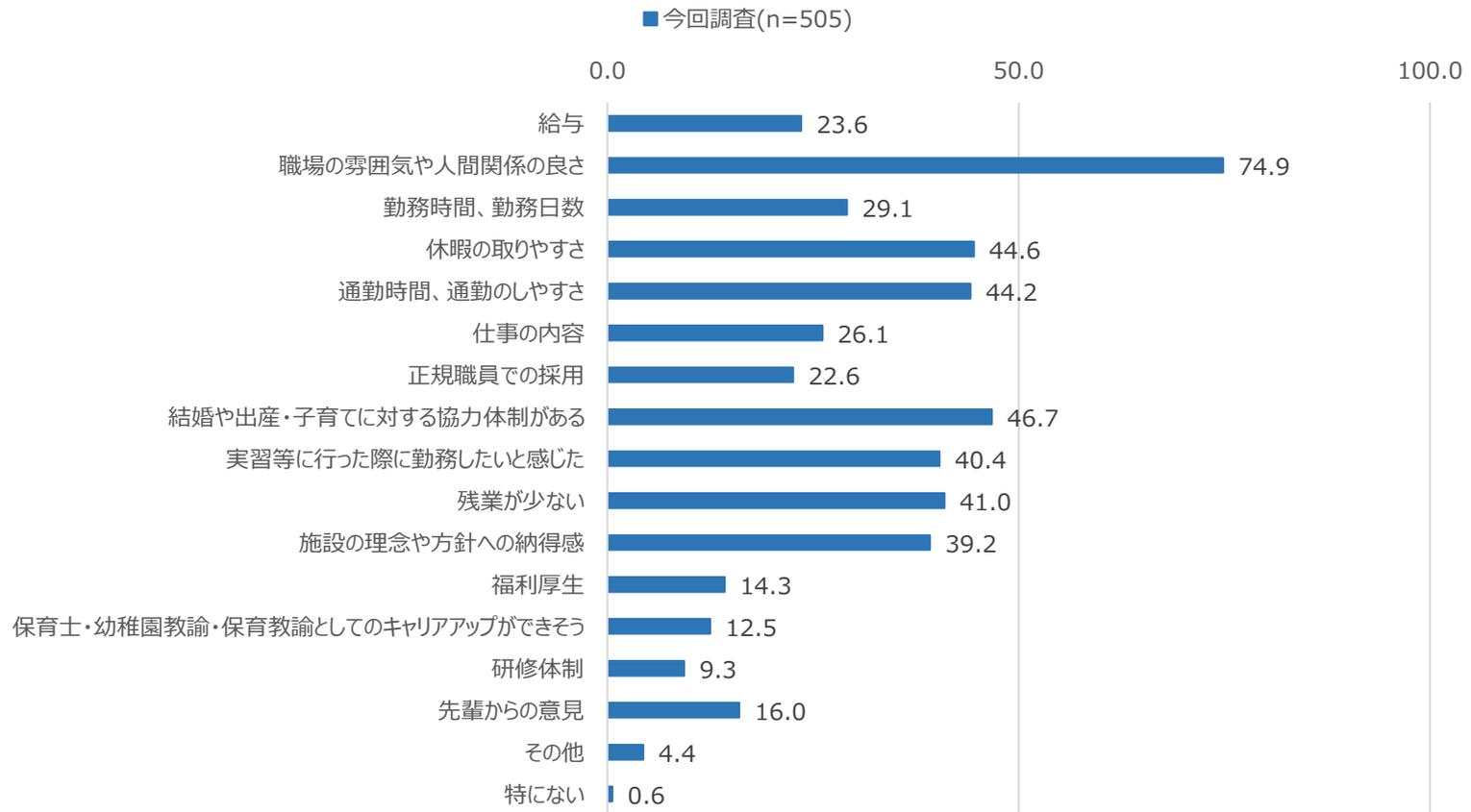
- 正規職員の採用を増やしていく
- ▨ 正規職員は現在の規模を維持し、非正規職員の採用を増やしていく
- 正規職員は現在の規模を維持し、一時的に職員の増員が必要となったときは非正規職員の採用で対応していく
- ▨ 正規職員の採用を最小限にとどめ、正規職員の人数を減らして、非正規職員の採用を増やしていく
- 特に決めていない
- ＝ その他

[2- (1) 問2-4]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑦

◆大阪府域一職員（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）が当該保育所・幼稚園・認定こども園で働きたいと考えた理由
「職場の雰囲気や人間関係の良さ」が最も比率が高く、「結婚や出産・子育てに対する協力体制がある」「休暇の取りやすさ」「通勤時間、通勤のしやすさ」「残業が少ない」といった職場環境・労働条件の良さも理由として多くあげられています。

[職員が働きたい理由]



[2-(1)問2-5]
(前回調査からの追加項目)

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑧

「離職理由(正規職員)」

単位：人

		1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
保育所	自己都合	71	120	54	20	22
	その他(定年等)	0	2	1	2	6
幼稚園(施設型給付を受けていない園)	自己都合	13	30	18	9	11
	その他(定年等)	0	0	0	0	0
幼稚園(施設型給付を受けている園)	自己都合	18	17	10	1	4
	その他(定年等)	0	0	0	0	0
幼稚園型認定こども園	自己都合	14	29	14	9	2
	その他(定年等)	0	0	1	1	0
幼保連携型認定こども園	自己都合	53	142	81	41	32
	その他(定年等)	0	6	1	0	9
総計	自己都合	172	340	178	81	72
	その他(定年等)	1	8	2	4	16

「離職理由(非正規職員)」

単位：人

		1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
保育所	自己都合	75	65	22	13	10
	その他(定年等)	16	8	3	2	2
幼稚園(施設型給付を受けていない園)	自己都合	4	10	5	2	1
	その他(定年等)	0	1	0	0	2
幼稚園(施設型給付を受けている園)	自己都合	4	1	1	0	0
	その他(定年等)	0	0	1	0	1
幼稚園型認定こども園	自己都合	5	17	5	4	0
	その他(定年等)	2	0	1	0	0
幼保連携型認定こども園	自己都合	65	81	32	15	27
	その他(定年等)	21	20	10	1	3
総計	自己都合	154	175	66	34	38
	その他(定年等)	42	31	14	5	8

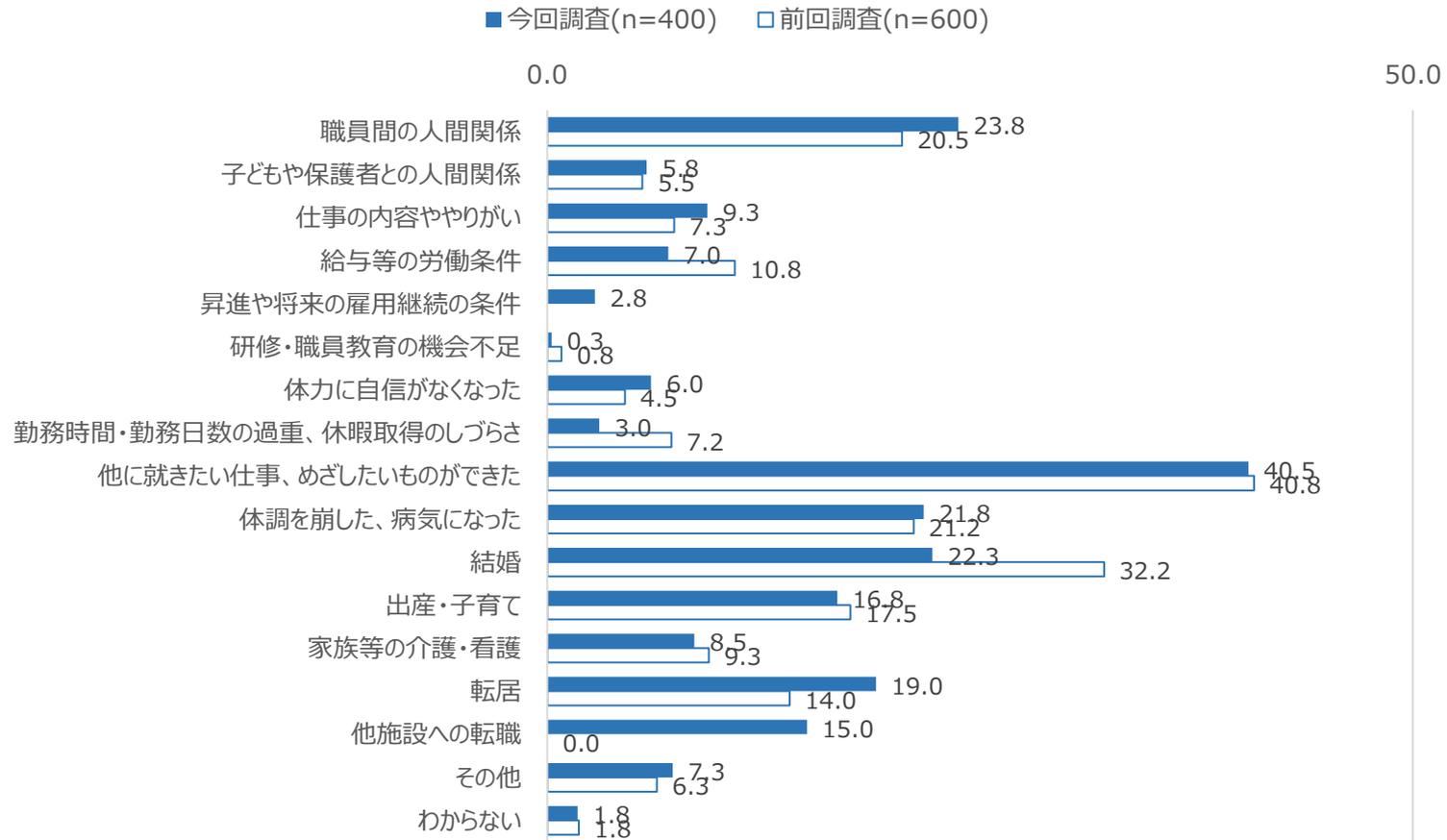
[2-(1)問3-1]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑨

◆大阪府域一自己都合による離職者の離職理由〔正規職員〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「他施設への転職」「転居」「職員間の人間関係」の比率が高くなっている一方、「結婚」「給与等の労働条件」の比率が低くなっています。

〔自己都合による離職者の離職理由（正規職員）〕

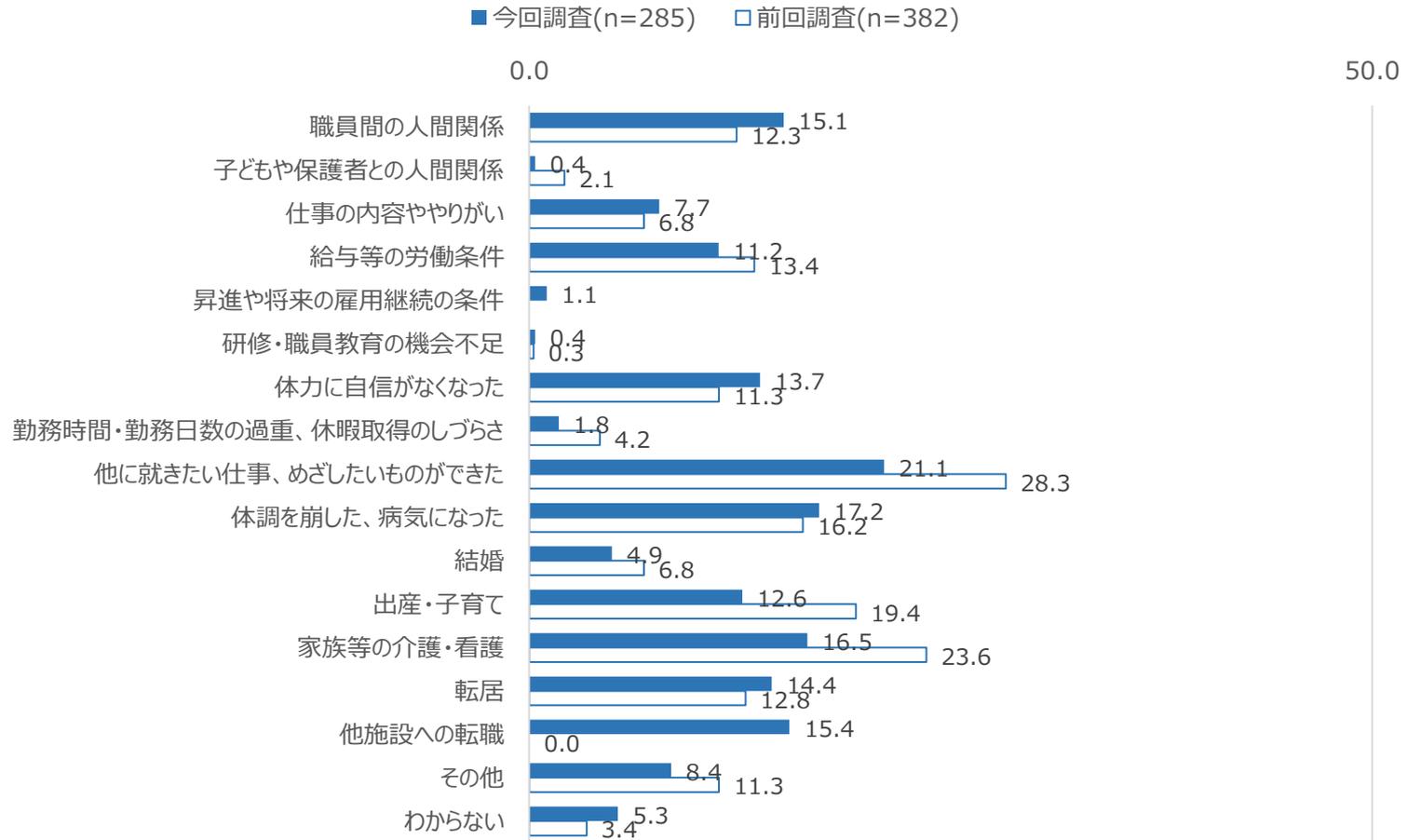


私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑩

◆大阪府域—自己都合による離職者の離職理由〔非正規職員〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「他施設への転職」「職員間の人間関係」の比率が高くなっている一方、「他に就きたい仕事、めざしたいものができた」「家族等の介護・看護」「出産・子育て」の比率が低くなっています。

〔自己都合による離職者の離職理由（非正規職員）〕

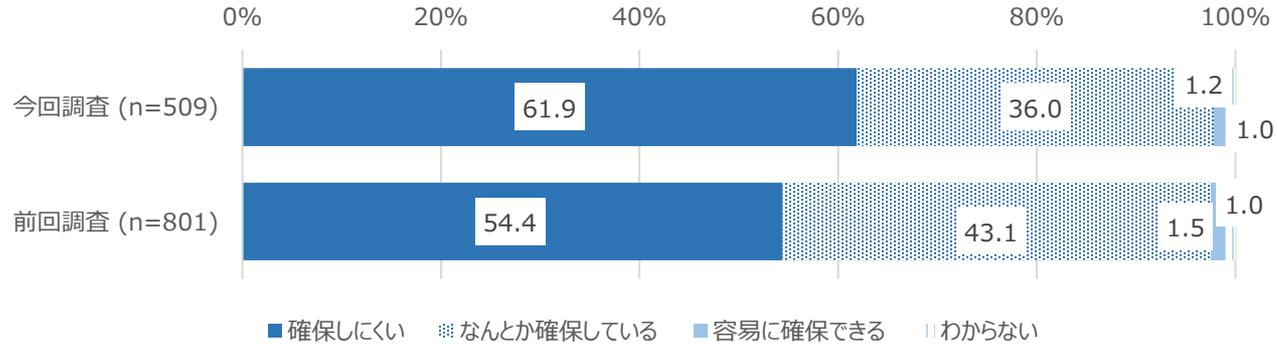


私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑪

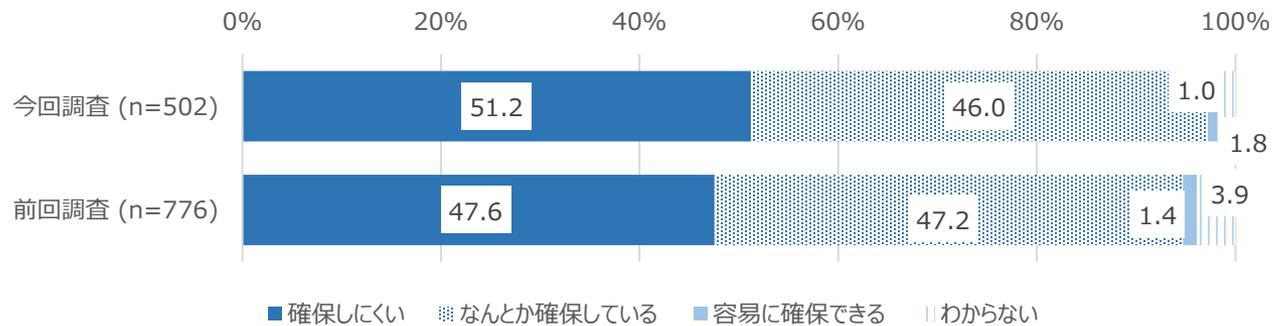
◆大阪府域一職員（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の人材確保について、どのように感じているか〔正規職員・非正規職員・新卒者〕（前回調査との比較）

正規職員・非正規職員・新卒者いずれも「確保しにくい」「なんとか確保している」を合わせて9割を超えるとともに、前回調査時よりも「確保しにくい」の比率が高くなっており、職員（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の人材確保が困難と感じられています。

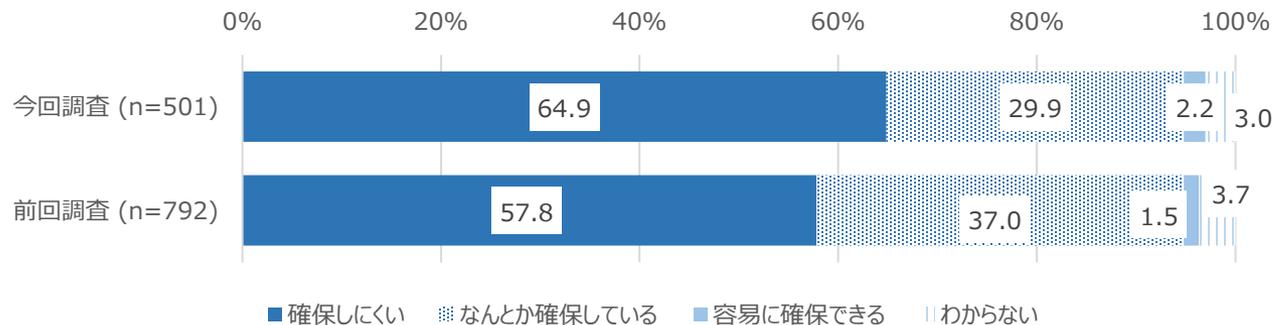
〔人材確保の状況〕
（正規職員）



〔人材確保の状況〕
（非正規職員）



〔人材確保の状況〕
（新卒者）

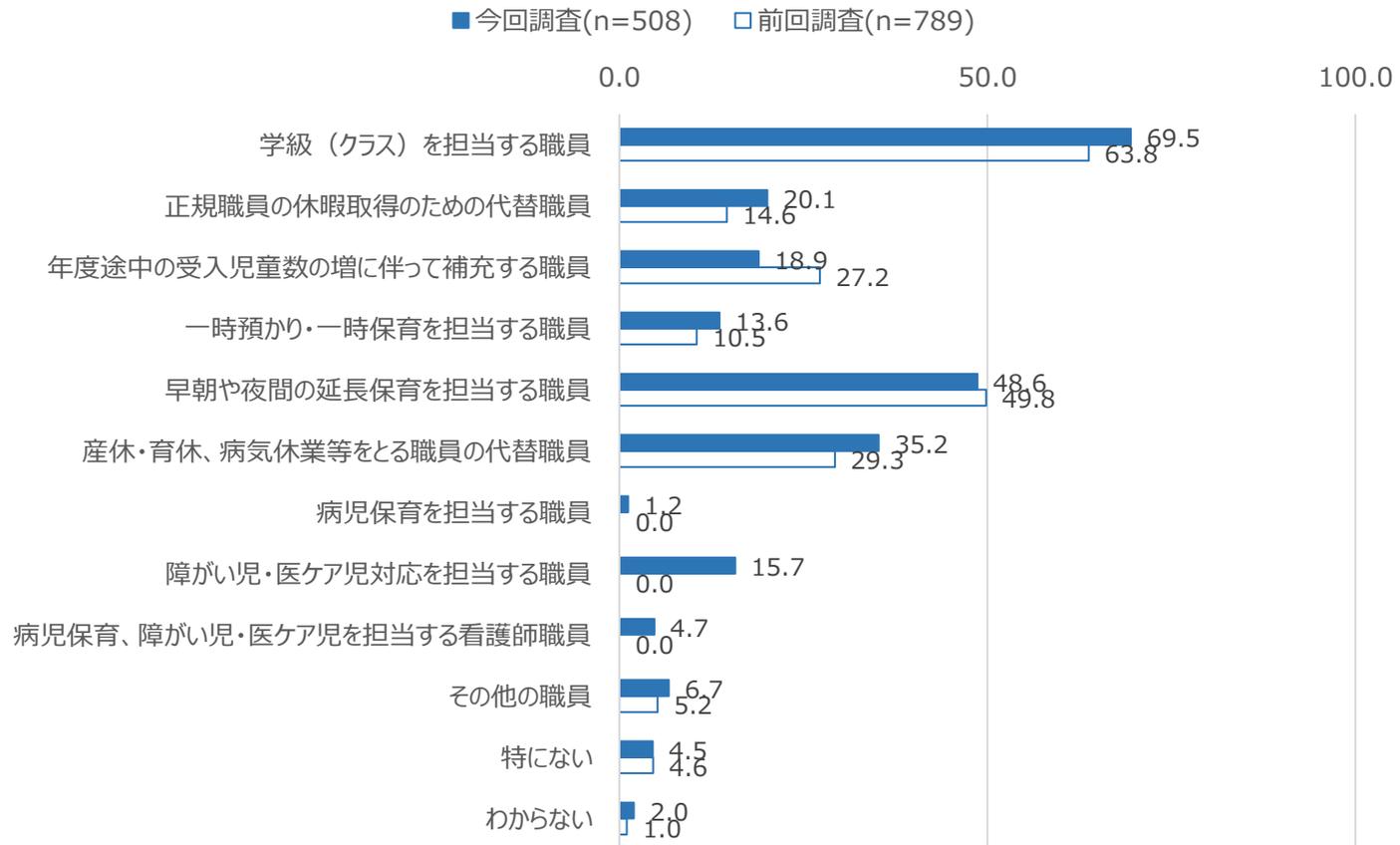


私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑫

◆大阪府域一人材確保に特に困難を感じる職員（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「障がい児・医ケア児対応を担当する職員」「産休・育休・病気休業等をとる職員の代替職員」「学級（クラス）を担当する職員」「正規職員の休暇取得のための代替要員」の比率が高くなっており、「年度途中の受入児童数の増に伴って補充する職員」の比率が低くなっています。

[確保困難な職員]



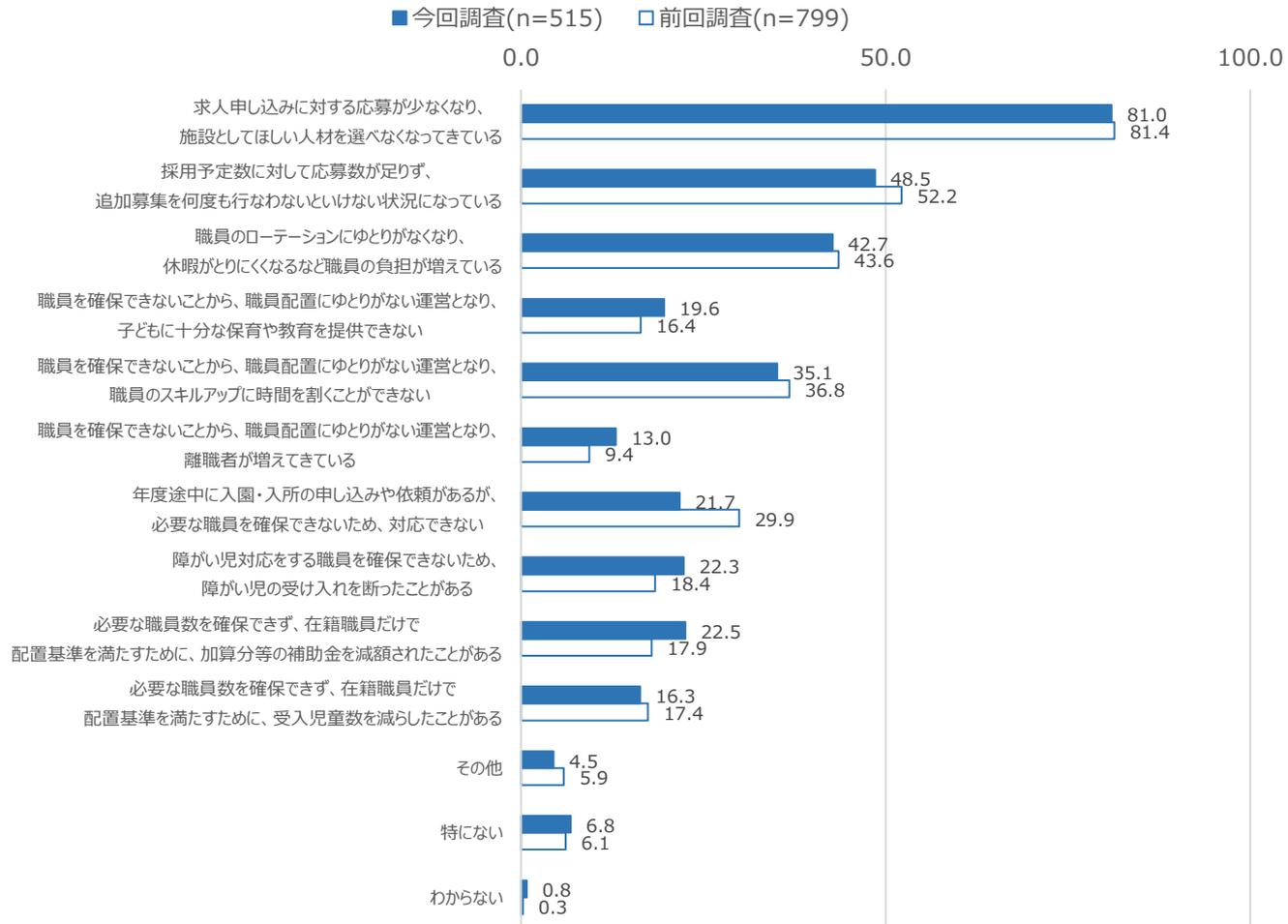
[2- (1) 問4-3]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑬

◆大阪府域一人材確保が困難な状況に伴って、運営上特に支障が生じている（生じた）こと（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「必要な職員数を確保できず、在籍職員だけで配置基準を満たすために、受入児童数を減らしたことがある」「障がい児対応をする職員を確保できないため、障がい児の受け入れを断ったことがある」「職員を確保できないことから、職員配置にゆとりがない運営となり、離職者が増えてきている」の比率が高くなっている一方、「年度途中に入園・入所の申し込みや依頼があるが、必要な職員を確保できないため、対応できない」の比率が低くなっています。

[人材不足により生じる支障]

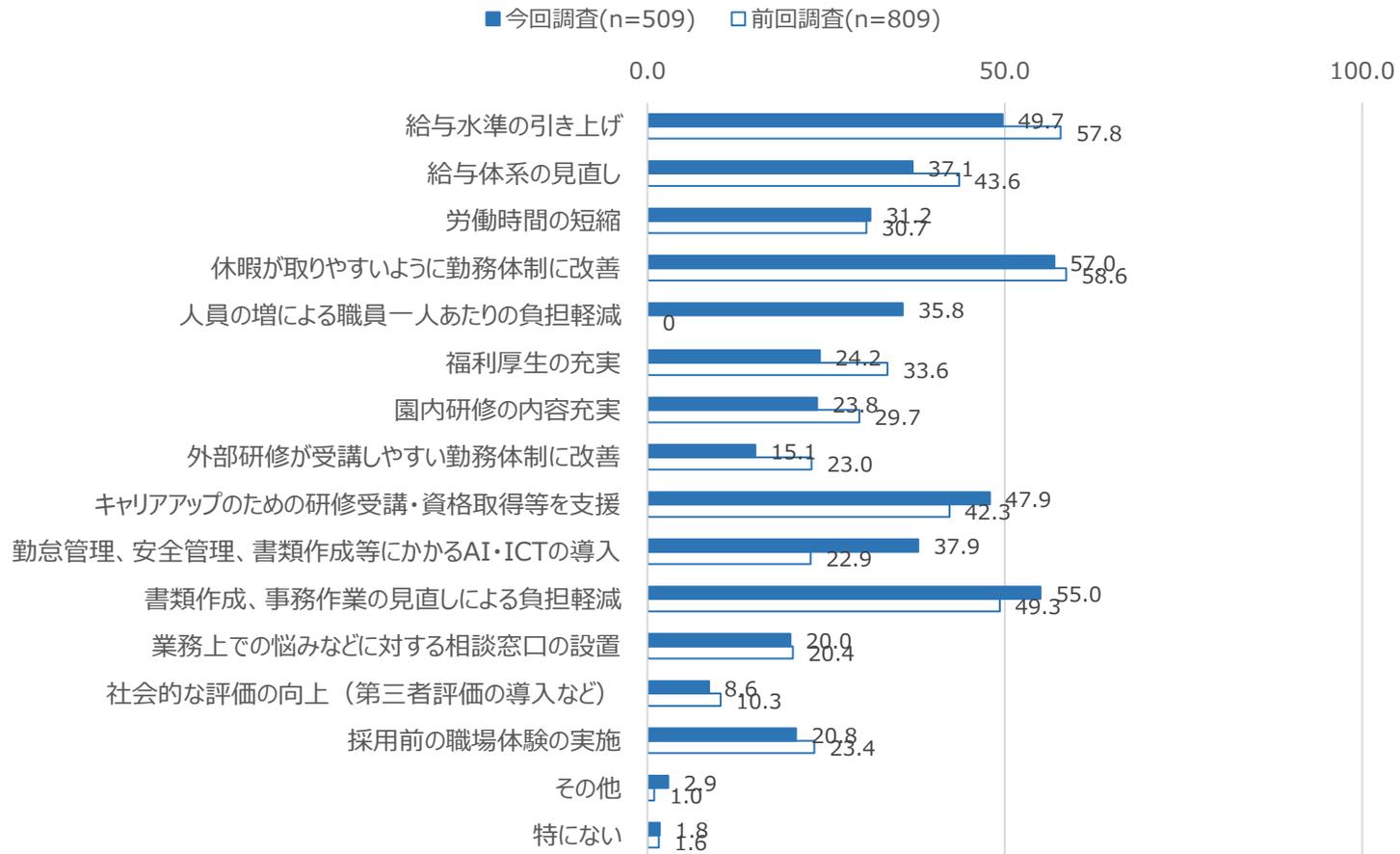


私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑭

◆大阪府域一人材確保や離職防止のための取り組み（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「人員の増による職員一人あたりの負担軽減」「勤怠管理、安全管理、書類作成等にかかるAI・ICTの導入」「書類作成、事務作業の見直しによる負担軽減」の比率が高くなっている一方、「福利厚生の充実」「給与水準の引き上げ」「給与体系の見直し」の比率が低くなっています。

[人材確保・離職防止のための取組み]

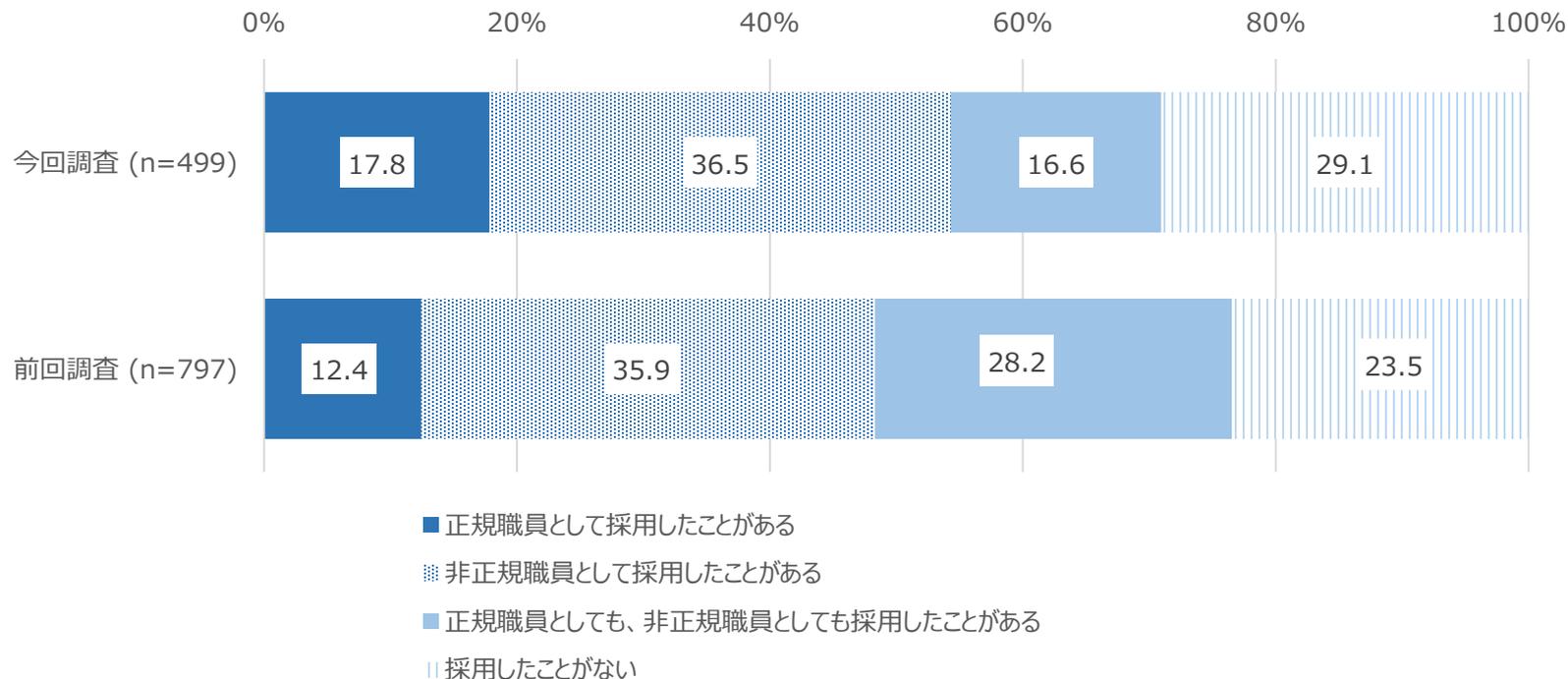


私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑮

◆大阪府域—潜在的な有資格者の採用経験（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、潜在的な有資格者を「正規職員として採用したことがある」の比率が高くなっている一方、「正規職員としても、非正規職員としても採用したことがある」の比率が低くなっています。

[潜在的な有資格者の採用経験]



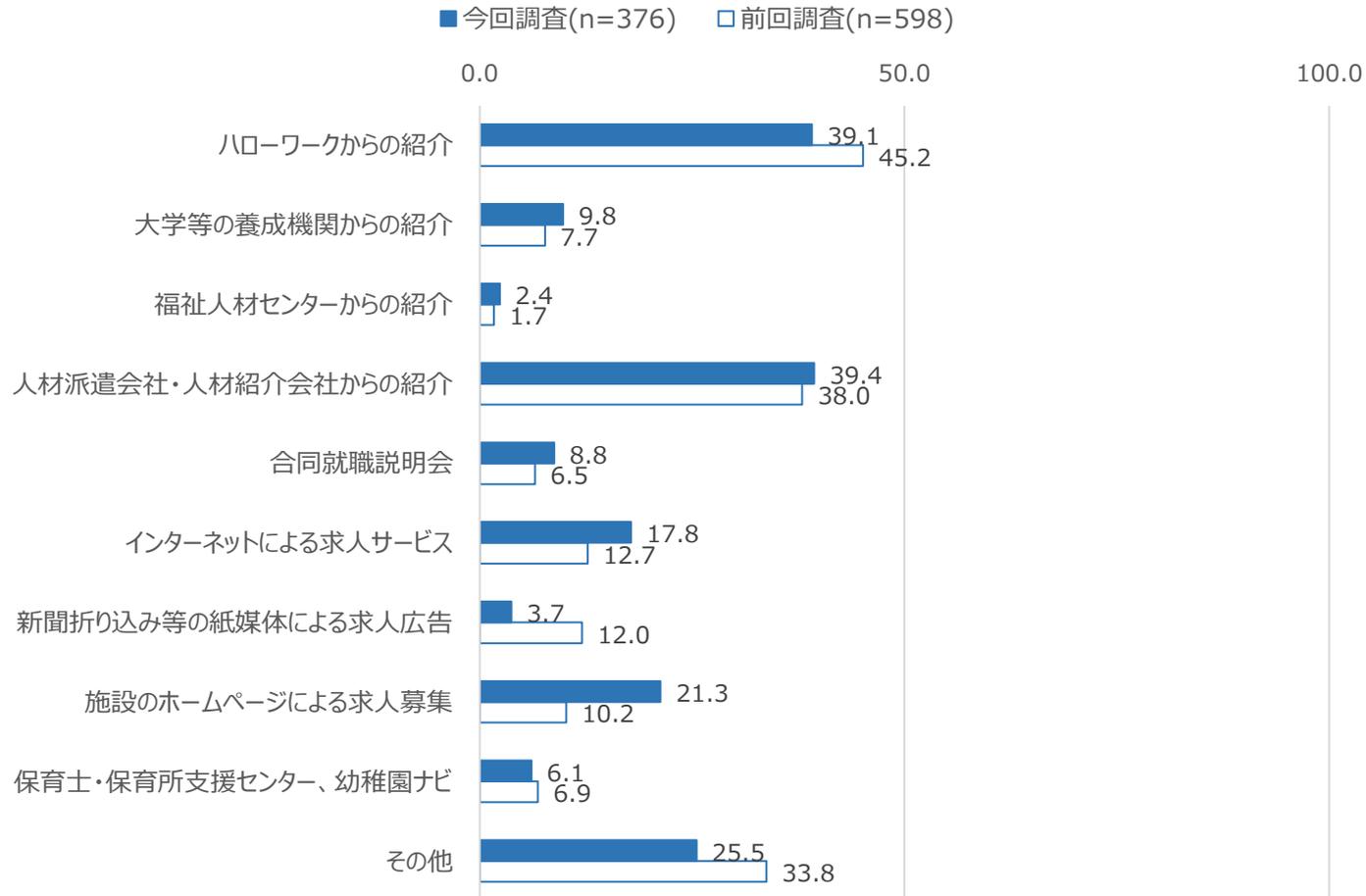
[2- (1) 問5-1]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑬

◆大阪府域一潜在的な有資格者を採用した際の募集方法（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「施設のホームページによる求人募集」「インターネットによる求人サービス」の比率が高くなっている一方、「新聞折り込み等の紙媒体による求人広告」「ハローワークからの紹介」の比率が低くなっています。

[潜在的な有資格者の採用時の募集方法]

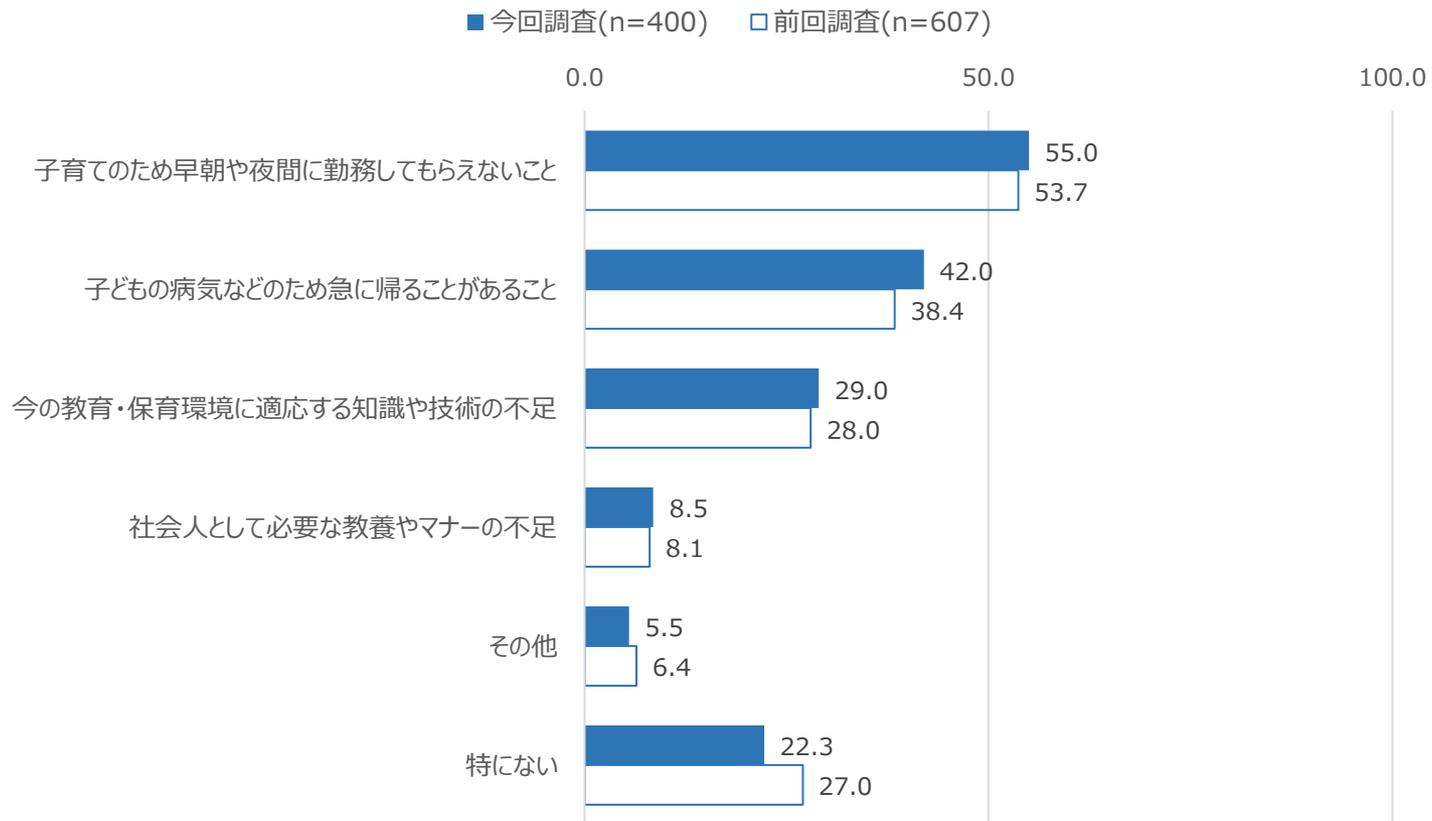


私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑬

◆大阪府域—潜在的な有資格者を採用するために特に支障となること（前回調査との比較）

前回調査と同様、「子育てのため早朝や夜間に勤務してもらえないこと」の比率が最も高く、次いで「子どもの病気などのため急に帰ることがあること」「今の教育・保育環境に適応する知識や技術の不足」の比率が高くなっています。

[潜在的な有資格者を採用するために特に支障となること]



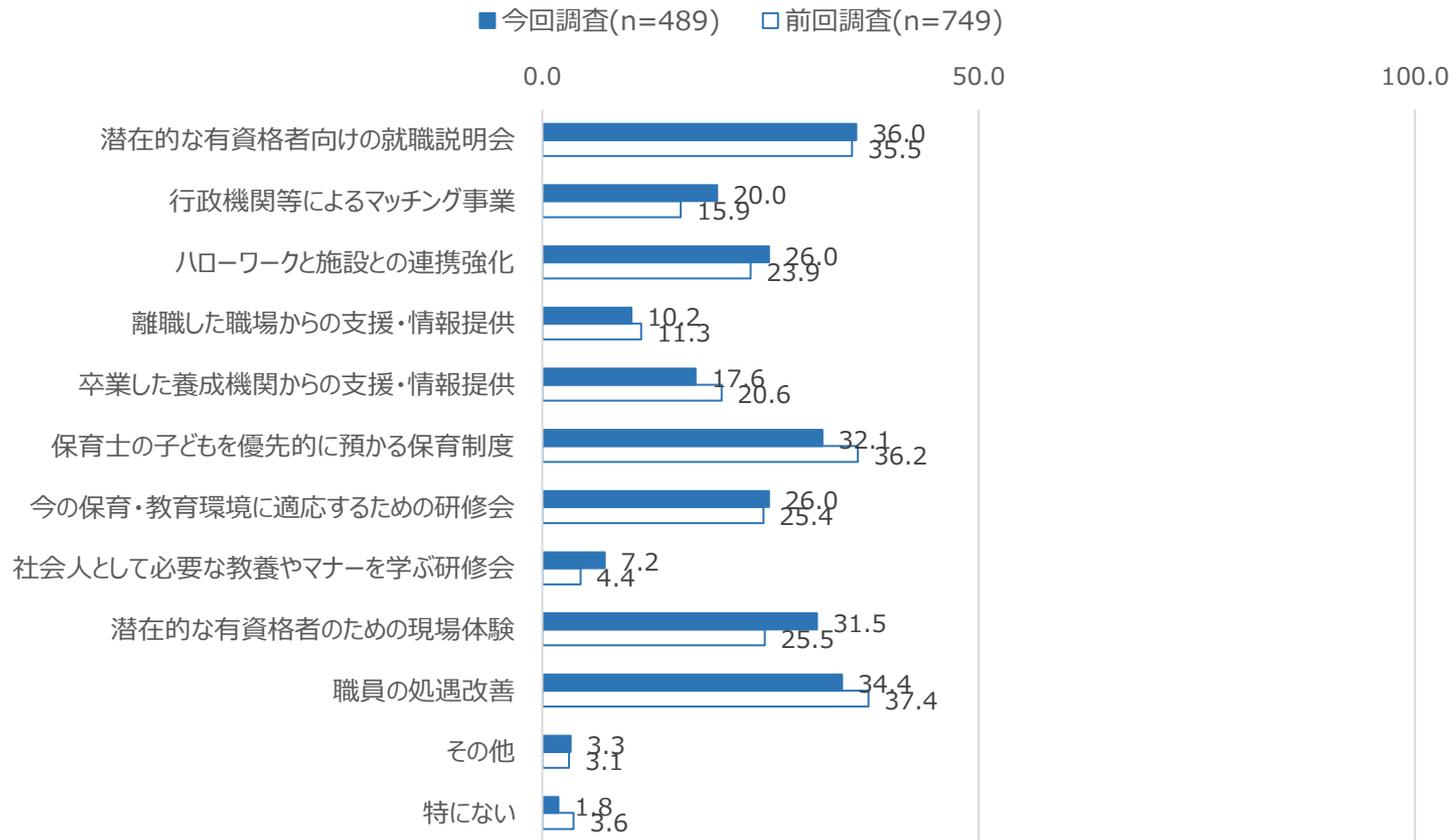
[2 - (1) 問5-3]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑬

◆大阪府域—潜在的な有資格者を活用するために必要と思われる支援（前回調査との比較）

前回調査と同様、「潜在的な有資格者向けの就職説明会」「職員の処遇改善」「保育士の子どもを優先的に預かる保育制度」の比率が高くなっており、前回調査と比較すると、「選択的な有資格者のための現場体験」「行政機関等によるマッチング事業」「ハローワークと施設との連携強化」の比率が高くなっています。

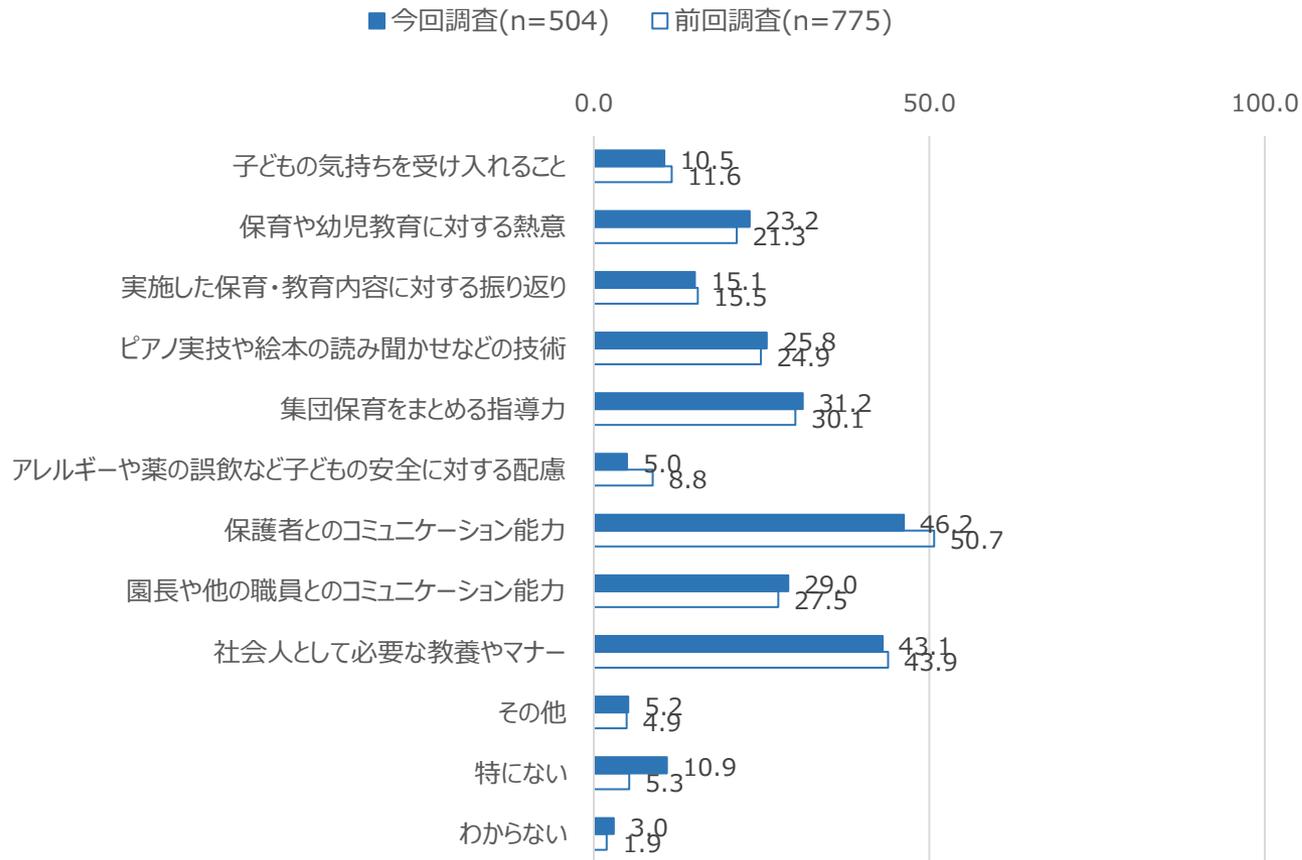
[潜在的な有資格者を活用するために必要と思われる支援]



私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑬

◆大阪府域一採用した新卒者について、保育士・幼稚園教諭・保育教諭として働くために特に不足していると感じること（前回調査との比較）
 前回調査と同様、「保護者とのコミュニケーション能力」「社会人として必要な教養やマナー」「集団保育をまとめる指導力」の比率が高くなっています。

[採用した新卒者に不足していると感じること]

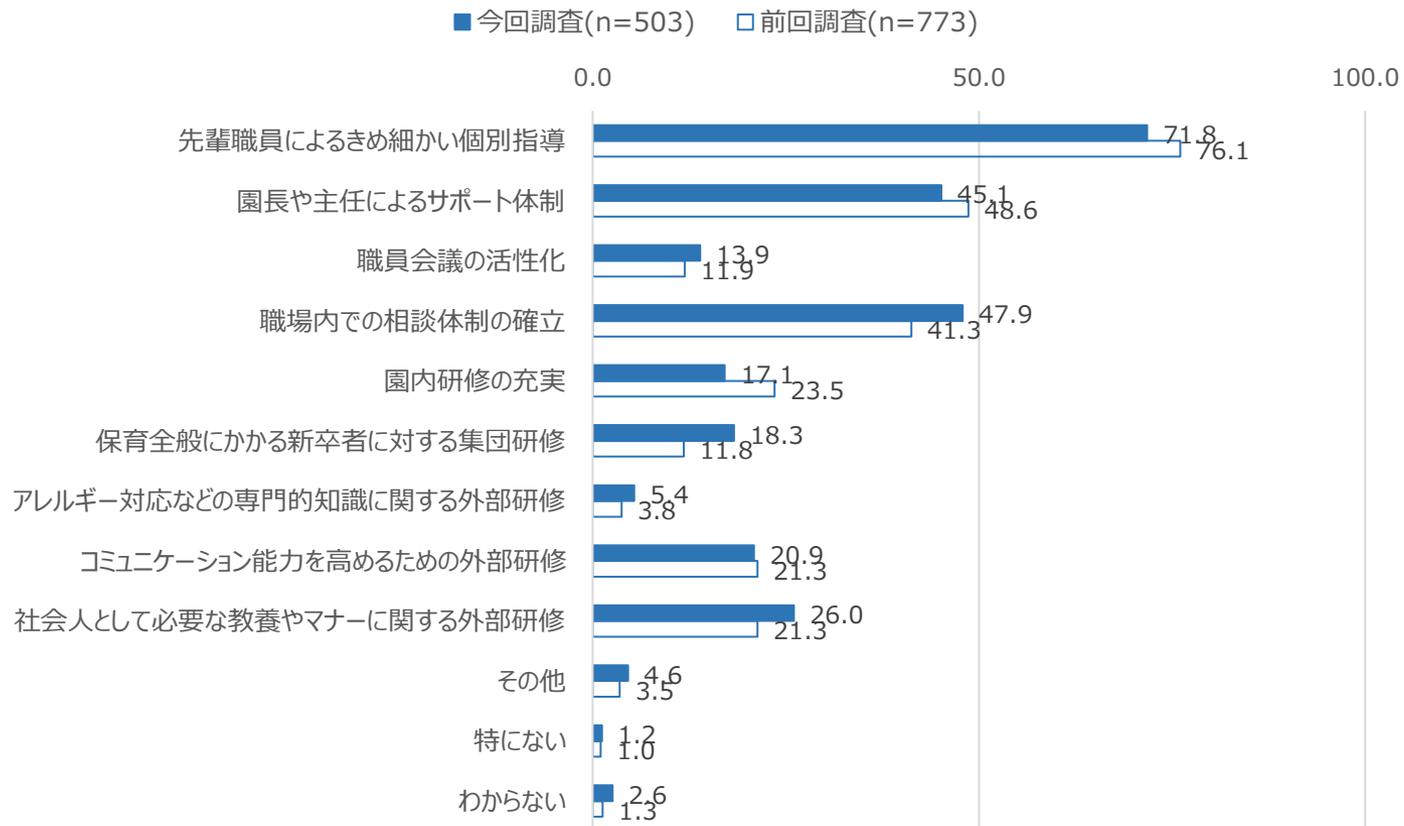


私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況⑳

◆大阪府域—新卒者が定着するために特に必要な支援（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「職場内での相談体制の確立」「保育全般にかかる新卒者に対する集団研修」「社会人として必要な教養やマナーに関する外部研修」の比率が高くなっている一方、「園内研修の充実」「園長や主任によるサポート体制」の比率が低くなっています。

[新卒者が定着するために特に必要な支援]



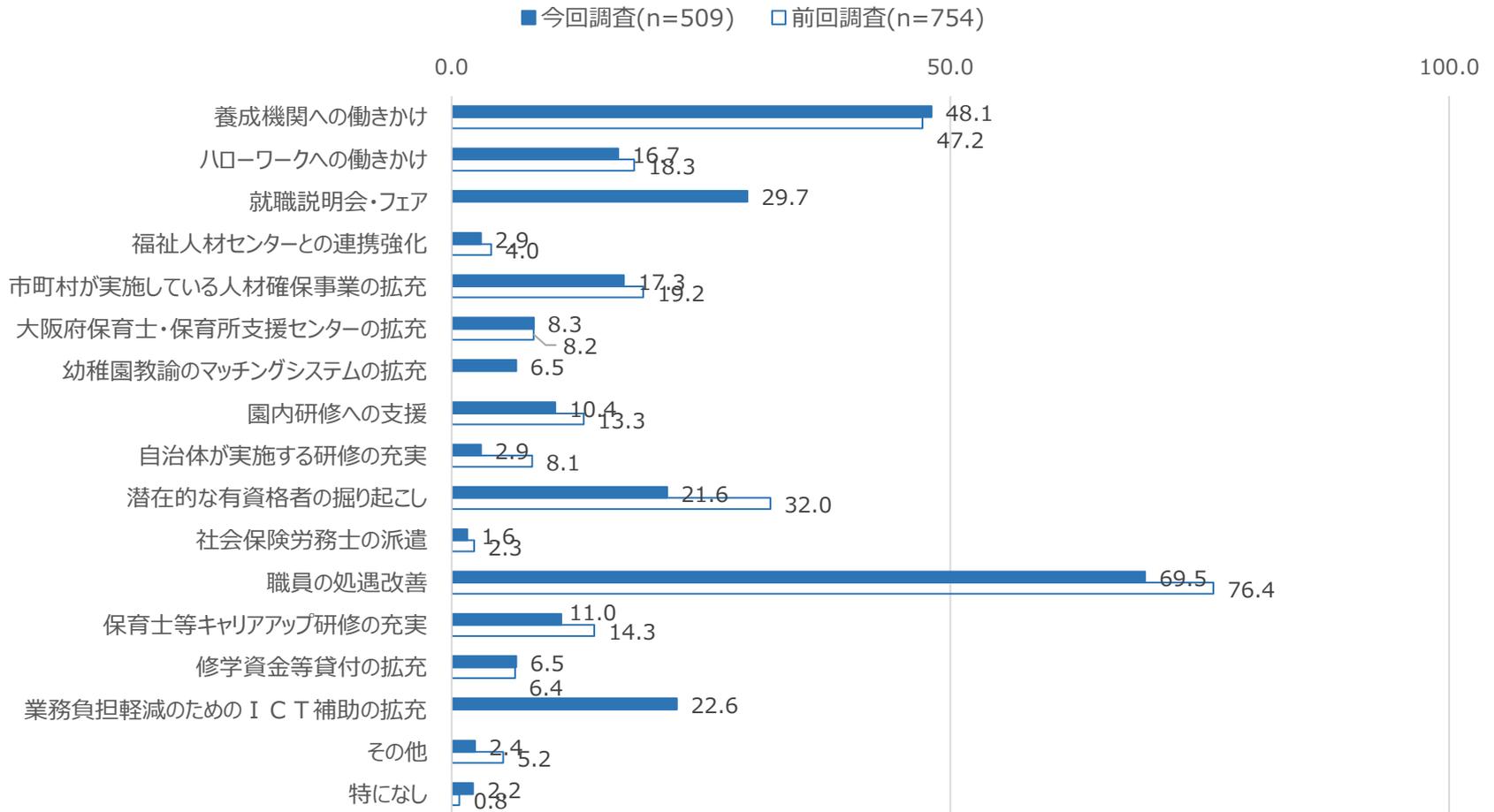
[2-(1)問6-2]

私立保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保の状況②

◆大阪府域一職員の確保や離職防止のために期待する支援（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「就職説明会・フェア」「業務負担軽減のためのICT補助の拡充」「幼稚園教諭のマッチングシステムの拡充」の比率が高くなっており、「潜在的な有資格者の掘り起こし」「職員の処遇改善」「自治体を実施する研修の充実」の比率が低くなっています。

[職員の確保・離職防止のために期待する支援]

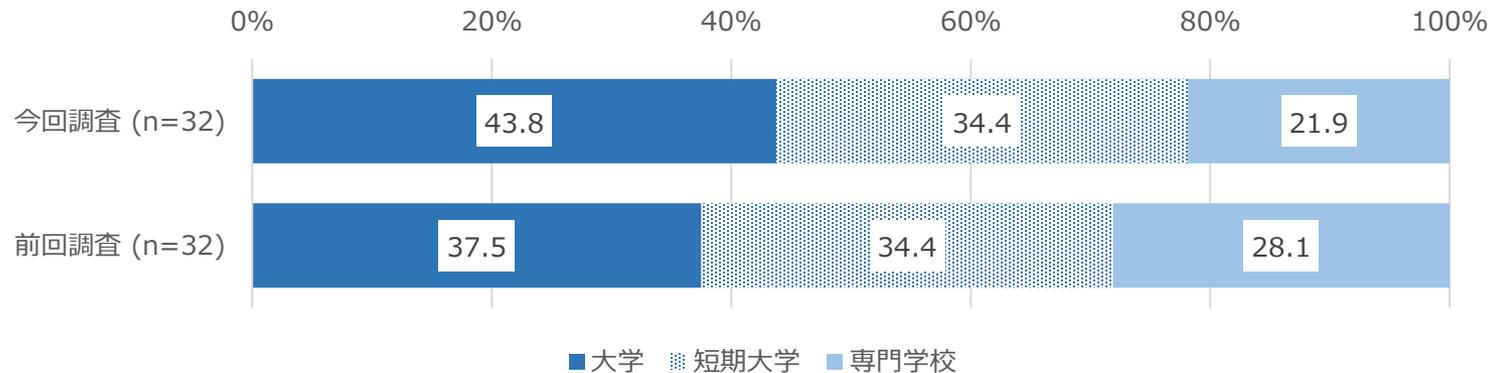


保育士養成施設の状況①

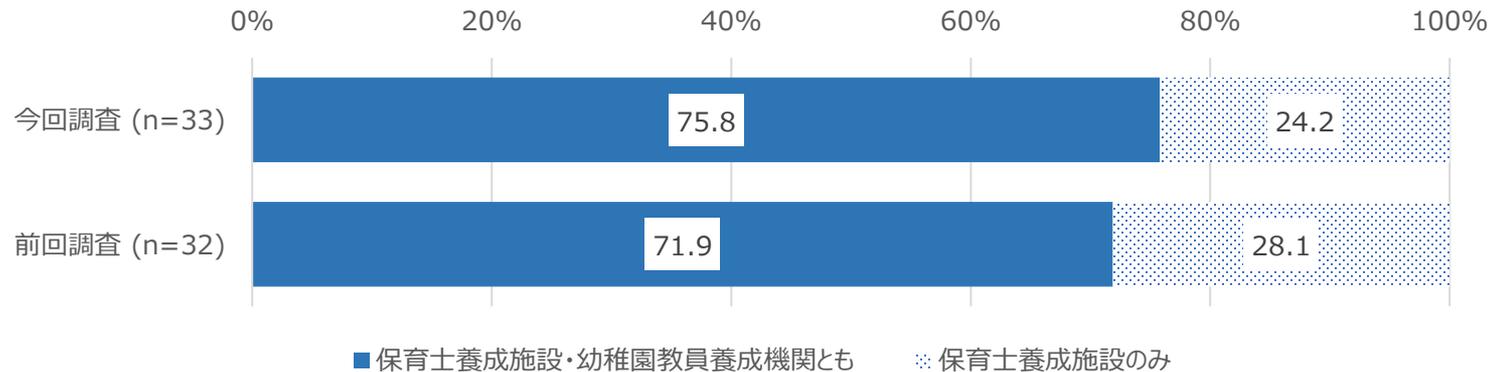
◆大阪府域—養成施設種別・指定種別（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、養成施設種別では「大学」の比率が高くなっている一方、「専門学校」の比率が低くなっている。指定種別では「保育士養成施設・幼稚園教諭養成機関とも」指定を受ける養成施設の比率が高くなっている一方、「保育士養成施設のみ」の比率が低くなっています。

[養成施設種別]



[指定種別]



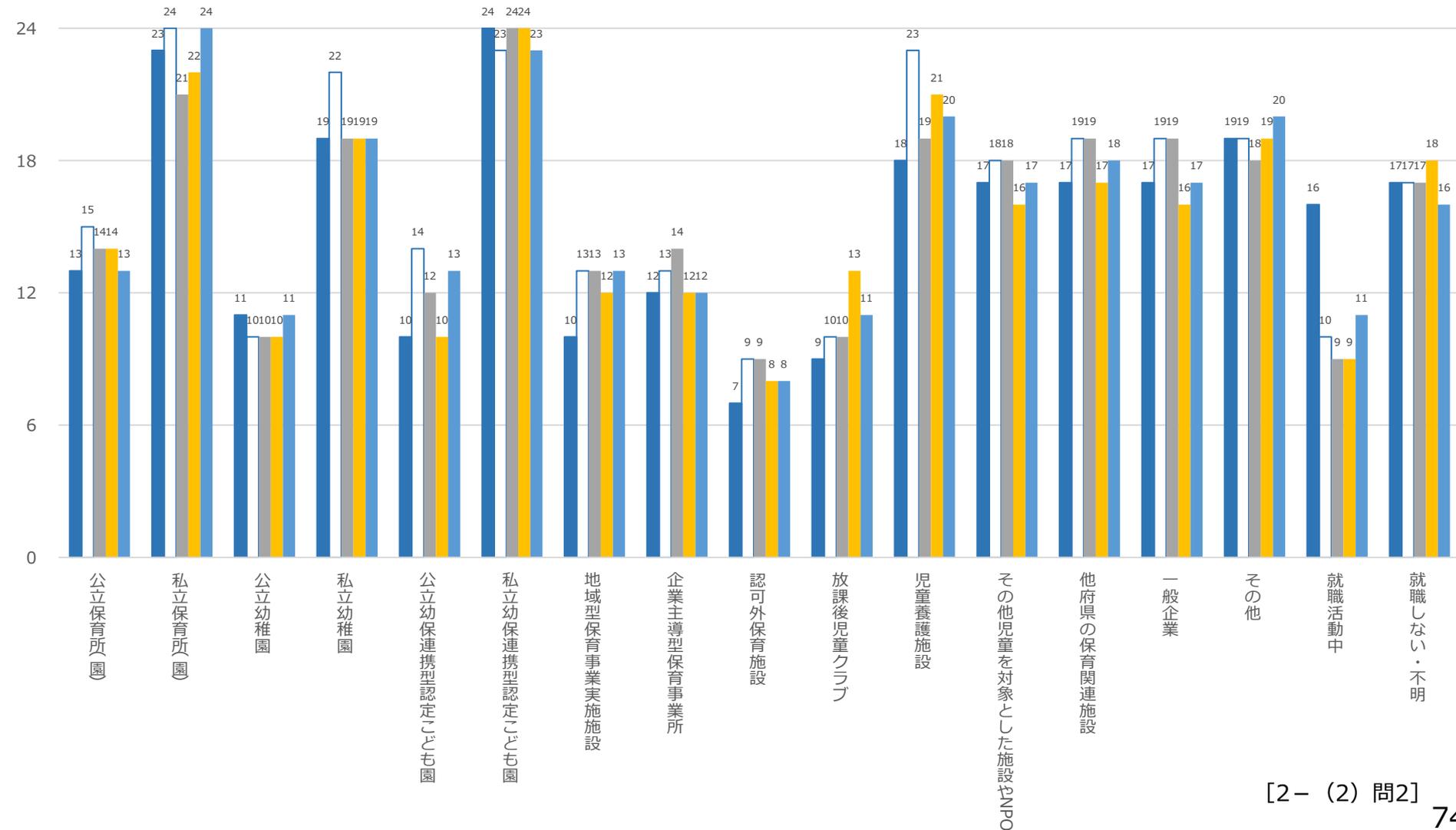
保育士養成施設の状況②

◆大阪府域—令和元～5年度の卒業者の就職先

就職先は、「私立幼保連携型認定こども園」「私立保育所」「私立幼稚園」「児童養護施設」の比率が高くなっています。

[卒業者の就職先(R元～R5:n=24)]

■令和5年度 □令和4年度 ■令和3年度 ■令和2年度 ■令和元年度



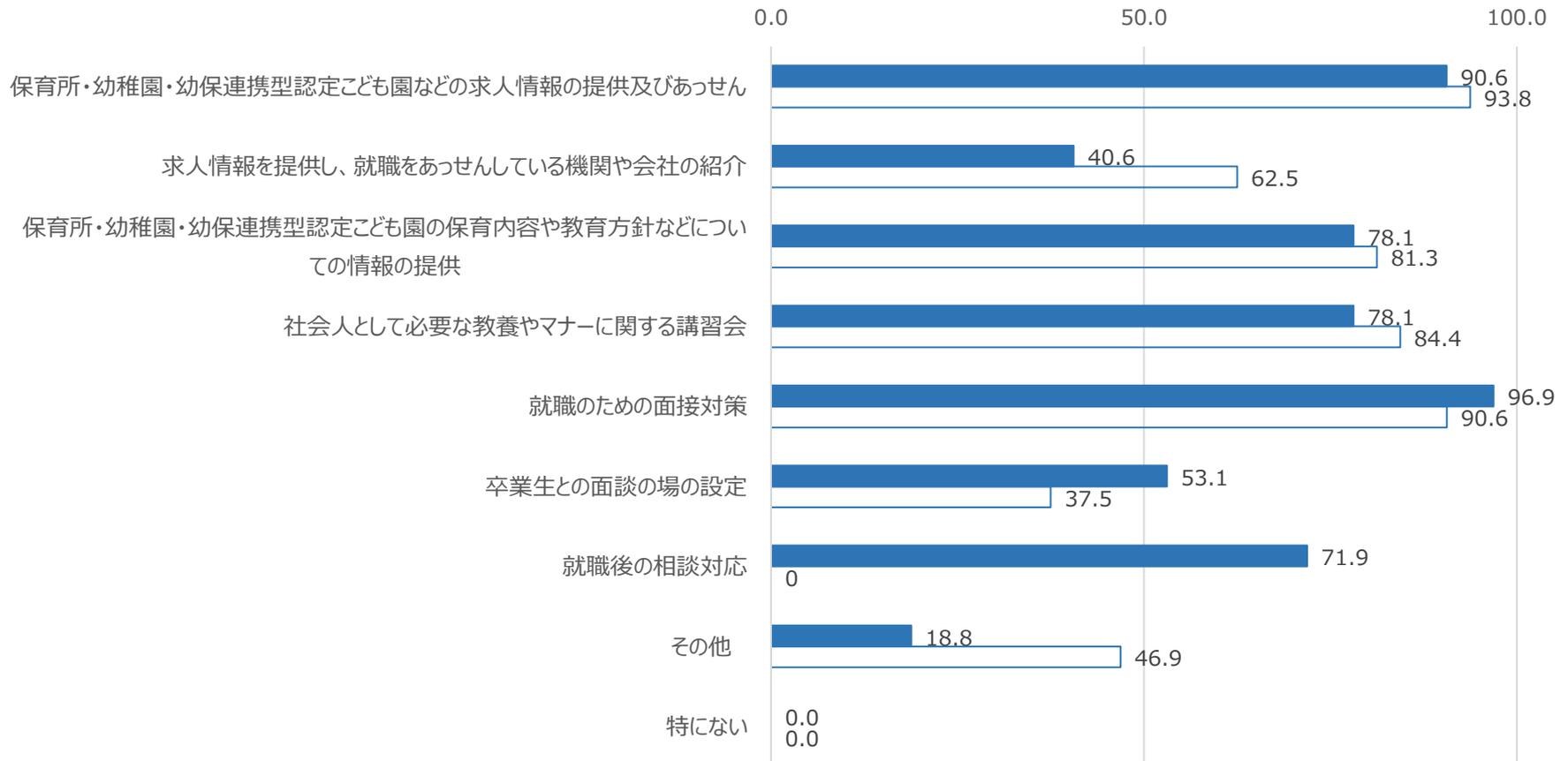
保育士養成施設の状況③

◆大阪府域一学生に対して行っている就職支援（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「就職後の相談対応」「卒業生との面談の場の設定」「就職のための面接対策」の比率が高くなっている一方、「求人情報を提供し、就職をあっせんしている機関や会社の紹介」「社会人としての必要な教養やマナーに関する講習会」の比率が低くなっています。

[学生への就職支援]

■ 今回調査 (n=32) □ 前回調査 (n=32)



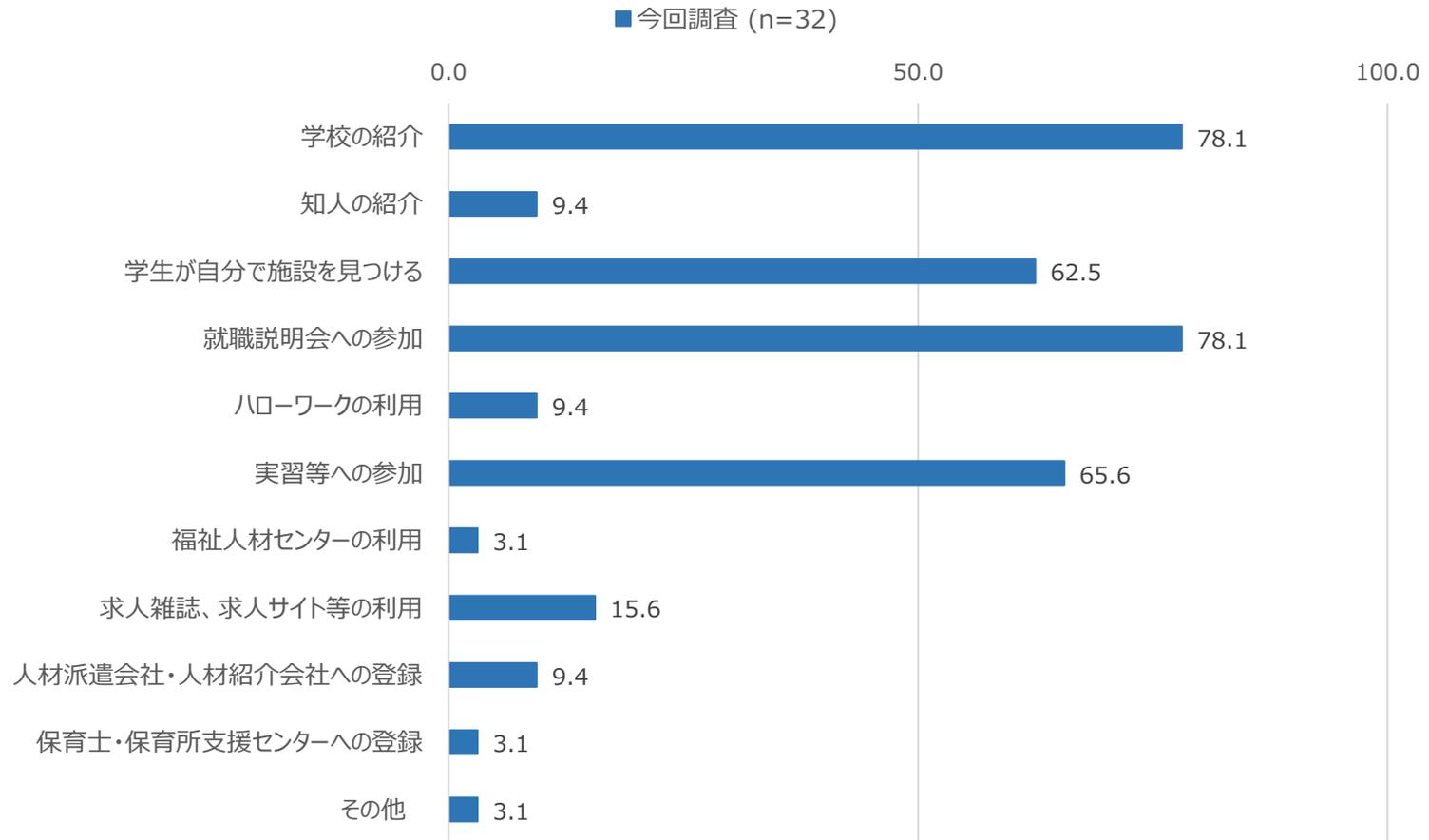
[2- (2) 問4]

保育士養成施設の状況④

◆大阪府域一学生の就職先の見つけ方

「学校の紹介」「就職説明会への参加」の比率が最も高く、次いで「実習等への参加」「学生が自分で施設を見つける」「求人雑誌、求人サイト等の利用」の比率が高くなっています。

[学生の就職先の見つけ方]



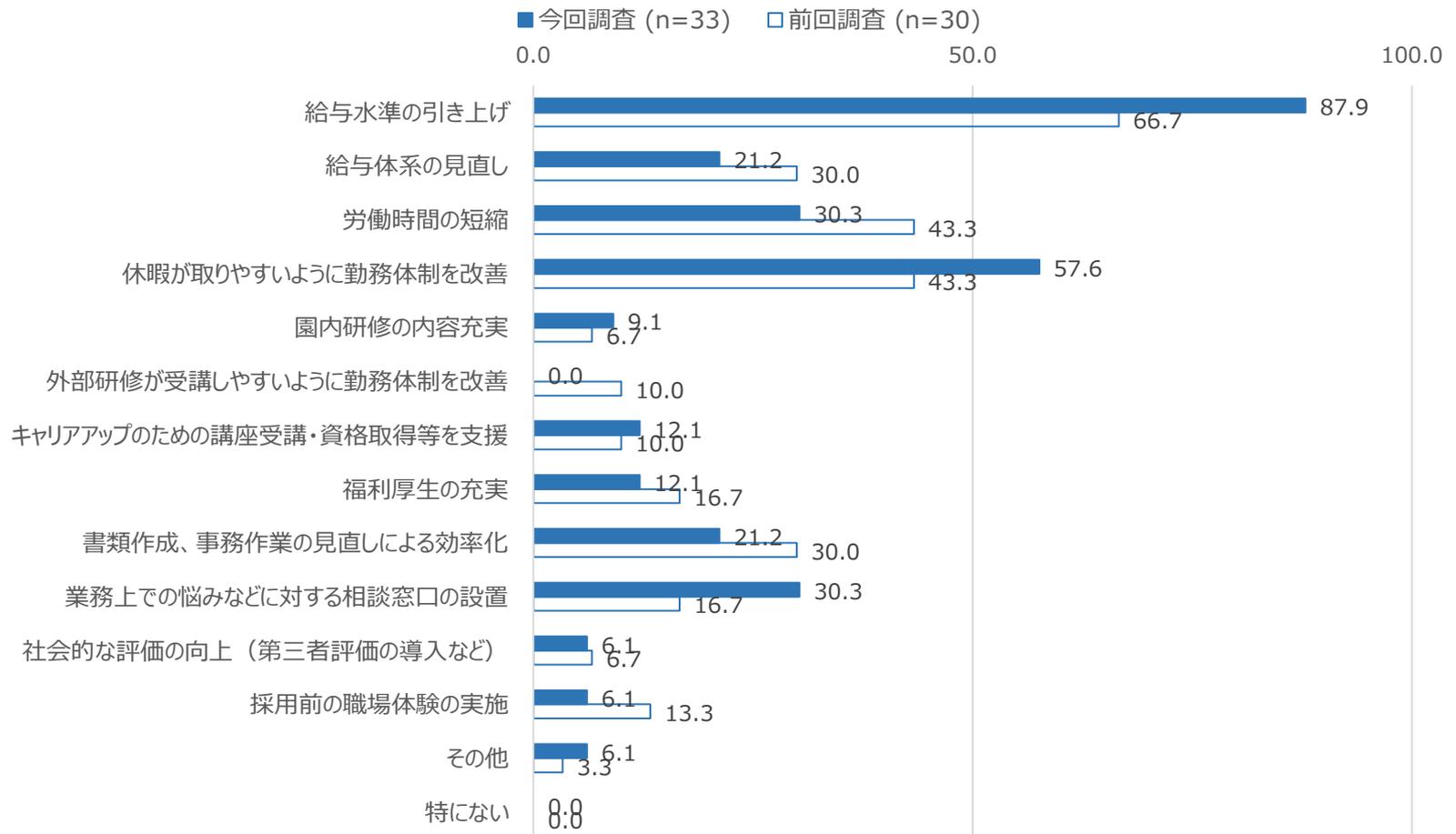
[2 - (2) 問5]
(前回調査からの追加項目)

保育士養成施設の状況⑤

◆大阪府域—学生が保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に就職して働き続けるために、施設が実施した方がよいと考えること（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「給与水準の引き上げ」「休暇が取りやすいように勤務体制を改善」「業務上での悩みなどに対する相談窓口の設置」の比率が高くなっている一方、「労働時間の短縮」「給与体系の見直し」「書類作成、事務作業の見直しによる効率化」の比率が低くなっています。

[学生が就職して働き続けるための保育所・幼稚園・認定こども園が実施した方がよいと考えること]

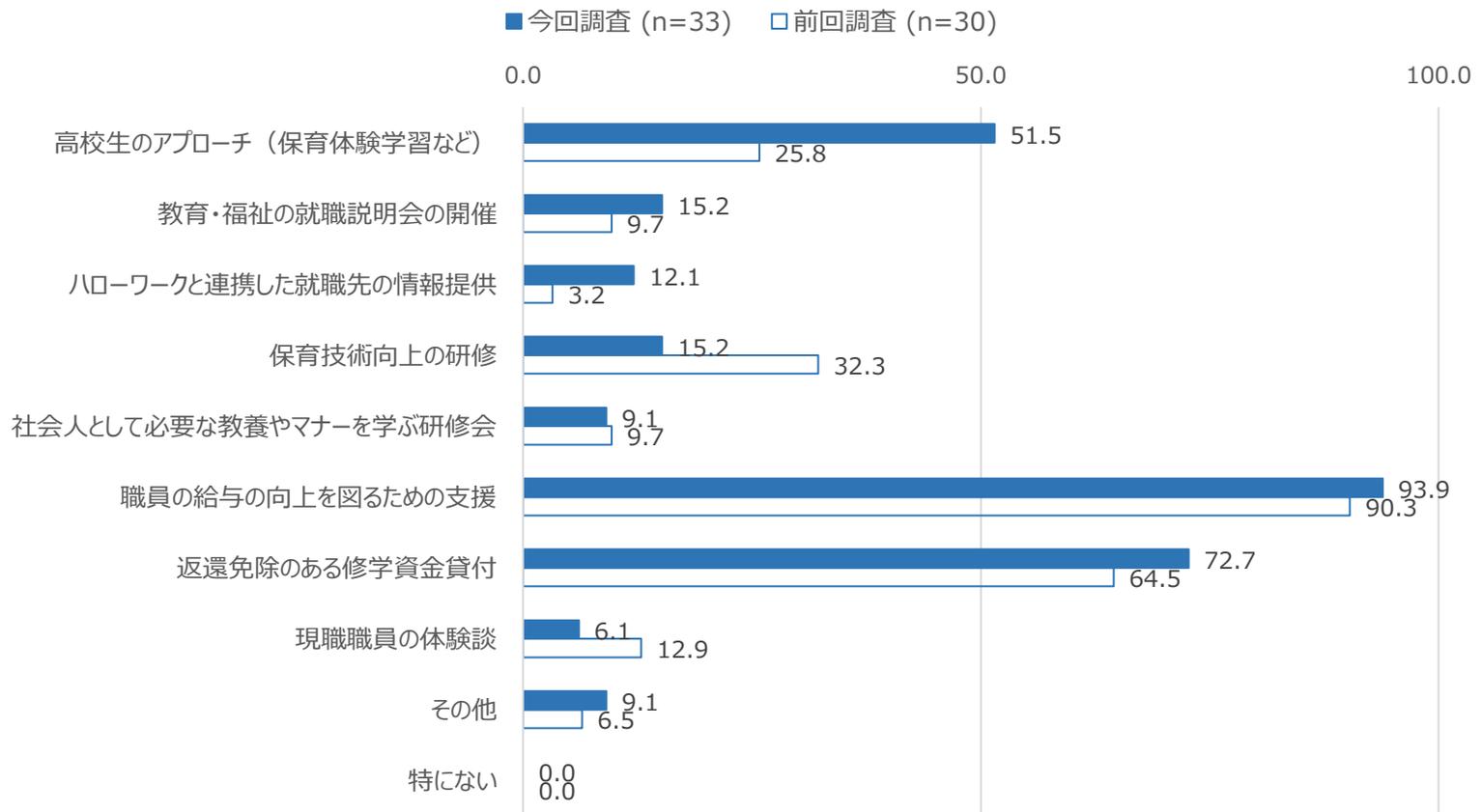


保育士養成施設の状況⑥

◆大阪府域一学生が保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関心を持ち、就職して働き続けるために行政等が実施した方がよいと考えること（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「高校生へのアプローチ（保育体験学習など）」「ハローワークと連携した就職先の情報提供」「返還免除のある修学資金貸付」「教育・福祉の就職説明会の開催」の比率が高くなっている一方、「保育技術向上の研修」「現職職員の体験談」の比率が低くなっています。

[学生が働き続けるための行政の支援]
(養成施設)

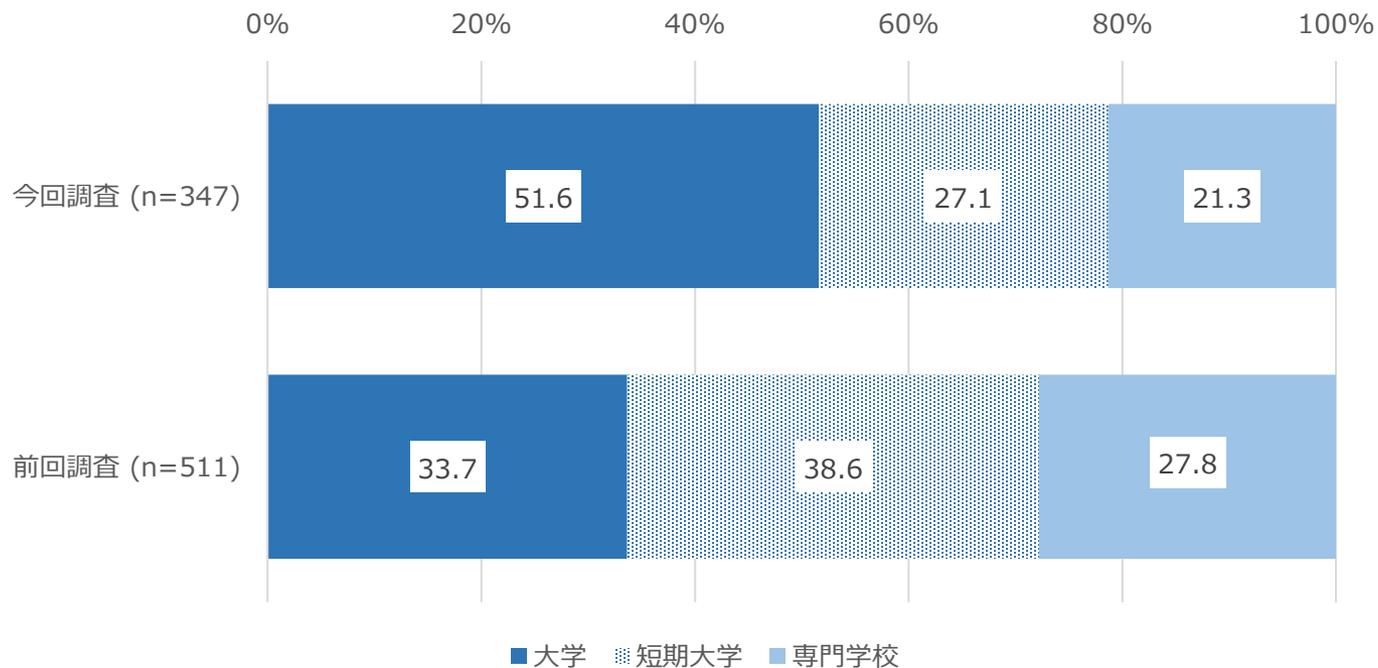


保育士等資格取得見込み者の動向①

◆大阪府域—現在通っている学校（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「大学」の比率が高くなっている一方、「短期大学」「専門学校」の比率が低くなっています。

[現在通っている学校]



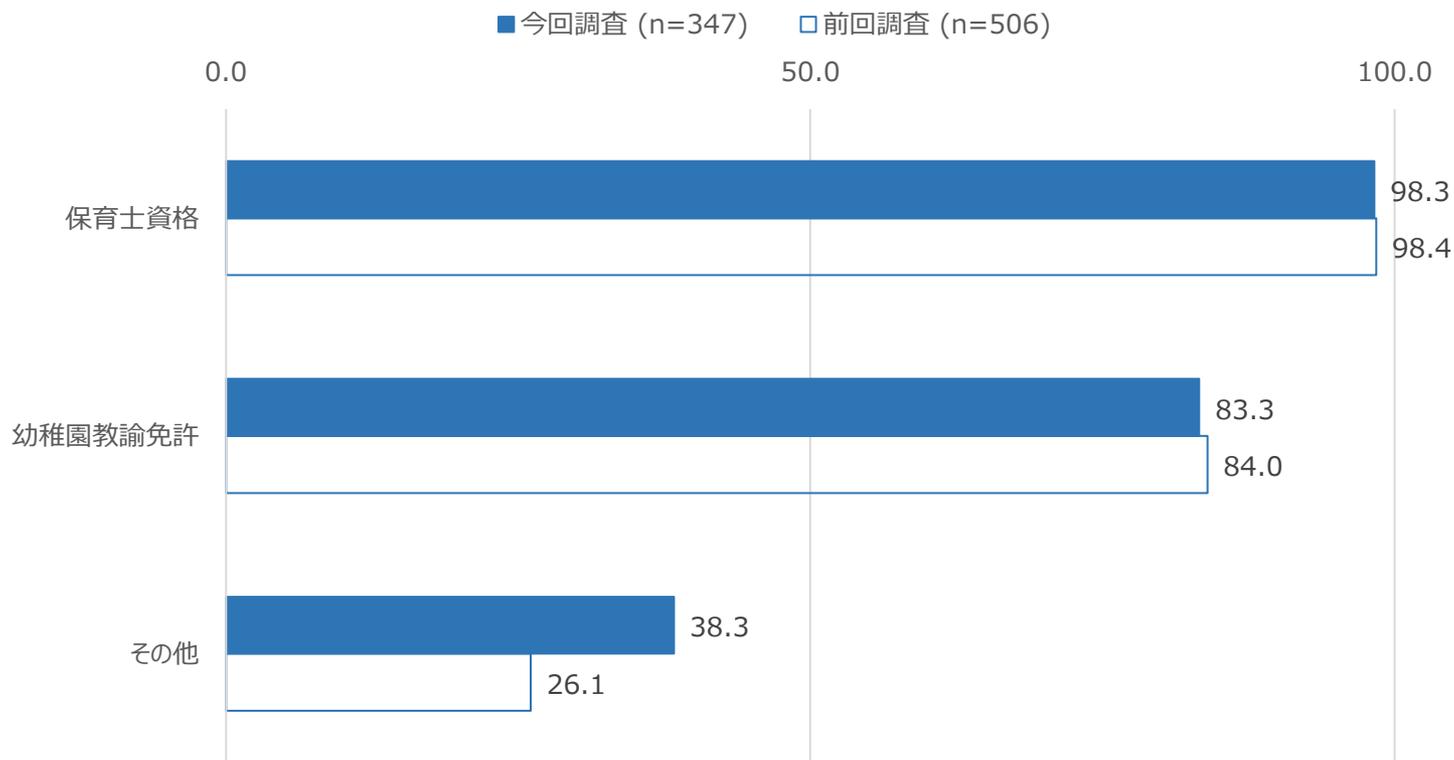
[2- (3) 問1-3]

保育士等資格取得見込み者の動向②

◆大阪府域—取得見込みの資格（前回調査との比較）

前回調査と同様、「保育士資格」の比率が最も高く、次いで「幼稚園教諭免許」の比率が高くなっています。

[取得見込みの資格]



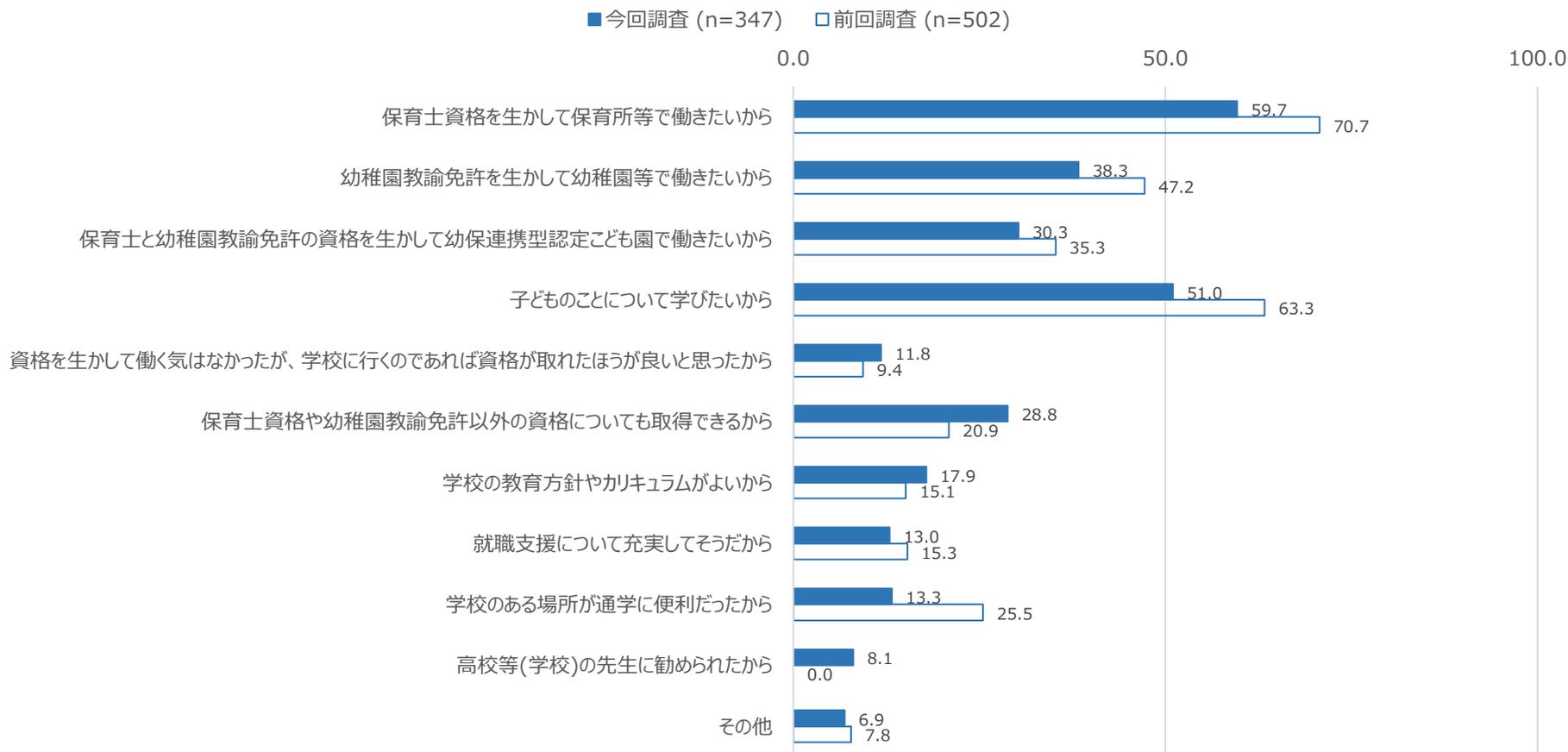
[2- (3) 問1-4]

保育士等資格取得見込み者の動向③

◆大阪府域—現在通っている学校への進学理由（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「保育士資格や幼稚園教諭免許以外の資格についても取得できるから」の比率が高くなっている一方、「子どものことについて学びたいから」「学校のある場所が通学に便利だったから」「保育士資格を生かして保育所等で働きたいから」「幼稚園教諭免許を生かして幼稚園等で働きたいから」の比率が低くなっています。

[進学理由]



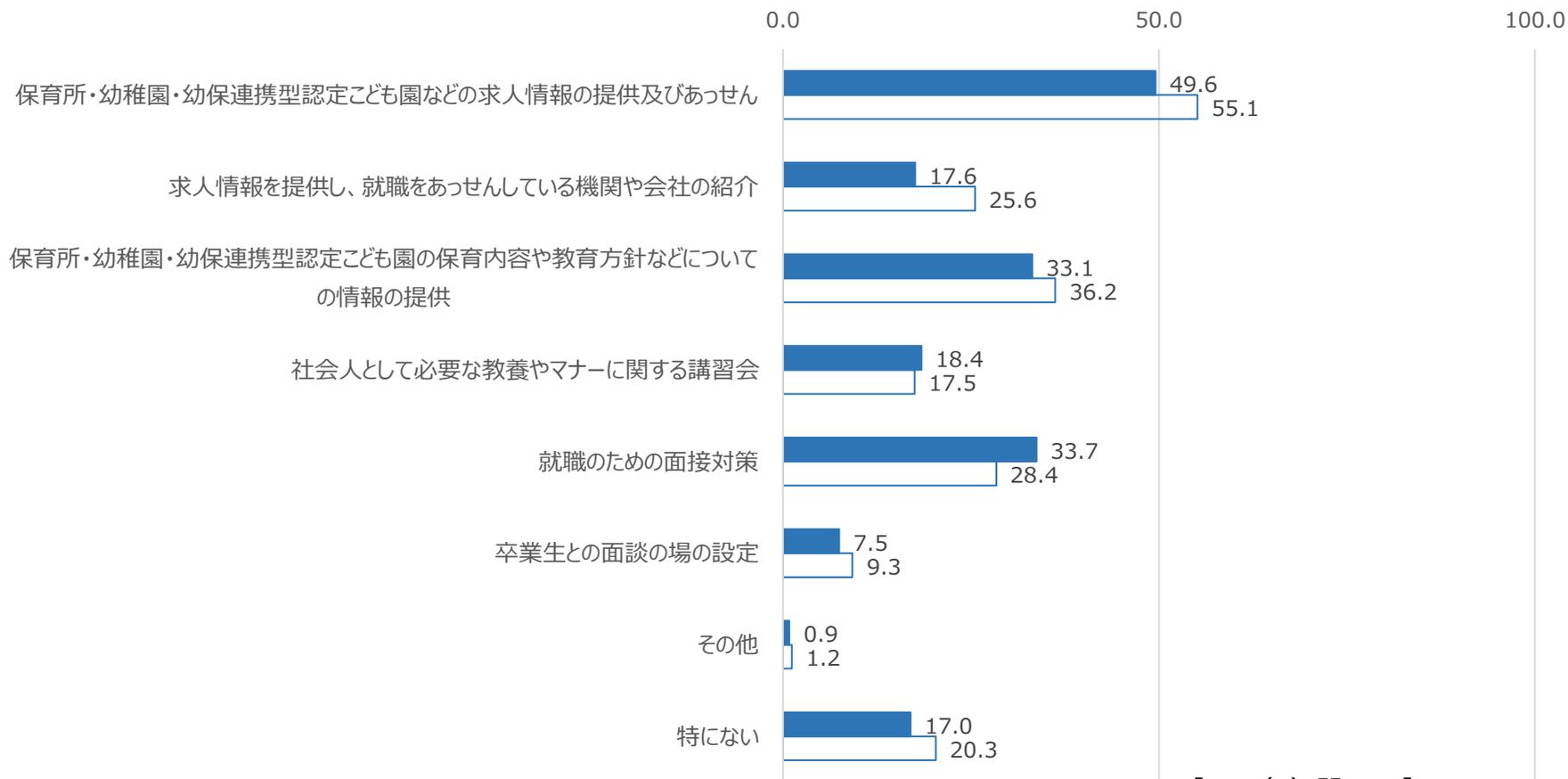
保育士等資格取得見込み者の動向④

◆大阪府域—就職において現在通っている学校に期待していたこと（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「就職のための面接対策」の比率が高くなっている一方、「求人情報を提供し、就職をあっせんしている機関や会社の紹介」「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などの求人情報の提供及びあっせん」の比率が低くなっています。

[就職において現在通っている学校に期待していたこと]

■ 今回調査 (n=347) □ 前回調査 (n=497)



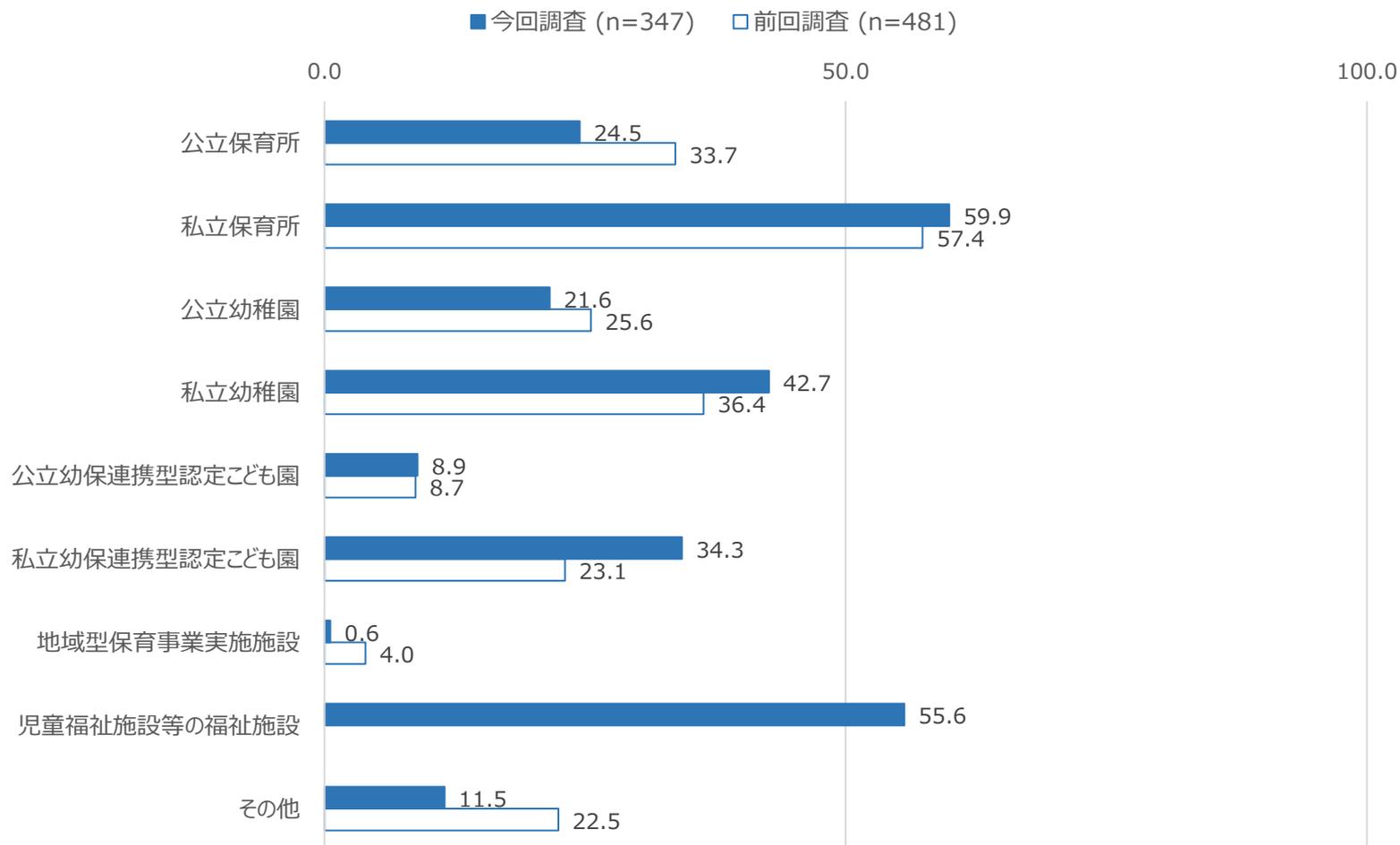
[2 - (3) 問2 - 2]

保育士等資格取得見込み者の動向⑤

◆大阪府域—実習に行った施設（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「児童福祉施設等の福祉施設」「私立幼保連携型認定こども園」「私立幼稚園」の比率が高くなっている一方、「公立保育所」「公立幼稚園」「地域型保育事業実施施設」の比率が低くなっています。

[実習に行った施設]

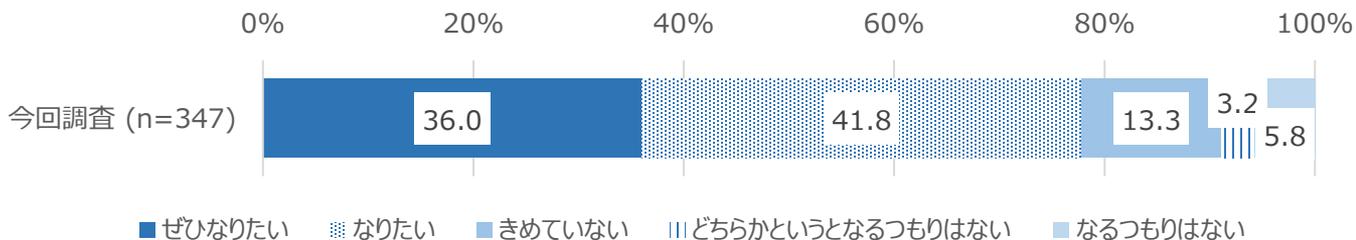


保育士等資格取得見込み者の動向⑥

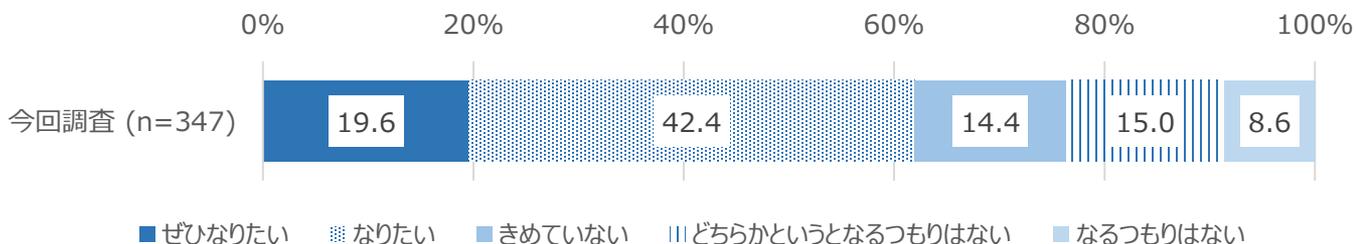
◆大阪府域一保育士・幼稚園教諭・保育教諭になりたいという気持ちの変化

入学時と比較すると、最初の実習に行った後「ぜひになりたい」と「なりたい」を合わせた比率は低くなっているが、最後の実習に行った後に一定程度回復するものの、最後の実習に行った後には、「どちらかというとなるつもりはない」と「なるつもりはない」を合わせた比率は高くなっています。

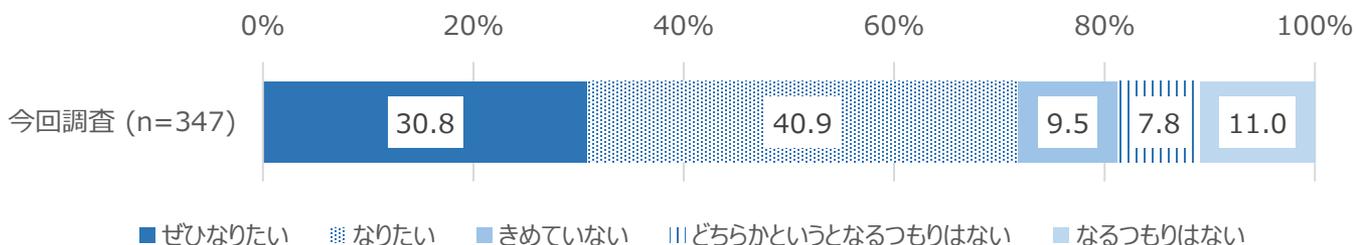
[保育士になりたいという気持ちの変化(入学時)]



[保育士になりたいという気持ちの変化(最初の実習に行った後)]



[保育士になりたいという気持ちの変化(最後の実習に行った後)]

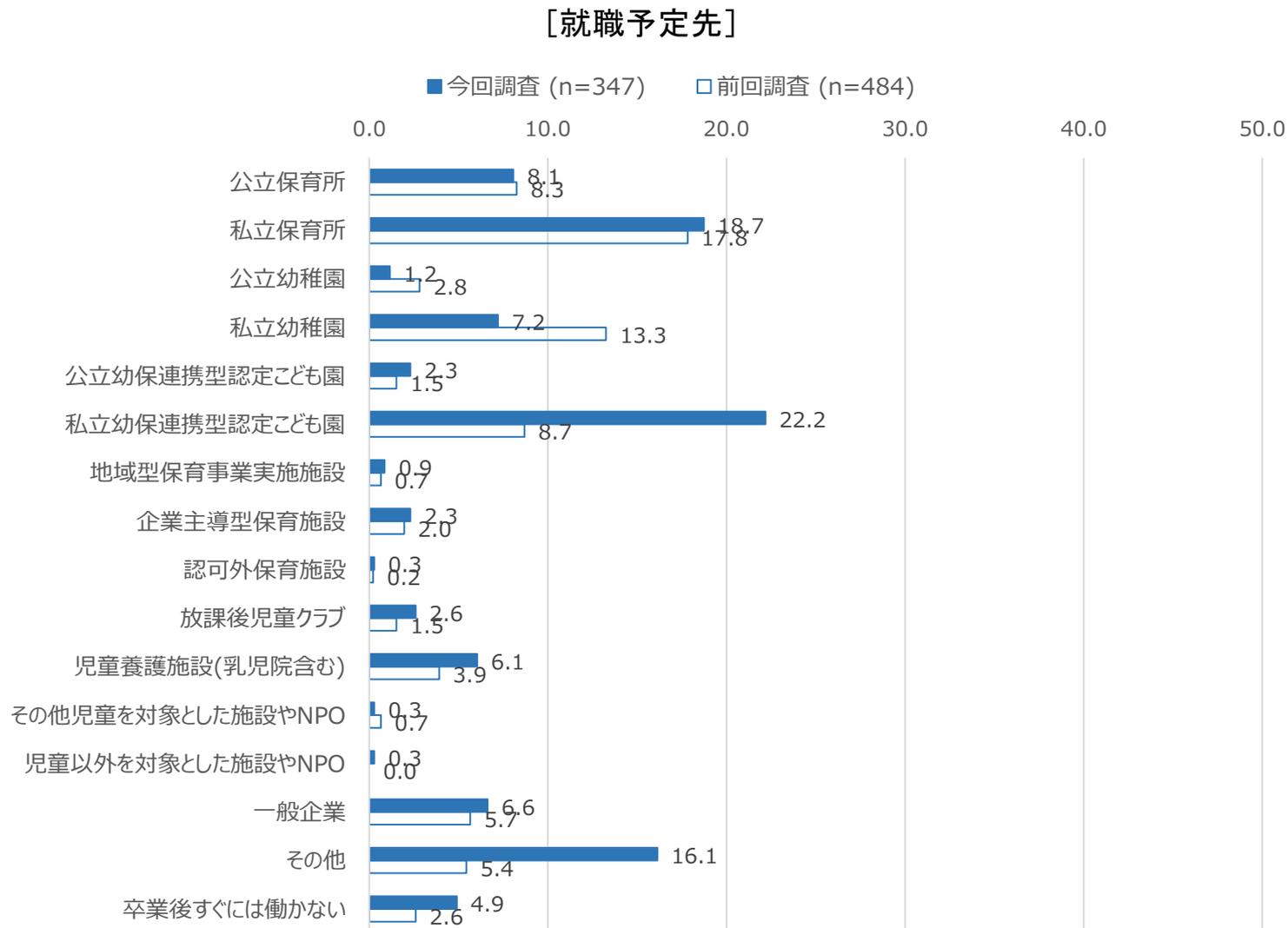


[2-(3)問3-7]
(前回調査からの追加項目)

保育士等資格取得見込み者の動向⑦

◆大阪府域—就職予定先（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「私立幼保連携型認定こども園」の比率が大幅に高くなっている一方、「私立幼稚園」の比率が低くなっています。



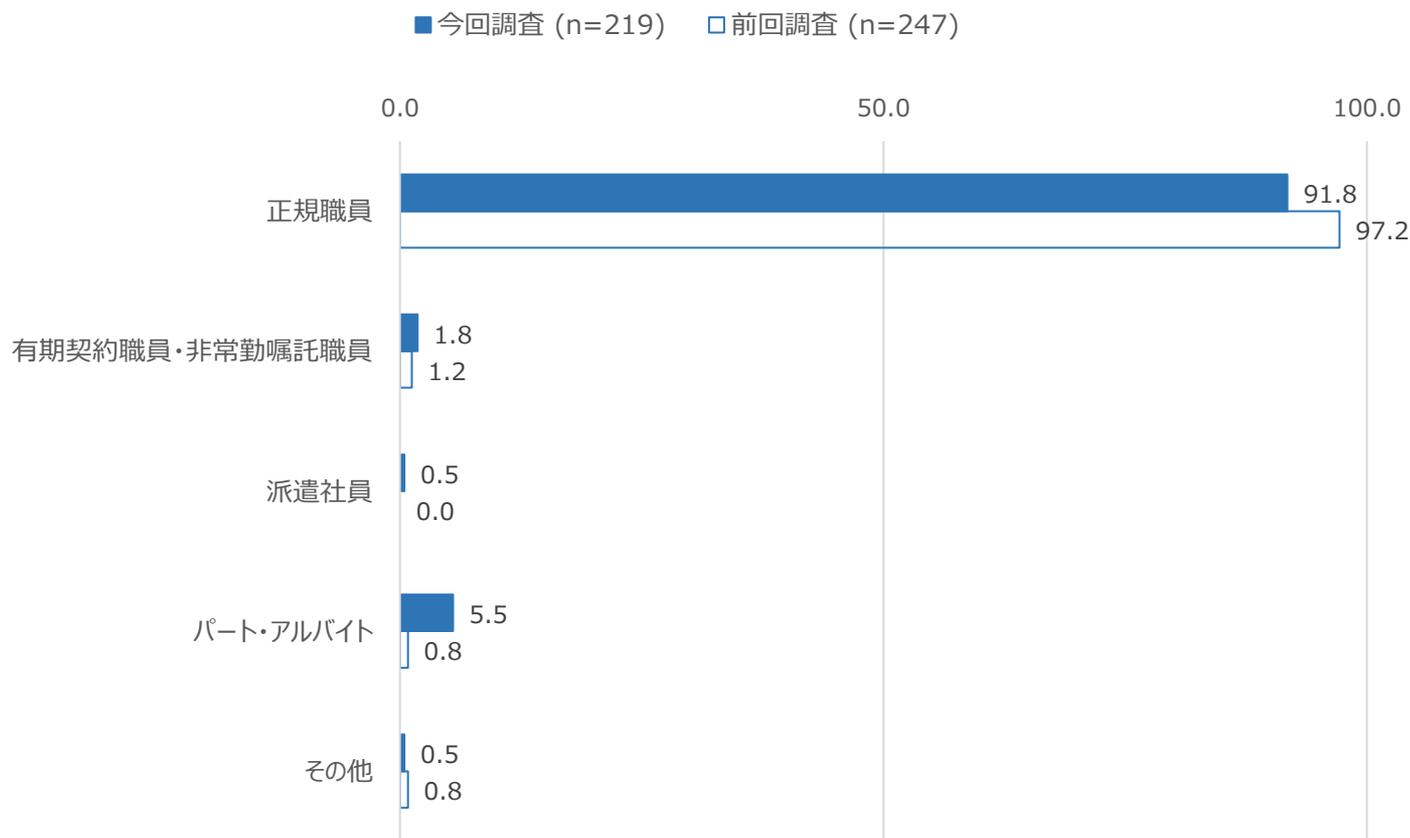
[2- (3) 問4]

保育士等資格取得見込み者の動向⑧

◆大阪府域—就職予定先での雇用形態 [保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「正規職員」の比率が若干低くなっており、「パート・アルバイト」の比率が若干高くなっています。

[就職予定先での雇用形態]
(保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人)



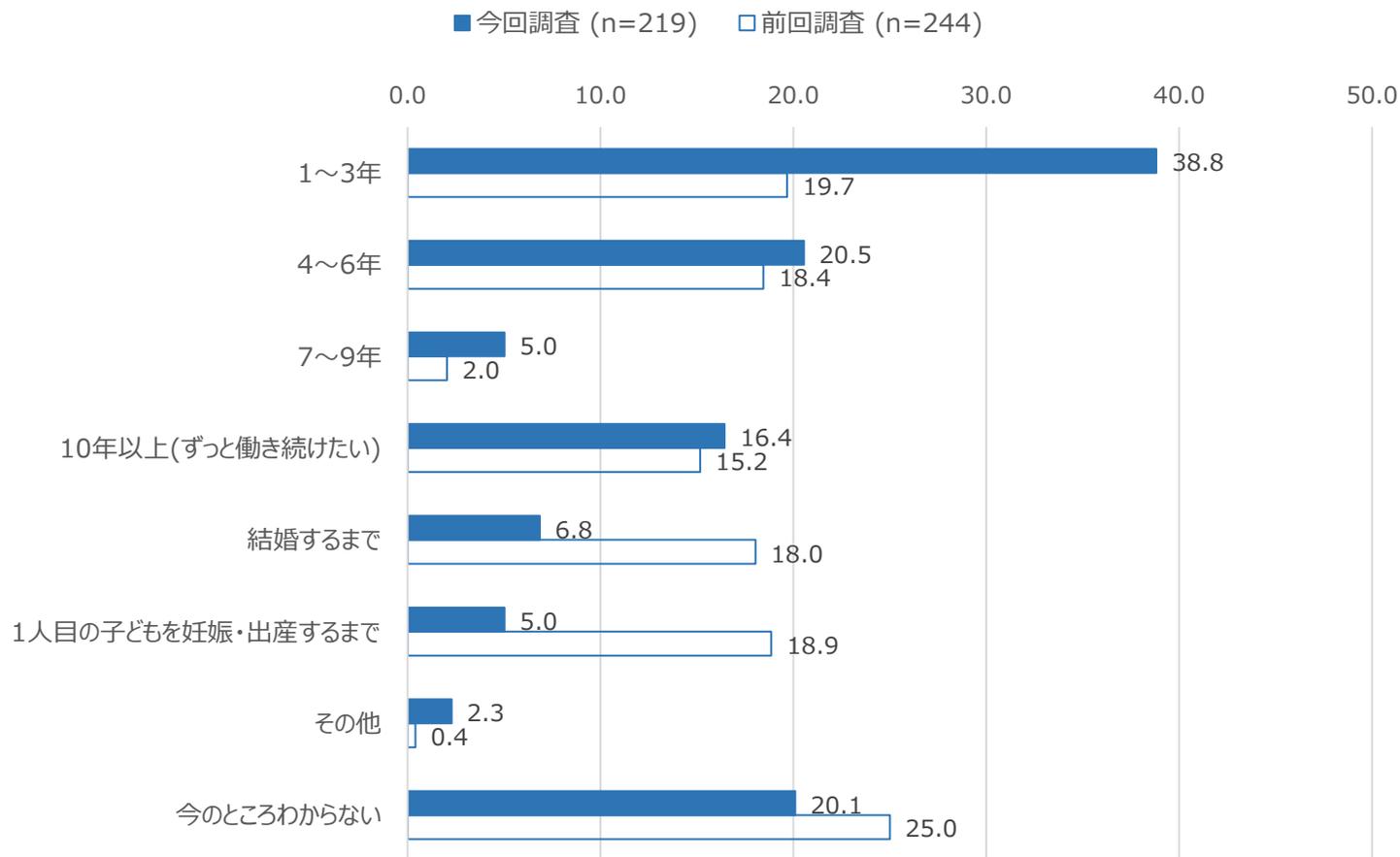
[2- (3) 問5-2]

保育士等資格取得見込み者の動向⑨

◆大阪府域—就職予定先でどの程度の期間働こうと考えているか〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「1～3年」の比率が大幅に高くなっている一方、「1人目の子どもを妊娠・出産するまで」「結婚するまで」の比率が大幅に低くなっています。

〔就職予定先でどの程度の期間働こうと考えているか〕
（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人）



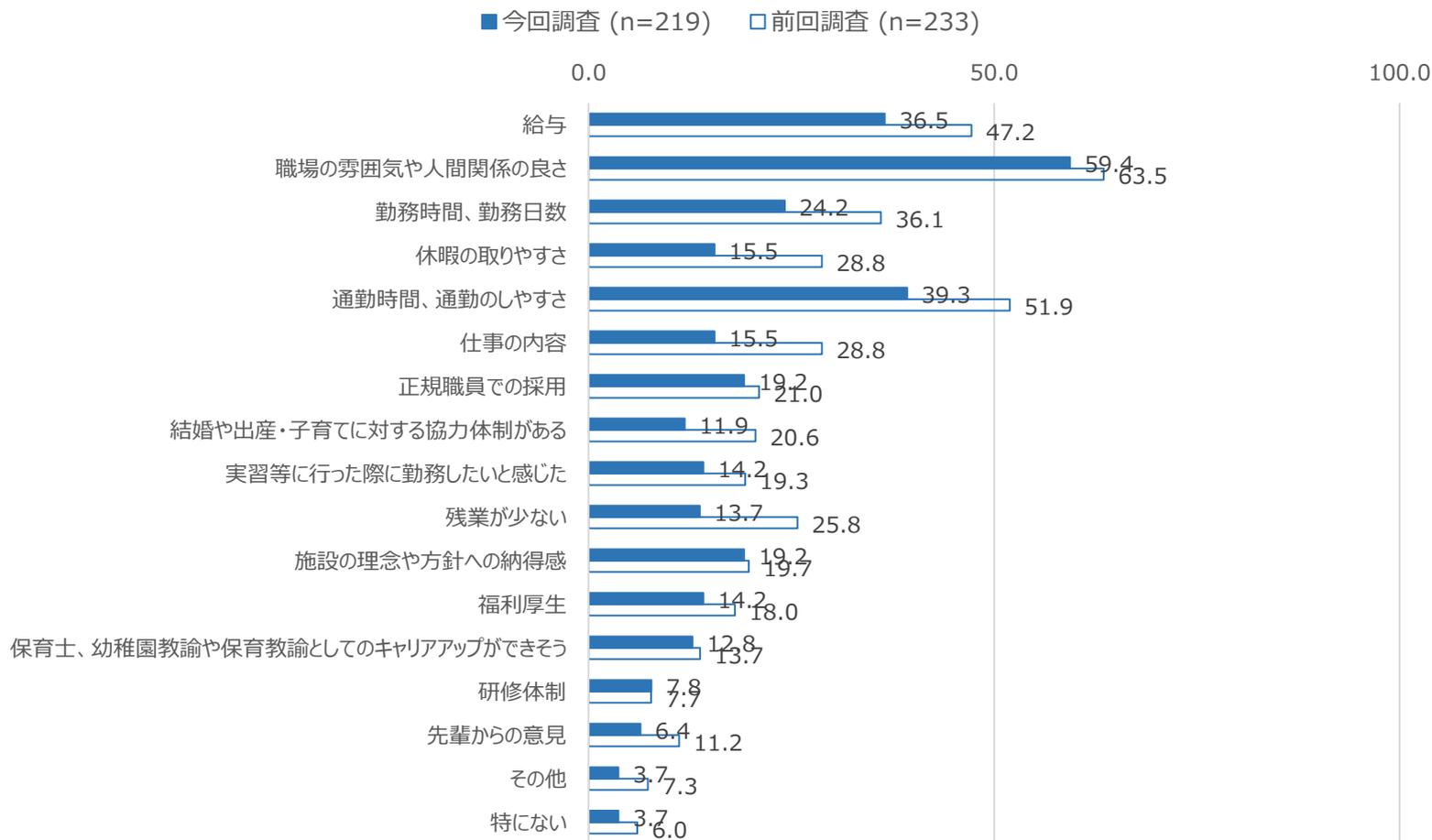
[2 - (3) 問5 - 3]

保育士等資格取得見込み者の動向⑩

◆大阪府域—就職予定先を決めた理由〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「休暇の取りやすさ」「仕事の内容」「通勤時間、通勤のしやすさ」「残業が少ない」「勤務時間、勤務日数」「給与」の比率が低くなっています。

〔就職予定先に決めた理由〕
（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人）

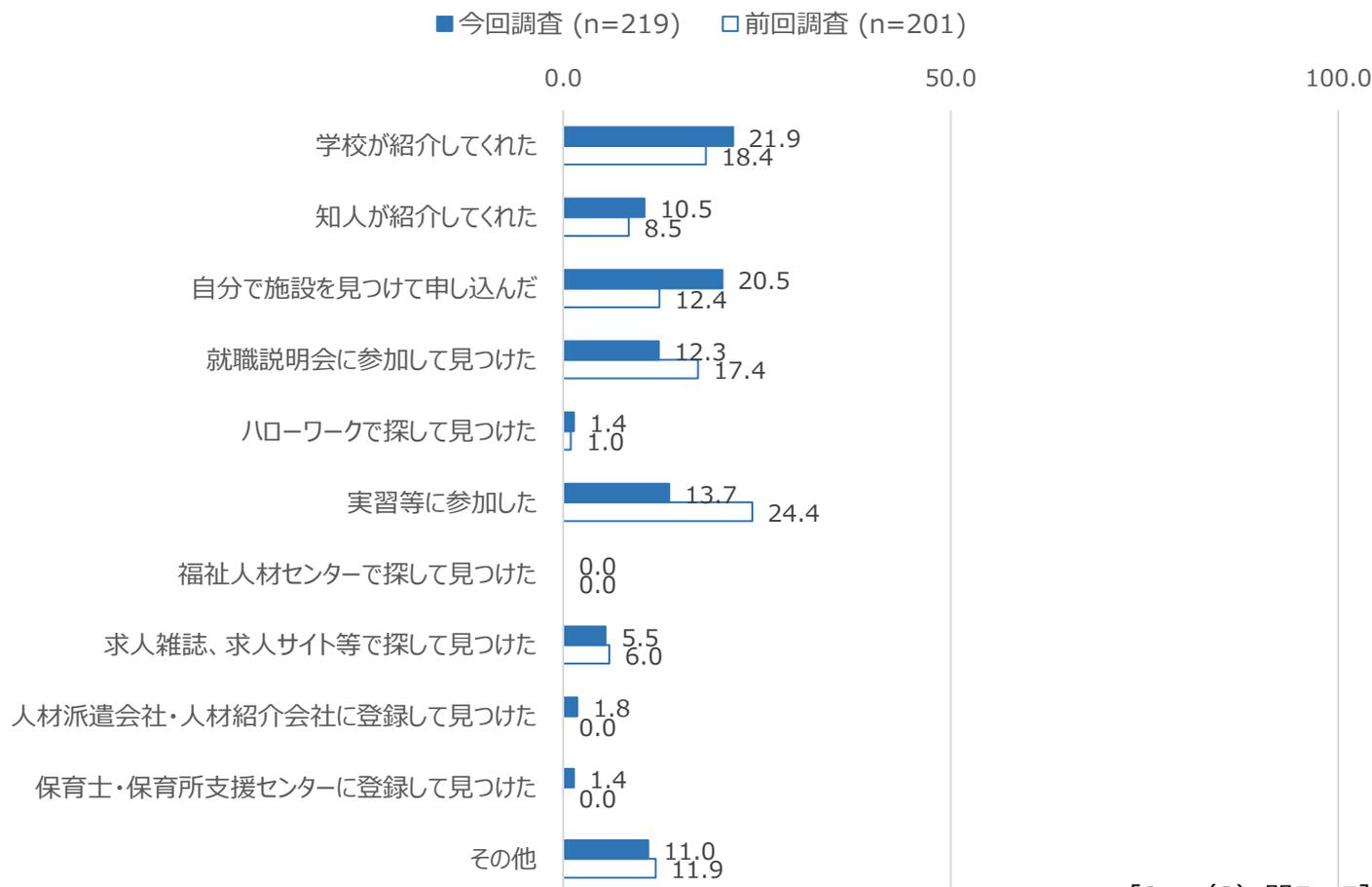


保育士等資格取得見込み者の動向⑪

◆大阪府域—就職予定先をどのようにして見つけたか〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「自分で施設を見つけて申し込んだ」「学校が紹介してくれた」の比率が高くなっている一方、「実習等に参加した」「就職説明会に参加して見つけた」の比率が低くなっています。

〔就職予定先をどのようにして見つけたか〕
（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人）



[2- (3) 問5-5]

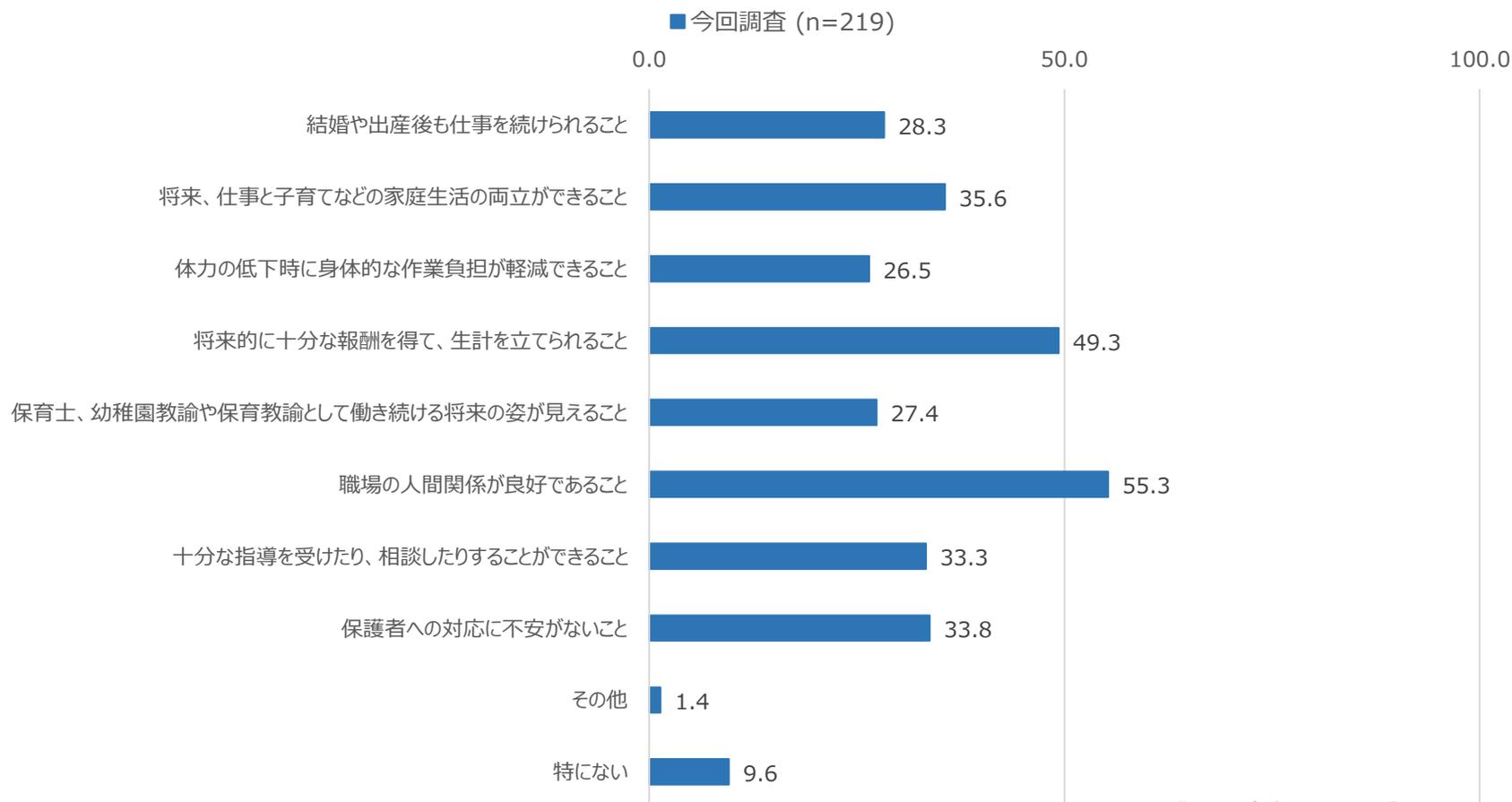
保育士等資格取得見込み者の動向⑫

◆大阪府域—今後保育士・幼稚園教諭・保育教諭として働き続けるにあたっての不安がある場合に希望すること [保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人]

「職場の人間関係が良好であること」の比率が最も高く、次いで「将来的な十分な報酬を得て、生計を立てられること」「将来、仕事と子育てなどの家庭生活の両立ができること」「保護者への対応に不安がないこと」「十分な指導を受けたり、相談したりすることができること」の比率が高くなっています。

[今後働き続けるにあたっての不安がある場合に希望すること]

(保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人)

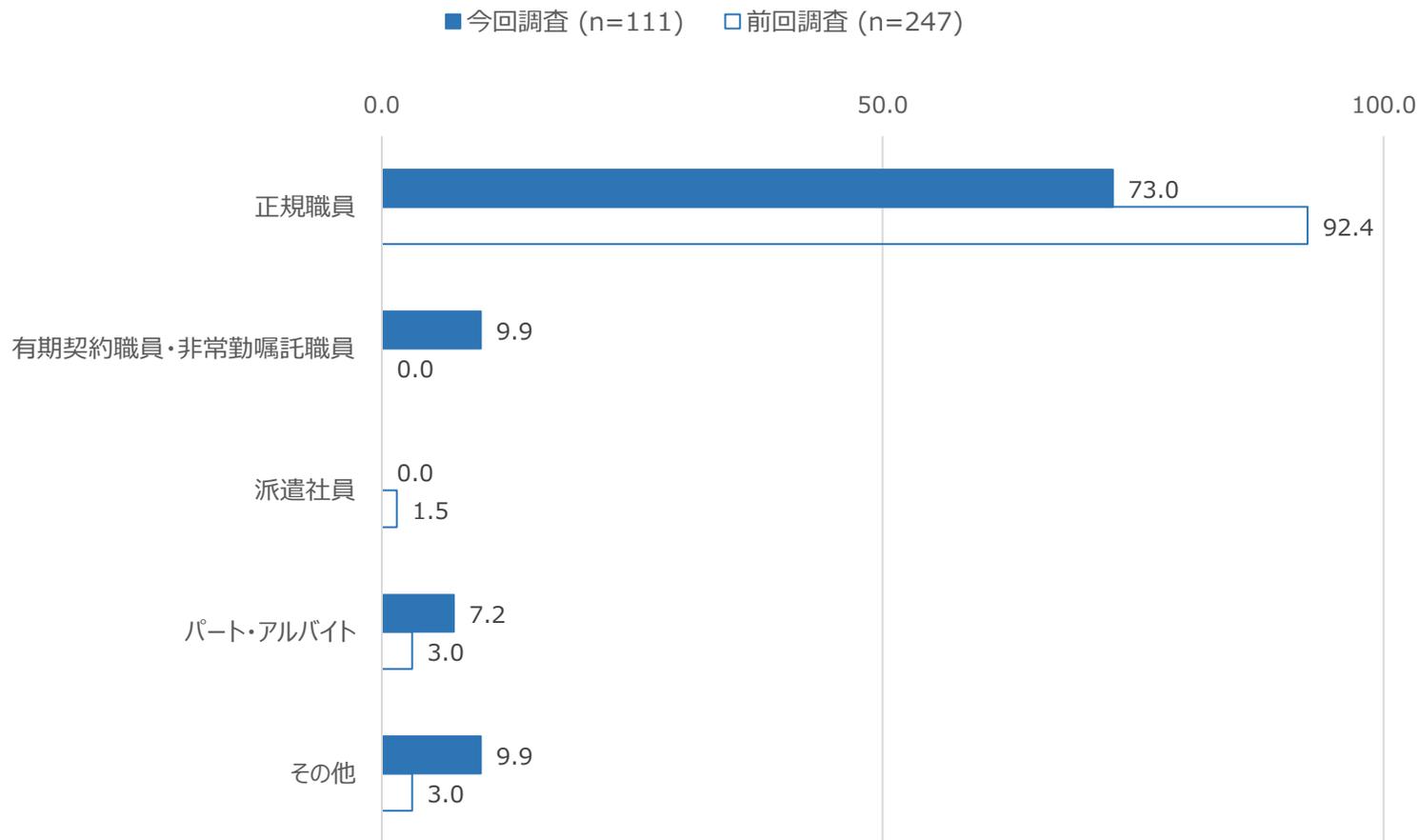


[2- (3) 問5-7]
(前回調査からの追加項目)

保育士等資格取得見込み者の動向⑬

◆大阪府域—就職予定先での雇用形態 [保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等以外を就職予定先としている人]
(前回調査との比較)
前回調査と比較すると、「正規職員」の比率が低くなっており、「有期契約職員・非常勤嘱託職員」「パート・アルバイト」の比率が高くなっています。

[就職予定先での雇用形態]
(保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等以外を就職予定先としている人)

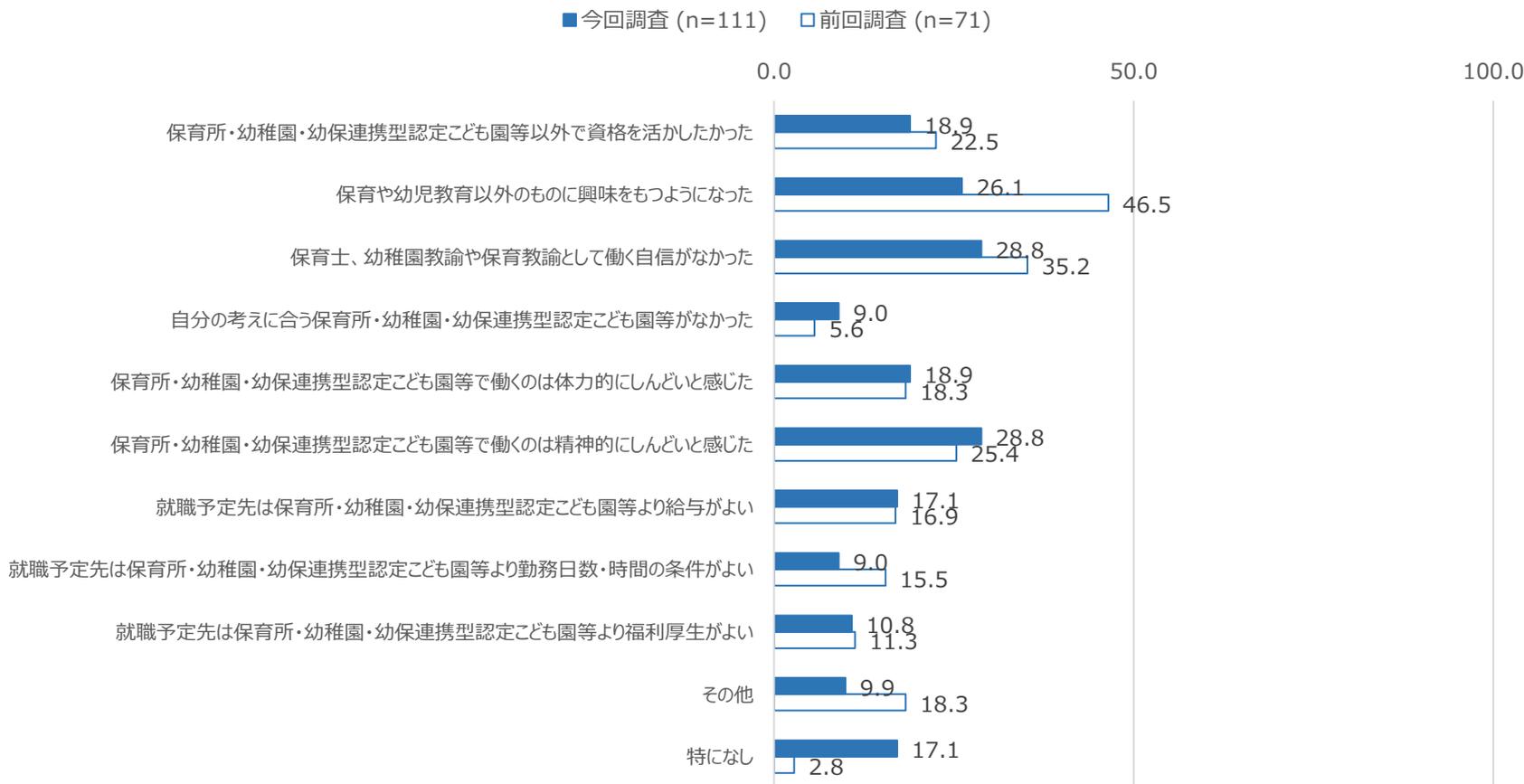


保育士等資格取得見込み者の動向⑭

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園を就職予定先としなかった理由〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等以外を就職予定先としている人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「特になし」「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働くのは精神的にしんどいと感じた」の比率が高くなっている一方、「保育や幼児教育以外のものに興味をもつようになった」「保育士、幼稚園教諭や保育教諭として働く自信がなかった」「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等以外で資格を活かしたかった」の比率が低くなっています。

〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園を就職予定先としなかった理由〕
（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等以外を就職予定先としている人）

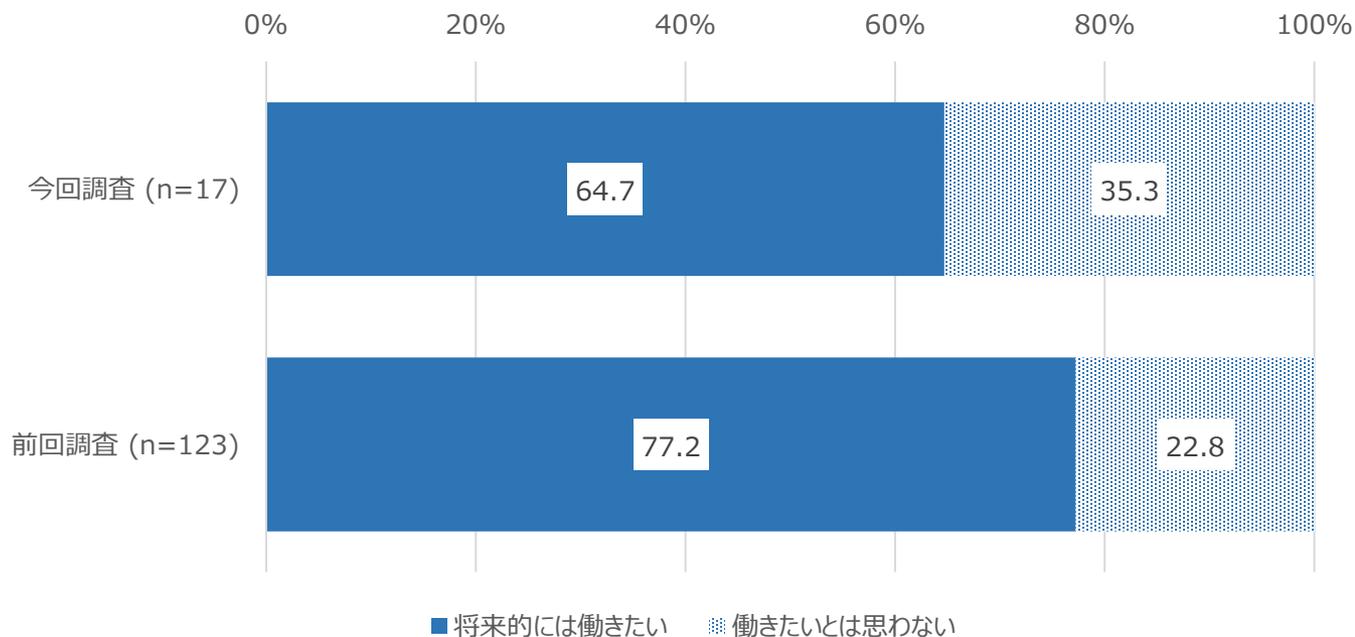


保育士等資格取得見込み者の動向⑮

◆大阪府域ー将来的に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働きたいと思うか〔就職活動中の人・就職予定のない人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「働きたいとは思わない」の比率が高くなっている一方、「将来的には働きたい」の比率が低くなっています。

[将来的に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働きたいと思うか]
(就職活動中の人・就職予定のない人)



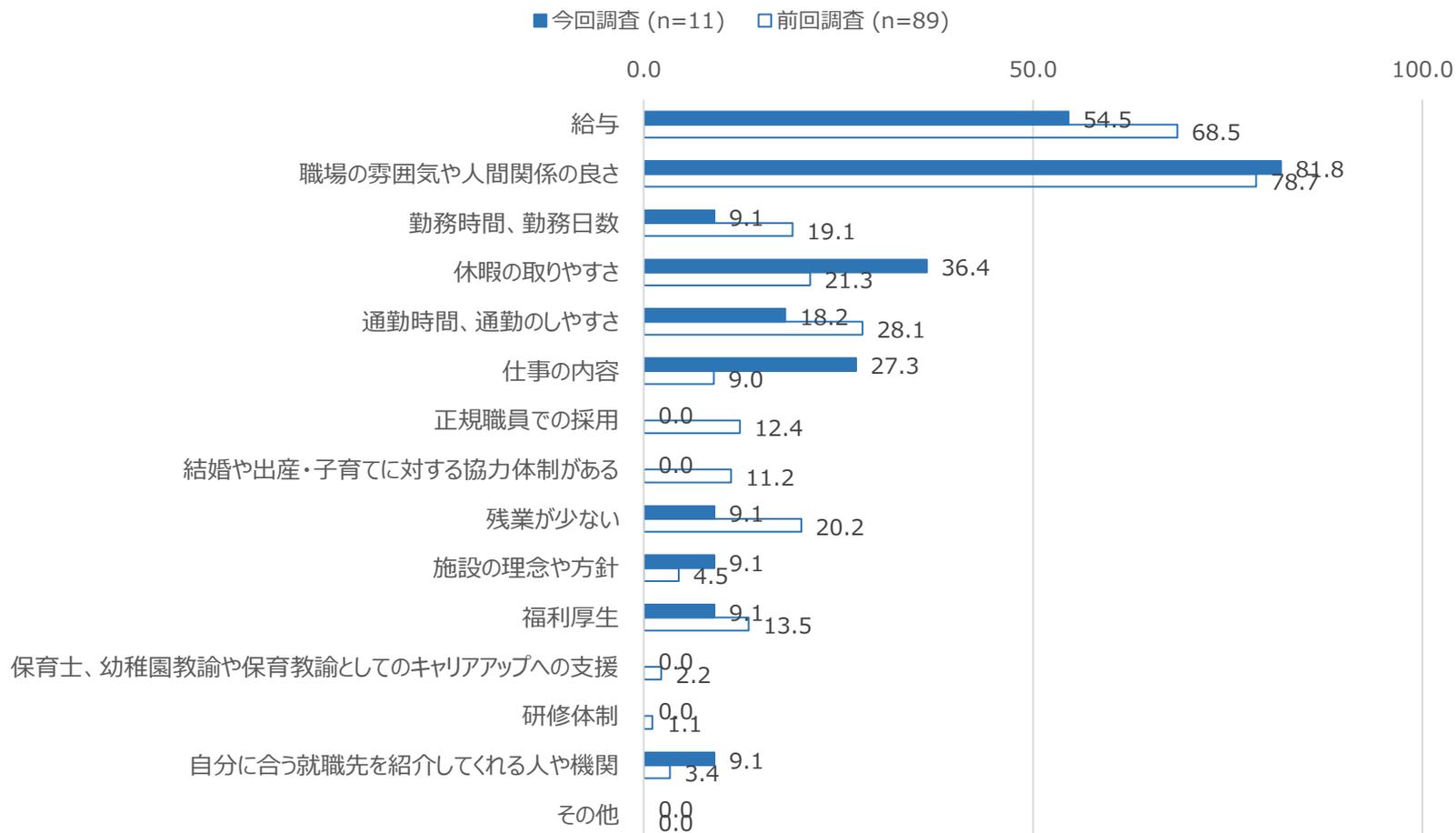
[2- (3) 問7-1]

保育士等資格取得見込み者の動向⑬

◆大阪府域一どのような条件が合えば働きたいと思うか〔就職活動中の人・就職予定のない人〕（前回調査との比較）
 前回調査と比較すると、「仕事の内容」「休暇の取りやすさ」「自分に合う就職先を紹介してくれる人や機関」の比率が高くなっている一方、「給与」「正規職員での採用」「結婚や子育てに対する協力体制がある」「残業が少ない」「勤務時間、勤務日数」「通勤時間、通勤のしやすさ」の比率が低くなっています。

〔どのような条件が合えば働きたいと思うか〕

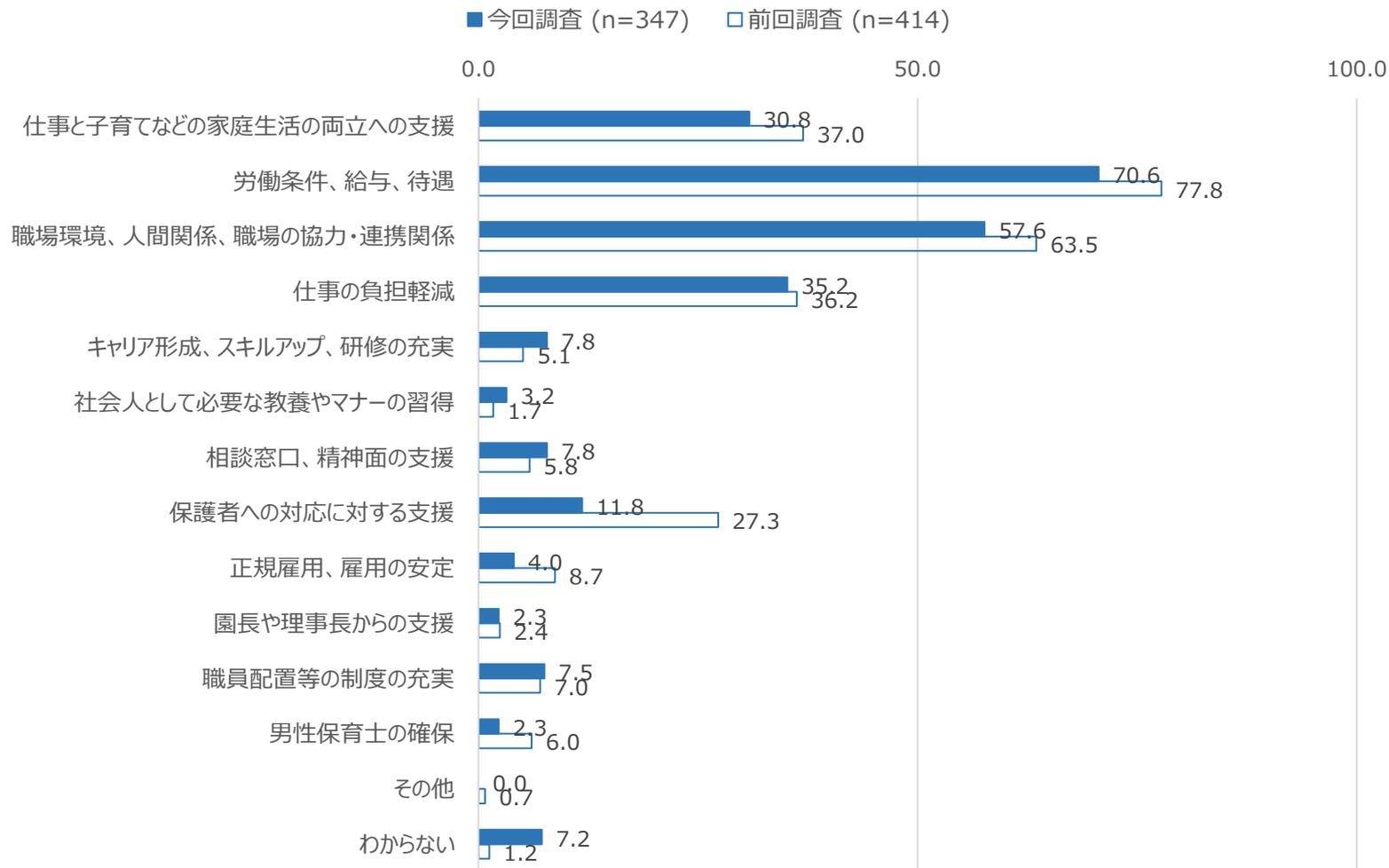
（就職活動中の人・就職予定のない人）



保育士等資格取得見込み者の動向⑰

◆大阪府域一保育士・幼稚園教諭・保育教諭として働き続けるために必要と考えられる支援・課題（前回調査との比較）
 前回調査と同様、「労働条件、給与、待遇」「職場環境、人間関係、職場の協力・連携関係」「仕事の負担軽減」「仕事と子育てなどの家庭生活の両立への支援」の比率が高くなっている一方、前回調査と比較すると、「保護者への対応に対する支援」の比率が大幅に低くなっています。

〔保育士・幼稚園教諭・保育教諭として働き続けるために必要と考えられる支援・課題〕

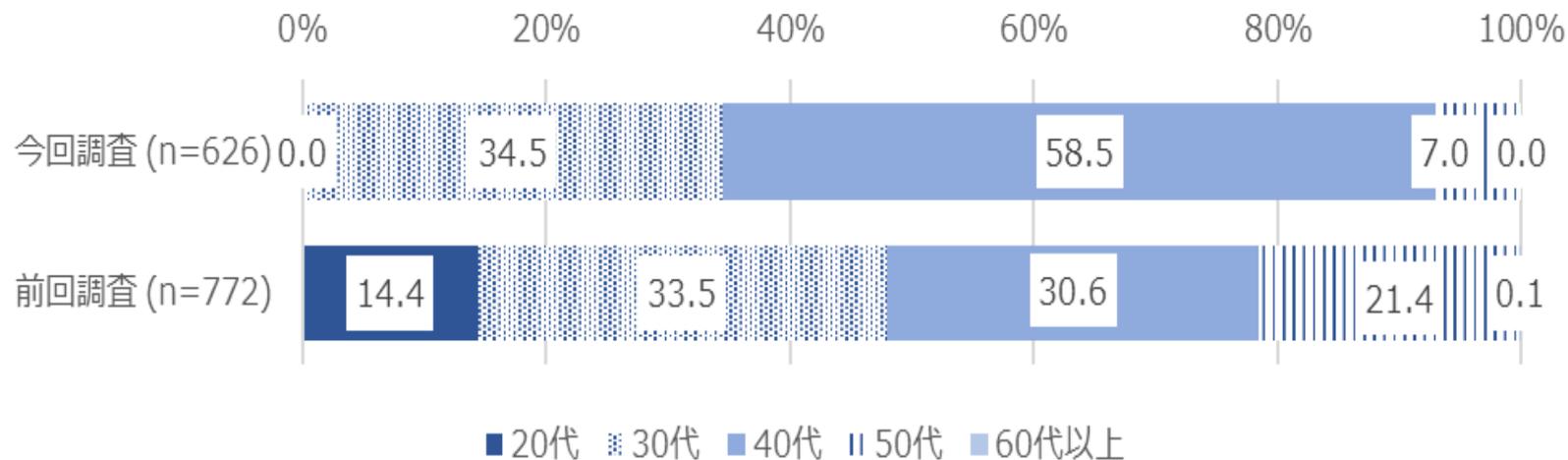


保育士登録者の状況①

◆大阪府域一保育士登録者の年齢

今回の調査においては、大阪府内の保育士登録者のうち30～40代を調査対象としたため、年齢構成は30代が34.5%、40代が58.5%となっています。

[保育士登録者の年齢]



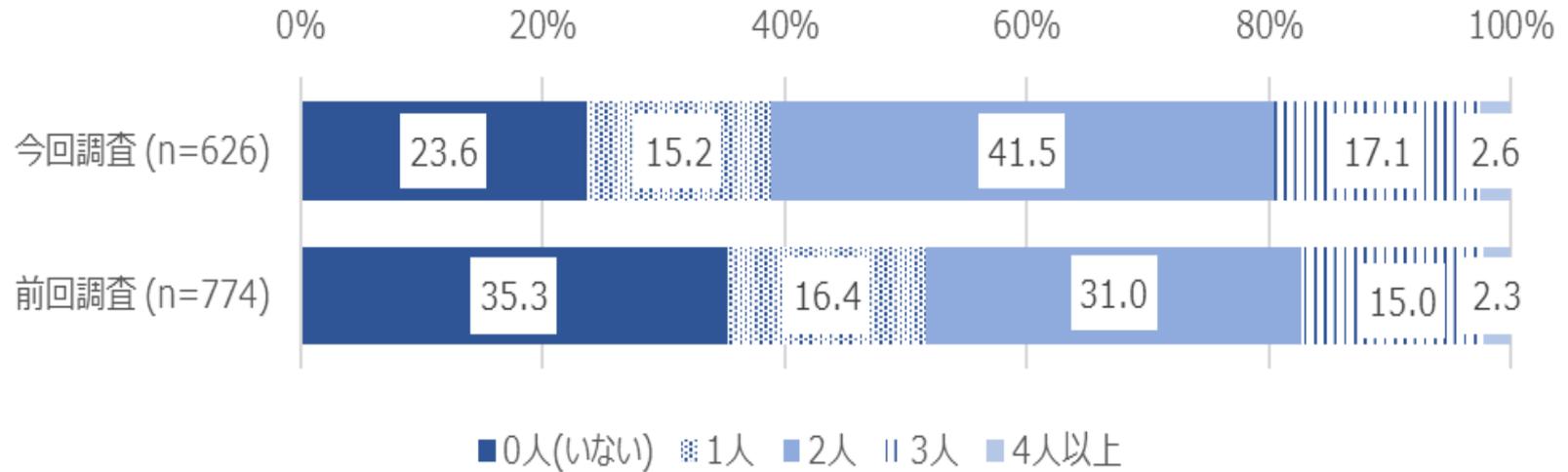
[2 - (4) 問1 - 3]

保育士登録者の状況②

◆大阪府域—保育士登録者の子どもの状況

保育士登録者の子どもの状況は、「2人」が41.5%、「3人」が17.1%、「4人以上」が2.6%となっています。

[保育士登録者の子どもの状況]



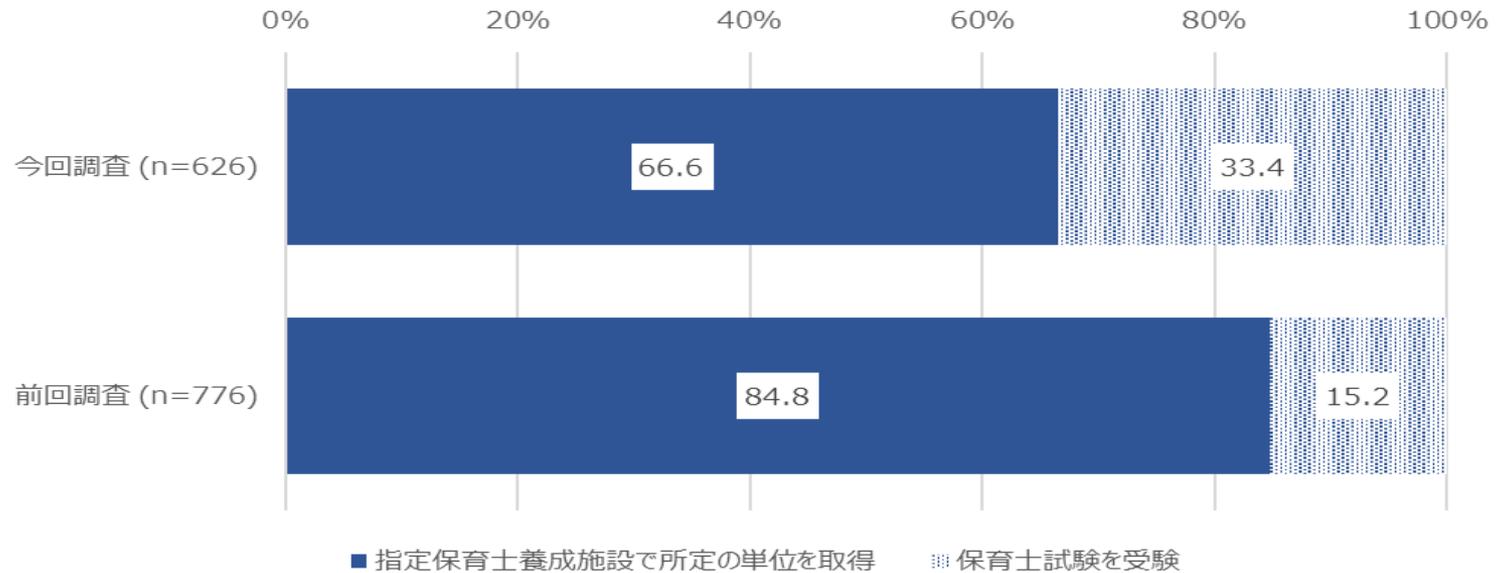
[2- (4) 問1-4]

保育士登録者の状況③

◆大阪府域一保育士資格の取得方法（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「保育士試験を受験」の比率が高くなっており、「指定保育士養成施設で所定の単位を取得」の比率が低くなっています。

[保育士資格の取得方法]



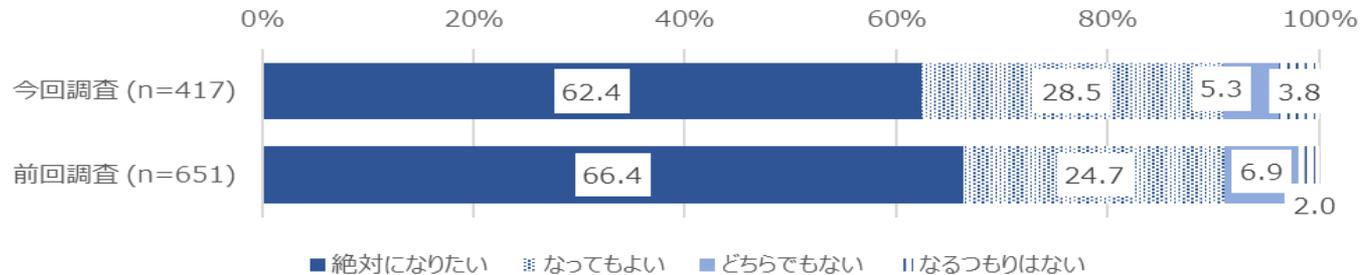
[2- (4) 問2-1]

保育士登録者の状況④

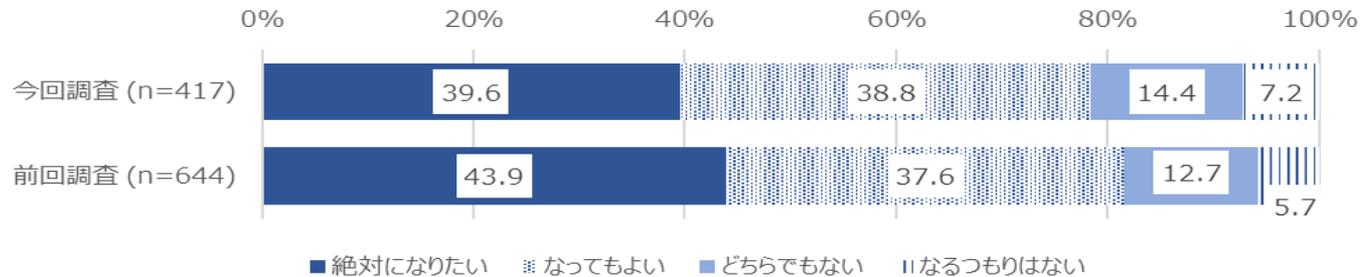
◆大阪府域一保育士養成施設在籍時における保育士になりたいという気持ちの変化（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、入学時・最初に実習に行った後・最後の実習に行った後いずれも「絶対になりたい」の比率が低くなっており、気持ちの変化は前回調査と同様の傾向となっています。

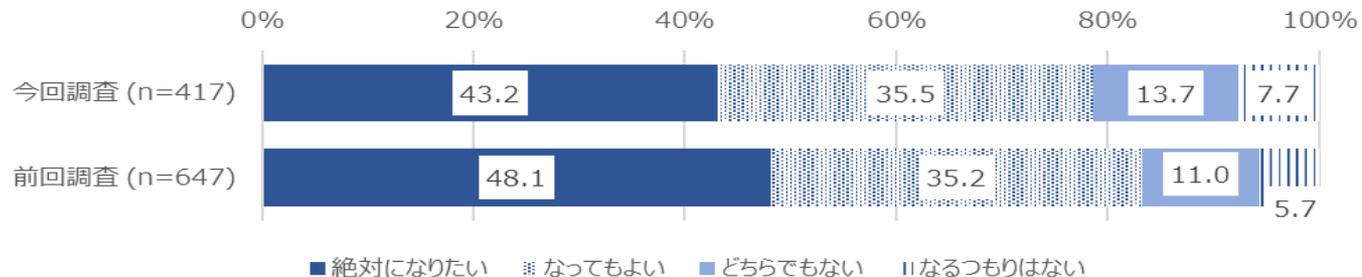
[保育士になりたいという気持ちの変化(入学時)]



[保育士になりたいという気持ちの変化(最初に実習に行った後)]



[保育士になりたいという気持ちの変化(最後の実習に行った後)]

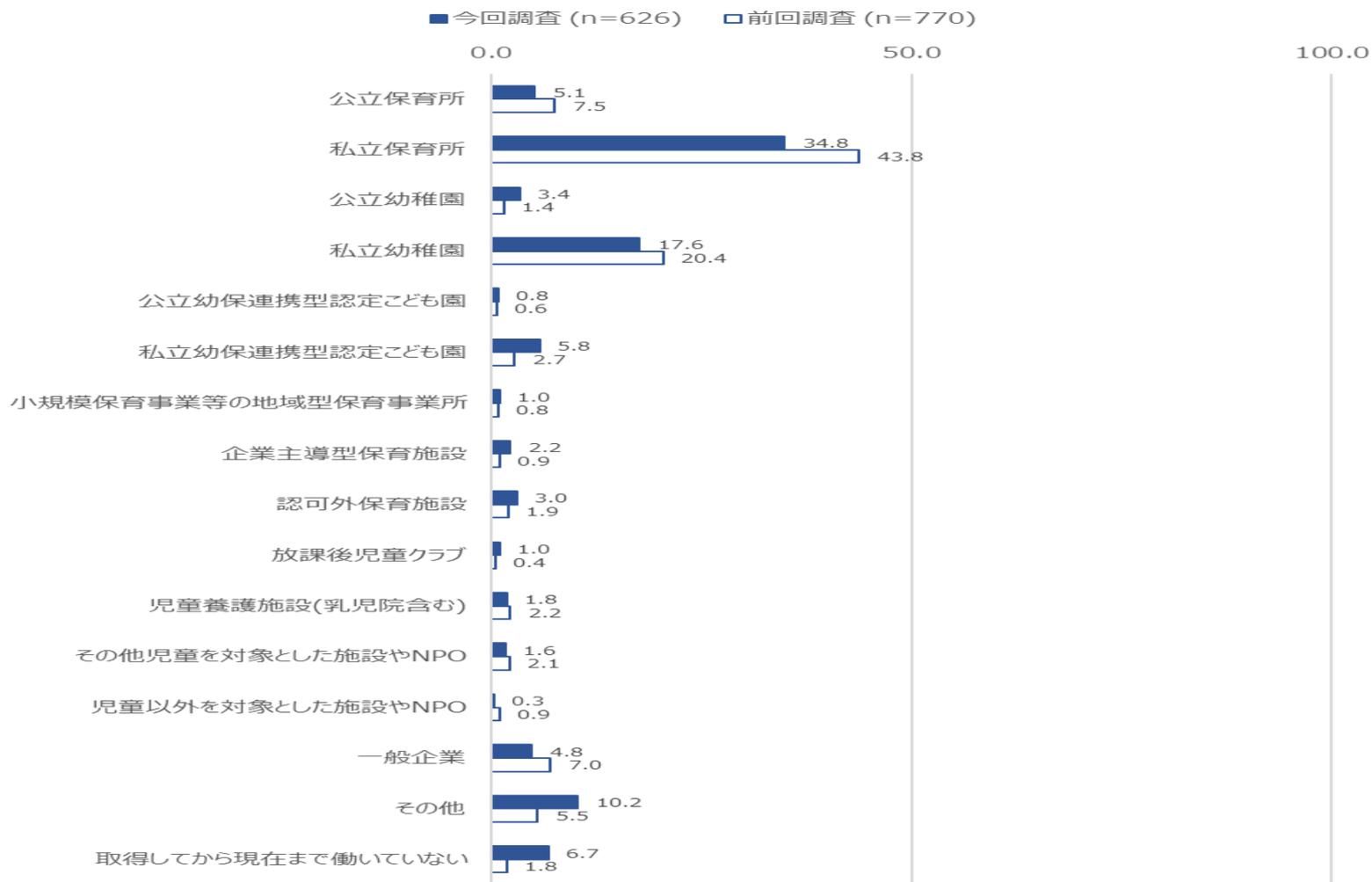


保育士登録者の状況⑤

◆大阪府域—最初の就職先（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「私立保育所」の比率が低くなっている一方、「取得してから現在まで働いていない」の比率が高くなっています。

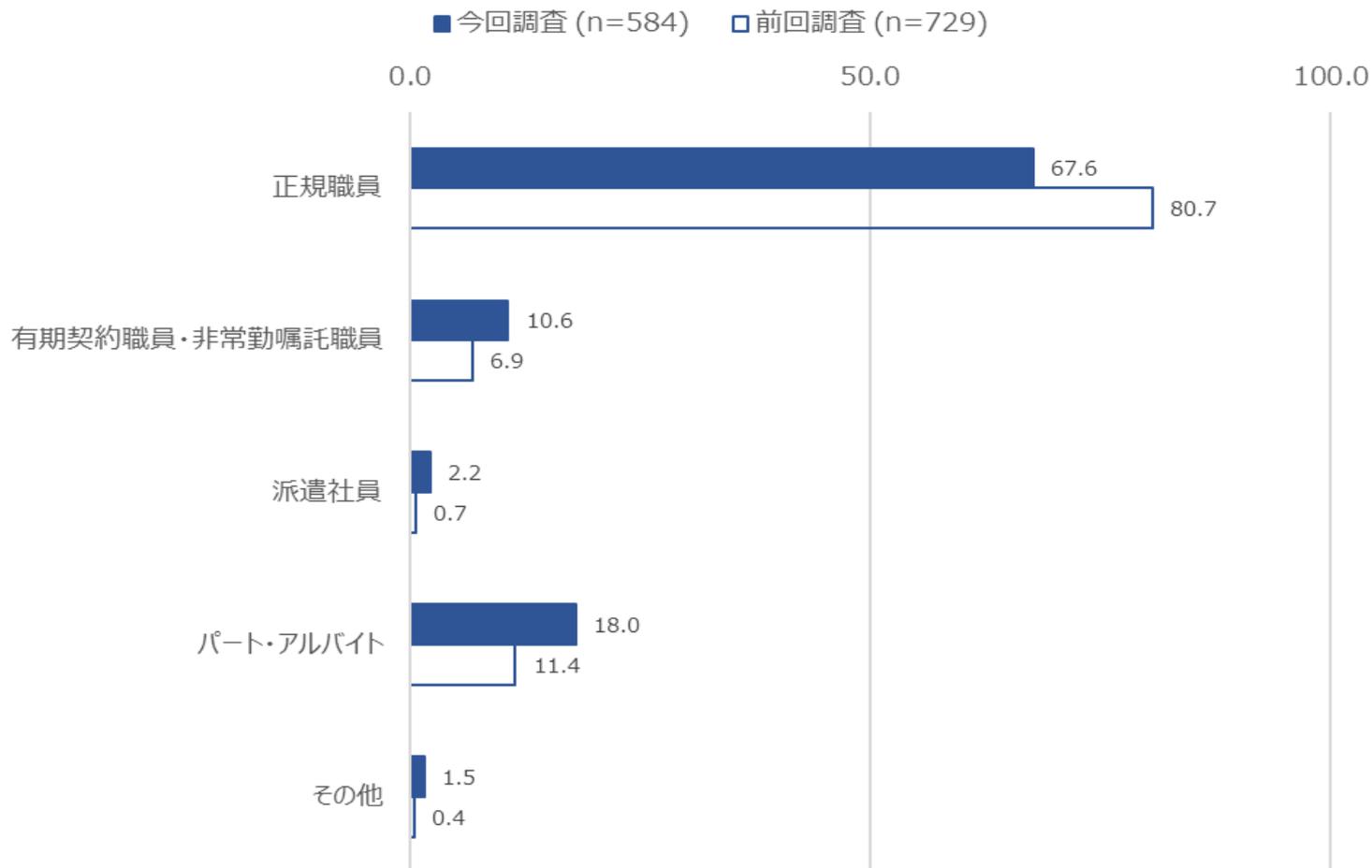
[最初の就職先]



保育士登録者の状況⑥

◆大阪府域—最初の就職先での雇用形態 [資格を取得してから現在まで働いていない以外を回答した人] (前回調査との比較)
前回調査と比較すると、「正規職員」の比率が低くなっており、「パート・アルバイト」「有期契約職員・非常勤嘱託職員」の比率が高くなっています。

[最初の就職先での雇用形態]
(資格を取得してから現在まで働いていない以外を回答した人)



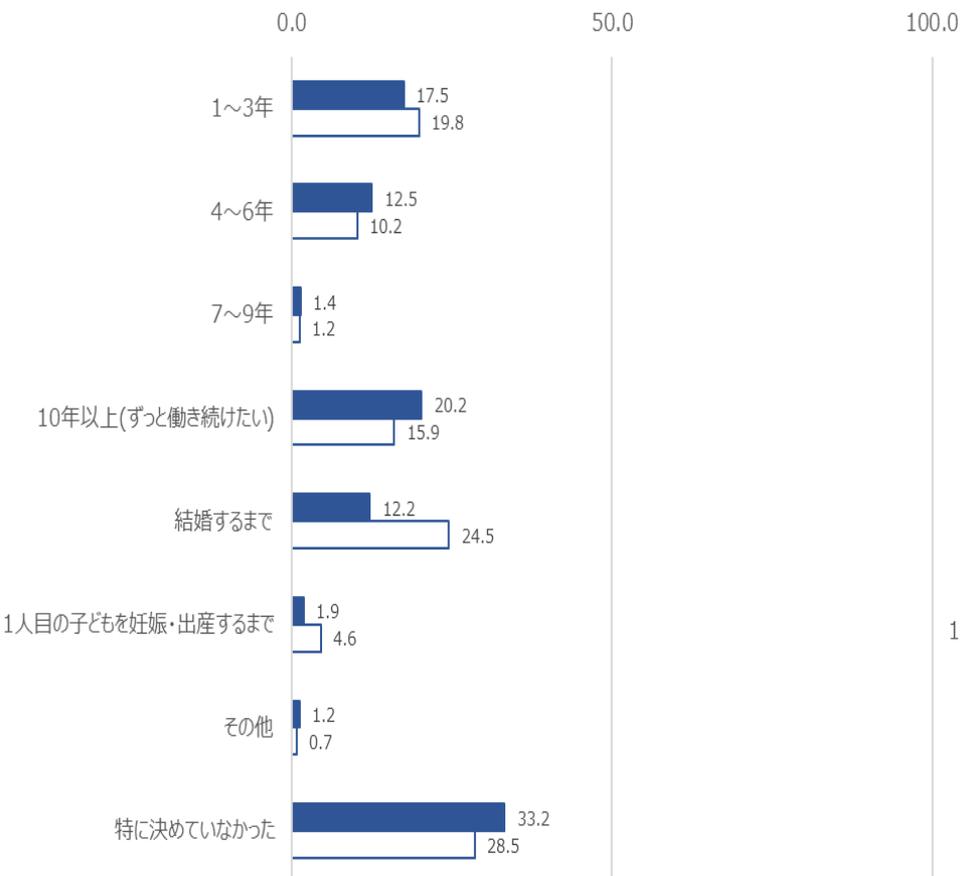
保育士登録者の状況⑦

◆大阪府域—最初の就職先でのどの程度の期間働こうと考え、実際どの程度の期間働いたか〔資格を取得してから現在まで働いていない以外を回答した人〕（前回調査との比較）
 前回調査と比較すると、当初の希望は「結婚するまで」の比率が低くなっており、実際に働いた期間は、前回調査と同様、「1～3年」の比率が最も高くなっています。

[当初の希望]

（資格を取得してから現在まで働いていない以外を回答した人）

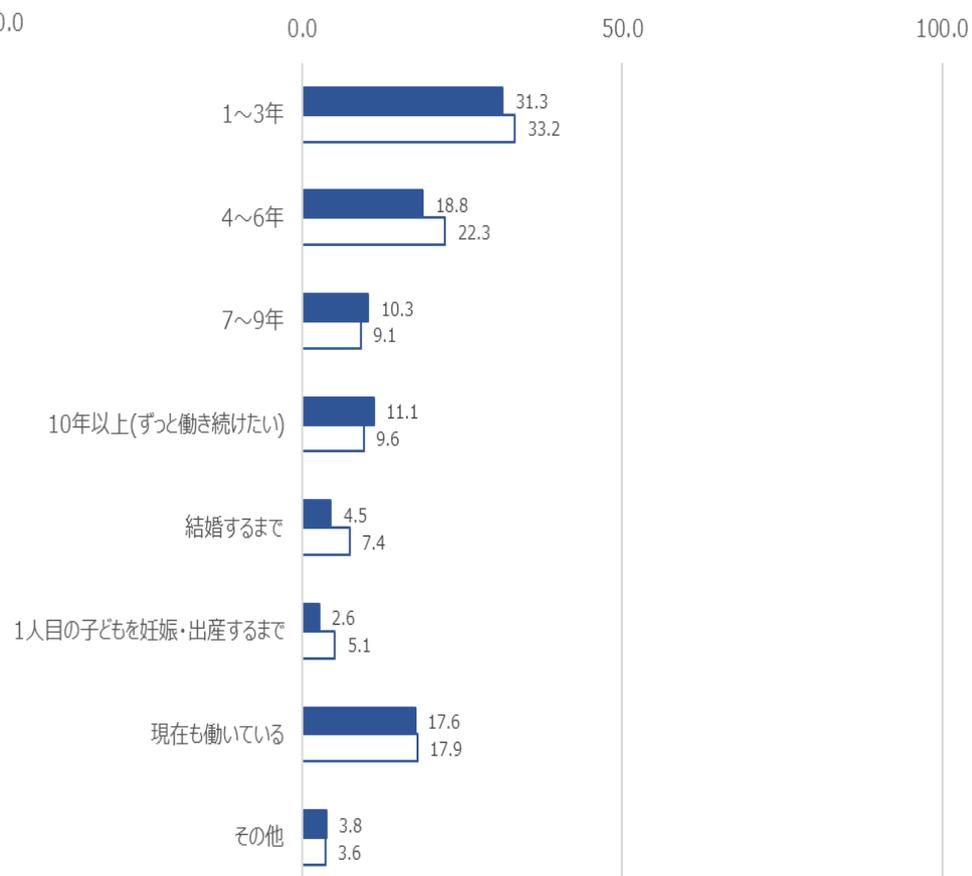
■今回調査 (n=584) □前回調査 (n=747)



[実際に働いた期間]

（資格を取得してから現在まで働いていない以外を回答した人）

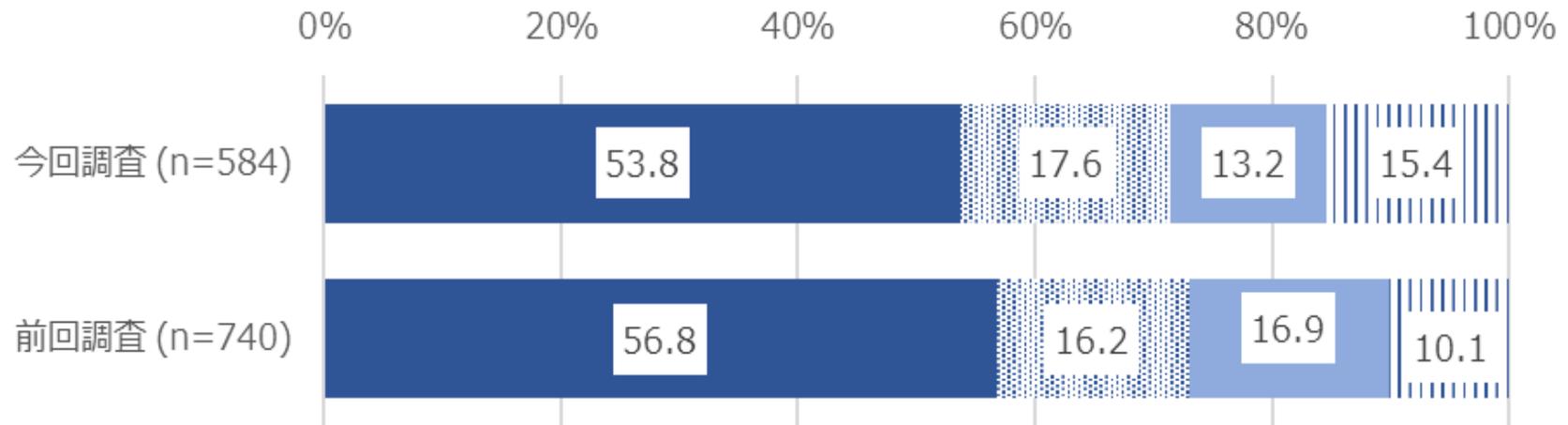
■今回調査 (n=584) □前回調査 (n=748)



保育士登録者の状況⑧

◆大阪府域—現在の就職状況 [資格を取得してから現在まで働いていない以外を回答した人] (前回調査との比較)
 前回調査と比較すると、「現在、大阪府内の保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などで働いている」の比率が56.8%から53.8%と低くなっている一方、「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園では働いたことはなく、現在もそれ以外のところで働いている」の比率が高くなっています。

[現在の就職状況]
 (資格を取得してから現在まで働いていない以外を回答した人)



- 現在、大阪府内の保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などで働いている
- :: 大阪府内の保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などで働いていたこともあるが、現在はそれ以外のところで働いている
- 大阪府内の保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などで働いていたこともあるが、現在は働いていない
- | 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などで働いたことはなく、現在もそれ以外のところで働いている

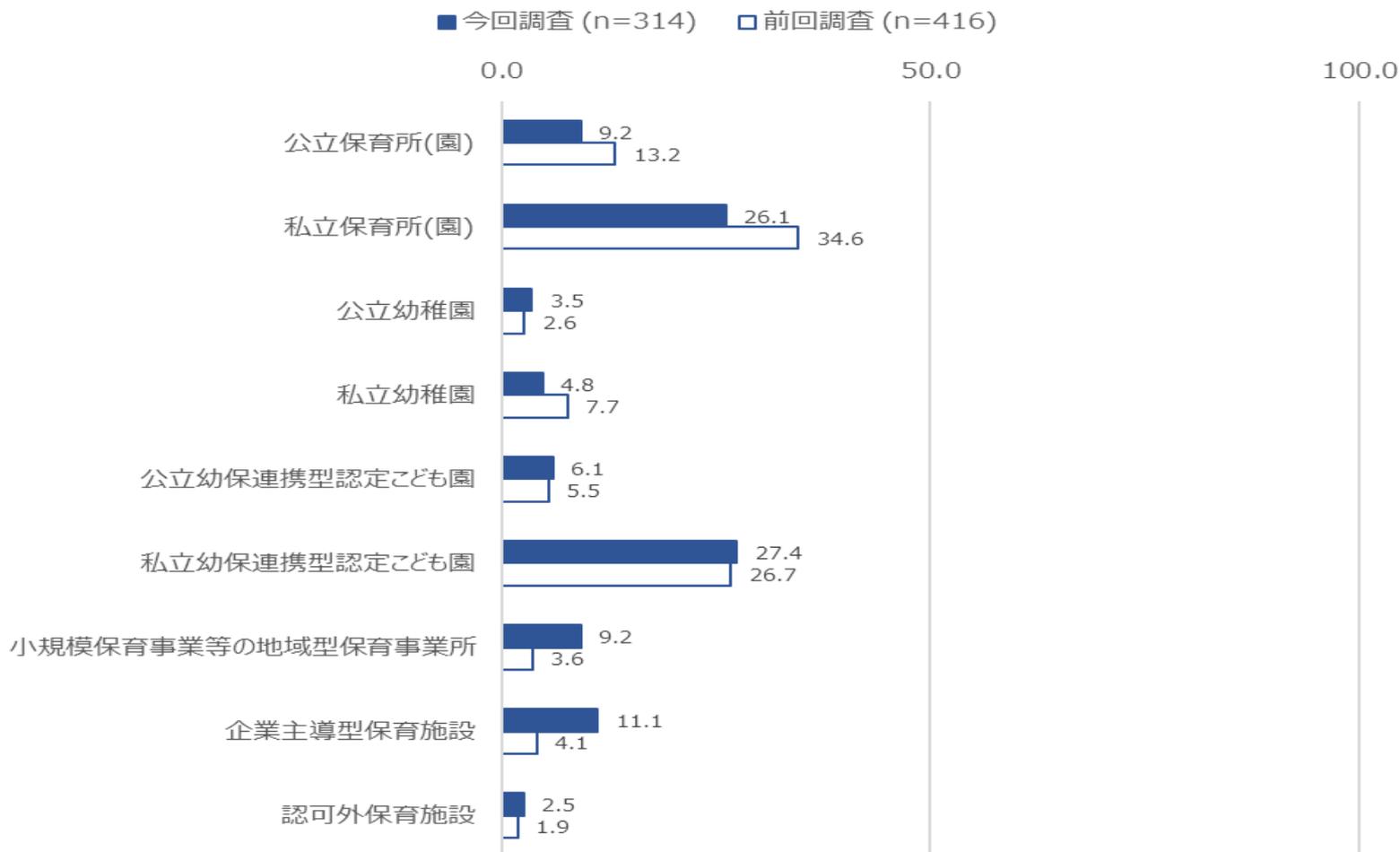
[2 - (4) 問3]

保育士登録者の状況⑨

◆大阪府域—現在の就職先〔現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人〕（前回調査との比較）
前回調査と比較すると、「企業主導型保育施設」「小規模保育事業等の地域型保育事業所」の比率が高くなっている一方、「私立保育所（園）」「公立保育所（園）」の比率が低くなっています。

〔現在の就職先〕

（現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人）

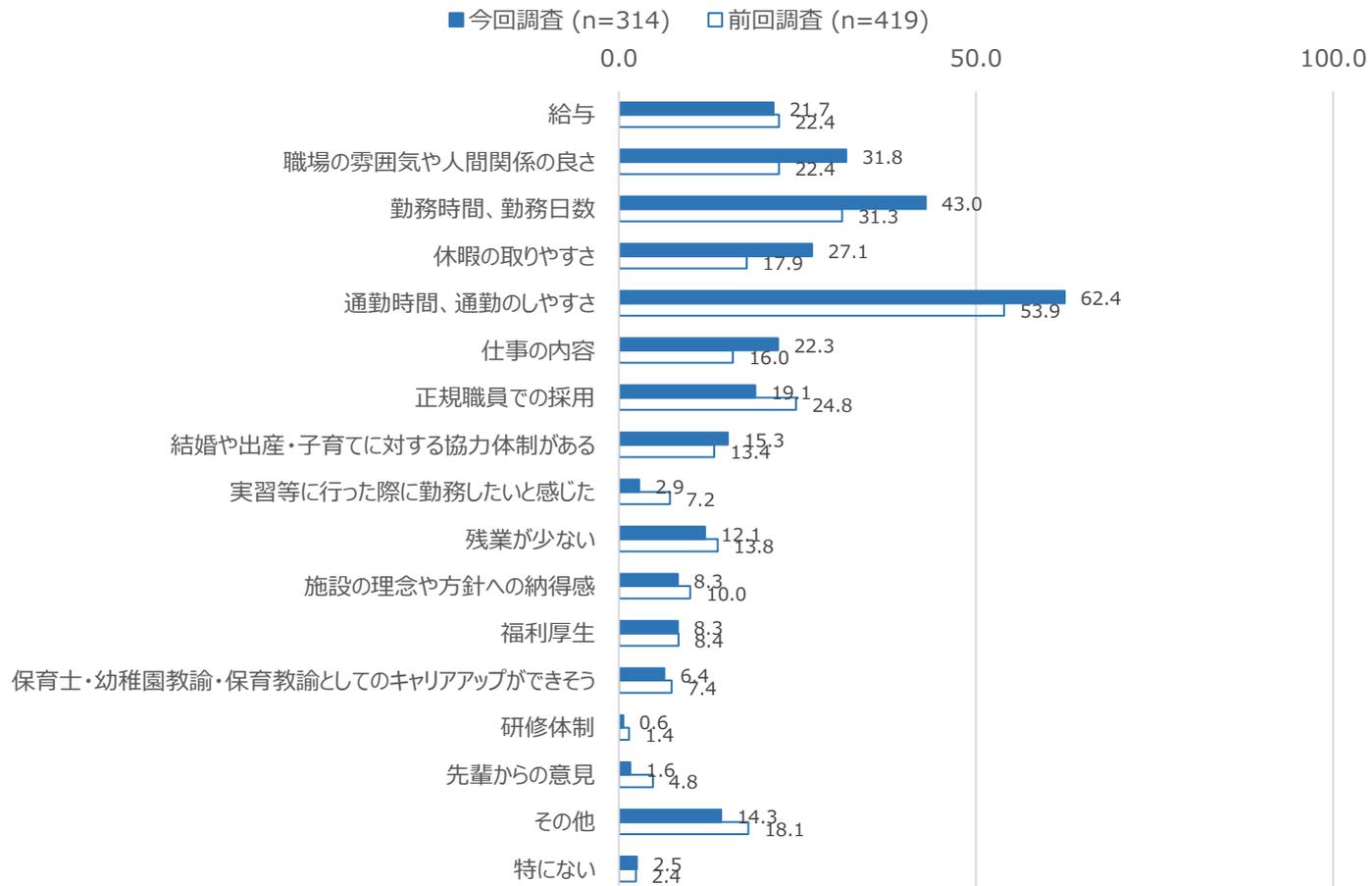


保育士登録者の状況⑩

◆大阪府域—現在の就職先に決めた理由 [現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「勤務時間、勤務日数」「職場の雰囲気や人間関係の良さ」「休暇のとりやすさ」「通勤時間、通勤のしやすさ」「仕事の内容」の比率が高くなっている一方、「正規職員での採用」「実習等に行った際に勤務したいと感じた」の比率が低くなっています。

[現在の就職先に決めた理由]
(現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人)

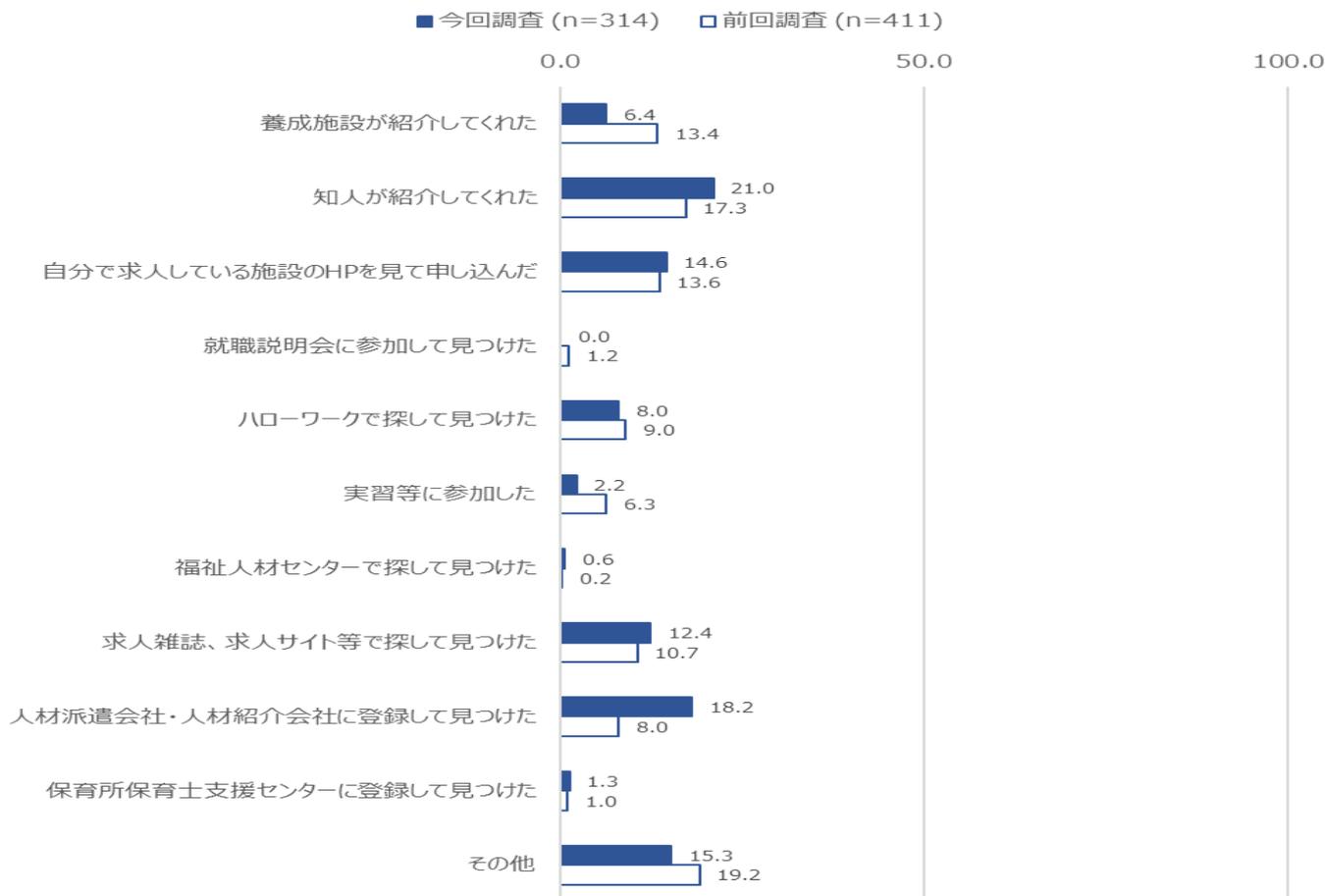


保育士登録者の状況⑪

◆大阪府域—現在の就職先をどのようにして見つけたか [現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「人材派遣会社・人材紹介会社に登録して見つけた」「知人が紹介してくれた」の比率が高くなっている一方、「養成施設が紹介してくれた」「実習等に参加した」の比率が低くなっています。

[現在の就職先をどのようにして見つけたか] (現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人)

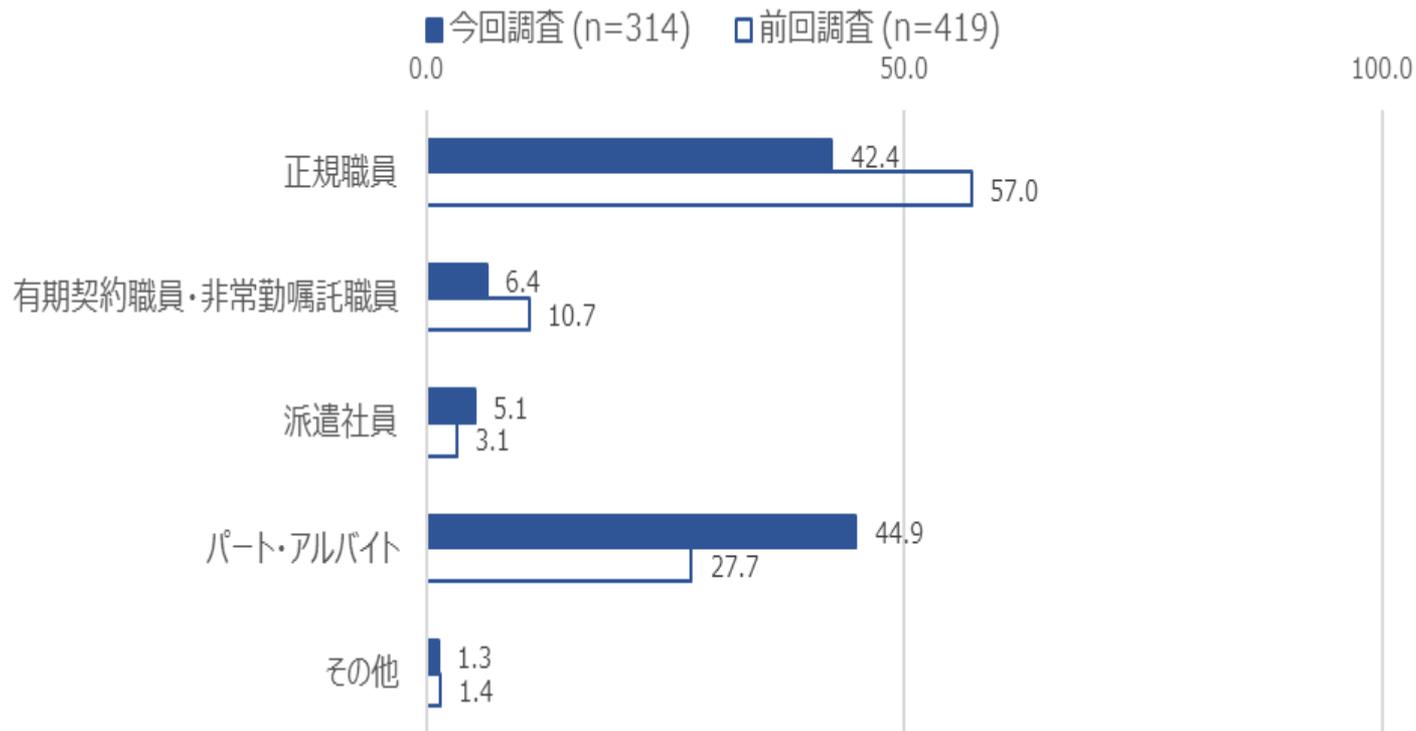


保育士登録者の状況⑫

◆大阪府域—現在の就職先での雇用形態 [現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「パート・アルバイト」の比率が高くなっている一方、「正規職員」の比率が低くなっています。

[現在の就職先での雇用形態]
(現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人)



[2- (4) 問4-4]

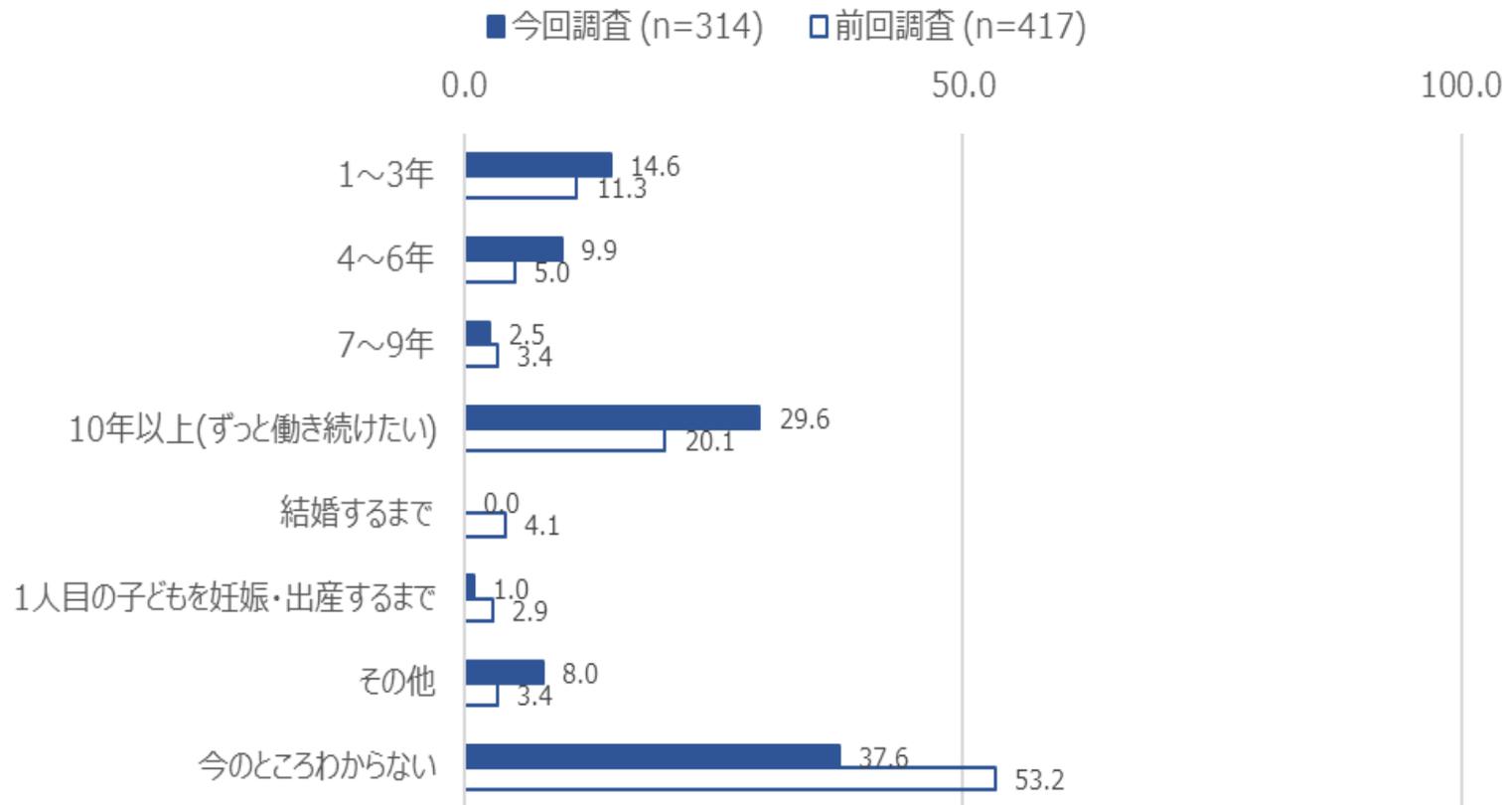
保育士登録者の状況⑬

◆大阪府域—現在の就職先でどの程度の期間働こうと考えているか〔現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「10年以上（ずっと働きたい）」「4～6年」「1～3年」の比率が高くなっている一方、「今のところわからない」の比率が低くなっています。

〔現在の就職先でどの程度の期間働こうと考えているか〕

（現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人）

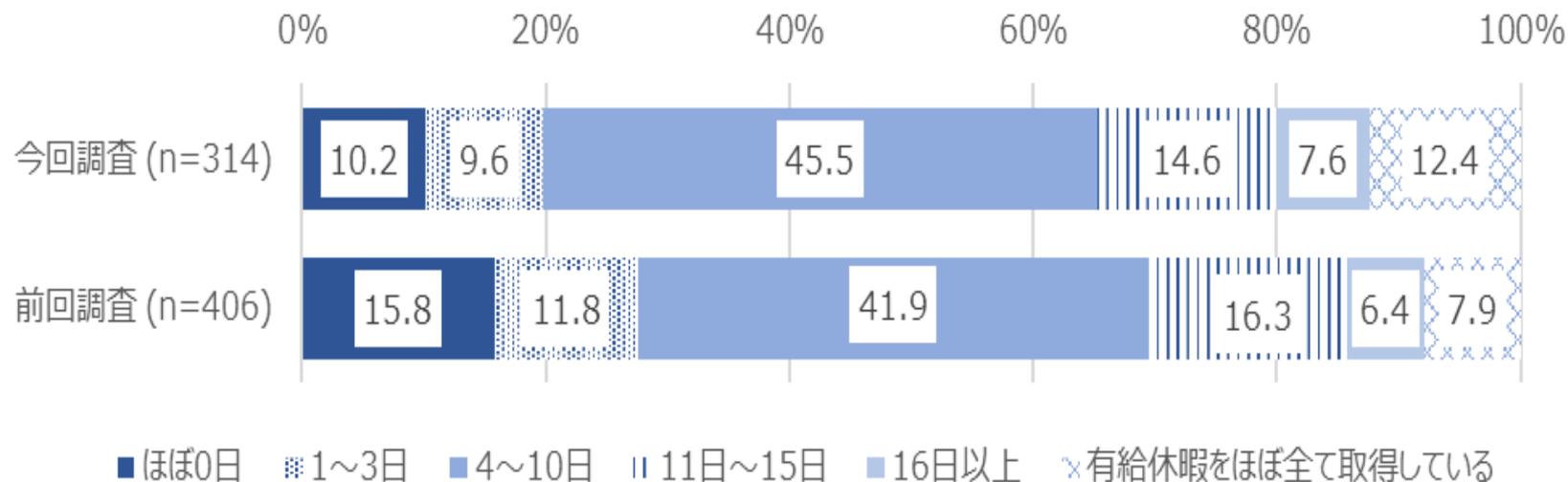


[2 - (4) 問4 - 5]

保育士登録者の状況⑭

◆大阪府域—現在の就職先での年間有給休暇取得日数〔現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人〕（前回調査との比較）
前回調査と比較すると、「有給休暇をほぼ全て取得している」「4～10日」の比率が高くなっており、「ほぼ0日」「1～3日」の比率が低くなっています。

[年間有給休暇取得日数]
(現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いている人)



[2- (4) 問4-6]

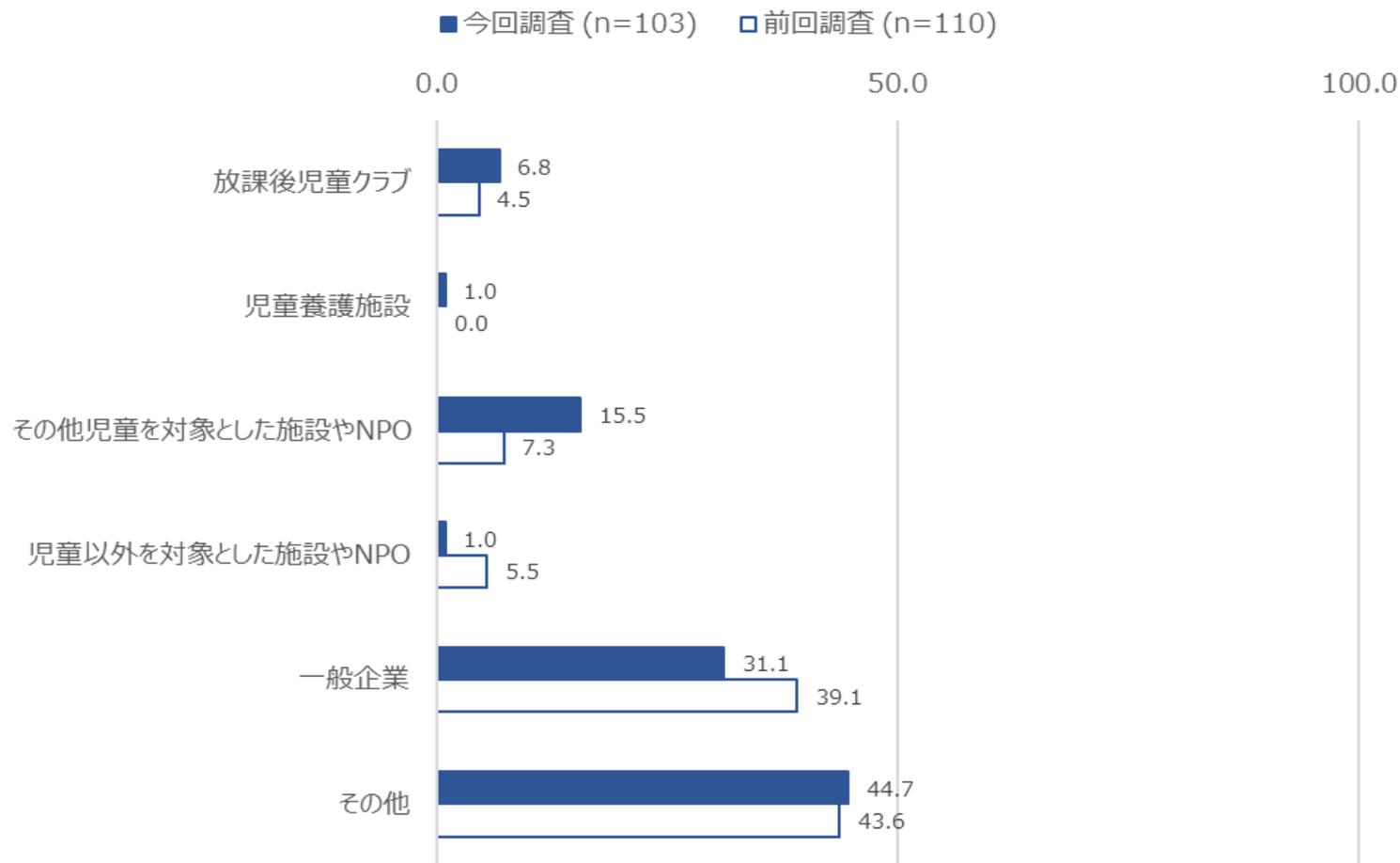
保育士登録者の状況⑮

◆大阪府域—現在の就職先 [現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園以外で働いている人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「その他児童を対象とした施設やNPO」の比率が高くなっている一方、「一般企業」の比率が低くなっています。

[現在の就職先]

(現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園以外で働いている人)



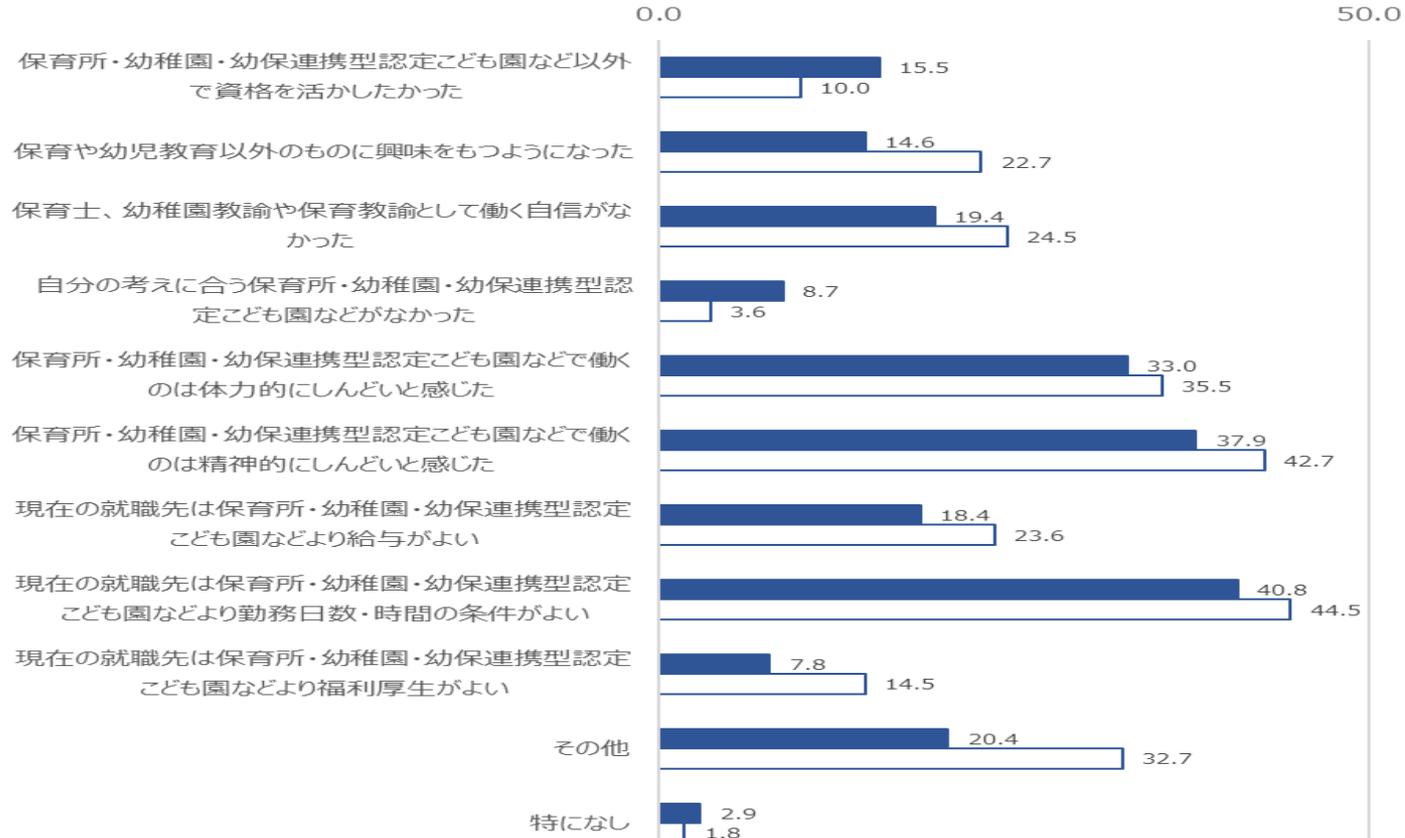
保育士登録者の状況⑬

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園以外で働いている理由 [現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園以外で働いている人] (前回調査との比較)

「現在の就職先は保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などより勤務日数・時間の条件がよい」の比率が最も高く、次いで「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などで働くのは精神的にしんどいと感じた」「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などで働くのは体力的にしんどいと感じた」の比率が高くなっています。

また、前回調査と比較すると、「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園など以外で資格を活かしたかった」「自分の考えに合う保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園などがなかった」の比率が高くなっています。

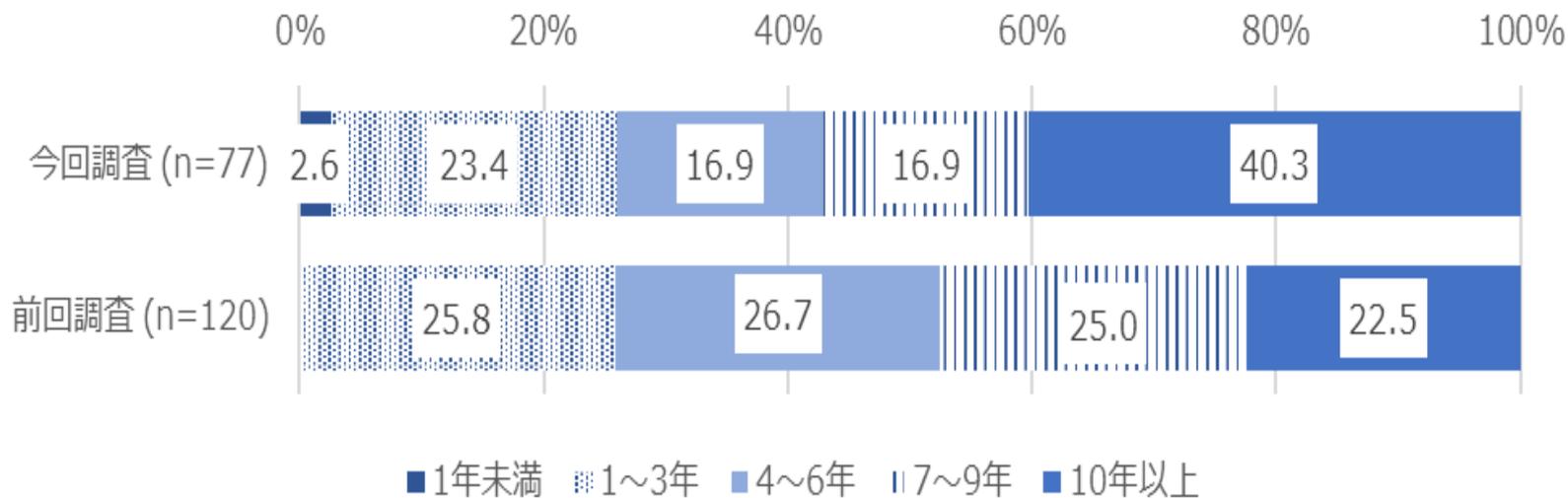
[保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園以外で働いている理由]
(現在保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園以外で働いている人)



保育士登録者の状況⑬

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いた期間 [以前に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いていたことがある人] (前回調査との比較)
前回調査と比較すると、「10年以上」「1年未満」の比率が高くなっており、「4～6年」「7～9年」「1～3年」の比率が低くなっています。

[保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園での通算勤務期間]
(以前に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いていたことがある人)

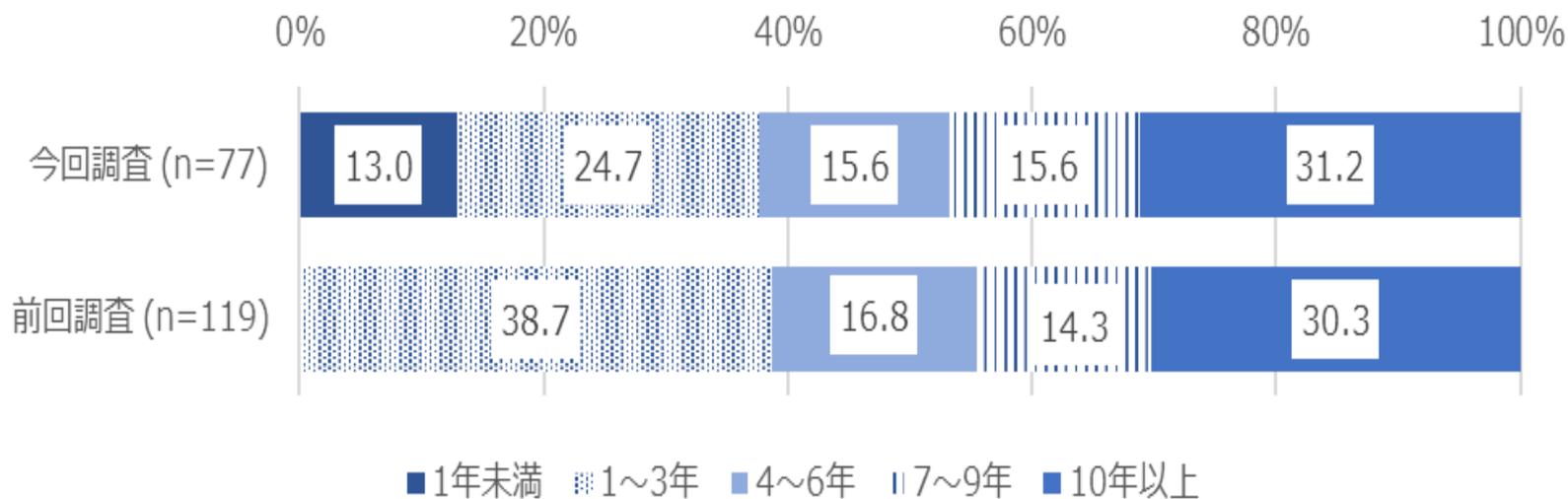


[2-(4) 問6-1]

保育士登録者の状況⑱

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等の離職後から現在までの期間〔以前に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いていたことがある人〕（前回調査との比較）
前回調査と比較すると、「1年未満」の比率が高くなっており、「1～3年」の比率が低くなっています。

[保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等の離職後から現在までの期間]
(以前に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いていたことがある人)



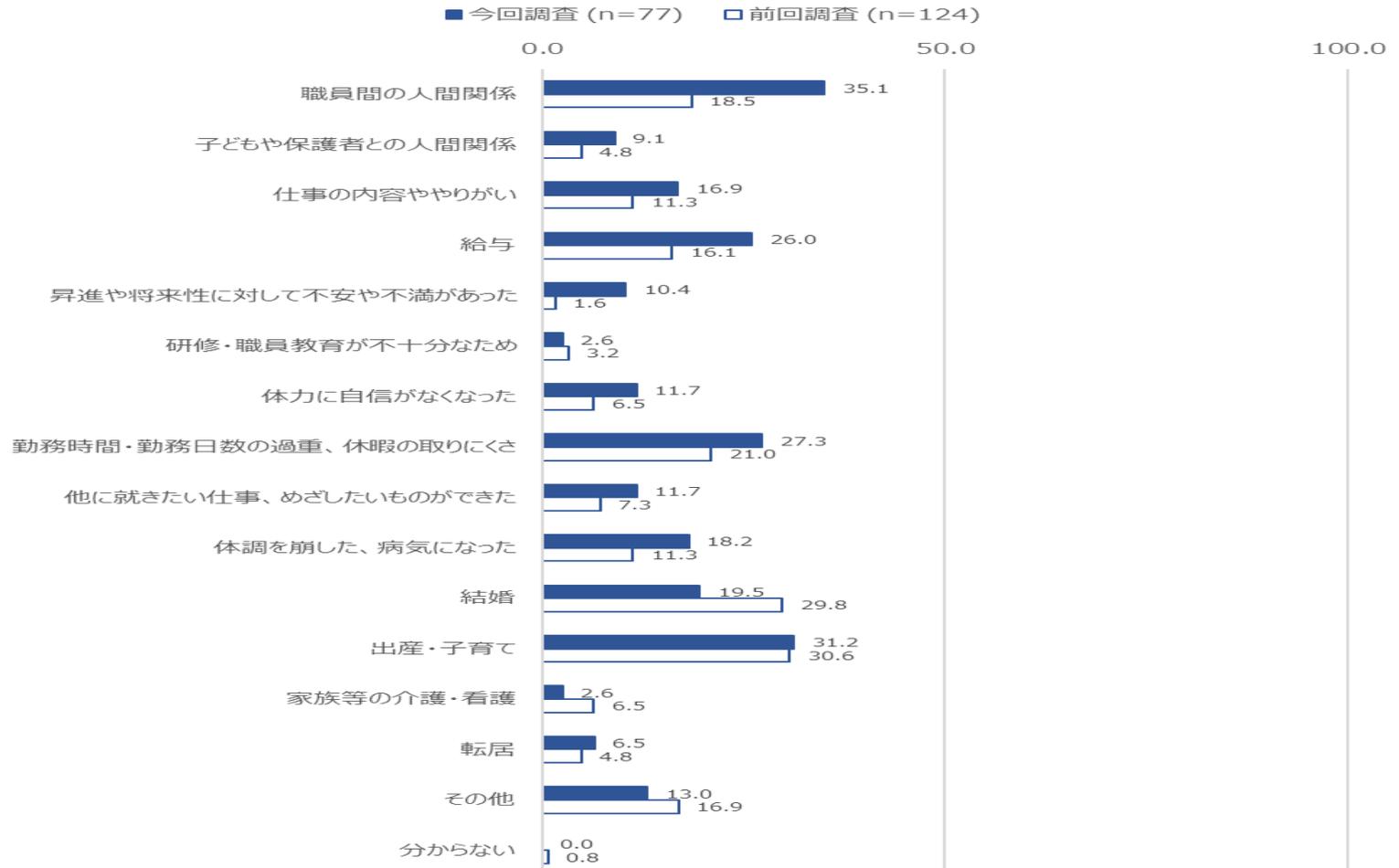
[2- (4) 問6-2]

保育士登録者の状況⑬

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等の離職理由〔以前に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いていたことがある人〕（前回調査との比較）

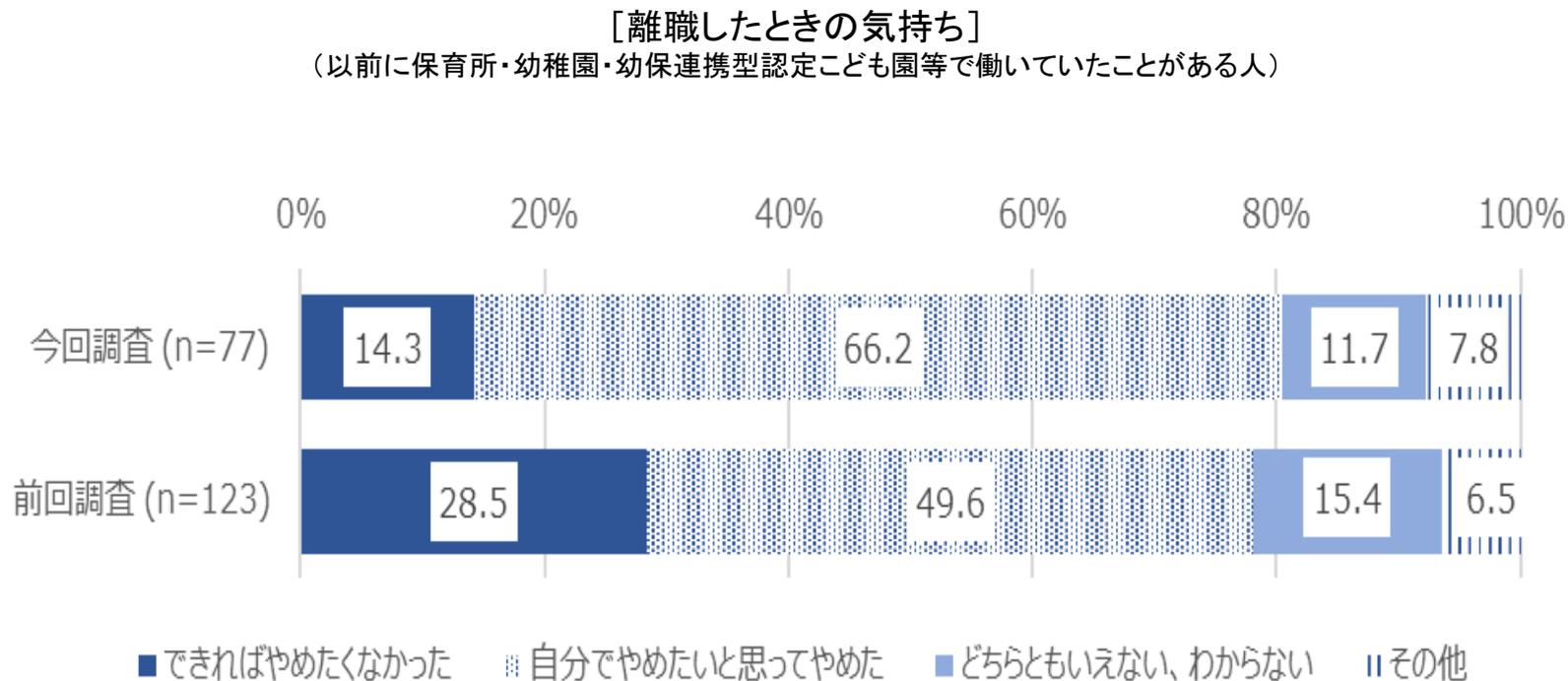
前回調査と比較すると、「職員間の人間関係」「給与」「昇進や将来性に対して不安や不満があった」の比率が高くなっている一方、「結婚」の比率が低くなっています。

〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等の離職理由〕 （以前に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いていたことがある人）



保育士登録者の状況⑳

- ◆大阪府域—離職したときの気持ち [以前に保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等で働いていたことがある人]
(前回調査との比較)
前回調査と比較すると、「自分でやめたいと思ってやめた」の比率が高くなっている一方、「できればやめたくなかった」の比率が低くなっています。



[2- (4) 問6-4]

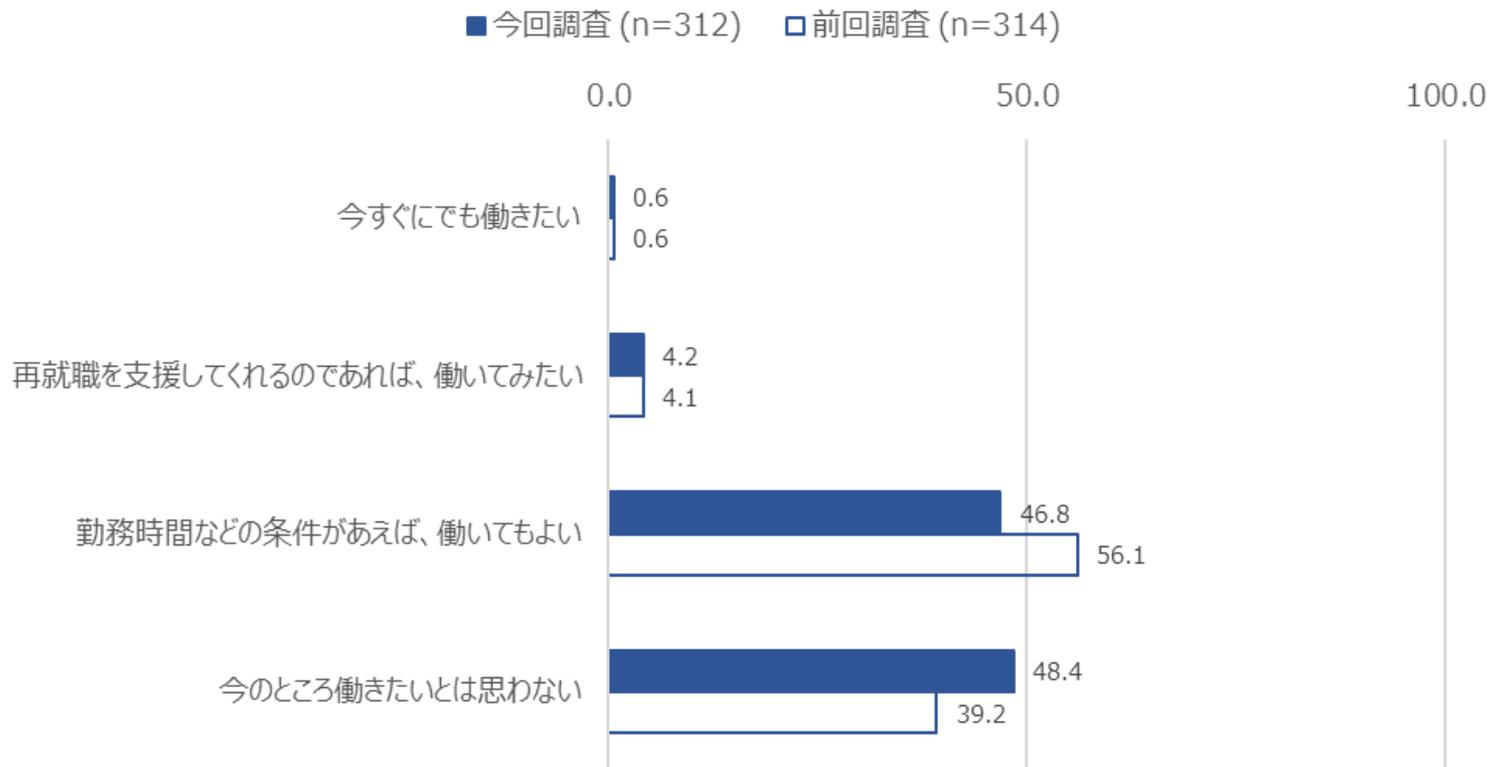
保育士登録者の状況⑳

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等への就職希望 [現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「今のところ働きたいとは思わない」の比率が高くなっている一方、「勤務時間などの条件があれば、働いてもよい」の比率が低くなっています。

[保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等への就職希望]

(保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いたことがない人)

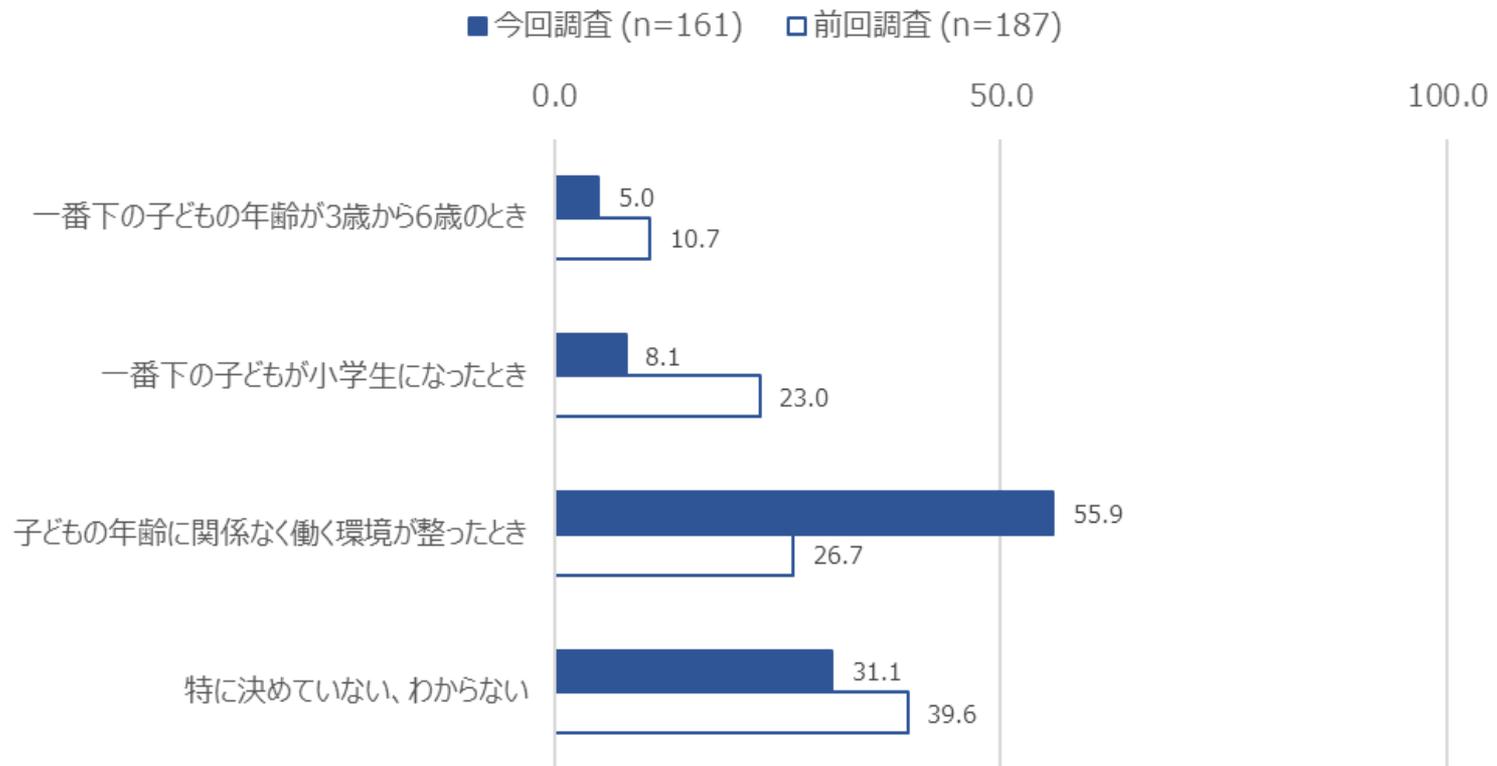


保育士登録者の状況②

◆大阪府域一働き始めたいと思うタイミング [現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「子どもの年齢に関係なく働く環境が整ったとき」の比率が大幅に高くなっており、「一番下の子どもが小学生になったとき」「特に決めていない、わからない」「一番下の子どもの年齢が3歳から6歳のとき」の比率が低くなっています。

[働き始めたいと思うタイミング] (保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いたことがない人)

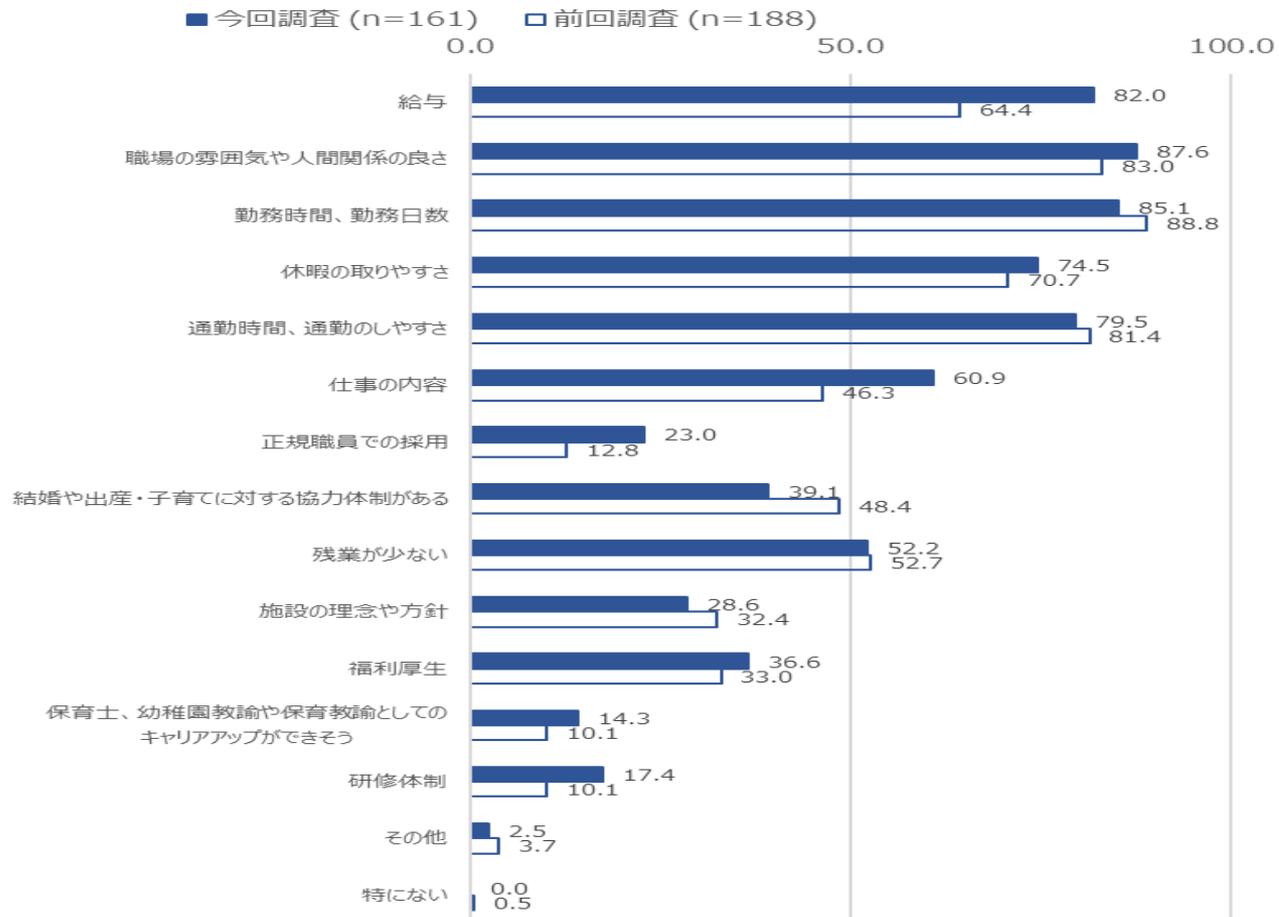


保育士登録者の状況⑳

◆大阪府域—就職先を選ぶ際の決め手〔現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「給与」「仕事の内容」「正規職員での採用」の比率が高くなっている一方、「結婚や出産・子育てに対する協力体制がある」「施設の理念や方針」の比率が低くなっています。

〔就職先を選ぶ際の決め手〕
（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いたことがない人）



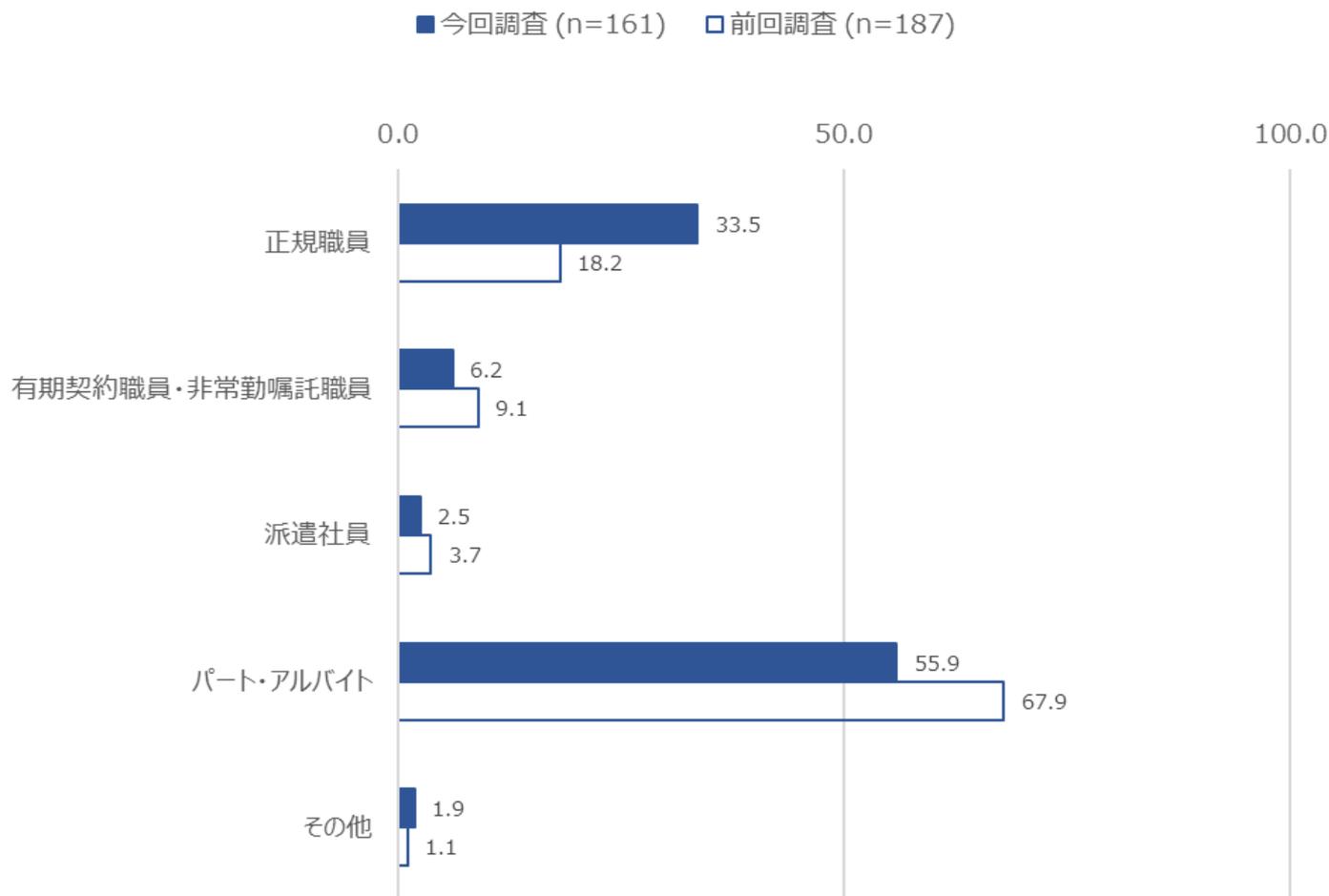
保育士登録者の状況⑳

◆大阪府域—希望する雇用形態 [現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「正規職員」の比率が高くなっており、「パート・アルバイト」「有期契約職員・非常勤嘱託職員」の比率が低くなっています。

[希望する雇用形態]

(保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いたことがない人)



[2-(4) 問7-4]

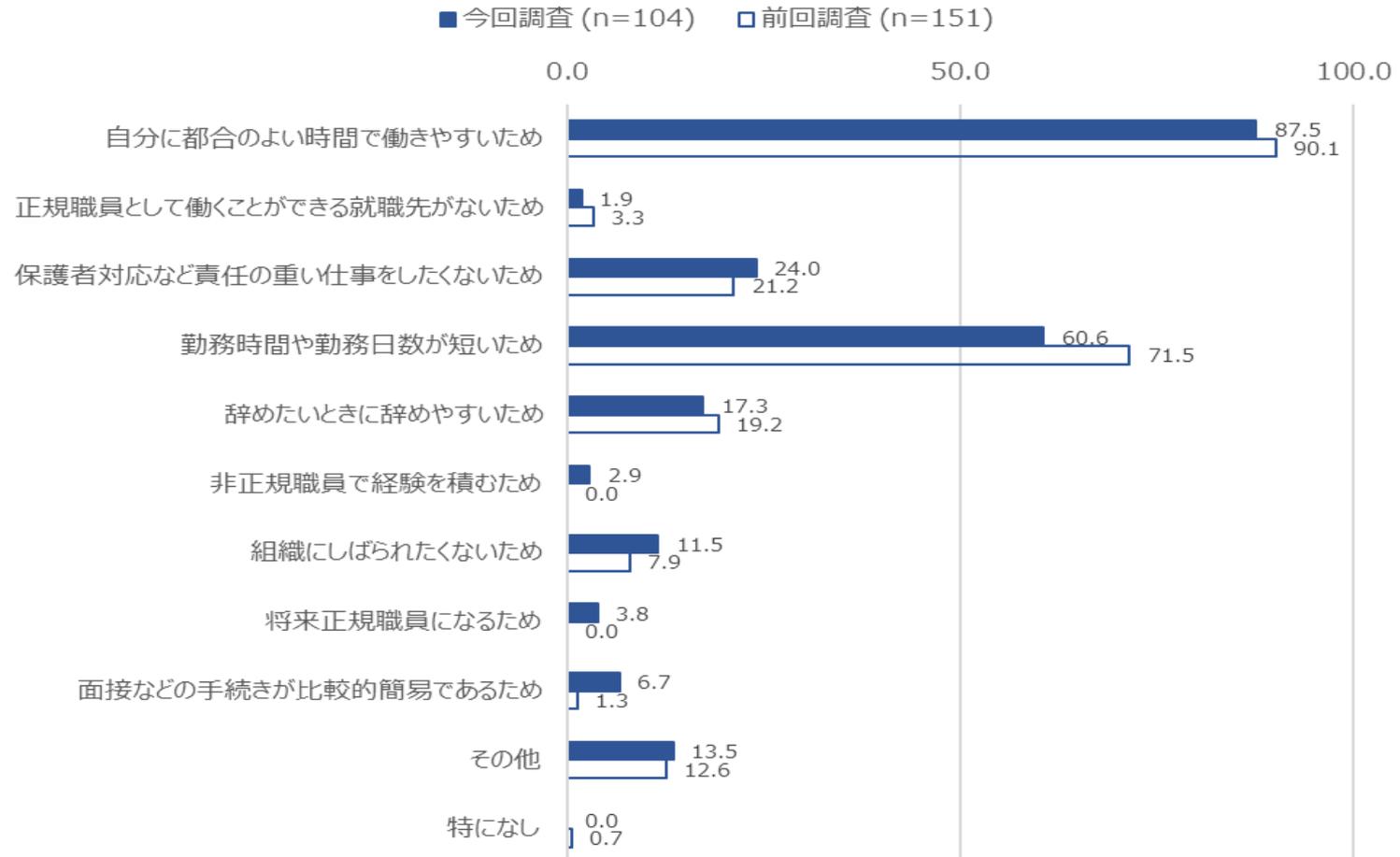
保育士登録者の状況⑳

◆大阪府域—非正規職員の選択理由 [現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人] (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「面接などの手続きが比較的簡易であるため」「将来正規職員になるため」「非正規職員で経験を積むため」「保護者対応など責任の重い仕事をしたくないため」の比率が高くなっている一方、「勤務時間や勤務日数が短いため」の比率が低くなっています。

[非正規職員の選択理由]

(保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いたことがない人)

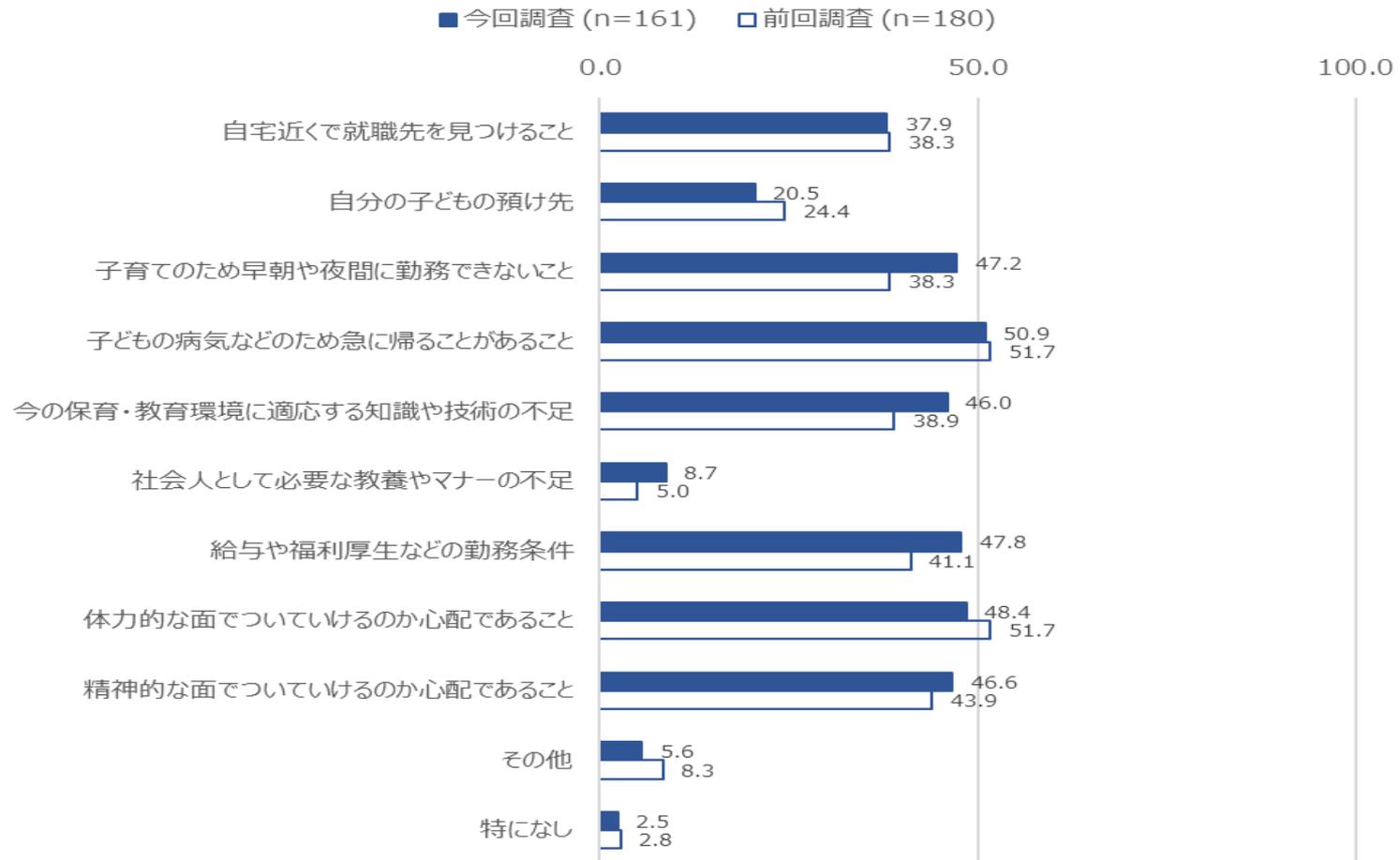


保育士登録者の状況②⑥

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等に再就職するにあたって不安となること〔現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「子育てのために早朝や夜間に勤務できないこと」「今の保育・教育環境に適応する知識や技術の不足」「給与や福利厚生などの勤務条件」「社会人として必要な教養やマナーの不足」の比率が高くなっている一方、「自分の子どもの預け先」の比率が低くなっています。

〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等に再就職するにあたり不安なこと〕
（保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いたことがない人）

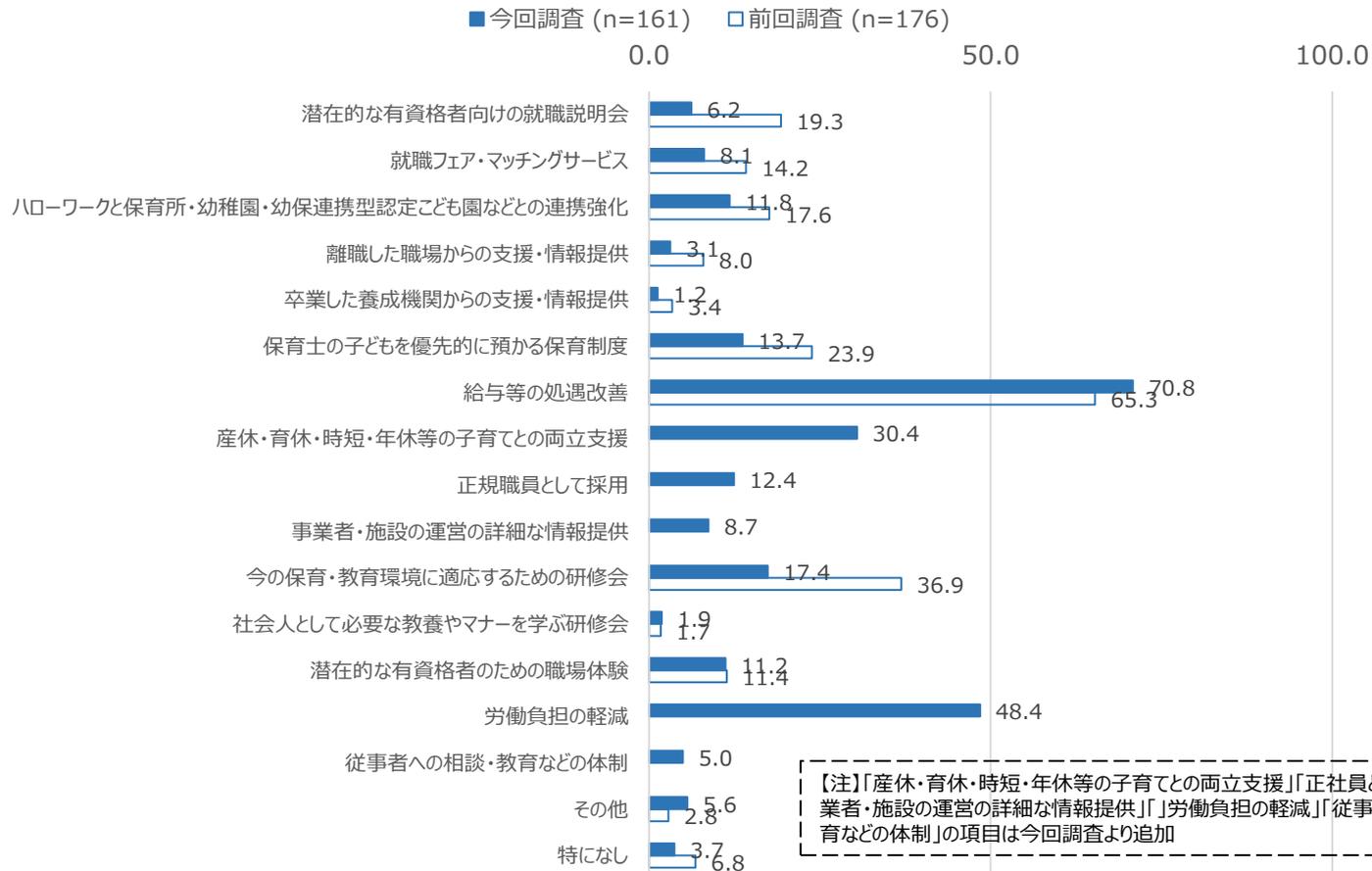


保育士登録者の状況⑳

◆大阪府域一保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等に再就職するにあたって有効と考える支援〔現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人〕（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「労働負担の軽減」「産休・育休・時短・年休等の子育てとの両立支援」「正規職員として採用」「事業者・施設の運営の詳細な情報提供」「給与等の処遇改善」の比率が高くなっている一方、「今の保育・教育環境に適応するための研修会」「潜在的な有資格者向けの就職説明会」「保育士の子どもを優先的に預かる保育制度」の比率が低くなっています。

〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等に再就職するにあたり有効と考える支援〕 （保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いたことがない人）



【注】「産休・育休・時短・年休等の子育てとの両立支援」「正社員としての採用」「事業者・施設の運営の詳細な情報提供」「労働負担の軽減」「従事者への相談・教育などの体制」の項目は今回調査より追加

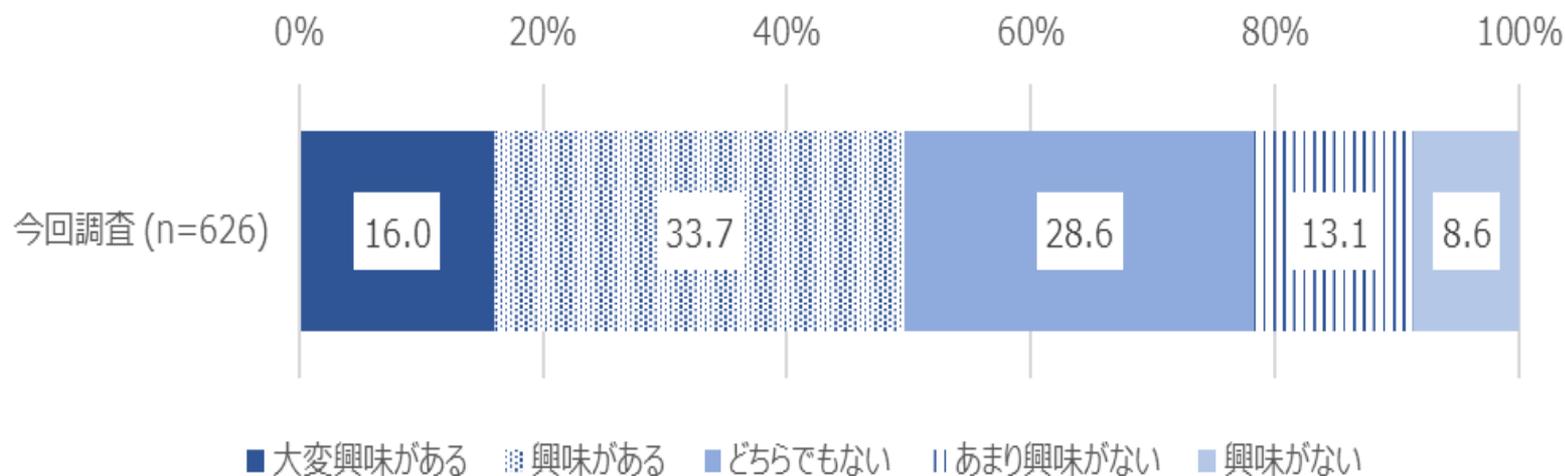
保育士登録者の状況⑳

◆大阪府域—こども家庭ソーシャルワーカーに対する興味

「大変興味がある」と「興味がある」を合わせて49.7%と約半数となっています。

(※) こども家庭ソーシャルワーカー：こども家庭福祉実務者の専門性向上を目的に2024年度に新たに設立された認定資格。児童相談所や市区町村のこども家庭センター、児童養護施設などの福祉施設、保育所などに配置。

[こども家庭ソーシャルワーカーに対する興味]



[2-(4) 問8-3]
(前回調査からの追加項目)

2 大阪府内の保育所等における保育士等確保のための実態調査結果（概要） <1/3>

- 大阪府内の保育所等（私立保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園）における定員充足率は、前回調査と比べ、「75%未満」の比率が高くなるとともに、「100%超え125%未満」の比率が低くなっており、全体的に定員充足率が低下しています。（51頁）
- 国が検討している保育士等の配置基準の見直しを実施された場合の定員を維持するための対策については、半数の施設が「現状の体制で利用定員を維持することが可能」としている一方、「保育士等を追加配置する」と回答した施設が33.9%、「利用定員を減らす」と回答した施設が11.9%となっています。（52頁）
- 直近1年間の採用において、希望していた採用人数のうち、実際に採用した人数の割合は、前回調査時と比べ、求人数に対する充足率の低い施設の割合が高くなっており、保育所・幼稚園・認定こども園における人材確保は厳しい状況となっています。（53頁）
- 職員（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）が当該保育所・幼稚園・認定こども園で働きたいと考えた理由については、「職場の雰囲気や人間関係の良さ」が最も比率が高く、「結婚や出産・子育てに対する協力体制がある」「休暇の取りやすさ」「通勤時間、通勤のしやすさ」「残業が少ない」といった職場環境・労働条件の良さも理由として多くあげられています。（58頁）
- 職員（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の人材確保について、どのように感じているかについては、正規職員・非正規職員・新卒者いずれも「確保しにくい」「なんとか確保している」を合わせて9割を超えるとともに、前回調査と比べ、「確保しにくい」の比率が高くなっており、職員（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の人材確保が困難と感じられています。（62頁）
- 潜在的な有資格者の採用経験については、前回調査と比べ、潜在的な有資格者を「正規職員として採用したことがある」の比率が高くなっている一方、「正規職員としても非正規職員としても採用したことがある」の比率が低くなっています。（66頁）
- 職員の確保や離職防止のために期待する支援については、前回調査と比べ、「就職説明会・フェア」「業務負担軽減のためのICT補助の拡充」「幼稚園教諭のマッチングシステムの拡充」の比率が高くなっており、「潜在的な有資格者の掘り起こし」「職員の処遇改善」「自治体を実施する研修の充実」の比率が低くなっています。（72頁）
- 保育士養成施設における学生の就職先の見つけ方については、「学校の紹介」「就職説明会への参加」の比率が最も高く、次いで「実習等への参加」「学生が自分で施設を見つける」「求人雑誌、求人サイト等の利用」の比率が高くなっています。（76頁）

2 大阪府内の保育所等における保育士等確保のための実態調査結果（概要） <2/3>

- 保育士養成施設が、学生が保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に就職して働き続けるために、施設が実施した方がよいと考えることについては、前回調査と比べ、「給与水準の引き上げ」「休暇が取りやすいように勤務体制を改善」「業務上での悩みなどに対する相談窓口の設置」の比率が高くなっている一方、「労働時間の短縮」「給与体系の見直し」「書類作成、事務作業の見直しによる効率化」の比率が低くなっています。（77頁）
- 保育士養成施設が、学生が保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関心を持ち、就職して働き続けるために行政等が実施した方がよいと考えることについては、前回調査と比べ、「高校生へのアプローチ（保育体験学習など）」「ハローワークと連携した就職先の情報提供」「返還免除のある修学資金貸付」「教育・福祉の就職説明会の開催」の比率が高くなっている一方、「保育技術向上の研修」「現職職員の体験談」の比率が低くなっています。（78頁）
- 保育士等資格取得見込み者のうち、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等を就職予定先としている人が、今後保育士・幼稚園教諭・保育教諭として働き続けるにあたっての不安がある場合に希望することについては、「職場の人間関係が良好であること」の比率が最も高く、次いで「将来的な十分な報酬を得て、生計を立てられること」「将来、仕事と子育てなどの家庭生活の両立ができること」「保護者への対応に不安がないこと」「十分な指導を受けたり、相談したりすることができること」の比率が高くなっています。（90頁）
- 保育士登録者のうち、現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人の保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等への就職希望については、前回調査と比べ、「今のところ働きたいとは思わない」の比率が高くなっている一方、「勤務時間などの条件があえば、働いてもよい」の比率が低くなっています。（116頁）
- 保育士登録者のうち、現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人の働き始めたいと思うタイミングについては、前回調査と比べ、「子どもの年齢に関係なく働く環境が整ったとき」の比率が大幅に高くなっており、「一番下の子どもが小学生になったとき」「特に決めていない、わからない」「一番下の子どもの年齢が3歳から6歳のとき」の比率が低くなっています。（117頁）
- 保育士登録者のうち、現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人の就職先を選ぶ際の決め手については、前回調査と比べ、「給与」「仕事の内容」「正規職員での採用」の比率が高くなっている一方、「結婚や出産・子育てに対する協力体制がある」「施設の理念や方針」の比率が低くなっています。（118頁）
- 保育士登録者のうち、現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人の希望する雇用形態については、前回調査と比べ、「正規職員」の比率が高くなっており、「パート・アルバイト」「有期契約職員・非常勤嘱託職員」の比率が低くなっています。（119頁）

2 大阪府内の保育所等における保育士等確保のための実態調査結果（概要） <3/3>

- 保育士登録者のうち、現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人の、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等に再就職するにあたって不安となることについては、前回調査と比べ、「子育てのために早朝や夜間に勤務できないこと」「今の保育・教育環境に適応する知識や技術の不足」「給与や福利厚生などの勤務条件」「社会人として必要な教養やマナーの不足」の比率が高くなっている一方、「自分の子どもの預け先」の比率が低くなっています。（121頁）
- 保育士登録者のうち、現在、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園で働いていない人の、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等に再就職するにあたって有効と考える支援については、前回調査と比べ、「給与等の処遇改善」「労働負担の軽減」「産休・育休・時短・年休等の子育てとの両立支援」「正規職員として採用」「事業者・施設の運営の詳細な情報提供」の比率が高くなっている一方、「今の保育・教育環境に適応するための研修会」「潜在的な有資格者向けの就職説明会」「保育士の子どもを優先的に預かる保育制度」の比率が低くなっています。（122頁）
- 保育士登録者におけるこども家庭ソーシャルワーカーに対する興味については、「大変興味がある」と「興味がある」を合わせて49.7%となっています。（123頁）